RICOH

imagio MP 9002/7502/6002シリーズ

使用説明書
〈ファクス〉

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『はじめにお読みください』「安全上のご注意」をお読みください。

目次

1. 送信機能の概要

2. 送信する

3. いろいろな機能を利用して送信する

4. 受信する

5. 通信情報を変更／確認する

6. 送信文書を蓄積する

7. パソコンからファクス機能を活用する

8. ファクス初期設定

9. 他機のファクス機能を利用して送信・受信する（ファクス連携）

10. 付録

1. 送信機能の概要

ファクス機能で指定できる宛先の種別や送信モードについて説明します。

宛先の種別

ファクス機能で指定できる宛先は、次の 5 種類です。

- ファクス宛先

  電話回線を利用して通常のファクスを送るときに指定します。

- IP-ファクス宛先

  「IP-ファクス」は、TCP/IP ネットワークを経由して相手先のファクスと直接送受信する機能です。

  指定する宛先は、相手先のファクスの IP アドレスやホスト名です。

  機能について詳しくは、P.12「IP-ファクス機能の概要」を参照してください。

- インターネットファクス宛先

  「インターネットファクス」は、インターネットファクス機能に対応しているファクス機へ、TIFF 形式に変換した文書を電子メールの添付ファイルとして送信する機能です。T.37 フルモードに対応している相手先と、対応用紙サイズや解像度などのファクスに関する情報を交換しながら送受信できます。

  指定する宛先は、相手先のファクスのメールアドレスです。

  機能について詳しくは、P.15「インターネットファクス機能の概要」を参照してください。

- メール宛先

  ファクス機能で読み取った文書を、TIFF または PDF 形式に変換して電子メールの添付ファイルとして送信します。おもに、ファクスで送信した文書をパソコンで確認するときに指定します。

  指定する宛先は、相手先のパソコンのメールアドレスです。

  機能について詳しくは、P.17「メール送信機能の概要」を参照してください。

- フォルダー宛先

  ファクス機能で読み取った文書を、TIFF または PDF 形式に変換して、ネットワーク上のフォルダーに直接送信します。おもに、ファクスで送信した文書をパソコンで確認するときに指定します。

  指定する宛先は、相手先のフォルダーのパスです。

  機能について詳しくは、P.18「フォルダー送信機能の概要」を参照してください。

宛先種別の早見表

宛先種別	回線	指定する宛先	相手先の機器	ファイル形式
ファクス宛先	電話回線	ファクス番号	ファクスを搭載している複合機やファクス機	-
IP-ファクス宛先	インターネットやLAN	IP アドレスやホスト名	ファクスを搭載している複合機やファクス機	-
インターネットファクス宛先	インターネットやLAN	メールアドレス	ファクスを搭載している複合機やファクス機	TIFF
メール宛先	インターネットやLAN	メールアドレス	パソコン	TIFF または PDF
フォルダー宛先	インターネットやLAN	フォルダーのパス	パソコン	TIFF または PDF

IP-ファクス機能の概要

機能の概要

IP-ファクスは、TCP/IP を使用しているネットワークに直接接続されたファクス同士で、文書を送受信します。

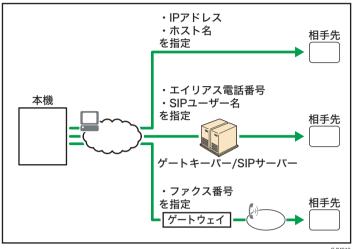
IP-ファクス機能には以下の特長があり、同じ LAN 内の通信に適しています。

- 通信費を低減できる
- IP-ファクス同士の送受信は、通常のファクスより通信速度が速い

IP-ファクスが通信の接続に使用するプロトコルとして SIP と H.323 を採用しています。

IP-ファクスの受信方法は通常のファクスと同様です。受信方法は P.115「受信の種類」を参照してください。

IP-ファクスの宛先

ファクス番号の代わりに IP アドレスまたはホスト名を指定します。

- 指定する IP アドレスの例：192.168.1.10
- 指定するホスト名の例：IPFAX1

ゲートキーパーを使用するときは、エイリアス電話番号を指定します。

- 指定するエイリアス電話番号の例：0311119999

SIP サーバーを使用するときは、SIP ユーザー名を指定します。

- 指定する SIP ユーザー名の例：ABC

ゲートウェイ（T.38 準拠）を経由して、加入電話回線（PSTN）に接続されている G3 ファクスに送信するときは、相手先のファクス番号を指定します。

- 指定するファクス番号の例：03-1234-5678

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- 本機の IP-ファクス機能は、ITU-T 勧告 T.38 に準拠しています。
- SIP を使用するときは、IPv6 ネットワーク経由で送受信できます。

IP-ファクス用語解説

IP-ファクス機能の用語を説明します。

H.323

LAN やインターネットでマルチメディア通信を 1 対 1 で送受信するためのプロトコルです。

SIP

VoIP と呼ばれる電話の音声情報を IP パケットに変換、格納する技術を応用したインターネット電話などで使用される通信制御プロトコルの 1 つで、転送機能や発信者番号通知機能など、H.323 など同様のプロトコルと比べて電話回線に近い機能を備えています。

ゲートキーパー（VoIP ゲートキーパー）

ゲートキーパーとは、IP ネットワークに接続されている機器を管理する装置で、エイリアス電話番号と IP アドレスの変換や認証などをします。また、帯域制御（伝送速度割当）やアクセス制御などもします。

1

SIP サーバー

IP ネットワークに接続された機器同士の接続要求を代行するサーバーで、おもに以下の 3 つの機能を有するサーバーで構成されています。

- プロキシ・サーバー：SIP リクエストや SIP レスポンスを中継する
- 登録（レジストラ）サーバー：IP ネットワーク上の端末のアドレス情報を受け取り、データベースに登録する
- リダイレクト・サーバー：宛先アドレスの問い合わせに利用する

ゲートウェイ（VoIP ゲートウェイ）

電話網と IP ネットワークを接続し、この異なるネットワーク間を接続するためのプロトコル変換などの機能があり、電話機やファクスなどの電話関連の機器を LAN やネットワークに接続するための装置です。

IP-ファクス使用上のご注意

- ファイアウォールを設定しているネットワークへは送信できないことがあります。
- 無線 LAN を使用しているときは通信できないことがあります。
- LAN 経由の電話は使用できません。
- 動作を確認済みの環境以外では IP-ファクスがつながらないことがあります。

  動作を確認済みのゲートウェイ（T.38 準拠）は次のとおりです。

  - InnovaPhone VoIP-Gateway IP305

    ソフトウェアバージョン：v7 hotfix（09-70300.17）
  - Cisco VoIP-Gateway（H.323 で動作確認済）

    ソフトウェアバージョン：IOS12.3（5）

    プラットフォーム：Cisco2600XM、3725、847-4V、26xx、36xx、37xx、7200、AS5300、ICS 7750
  - Siemens VoIP-Gateway RG8300（SIP で動作確認済）

    ソフトウェアバージョン：Version 5

  動作を確認済みのゲートキーパーは次のとおりです。

  - InnovaPhone VoIP-Gateway IP305

    ソフトウェアバージョン：v7 hotfix（09-70300.17）
  - Cisco Gatekeeper

    ソフトウェアバージョン：IOS12.1（2）T

    プラットフォーム：Cisco2600XM、3620、3640、3660、3725、3745、7200、7400

  動作を確認済みの SIP サーバーは次のとおりです。

  - Cisco SIP proxy server

ソフトウェアバージョン：2.0

- Cisco VoIP-Gateway

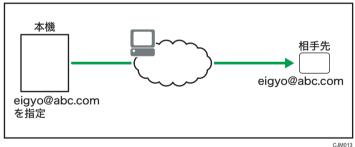
  ソフトウェアバージョン：IOS12.3（17）a

  プラットフォーム：Cisco3725（256Mbyte RAM）、Cisco2621XM（128Mbyte RAM）

- Cisco unified CallManager

  ソフトウェアバージョン：Ver6.2

- InnovaPhone VoIP-Gateway IP305

  ソフトウェアバージョン：v7 hotfi（09-70300.17）

- Siemens HiPath8000（SIP で動作確認済）

  ソフトウェアバージョン：Voice redundant v4

インターネットファクス機能の概要

メモリーに読み込んだ文書を電子メール（E-Mail）形式に変換し、インターネット経由でインターネットファクス対応機へ送信します。相手機が T.37 フルモードに対応しているときは、記録紙の用紙サイズや選択できる解像度などの情報を双方向で受け取ることができます。

文書は、TIFF-F 形式の画像データとして電子メールに添付されて送信されます。

インターネットファクスはパソコンのメールアドレスにも送信できます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- 本機のインターネットファクス機能は、ITU-T 勧告 T.37 に準拠しています。
- 実際にどのようにパソコンで受信されるかは、P.128「パソコンでのメールの受信イメージ」を参照してください。

インターネットファクス使用上のご注意

- インターネットファクス送信時には A4 サイズで送信されます。A4 より大きな原稿を送信すると A4 サイズに縮小されます。ただし相手先が T.37 フルモード対応機のときはアドレス帳に設定されている用紙サイズで送信できます。T.37 フルモードについては P.16「T.37 フルモードの概要」を参照してください。
- インターネットファクス送信では［微細字］を選択しても「小さな字」で送信されます。アドレス帳登録時にフルモードを設定すると「微細字」で送信できます。
- 正常に送信されなかったとき、通常はエラーメールを受信しますが、エラーメールが何らかの原因で受信できないこともあります。重要な文書を送信したときは、相手先に着信したかどうかを電話で確認してください。
- インターネットを使用する通信は秘匿性が低いので、重要な書類は電話回線を使用した通常のファクス送信をお勧めします。
- LAN 経由の電話は使用できません。
- インターネットファクスはサーバーの混み具合によっては、送信まで時間がかかることがあります。緊急を要するファクスは、SMTP サーバーを経由しないで送信するか電話回線を利用した通常のファクス送信、IP-ファクスを使用してください。SMTP サーバーを経由しないで送信する方法は、P.98「SMTP サーバーを経由しないでインターネットファクス／メールを送信する」を参照してください。
- パソコンやネットワークなどの環境によっては、メールサイズが大きいと送信できないことがあります。
- メモリー残量が少ないときはインターネットファクスで送信できないことがあります。
- インターネットファクスをパソコンで閲覧するには、MIME 対応のメールソフトが必要です。また、添付された画像データを閲覧するには TIFF-F 形式に対応したソフトが必要です。
- インターネットファクス送信は原稿をメモリーへ蓄積しファイル変換してから送信するので、原稿の量によっては送信まで時間がかかることがあります。
- POP before SMTP 認証は、IPv4 環境で有効です。

T.37 フルモードの概要

本機はインターネットファクスの国際基準（ITU-T 勧告、RFC2532）である T.37 フルモードに対応しています。

T.37 フルモード対応機同士でインターネットファクスを送受信すると、送信側が受信確認を求めているときに、受信側が受信確認応答メールを送信します。

この受信確認には受信側の圧縮の種類、紙サイズ、解像度などの受信能力情報も付記されます。受信側がアドレス帳でフルモードに登録されているときは、受信確認にある受信能力情報をアドレス帳に自動的に登録し、次回その情報をもとにインターネットファクスを送信できます。

相手機の受信確認に応答する

送信側が受信確認を求めているときに、受信側は受信確認を送信します。この受信確認には受信側の圧縮の種類、紙サイズ、解像度などの受信能力情報も付記されます。

受信確認にある情報を登録する

送信側が受信確認を受信すると、アドレス帳に宛先が登録されているか確認します。受信側がフルモードに登録されているときは、自動的に受信確認にある情報をアドレス帳に登録します。アドレス帳の受信能力情報は受信確認を受信するたびに更新され、受信能力情報をもとにインターネットファクスを送信できます。たとえば、相手先がフルモード対応機および用紙サイズ A3 対応機のときは、アドレス帳で用紙サイズを A3 に設定すると、A3 で送信できます。未対応機には A4 で送信します。

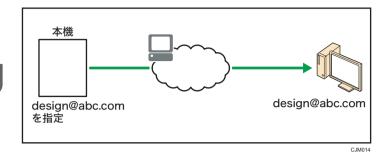
受信側がアドレス帳でフルモードに登録されていないときは、受信側の受信能力情報は登録されません。

受信側の受信能力情報を手動で登録できます。

受信確認を要求する

受信側のファクス機が T.37 フルモードに対応し、アドレス帳でフルモードに登録されているときは、受信側のファクス機に受信確認を要求します。そのあとに受信する受信確認には受信側の受信能力情報が付記されています。

補足

- 本機から受信確認を要求する方法は、P.101「受信確認を要求する」を参照してください。
- 受信側の受信能力情報をアドレス帳に手動で登録するときは、Web Image Monitor を使用します。登録方法は P.232「Web Image Monitor からインターネットファクスの相手先の機種情報を登録する」を参照してください。
- インターネットファクスは一度に複数の宛先に送信できますが、アドレス帳でフルモードに登録した宛先が含まれていると、受信側のそれぞれのファクス機に受信能力の違いがあるため、1 件ずつ指定された順番に送信されます。

メール送信機能の概要

ファクス機能で読み取った文書をネットワーク経由でパソコンへ送信します。

相手先としてパソコンのメールアドレス（メール宛先）を指定します。

文書は、TIFF 形式または PDF 形式の画像データとして送信されます。送信時に画像データの形式を指定します。

相手先のファクス宛先と自分のパソコンのメールアドレスを送信先として同時に指定すると、本機から送信したファクス文書をパソコンで確認できます。

インターネットファクス対応機のメールアドレスもメール宛先として指定できます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- 相手先にインターネットファクス対応機のメールアドレスを指定するときは、ファイル形式は TIFF を指定します。相手先の機種によっては、ファイル形式に PDF を指定するとエラーになることがあります。
- 通常のファクス送信と同様、白黒 2 値の画像が送信されます。

フォルダー送信機能の概要

ファクス機能で読み取った文書をネットワーク上のフォルダーに送信できます。相手先とするフォルダーはあらかじめアドレス帳に登録しておきます。アドレス帳へ登録するときに、送信プロトコルを SMB、FTP、NCP の中から選択できます。

文書は、TIFF 形式または PDF 形式の画像データとして送信されます。送信時に画像データの形式を指定します。

相手先のファクス宛先と自分のパソコンのフォルダー宛先を送信先として同時に指定すると、本機から送信したファクス文書をパソコンで確認できます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- 通常のファクス送信と同様、白黒 2 値の画像が送信されます。

各宛先種別への送信に必要な準備

IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先へ文書を送信するには、各宛先種別でそれぞれ初期設定の準備が必要です。

必要な準備は次のとおりです。

[システム初期設定]のネットワーク設定

必要なネットワーク設定は宛先種別で異なります。詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「ネットワークの設定」を参照してください。

アドレス帳の登録

フォルダー宛先へ送信するためには、事前にアドレス帳への登録が必要です。詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「共有フォルダーを登録する」を参照してください。

[ファクス初期設定]

- IP-ファクス宛先への送信に必要な準備

ゲートキーパーを使用するときに必要な設定

設定	説明
H.323 使用	[使用する]に設定します。
H.323 設定	ゲートキーパーの設定をします。
パラメーター設定(スイッチ 34 ビット 0)	ゲートキーパーを経由するように設定します。

SIP サーバーを使用するときに必要な設定

設定	説明
SIP 使用	[使用する]に設定します。
SIP 設定	SIP サーバー(プロキシサーバー、登録(レジストラ)サーバー、リダイレクトサーバー)の設定をします。
パラメーター設定(スイッチ 34 ビット 1)	SIP サーバーを経由するように設定します。

ゲートウェイを使用するときに必要な設定

設定	説明
ゲートウェイ登録／変更／消去	VoIP ゲートウェイの設定の設定をします。

- インターネットファクス宛先への送信に必要な準備

  [インターネットファクス設定]を[使用する]に設定します。ファクス初期画面に「インターネットファクス」タブが表示されます。

- メール宛先への送信に必要な準備

  [メール設定]を[使用する]に設定します。ファクス初期画面に「メール」タブが表示されます。

- フォルダー宛先への送信に必要な準備

  [フォルダー設定]を[使用する]に設定します。ファクス初期画面に「フォルダー」タブが表示されます。

補足

- ［インターネットファクス設定］、［メール設定］、［フォルダー設定］を［使用しない］に設定しているときでも、インターネットファクス宛先、メール宛先、またはフォルダー宛先へ受信文書を転送または配信できます。

1

各宛先種別への送信時に利用できない機能

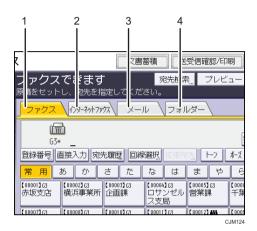
ファクス機能から文書を送信するときに利用できる付加機能のなかには、宛先種別によっては使用できないものがあります。

電話回線を使用した通常のファクス送信時は、すべての機能が利用できます。

各宛先種別で使用できない機能については、次の表を参照してください。

○は、機能を使用できることを表します。

×は、機能を使用できないことを表します。

機能	IP-ファクス宛先	インターネットファクス宛先	メール宛先	フォルダー宛先
直接送信	○	×	×	×
F コード（SUB）を使った送信	○	×	×	×
サブアドレス	○	×	×	×
オンフックダイヤル	×	×	×	×
マニュアルダイヤル	×	×	×	×
ID 送信	○	×	×	×
JBIG 送信	○	×	×	×
ECM（Error Correction Mode）	○	×	×	×
全文書転送	○	×	×	×
宛先履歴	○	○	○	×
一斉同報送信	○	○	○	×
直接入力による宛先指定	○	○	○	×

補足

- この一覧に載っていない機能は、各宛先種別で利用できます。

宛先種別を選択する

送信先の宛先種別は、ファクス初期画面に表示されるタブを切り替えて指定します。

ファクス初期画面の宛先種別のタブ

1.「ファクス」タブ

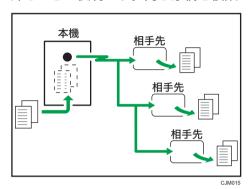
ファクス宛先または IP-ファクス宛先を指定するときに選択します。

2.「インターネットファクス」タブ

インターネットファクス宛先を指定するときに選択します。

3.「メール」タブ

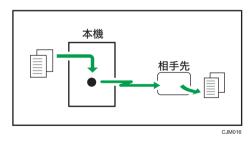
メール宛先を指定するときに選択します。

4.「フォルダー」タブ

フォルダー宛先を指定するときに選択します。

1

送信の種類

送信には、メモリー送信と直接送信の 2 つの種類があります。

メモリー送信

原稿を一度メモリーに蓄積してから自動的に送信を開始します。急いで原稿を持ち帰るときに便利です。同じ原稿を複数の相手先に送信（同報送信）できます。

直接送信

すぐに相手先にダイヤルし、原稿を読み取りながら送信します。急いで送信するときや、送信している相手先を確認するときに便利です。原稿はメモリーに蓄積されません。指定できる宛先は 1 件です。

直接送信は、ファクス宛先または IP-ファクス宛先へ送るときに利用できます。インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先へ送るときは直接送信できません。必ずメモリー送信で送信されます。

メモリー送信の補助機能

本機に用意されているメモリー送信の補助機能について説明します。

クイックメモリー送信

原稿を読み取りながら相手先を呼び出します。

本機は、工場出荷時にクイックメモリー送信になるように設定されています。

通常のメモリー送信はすべての原稿を一度メモリーに蓄積してから相手先を呼び出すので、それに比べて相手先への接続状況を早く確認できます。また、直接送信よりも早く読み取りが終わるので、原稿を急いで持ち帰るときに便利です。

クイックメモリー送信は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ07ビット2）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- 次のようなときは通常のメモリー送信になります。
    - 相手先が話し中などでつながらなかったとき
    - ほかの通信中にメモリー送信の予約をしたとき
    - 複数の相手先を指定したとき
    - 原稿ガラスに原稿をセットし、送信するとき
    - ドキュメントボックスに蓄積した文書を送信するとき
    - 時刻指定送信で文書を送信するとき
    - ［プレビュー］を選択しているとき
- メモリー残量が少なくなると、通常のメモリー送信になることがあります。通常のメモリー送信になるときのメモリー残量の目安は、オプションの有無によって異なります。
- クイックメモリー送信中に［ストップ］キーを押したり、原稿がつまったり、メモリー残量がなくなったりすると、送信を終了して通信結果レポートを印刷します。文書は消去されます。

自動リダイヤル

相手先が話し中でつながらなかったり、送信中のエラーで正しく送信できなかったりするときは、5分間隔で回線を切り替えて最大5回ダイヤルを繰り返します。

それでも送信できなかったときは送信を終了し、「通信結果レポート」または「不達レポート」を印刷します。

補足

- 待機中の文書が多いときは、読み取った順番に送信されないことがあります。

デュアルアクセス

メモリー送信中、受信中、レポートの自動印刷中にメモリー送信の原稿を読み取ります。

通信が終わりしだい、ただちに送信を開始するので、回線を効率的に使用できます。

補足

- 直接送信している間、および初期設定を操作している間は原稿を読み取れません。

同報送信

同じ原稿を複数の相手先に送信します。

同報送信では異なる宛先種別を同時に指定できます。ファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を指定できます。

G4 ユニットまたは増設 G3 ユニットを付けているときは、複数の回線で一斉同報送信ができます。詳しくは、P.54「一斉同報送信」を参照してください。

同報送信の宛先への送信順

同報送信は、指定した相手先の順に送信されます。正しく送信されなかった相手先には、最後に指定した相手先の次にリダイヤルされます。たとえば相手先として ABCD の 4 カ所を指定して、A と C への送信が話し中だったときは、ABCDAC の順にダイヤルされます。

どの相手先まで送信できたか、途中経過を「送信待機文書リスト」で確認できます。詳しくは、P.163「送信待機文書リスト」を参照してください。

複数の待機文書の宛先への送信順

複数の相手先に同報送信している途中で次の送信を指定すると、送信中のファイルの未送信宛先と、次のファイルの宛先への送信が交互に実行されます。

たとえば、宛先 AB への同報送信を指定して、宛先 A への送信中に宛先 CD への同報送信を指定すると、ACBD の順に送信されます。

前のファイルと次のファイルの両方が待機中のときも、同じように交互に送信されます。

補足

- 誤って複数の相手先を指定してしまうなどの誤操作を防止するために、同報送信を禁止できます。同報送信を禁止しているときに指定できる宛先は 1 件だけです。グループ宛先は選択できません。同報送信を禁止するときは、サービス実施店に問い合わせてください。
- 1 文書で同報送信できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

メモリー送信または直接送信を選択する

通常はメモリー送信が選択されています。直接送信に切り替えるには、[直接送信] を押します。

インターネットファクス／メールの暗号化・署名

1

本機から送信されるインターネットファクスやメールを暗号化したり署名を添付したりできます。

暗号化や署名を利用すると、メールのなりすましや情報漏えいを防止できます。

暗号化や署名の添付ができる機能は以下のとおりです。

- 初期画面からメール宛先へ送信するメール
- 「送信結果メール通知」機能で送信されるインターネットファクス／メール
- 「フォルダー転送結果メール通知」機能で送信されるインターネットファクス／メール
- 蓄積受信文書の通知先へ送信されるインターネットファクス／メール
- F コード親展ボックスの配信先へ送信されるインターネットファクス／メール
- F コード中継ボックスの受信局へ送信されるインターネットファクス／メール
- メモリー転送で転送先に送信されるインターネットファクス／メール
- SMTP 受信したメールの配信機能で送信されるインターネットファクス／メール

メールを暗号化するかしないか、署名を添付するかしないかを、機能ごとに設定できます。

また、あらかじめ、Web Image Monitor で暗号化または署名の設定が必要です。

- 暗号化

  Web Image Monitor のアドレス帳で、宛先ごとに暗号化の設定が必要です。「すべて暗号化」を指定している宛先には、個別の機能の設定にかかわらず、メールはすべて暗号化して送信されます。「すべて暗号化」を指定している宛先は、宛先キーに鍵マーク（🔒）が付きます。

  送信先を複数選択したときに送信先に暗号化設定されていない宛先が含まれていると、暗号化の設定をしても、その宛先へのメールは暗号化されません。

- 署名

  Web Image Monitor の S/MIME 設定で署名をするかしないか設定します。選択した条件により、動作が異なります。

  - 「個別に設定する」が設定されているとき

    初期画面からメール宛先に送信するときは、宛先ごとに署名を添付するかしないか設定できます。

    また、そのほかの機能は、機能ごとに、署名を添付するかしないか設定できます。

  - 「署名しない」が設定されているとき

ファクス機能から送信されるメールには、署名は添付できません。

- 「署名する」が設定されているとき

  メールにはつねに署名されます。機能ごとの「署名」の設定は解除できません。

メールの暗号化および署名の機能や設定については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

補足

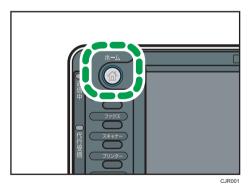
- 通常のインターネットファクス宛先への送信時は、暗号化や署名は利用できません。（インターネットファクス宛先への転送、配信、中継時に利用できます。）
- メールを暗号化したときは、同報送信はできません。複数の宛先を指定したときは、指定した順に 1 宛先ずつ別の文書として送信されます。
- 本機は、S/MIME を利用して暗号化されたメールを受信できません。また、S/MIME を利用した暗号化を設定するときは、送信先、転送先、配信先の受信機能を確認してください。
- 暗号化および署名の設定方法は P.113「メールにセキュリティーの設定をする」、P.245「受信設定」、P.252「導入設定」、P.263「受信文書設定」、P.277「SMTP 受信ファイル配信設定」、P.304「特定相手先設定」、P.314「F コードボックス設定」を参照してください。
- 送信先でサーバーからメールを引き取るまでの間に証明書の有効期限が切れてしまったときに、メールが受信できなくなることがあります。証明書について詳しくは、『セキュリティーガイド』を参照してください。
- インターネットファクス宛先またはメール宛先への転送時や配信時に、証明書の有効期限切れによるエラーが起きたときは、送信者または転送先にエラーの発生をメールで通知します。

2. 送信する

原稿のセット方法や宛先の指定方法など、送信の基本的な操作を説明します。

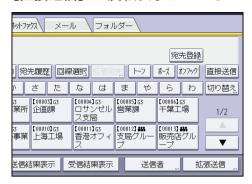
送信の基本操作

ファクス機能から文書を送信するときの基本的な操作方法を説明します。

2

基本的な送信のしかた（メモリー送信）

メモリー送信を使用した、基本的な送信方法を説明します。

ファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先を指定できます。複数の宛先種別を同時に指定できます。

重要

- 大切な原稿を送信するときは、相手先に連絡して内容を確認することをお勧めします。
- 停電時または電源コンセントが抜けた状態で約 1 時間経過すると、ファクスのメモリーに蓄積されている文書はすべて消去されます。消去された文書があると、主電源スイッチを「On」にしたとき自動的に「電源断レポート」が印刷されます。このレポートで消去された文書の一覧を確認できます。『こまったときには』「電源を切る／切れたとき」を参照してください。

1. 操作部左上の［ホーム］キーを押して、ホーム画面上の［ファクス］アイコンを押します。

2. 「ファクスできます」が画面に表示されていることを確認します。

2

3. [直接送信]が反転表示していないことを確認します。

4. 自動原稿送り装置（ADF）に原稿をセットします。

原稿のセット方法は、『用紙の仕様とセット方法』「自動原稿送り装置（ADF）にセットする」を参照してください。

ファクス機能から送信する原稿のセット方法は、P.36「送信原稿をセットする」を参照してください。

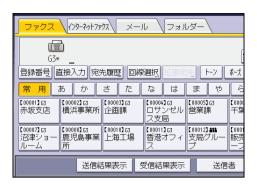
5. 読み取りサイズや解像度などの読み取り条件を設定します。

設定方法は、P.43「読み取り条件を設定する」を参照してください。

6. [拡張送信]の機能を利用するときは、必要に応じて機能を設定します。

7. 相手先を指定します。

相手先の番号やアドレスを直接入力するか、アドレス帳から宛先キーを押して選択します。

相手先を間違えたときは［クリア］キーを押して、入力し直します。

指定方法は、P.56「相手先を指定する」を参照してください。

8. **複数の相手先に同じ文書を送信するときは、次の相手先を指定します。**

9. **インターネットファクス宛先やメール宛先へ送信するとき、または送信結果メール通知機能を使用するときは、［送信者］を指定します。**

設定方法は、P.79「送信者を設定する」を参照してください。

10. **［スタート］キーを押します。**

- 画面右上の「残メモリー」に 0%と表示されているときは、メモリー送信できません。直接送信で送信してください。
- すべての文書で指定している宛先の合計が最大値を超えると直接送信しかできなくなります。
- インターネットファクス宛先またはメール宛先へ送信するとき、または送信結果メール通知機能を使用するときは、送信者として指定するユーザーにメールアドレスが登録されている必要があります。送信者がアドレス帳に登録されていないとき、または送信者にメールアドレスが登録されていないときは、あらかじめ登録してください。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- 「送信者名自動指定」機能が有効になっているときは、送信者の手順を省略できます。
- 以下の項目の最大値については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
    - 1 文書で同報送信できる宛先数
    - すべての文書で指定できる宛先数（送信待機文書を含む）
    - メモリーに蓄積できるメモリー送信の文書数
    - メモリーに蓄積できる文書の枚数（ITU-T No.1 チャート、解像度「ふつう字」、文字原稿の標準原稿）

原稿ガラスに原稿をセットして送信する（メモリー送信）

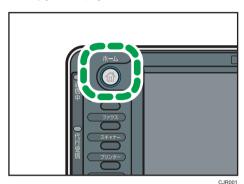
1. ［直接送信］が反転表示していないことを確認します。

2. 原稿ガラスに原稿をセットします。
3. 相手先を指定します。
4. 読み取り条件を設定します。
5. ［スタート］キーを押します。
6. 複数ページの原稿を送るときは、60 秒以内に次の原稿をセットし、手順 4、5 の操作をします。

   1 ページごとにこの操作を繰り返します。

7. ［#］キーを押します。

   相手先を呼び出し、送信を開始します。

相手先を確認しながら送信する（直接送信）

直接送信を使用して、相手先のファクスの情報を確認しながら送信します。

ファクス宛先および IP-ファクス宛先を指定できます。

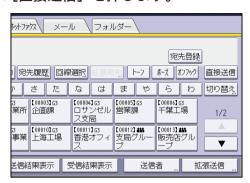
直接送信を指定してからインターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先、およびグループ宛先や複数の宛先を指定すると、自動的にメモリー送信に切り替わります。

重要

- 大切な原稿を送信するときは、相手先に連絡して内容を確認することをお勧めします。

1. 操作部左上の［ホーム］キーを押して、ホーム画面上の［ファクス］アイコンを押します。

2. 「ファクスできます」が画面に表示されていることを確認します。

3. ［直接送信］を押します。

4. 自動原稿送り装置（ADF）に原稿をセットします。

5. 読み取り条件を選択します。

   設定方法は、P.43「読み取り条件を設定する」を参照してください。

6. 相手先を指定します。

   相手先を間違えたときは［クリア］キーを押して、入力し直します。

   指定方法は、P.56「相手先を指定する」を参照してください。

7. ［スタート］キーを押します。

原稿ガラスに原稿をセットして送信する（直接送信）

1. [直接送信] を押します。

2. 原稿ガラスに原稿をセットします。
3. 相手先を指定します。
4. 読み取り条件を設定します。
5. [スタート] キーを押します。
6. 複数ページの原稿を送るときは、10 秒以内に次の原稿をセットし、手順 4、5 の操作をします。

   1 ページごとにこの操作を繰り返します。

7. [#] キーを押します。

設定した内容を確認する

送信する前に、設定した送信条件や読み取り条件を画面で確認します。

1. [設定確認] を押し、設定内容を確認します。

2. [閉じる] を押します。

設定や相手先を変更するときは、指定し直します。

送信原稿をセットする

ファクス機能から送信する原稿のセット方法、および原稿セット方向や読み取り面の設定方法を説明します。

原稿のセットのしかた

原稿のセット方法

原稿ガラスまたは自動原稿送り装置（ADF）に原稿をセットします。

- 原稿ガラスにセットするとき

  『用紙の仕様とセット方法』「原稿ガラスにセットする」を参照してください。

- 自動原稿送り装置（ADF）にセットするとき

  『用紙の仕様とセット方法』「自動原稿送り装置（ADF）にセットする」を参照してください。

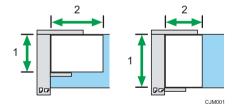
セットする原稿の向き

A4 または $8^{1}/_{2}$×11（LT）以上のサイズの原稿は横向き（）にセットします。

A4 または $8^{1}/_{2}$×11（LT）より小さいサイズの原稿は縦向き（）にセットします。

原稿サイズ	原稿ガラスにセットするとき	自動原稿送り装置（ADF）にセットするとき
A4、B4、A3、$8^{1}/_{2}$×11（LT）、11×17（DLT）	CJN110	CJN100
B5、A5、$5^{1}/_{2}$×$8^{1}/_{2}$（HLT）	CJN111	CJN101

原稿の取り扱い

原稿ガラスや自動原稿送り装置（ADF）にセットできる原稿のサイズ、自動的に検知できるサイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる原稿サイズと紙厚」、「自動的に検知される原稿サイズ」を参照してください。

補足

- 重要な原稿を送信するときは、あらかじめ送信する原稿と同じサイズで同じ方向の用紙が相手先にセットされているか確認してください。画像が縮小されたり、両端が欠けたり、2 枚以上に分割して印刷されることがあります。

- 不定形サイズの原稿は、相手先で余白ができたり画像が切れたりすることがあります。定形外の原稿を送信するときや、大きな原稿の一部だけを送信するときは、読み取りサイズを指定すると便利です。[読み取りサイズ] を指定すると、原稿のサイズにかかわらず指定した範囲内を読み取ります。読み取りサイズの指定方法は、P.46「読み取りサイズを設定する」を参照してください。
- 直接送信時は、解像度および受信先の設定によって 800mm 以上の長さの原稿を送信できないことがあります。メモリー送信を使用した送信することをお勧めします。
- 原稿がつまったときは、[ストップ] キーを押し原稿をゆっくり取り出してください。
- 通常、A4 サイズの原稿は横向き にセットしますが、縦向き にセットすると 90°回転して送信します。詳しくは、P.38「回転送信」を参照してください。
- 原稿ガラスで読み取ったあと、続けて自動原稿送り装置（ADF）で読み取ることができます。自動原稿送り装置（ADF）から原稿ガラスに変更はできません。
- インターネットファクス送信時には A4 サイズで送信されます。A4 より大きな原稿を送信すると A4 サイズに縮小されます。ただし、相手先が T.37 フルモード対応機のときはアドレス帳に設定されている用紙サイズで送信できます。詳しくは、P.16「T.37 フルモードの概要」を参照してください。
- 送信した画像と相手先で印刷された画像の大きさには多少の差があります。
- 相手先の用紙の縦の長さが送信する原稿の縦の長さより小さいときは、相手先の用紙の縦の長さに合わせて縮小して送信されます。詳しくは、P.108「送信文書を相手先の用紙に合わせて縮小する」を参照してください。

送信原稿の縦の長さ・横の長さ

送信する原稿のサイズは、原稿ガラスまたは自動原稿送り装置（ADF）にセットしたときに、原稿が読み取られる方向と平行になる辺のサイズを「横の長さ」、垂直になる辺のサイズを「縦の長さ」と表します。

1. **縦の長さ**
2. **横の長さ**

本機で使用できる原稿のサイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる原稿サイズと紙厚」を参照してください。

相手先の用紙の縦の長さが、送信する原稿の縦の長さより小さいときは、相手先の用紙の縦の長さに合わせて縮小して送信されます。詳しくは、P.108「送信文書を相手先の用紙に合わせて縮小する」を参照してください。

回転送信

通常、A4 サイズの原稿は横向き（▭）にセットしますが、縦向き（▯）にセットすると 90°回転して送信します。

相手先が A4▭までしか受信できないファクスでも等倍で受信します。

補足

- 直接送信では、この機能ははたらきません。
- サイズ混載機能を使用しているときは、この機能ははたらきません。

原稿セット方向を設定する

読み取った原稿やドキュメントボックスの文書をプレビュー表示するときは、原稿の天地（上下）を正しく表示するために［原稿セット方向］を設定します。

1. ［原稿送り］を押します。

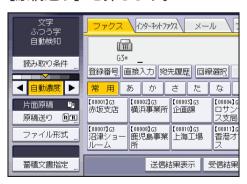
2. 原稿セット方向を選択します。

セットする原稿の向きに合わせて、読める向き🄁または読めない向き🄁を選択します。

3. ［OK］を押します。

両面原稿を読み取る

両面原稿の表と裏を 1 ページずつ読み取って送信します。

この機能を使用するときは、原稿を自動原稿送り装置（ADF）にセットします。

また、メモリー送信で送信します。直接送信はできません。

原稿のセット方向とひらき方向の設定のしかた

原稿の表面と裏面が同じ方向になるように送信するためには「原稿セット方向」と「ひらき方向」を、セットする原稿の向きに合わせて次のように設定してください。「原稿セット方向」と「ひらき方向」が正しく設定されていないと、相手先で原稿の表面と裏面の上下が逆に印刷されることがあります。

原稿	セットする原稿の向き	設定する原稿セット方向	設定するひらき方向
			左右ひらき
			上下ひらき
			左右ひらき
			上下ひらき

1. ［原稿送り］を押します。

2. 原稿セット方向を選択します。

セットする原稿の向きに合わせて、読める向きまたは読めない向きを選択します。

3. ［両面原稿］を選択します。

4. ［左右ひらき］または［上下ひらき］を選択します。

5. ［1 枚目から］または［2 枚目から］を選択します。

自動原稿送り装置（ADF）を使用して、1 枚目が送付状の文書などを送信するときは、［2 枚目から］を選択します。

6. ［OK］を押します。

- 自動原稿送り装置（ADF）を使用して、両面を読み取れる原稿のサイズおよび紙厚については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる原稿のサイズと紙厚」を参照してください。

読み取った原稿の内容をプレビューで確認する

次の機能を使用しているときは、送信前プレビューを使用できません。

- 直接送信
- クイックメモリー送信
- F コード取り出し
- オンフックダイヤル
- マニュアルダイヤル
- ［文書蓄積］の［蓄積のみ］を選択したとき
- 蓄積文書だけの送信
- 全文書転送

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

   ［原稿セット方向］を正しく設定しないと、蓄積した原稿をプレビュー表示するとき、原稿の天地（上下）が正しく表示されません。

   設定方法は、P.38「原稿セット方向を設定する」を参照してください。

2. ［プレビュー］を押します。

3. 相手先を指定し、［スタート］キーを押します。

4. プレビューを確認します。

   - ［縮小表示］または［拡大表示］を押すと、文書を縮小または拡大して表示できます。
   - ［←］［→］［↑］［↓］を押すと、表示する部分を移動できます。
   - ［表示文書切り替え］を押すと、選択した別の文書を表示できます。
   - ［表示ページ切り替え］を押すと、表示するページを切り替えられます。

   送信を開始するときは、［送信］を押します。

白紙原稿を検知する

原稿を自動原稿送り装置（ADF）にセットして読み取るとき、読み取った原稿の最初のページが白紙に近いときにアラームを鳴らして知らせます。

原稿の裏面をセットしてしまったときなど、すぐに間違いに気付くことができ便利です。

白紙原稿が検知されたとき

アラームが鳴ると同時に、数秒間メッセージが画面に表示されます。メッセージが表示されたら、［確認］を押してください。

送信や読み取りを中止するとき

送信または読み取りを中止するときは、［ストップ］キーを押して中止します。白紙を検知しても、自動的には中止されません。

白紙に近い原稿を読み取ったとき、アラームで知らせるかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 11 ビット 2）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- 原稿の 2 枚目以降のページは白紙検知しません。
- 「プレビュー」機能を使用するときは、白紙は検知されません。
- 読み取ったページ数や送信モードによって表示されるメッセージは異なります。

読み取り条件を設定する

原稿の種類により、送信する画像が相手先のファクスで思いどおりに印刷できないときは、読み取り条件を利用して、相手先でよりきれいに印刷されるように画像を調整できます。

原稿種類、解像度、読み取りサイズ、読み取り濃度を設定できます。

補足

- 枚数の多い原稿を続けて読み取るとき、原稿の内容や設定により、次のページを読み取るまでの時間が長くかかることがあります。

原稿種類を設定する

原稿の内容に合わせて種類を選択します。

原稿の種類は次のとおりです。

文字

文字のように黒白の濃度がはっきりしている画像のときに選択します。文字と写真が混在している原稿でも、文字の部分だけをきれいに送るときは［文字］を選択します。

文字・図表

文字のように黒白の濃度がはっきりしている図形や表、グラフなどを、きれいに送るときに選択します。［文字］を選択したときは読み取り速度が優先されますが、［文字・図表］を選択したときは画質が優先されます。

文字・写真

文字のように黒白の濃度がはっきりしている画像と、写真など濃淡のある画像とが混在しているときに選択します。

写真

写真など濃淡のある画像やカラーの原稿のときに選択します。

1. ［読み取り条件］を押します。

2. [原稿種類] が選択されていることを確認します。

3. 設定する原稿種類のキーを押して、[OK] を押します。

補足

- [文字・図表] や [文字・写真]、または [写真] で送信すると、[文字] を選択しているときより送信時間が長くなります。
- [文字・図表] や [文字・写真]、または [写真] で送信すると、相手先の受信紙の地肌が汚れることがあります。そのときは、濃度を薄く設定して送信し直してください。濃度を設定する方法は P.48「濃度を調整する」を参照してください。

JBIG 送信

圧縮率の高い JBIG（Joint Bi-level image experts Group）で送信します。

[写真] で読み取った原稿でも速く送信します。

補足

- G4、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先への送信時は使用できません。
- 相手先のファクスに JBIG 受信機能および ECM 機能が付いていないと、JBIG 送信できません。ECM 機能は G3 での通信時に有効です。

解像度を設定する

原稿の文字のサイズに応じて、原稿を読み取るときの解像度を設定します。

解像度の種類は次のとおりです。

ふつう字

線密度は 8×3.85 本/mm、または 200×100dpi です。

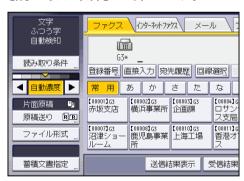
ふつうの大きさの字で書かれた手書き原稿などに適しています。

小さな字

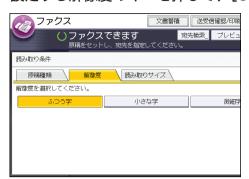
線密度は 8×7.7 本/mm、または 200×200dpi です。

小さな字で書かれた原稿などに適しています。ふつうの大きさの字でも、なるべくきれいに送信するときに選択します。

微細字

線密度は 16×15.4 本/mm、または 400×400dpi です。

細かい字で書かれた新聞原稿などに適しています。ふつうの大きさや小さな字でも、できるだけ精細に送信するときに選択します。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

<table>
<tr><th>原稿の文字</th><th>相手先に届いたときの写り</th></tr>
<tr><td rowspan="3">あいうえお
（目安となる大きさ［ふつう字］）</td><td>あいうえお （ふつう字）</td></tr>
<tr><td>あいうえお （小さな字）</td></tr>
<tr><td>あいうえお （微細字）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">あいうえお
（目安となる大きさ［小さな字］）</td><td>あいうえお （ふつう字）</td></tr>
<tr><td>あいうえお （小さな字）</td></tr>
<tr><td>あいうえお （微細字）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">あいうえお
（目安となる大きさ［微細字］）</td><td>あいうえお （ふつう字）</td></tr>
<tr><td>あいうえお （小さな字）</td></tr>
<tr><td>あいうえお （微細字）</td></tr>
</table>

BZQ023

1. ［読み取り条件］を押します。

2. ［解像度］を押します。

3. 設定する解像度のキーを押して、［OK］を押します。

補足

- 相手のファクスに同じ解像度の機能がないときは、相手先の機能に合わせて送信されます。実際に送信した解像度は、通信管理レポートで確認できます。通信管理レポートを印刷する方法は、P.181「通信管理レポートを印刷する」を参照してください。
- 受信できる解像度は「ふつう字」「小さな字」「細かい字（G3 での通信時に有効）」「微細字」です。「細かい字」、「微細字」での通信に必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。
- インターネットファクス送信では、［微細字］を選択しても「小さな字」で送信されます。アドレス帳登録時にフルモードを設定すると「微細字」で送信できます。詳しくは、P.16「T.37 フルモードの概要」を参照してください。

読み取りサイズを設定する

通常、原稿は自動で検知されたサイズで読み取られますが、手動で読み取りサイズを指定できます。読み取りサイズを指定すると、指定した範囲だけ読み取られるため、送信した文書に余分な余白を付けることなく送信できます。

選択できる読み取りサイズは次のとおりです。

自動検知

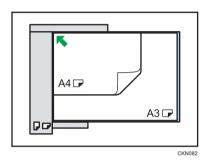
最初にセットされた原稿のサイズで最後の原稿まで読み取ります。

自動検知で原稿サイズを正しく検知できないときは、原稿をセットし直してください。

定形サイズ

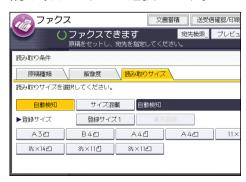
原稿の実際のサイズにかかわらず、指定した定形サイズで読み取ります。

指定できるサイズは、A4、B4、A3、$8^1/_2$×11（LT）、$8^1/_2$×14（LG）、11×17（DLT）です。

登録サイズ

原稿の実際のサイズにかかわらず、登録されたサイズで読み取ります。

2 種類のサイズを登録できます。[ファクス初期設定]の[読み取りサイズ登録／変更／消去]で、あらかじめ読み取りサイズを登録してください。登録方法は、P.278「読み取りサイズ登録／変更／消去」を参照してください。

サイズ混載

自動原稿送り装置（ADF）にセットされた原稿のサイズを 1 枚ごとに読み取ります。たとえば A3と A4の原稿を送信するとき、通常は 1 枚目にセットされた原稿のサイズで送信されますが、[サイズ混載]を選択するとそれぞれの原稿のサイズで読み取ります。

原稿をセットするときは、自動原稿送り装置（ADF）に対して原稿の左側と奥の 2 辺をそろえ、原稿ガイドを大きい原稿サイズに合わせてください。

1. [読み取り条件]を押します。

2. [読み取りサイズ]を押します。

3. 読み取りサイズを選択します。

4. [OK] を押します。

補足

- サイズを自動検知しにくい原稿については、『用紙の仕様とセット方法』「自動的に検知される原稿サイズ」を参照してください。
- 小さい原稿サイズに原稿ガイドを合わせることができないため、やや斜めに読み取られることがあります。
- サイズ混載機能を使用しているときは、メモリー送信で送信されます。
- サイズ混載機能を使用しているときは、回転送信は使用できません。

濃度を調整する

原稿を読み取る濃度を調整します。

原稿の文字や図は背景の色より目立たせてください。新聞紙などの地肌の濃い原稿や文字が薄い原稿を送るときは、濃度を調整します。

濃度設定には次の種類があります。

自動濃度調整

最適な濃度に自動で調整します。

1. [自動濃度] が選択されていることを確認します。

手動濃度調整

原稿の文字が薄いときは濃くなるように、濃いときは薄くなるように手動で調整します。

濃度は 7 段階で調整できます。

1. [自動濃度] が選択されているときは、[自動濃度] を押して設定を取り消します。
2. [◀] または [▶] を押し、濃度を調整します。

   濃度表示「▼」が移動します。

組み合わせ濃度調整

地肌が濃い原稿のとき、画像の濃度だけを調整します。

濃度は 7 段階で調整できます。

1. ［自動濃度］が選択されていることを確認します。
2. ［◀］または［▶］を押し、濃度を調整します。

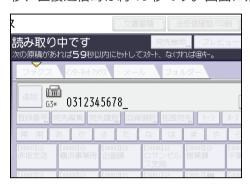
   濃度表示「▼」が移動します。

補足

- 原稿種類の［文字］、［文字・図表］、［文字・写真］を選択すると自動濃度に設定されます。

ページごとに読み取り条件を設定する

原稿の読み取り中に、ページごとに読み取り条件を変更できます。

読み取り条件を読み取り中に変更するときは、原稿ガラスにセットして送信することをお勧めします。

自動原稿送り装置（ADF）を使用しているとき、原稿が読み取られている間は［解像度］の設定を変更しないでください。

原稿ガラスにセットしているとき

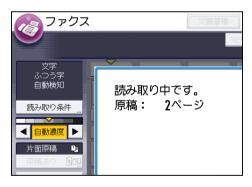
1. 変更するページを確認します。

2. 前のページの原稿を取り除き、次の原稿をセットします。
3. 読み取り条件を選択します。

「ピッピッ」という音がしている間に操作してください。メモリー送信時は約 60 秒、直接送信時は約 10 秒です。画面に残り時間が表示されます。

1 ページ目は［スタート］キーを押す前に設定します。2 ページ目以降は次に［スタート］キーを押す前に設定します。

自動原稿送り装置（ADF）にセットしているとき

1. 変更するページを確認します。
2. 前のページが読み取られている間に、読み取り条件を変更するページの読み取り条件を設定します。

読み取り条件を変更するタイミングによっては、設定の変更が思いどおりのページに反映されないことがあります。

ファイル形式を設定する

メール宛先またはフォルダー宛先に送信する文書のファイル形式を、TIFF、PDF、またはPDF/A から選択します。

ファイル形式に［PDF］、または［PDF/A］を設定したときは、電子署名をつけることができます。署名についての詳細は、『セキュリティーガイド』を参照してください。

1. ［ファイル形式］を押します。

2. ［TIFF］、［PDF］または［PDF/A］を選択します。
3. 電子署名をつけるときは、［デジタル署名］を押して反転表示させます。
4. ［OK］を押します。

補足

- ファクス宛先、IP-ファクス宛先およびインターネットファクス宛先に送る送信文書には、ファイル形式の設定は反映されません。

回線を選択する

通常のファクス送信で使用する回線、および IP-ファクスで使用するプロトコルを選択します。

本機は G4 ユニットまたは増設 G3 ユニットを装着して、接続できる回線を 3 回線まで増やせます。

G3

電源を入れた直後やリセットされた状態では、G3 が選択されています。増設 G3 ユニットを装着すると、[G3-1]、[G3-2]、[G3-3]、[G3 空き回線使用] が選択できます。

G4

ISDN が選択されます。

JBIG 送受信はできません。

マルチポート

G4 ユニットまたは増設 G3 ユニットを装着すると、接続する回線によって最大 3 つの通信を同時に行うことができます。接続している回線と、可能な通信種類（G3／G4）の組み合わせは次のとおりです。

オプション	接続する回線	可能な通信種類
なし	加入者回線	G3
増設 G3 ユニット	加入者回線＋加入者回線	G3 ＋ G3
G4 ユニット	加入者回線＋ ISDN	G3 ＋ G4 または G3（ISDN）＋ G4
G4 ユニット	ISDN	G3（ISDN）＋ G4
増設 G3 ユニット＋増設 G3 ユニット	加入者回線＋加入者回線＋加入者回線	G3 ＋ G3 ＋ G3
増設 G3 ユニット＋ G4 ユニット	加入者回線＋加入者回線＋ ISDN	G3 ＋ G3 ＋ G4 または G3 ＋ G3（ISDN）＋ G4
増設 G3 ユニット＋ G4 ユニット	加入者回線＋ ISDN	G3 ＋ G3（ISDN）＋ G4 または G3（ISDN）＋ G3（ISDN）

IP-ファクス

IP-ファクスを送信するときは、使用するプロトコルを［SIP］または［H.323］から選択します。

［SIP］、［H.323］のどちらを選択するかは管理者に問い合わせてください。

宛先をアドレス帳から選択するときは、アドレス帳で宛先ごとに登録された回線が選択されます。

ここでは、宛先を直接入力して指定するときに、手動で回線を選択する方法を説明します。

1. ［回線選択］を押します。

2. 使用する回線を押します。

装着している増設回線や IP-ファクスの設定により、画面には次の回線やプロトコルが表示されます。

- 標準の G3 だけ

  G3

- 増設 G3 ユニットを装着したとき

  G3-1、G3-2、G3 空き回線使用

- G4 ユニットを装着したとき

  G4、G3、I-G3

- 増設 G3 ユニットを 2 つ装着したとき

  G3-1、G3-2、G3-3、G3 空き回線使用

- G4 ユニットと増設 G3 ユニットを装着したとき

  G4、G3-1、G3-2、I-G3、G3 空き回線使用

- SIP と H.323 を［使用する］に設定したとき

G3、H.323、SIP

[G3 空き回線使用] を選択すると、空いている G3 回線から送信するので、より効率的です。

3. [OK] を押します。

補足

- 最大 3 通信まで同時に通信できます。ただし、直接送信では複数回線での通信はできません。
- 3 通信同時に通信しているとき、画面には先に開始した通信が表示されます。

ISDN で G3 通信をするには

G4 での通信には必ず ISDN を使用しますが、G3 での通信には加入電話回線と ISDN の両方を使用できます。

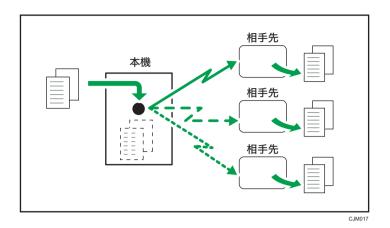
ISDN を G3 に接続するときは、[I-G3] を選択します。

補足

- G4 ユニットの設置時、G3 で使用する回線は ISDN に設定されていますが、設定を変更するときはサービス実施店に連絡してください。
- G3 に ISDN を使用すると、サブアドレスと UUI が使用できます。

回線の自動識別

G4 を選択すると、回線を自動識別します。

最初は G4 でダイヤルしますが、相手先が加入電話回線だったときは G4 では接続できないため、自動的に G3 に切り替えてダイヤルし直します。

補足

- 相手先が TA（ターミナルアダプター）などを介して ISDN に接続しているときは、自動的に切り替わらないことがあります。
- 海外への送信時は、国際回線からの信号により自動切り替えがきかず、送信できないことがあります。

一斉同報送信

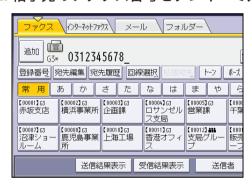
通常は複数の相手先を指定しても指定した順に 1 宛先ずつ送信されますが、一斉同報送信では異なる回線を使用して、複数の相手先に同時に送信します。

通常の同報送信に比べて、すべての相手先へ送信する時間が短縮されます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- 同時に送信できるのは LAN を含め最大 3 回線です。
- 増設 G3 ユニットを使用するときは、宛先の回線種類を［G3 空き回線使用］に設定しておくと、空いている G3 回線から送信するので、より効率的です。

相手先を指定する

相手先の番号やアドレスを、直接入力またはアドレス帳から選択して指定する方法を説明します。

ファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を指定できます。複数の宛先種別を同時に指定できます。

宛先のファクス番号を直接入力して指定する

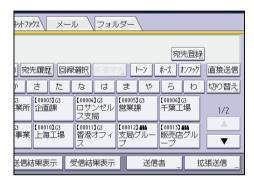
相手先のファクス番号をテンキーで直接入力して指定する方法を説明します。

1. ［ファクス］が選択されていることを確認します。
2. 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

入力した番号を変更するときは、［クリア］キーを押して1桁ずつ消去し、入力し直します。

宛先を追加するときは、［追加］を押して、次の宛先を指定します。

アドレス帳の相手先を追加するときは、追加する宛先の宛先キーを押します。

補足

- ファクス番号の途中に、ポーズ（「-」）とトーンを入力できます。入力方法はP.57「ポーズを入力する」、P.57「［トーン］を押してプッシュ回線に切り替える」を参照してください。
- G4ユニットまたは増設G3ユニットを付けているときは、［スタート］キーを押す前にどの回線を使用するか選択できます。回線の選択方法はP.52「回線を選択する」を参照してください。
- G4ユニットを装着しているときは、サブアドレスとUUIを入力できます。入力方法はP.92「サブアドレスを指定する」、P.93「UUIを指定する」を参照してください。
- 宛先として入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

ポーズを入力する

ポーズを入力する方法を説明します。

構内交換機を経由して外線にダイヤルするときは、0 発信したあと外線につながるまで多少時間がかかることがあります。このようなときは 0 のあとに［ポーズ］を押してポーズを入力します。

ポーズを入力すると、入力した個所に約 2 秒間の待ち時間を入れてダイヤルします。

補足

- ポーズを入力した個所は「-」と表示されます。
- ポーズを入力した状態をアドレス帳に登録できます。

［トーン］を押してプッシュ回線に切り替える

ダイヤル回線でプッシュ回線のサービスを受けるときなど、プッシュ信号を送出するときに使用します。

ここではオンフックダイヤルでトーンを使用する方法を説明します。

トーンを入力した個所は「T」と表示され、それ以降の番号がプッシュ信号となります。

1. ［オンフック］を押します。

2. 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

3. ［トーン］を押します。

4. サービスを受けるための暗証番号などをテンキーで入力します。

5. [スタート] キーを押します。

補足

- トーンを使用してプッシュ信号を送出しても、利用できないサービスもあります。
- ファクス情報サービスなどから文書を受信するときは、P.346「ファクス情報サービスを利用する」を参照してください。
- 本機に ISDN だけしか接続されていないときでも、メモリー送信および直接送信のときは G3 の相手先にトーン（プッシュ信号）を送出できます。ただし、マニュアルダイヤルでは ISDN にダイヤルできません。また、オンフックダイヤルで ISDN にダイヤルするときは、サービス実施店に問い合わせてください。

IP-ファクス宛先を直接入力して指定する

IP アドレスやホスト名、エイリアス電話番号を指定します。

宛先として指定する内容は本機に設定したネットワーク環境によって異なります。本機に設定したネットワーク環境については、管理者に問い合わせてください。詳しくは、P.59「IP-ファクス宛先の種類」を参照してください。

1. [ファクス] が選択されていることを確認します。

2. プロトコルを選択します。

詳しくは、P.52「回線を選択する」を参照してください。

3. [直接入力] を押します。

4. 相手先の宛先を入力して、[OK] を押します。

相手先を追加するときは、[追加] を押して、次の宛先を指定します。

アドレス帳の相手先を追加するときは、追加する宛先の宛先キーを押します。

補足

- 宛先を変更するときは、[宛先編集] を押して指定し直します。

- セキュリティーの設定によっては［直接入力］が表示されず、入力できないことがあります。
- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- 宛先として入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

IP-ファクス宛先の種類

IP-ファクス宛先は、本機が接続されているネットワークや環境により宛先として指定する内容が異なります。

環境に応じて、次のように指定してください。

ゲートキーパーや SIP サーバーを使用しないとき

- IP-ファクスから IP-ファクスへ送信するとき

  相手先の「IP アドレス」または「ホスト名」を指定します。

  IP アドレスの例：192.168.1.10

  ホスト名の例：IPFAX1

- IP-ファクスから G3 ファクスへ送信するとき

  相手先の「G3 ファクスの電話番号」を指定します。

  例：0312345678

ゲートキーパーを使用するとき

- IP-ファクスから IP-ファクスへ送信するとき

  相手先の「エイリアス電話番号」を指定します。

  例：エイリアス電話番号：0311119999

- IP-ファクスから G3 ファクスへ送信するとき

  相手先の「G3 ファクスの電話番号」を指定します。

  例：0312345678

SIP サーバーを使用するとき

- IP-ファクスから IP-ファクスへ送信するとき

  相手先の「SIP ユーザー名」を指定します。

  例：SIP ユーザー名：ABC

- IP-ファクスから G3 ファクスへ送信するとき

  相手先の「G3 ファクスの電話番号」を指定します。

  例：0312345678

補足

- 電話回線に接続されたゲートウェイを経由してG3ファクスに送信するときは、G3ファクスの加入者番号を指定します。たとえば、宛先のファクス番号が03（1234）5678のときは、「5678」と指定します。IP-ファクスからG3ファクスに送信するときに、ゲートキーパー／SIPサーバーを使用しない場合は、ゲートウェイの登録が必要です。
- エイリアス電話番号とは、ゲートキーパーに登録される番号で、ゲートキーパーが接続されたネットワーク内で有効な電話番号のことです。
- ゲートウェイ-IPアドレス変換テーブルに設定する電話番号桁数には運用上の注意が必要です。誤送信の原因になります。
- SIPを使用するときは、IPv6ネットワーク経由での送受信できます。本機は、H.323を使用したIPv6での送受信には対応していません。
- IPv6環境では本機のアドレスを複数割り当てることができますが、IP-ファクスを受信できるアドレスは1つだけです。
- IPv6で送信するとき、宛先のIPv6アドレスまたはホスト名には相手先のファクス機の手動設定アドレスを指定してください。
- IPv6環境で、SIPサーバーを利用しないでIP-ファクスを受信するときは、本機にはIPv6アドレスとして手動設定アドレスを設定してください。この手動設定アドレスで受信します。SIPサーバーを利用するときは、この設定は必要ありません。
- IPv4とIPv6が混在している環境で、SIPサーバーを経由して通信するとき、IPv4で送信する場合は「v4:」を、IPv6で送信する場合は「v6:」を宛先の先頭に付加してください。
- SIP呼接続は、本機の環境によりIPv4またはIPv6どちらか一方で行うよう設定されています。設定を変更するときはサービス実施店に問い合わせてください。

IP-ファクス宛先にポート番号を付加するときの指定方法

相手先の環境によっては、IPアドレスやホスト名の後ろにポート番号を指定します。

IPアドレスとポート番号を指定するとき

IP-ファクスで宛先を指定するとき、受信側のネットワークの設定によっては、宛先のIPアドレスとポート番号の指定が必要です。たとえば、宛先のIPv4アドレスが「192.168.1.10」でポート番号が2100番のとき、「192.168.1.10:2100」と指定します。宛先のIPv6アドレスが「fe80::0123:4567:89ab:cdef」でポート番号が2200番のとき、「[fe80::0123:4567:89ab:cdef]:2200」と指定します。ネットワーク設定の詳細は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ホスト名とポート番号を指定するとき

ホスト名で宛先を指定するとき、受信側のネットワークの設定によっては、宛先のホスト名とポート番号の指定が必要です。たとえば、宛先のホスト名が「IPFAX1」、ポー

ト番号が 2100 番のときは「IPFAX1:2100」と指定します。ネットワーク設定の詳細は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

インターネットファクス宛先を直接入力して指定する

相手先のインターネットファクス対応機のメールアドレスを指定します。

1. [インターネットファクス]を押してインターネットファクス宛先に切り替えます。

2. [直接入力]を押します。

3. 相手先のメールアドレスを入力し、[OK]を押します。

相手先を追加するときは、[追加]を押して、次の宛先を指定します。

アドレス帳の相手先を追加するときは、追加する宛先の宛先キーを押します。

補足

- 相手先にパソコンのメールアドレスも指定できます。
- 宛先を変更するときは、[宛先編集]を押して指定し直します。
- セキュリティーの設定によっては[直接入力]が表示されず、入力できないことがあります。
- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- 宛先として入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

メール宛先を直接入力して指定する

相手先にはパソコンのメールアドレスを指定します。

1. ［メール］を押してメール宛先に切り替えます。

2. ［直接入力］を押します。

3. 相手先のメールアドレスを入力し、［OK］を押します。

相手先を追加するときは、［追加］を押して、次の宛先を指定します。

アドレス帳の相手先を追加するときは、追加する宛先の宛先キーを押します。

補足

- 相手先にインターネットファクス対応機のメールアドレスも指定できます。そのとき、ファイル形式は TIFF を指定します。相手先の機種によっては、ファイル形式に PDF を指定するとエラーになることがあります。
- 宛先を変更するときは、［宛先編集］を押して指定し直します。
- セキュリティーの設定によっては［直接入力］が表示されず、入力できないことがあります。
- 文字の入力方法は『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- 宛先として入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

フォルダー宛先を指定する

フォルダー宛先は、アドレス帳の宛先キーを押して指定します。

フォルダー宛先へ送信するには、あらかじめフォルダーのパスをアドレス帳に登録しておきます。フォルダーのパスは、送信時に直接指定できません。アドレス帳にフォルダー宛先を登録する方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「共有フォルダーを登録する」を参照してください。

1. ［フォルダー］を押してフォルダー宛先に切り替えます。

2. 相手先の宛先キーを押します。

相手先を追加するときは、次の宛先が登録されている宛先キーを押します。

アドレス帳から選択する

相手先が登録されている宛先キーを押して相手先を指定します。

宛先キーには、登録した相手先の名称が表示されます。

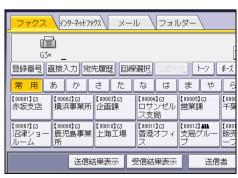
あらかじめ、アドレス帳に相手先の宛先を登録してください。

ファクス宛先、IP-ファクス宛先の登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「ファクス宛先について」を参照してください。

インターネットファクス宛先、メール宛先の登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「メール宛先について」を参照してください。

フォルダー宛先の登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「共有フォルダーを登録する」を参照してください。

メール宛先を登録するときは、［メールアドレス使用対象］を［メール宛先・インターネットファクス宛先］に設定します。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

1. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を切り替えます。

2. **相手先が登録されている見出しキーを押します。**

たとえば、「か」の見出しに登録した「鹿児島事業所」を指定するときは［か］を押します。

3. **送信する相手先の宛先キーを押します。**

送信する相手先が表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して探します。

指定を取り消すときは、選択されている宛先キーをもう一度押します。［クリア］キーを押して指定し直すこともできます。

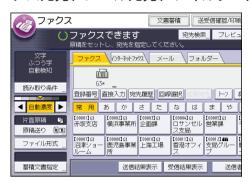
次の相手先を指定するときは、手順 2、3 を繰り返します。

補足

- 誤って宛先キーを押してしまうなどの誤操作を防止するために、宛先キーで宛先を追加するときは必ず［追加］を押すように［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 17 ビット 2）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。
- アドレス帳の登録内容は、宛先リストで確認できます。宛先リストは、［システム初期設定］の［アドレス帳：宛先リスト印刷］で印刷します。印刷方法は『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

見出しの種類を切り替える

アドレス帳には［見出し 1］［見出し 2］［見出し 3］の 3 つの見出しがあります。

1. **［切り替え］を押します。**

2. **見出しの種類を選択し、［設定］を押します。**

グループ宛先を選択する

複数の相手先をまとめて 1 つのグループとしてアドレス帳に登録しておくと、複数の相手先を簡単に指定できます。

アドレス帳への登録方法は『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

グループ登録された宛先にはグループアイコンが表示されます。

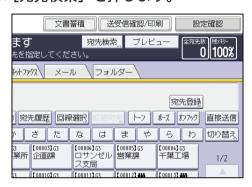
1. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を切り替えます。

2. グループを登録している宛先キーを押します。

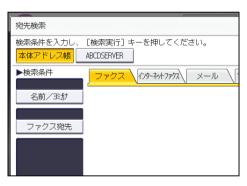
次のグループを指定するときは、この操作を繰り返します。

補足

- アドレス帳のグループに登録した宛先は、グループ宛先リストで確認できます。グループ宛先リストは［システム初期設定］の［アドレス帳：宛先リスト印刷］で印刷します。印刷方法は『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。
- 複数のグループに登録されている相手先の合計が、1 文書で同報送信できる最大宛先数を超えるときは指定できません。最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- 指定したグループに、選択した種別の宛先が登録されていない相手先が含まれていると、確認メッセージが表示されます。［選択］を押すと、選択した種別の宛先が登録されている宛先だけが指定されます。［選択中止］を押すと、相手先を指定し直すことができます。
- グループに含まれる特定の相手先だけ送信を取り消すときは、［設定確認］の［グループ宛先展開］を押します。ファクス初期画面で［▲］または［▼］を押して送信を取り消す相手先を表示させ、［クリア］キーを押すか、反転表示されている宛先キーを押して選択を解除します。

名前／ヨミガナで検索する

相手先を、本機のアドレス帳または LDAP サーバーから名前やヨミガナで検索して選択します。

LDAP サーバーを利用するときは、［システム初期設定］の［LDAP サーバー登録／変更／消去］で、あらかじめ LDAP サーバーを登録し、［LDAP 検索］を［する］に設定しておきます。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

宛先は、部分一致で検索されます。

ひらがな、カタカナ、漢字、英数字、記号で検索できます。

フォルダー宛先は、LDAP サーバーからは検索できません。

1. ［宛先検索］を押します。

2. 検索対象を選択します。

本機のアドレス帳から検索するときは［本体アドレス帳］を選択します。

LDAP サーバーから検索するときは、検索する LDAP サーバーを選択します。

3. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を切り替えます。

4. ［名前／ヨミガナ］を押します。

LDAP サーバーから検索するときは、［名前］を押します。

5. 検索文字を入力し、［OK］を押します。

6. 名前／ヨミガナの条件欄に入力された文字を確認し、［検索実行］を押します。

7. 宛先を選択し、［OK］を押します。

送信する宛先が表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して表示させます。

［詳細］を押すと、選択した宛先の詳細情報が表示されます。

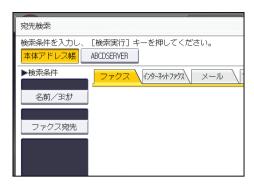
補足

- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- 検索結果が一度に検索できる最大宛先数を超えたときは、画面にメッセージが表示されます。[確認] を押し、検索文字を変更して、宛先を絞り込んでください。[宛先検索] で一度に検索できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- メールアドレスは 1 人で複数登録できますが、検索でヒットするのは 1 人につき 1 件だけです。どれがヒットするかは LDAP サーバーがサポートする方式に依存しますが、一般的には最初に登録したアドレスです。

宛先の番号やアドレスで検索する

本機のアドレス帳または LDAP サーバーから、相手先のファクス番号やメールアドレス、フォルダーのパスを検索して選択します。

LDAP サーバーを利用するときは、[システム初期設定] の [LDAP サーバー登録/変更/消去] で、あらかじめ LDAP サーバーを登録し、[LDAP 検索] を [する] に設定しておきます。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

宛先は、部分一致で検索されます。

フォルダー宛先は、LDAP サーバーからは検索できません。

1. [宛先検索] を押します。

2. 検索対象を選択します。

本機のアドレス帳から検索するときは [本体アドレス帳] を選択します。

LDAP サーバーから検索するときは、検索する LDAP サーバーを選択します。

3. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を切り替えます。
4. 検索する宛先の種別に応じて、［ファクス宛先］、［メールアドレス］、または［フォルダー］を押します。
5. 検索する宛先の文字列を入力し、［OK］を押します。
6. 条件欄に入力された文字列を確認し、［検索実行］を押します。
7. 宛先を選択し、［OK］を押します。

   送信する宛先が表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して表示させせます。

   ［詳細］を押すと、選択した宛先の詳細情報が表示されます。

補足

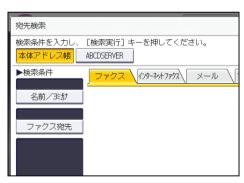
- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- 検索結果が一度に検索できる最大宛先数を超えたときは、画面にメッセージが表示されます。［確認］を押し、検索文字を変更して、宛先を絞り込んでください。［宛先検索］で一度に検索できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- メールアドレスは 1 人で複数登録できますが、検索でヒットするのは 1 人につき 1 件だけです。どれがヒットするかは LDAP サーバーがサポートする方式に依存しますが、一般的には最初に登録したアドレスです。

詳細条件を指定して検索する

検索条件を細かく指定して、本機のアドレス帳または LDAP サーバーから相手先を検索します。

LDAP サーバーを利用するときは、［システム初期設定］の［LDAP サーバー登録／変更／消去］で、あらかじめ LDAP サーバーを登録し、［LDAP 検索］を［する］に設定しておきます。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

本機のアドレス帳から検索するときは、名前／ヨミガナ、ファクス宛先、メールアドレス、フォルダーを、検索条件として指定できます。

LDAP サーバーから検索するときは、名前、ファクス宛先、メールアドレス、会社名、部署名を、検索条件として指定できます。

フォルダー宛先は、LDAP サーバーからは検索できません。

1. ［宛先検索］を押します。

2. 検索対象を選択します。

本機のアドレス帳から検索するときは［本体アドレス帳］を選択します。

LDAP サーバーから検索するときは、検索する LDAP サーバーを選択します。

3. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先またはフォルダー宛先を切り替えます。

4. ［詳細条件］を押します。

5. 検索条件の各項目のキーを押して、検索する送信先に関連する文字列の一部を入力します。

6. 入力した各項目に対応する一致条件を選択します。

選択する一致条件と使用方法は次のとおりです。

- ［前方一致］：入力した文字が前方に位置する名称を検索します。

  たとえば、“ABC”を検索するときは“A”を入力します。

- ［後方一致］：入力した文字が後方に位置する名称を検索します。

  たとえば、“ABC”を検索するときは“C”を入力します。

- ［一致］：入力した文字と一致する名称を検索します。

  たとえば、“ABC”を検索するときは“ABC”を入力します。

- ［含む］：入力した文字を含む名称を検索します。

  たとえば、“ABC”を検索するときは“A”か“B”か“C”を入力します。

- ［含まない］：入力した文字を含まない名称を検索します。

  たとえば、“ABC”を検索するときは“D”を入力します。

- ［あいまい］：あいまい検索します。

  手順 2 で LDAP サーバーを選択したときに表示されます。あいまい検索の機能は LDAP サーバーがサポートする方式に依存します。

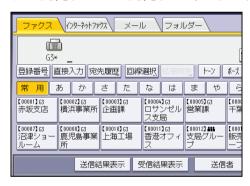
7. ［OK］を押します。

8. ［検索実行］を押します。

9. 宛先を選択し、［OK］を押します。

送信する宛先が表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して表示させてください。

［詳細］を押すと、選択した宛先の詳細情報が表示されます。

補足

- LDAP サーバーから検索するとき、［システム初期設定］の［LDAP サーバー登録／変更／消去］で［任意検索条件］が設定されているときは、検索条件が 1 つ追加されます。

- LDAP サーバーから検索するとき、手順 5 で検索条件の［名前］で検索するときに、苗字で検索するか、名前で検索するかは、管理者の設定によります。たとえば「John Doe」を検索するとき、「John」を入力するか、「Doe」を入力するかは、管理者におたずねください。
- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- 検索結果が一度に検索できる最大宛先数を超えたときは、画面にメッセージが表示されます。［確認］を押し、検索文字を変更して、宛先を絞り込んでください。［宛先検索］で一度に検索できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- メールアドレスは 1 人で複数登録できますが、検索でヒットするのは 1 人につき 1 件だけです。どれがヒットするかは LDAP サーバーがサポートする方式に依存しますが、一般的には最初に登録したアドレスです。

登録番号で検索する

本機のアドレス帳から、登録番号で相手先を検索して選択します。

1. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を切り替えます。

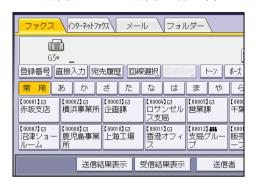
2. ［登録番号］を押します。

3. 登録番号をテンキーで入力して、［#］を押します。

登録番号は通常 5 桁で表示されますが、頭の 0 は入力を省略できます。

「指定した登録番号はありません。」というメッセージが表示されたときは、登録番号が正しくないか、または宛先種別の切り替えが正しくありません。［確認］を押して登録番号を再度確認し、手順 1 または手順 3 から操作します。

4. ［OK］を押します。

2

宛先履歴から選択する（リダイヤル）

これまでに指定したファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先の最新の相手先を記憶しています。

続けて同じ相手先に送信するときに使用すると、相手先を入力し直さなくてもいいので便利です。

1. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先を切り替えます。

2. ［宛先履歴］を押します。

3. 使用する宛先を選択し、［OK］を押します。

補足

- 次の相手先は履歴として残りません。
  - アドレス帳で指定した相手先
  - グループ宛先で指定した相手先
  - 全文書転送で指定した転送先
  - 宛先履歴から選択した相手先（すでに記憶済みと見なします）
  - 同報送信した文書の、2 宛先目以降
  - パソコンから PC FAX ドライバーで指定した宛先
  - フォルダー宛先
- 記憶できる宛先履歴の最大件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

誤送信を防止する宛先の指定のしかた

誤って相手先を入力したときでも、そのまま送信されないように設定しておくことができます。相手先を繰り返し入力して誤送信を防止する方法、入力した相手先を送信前に表示する方法、同報送信による誤送信を防止する方法があります。

宛先を繰り返し入力する

ファクス番号の入力を 2 度繰り返し、番号の入力間違いがないか確認します。

1 度目と 2 度目の入力番号が異なると、文書は送信されません。この機能は、誤った相手先への送信を防止するのに役立ちます。

この機能を使用するときは、サービス実施店に連絡してください。

1. [ファクス] が選択されていることを確認します。

2. [直接入力] を押します。

3. 相手先のファクス番号をテンキーで入力し、[OK] を押します。

4. 宛先をもう一度入力し、[OK] を押します。

「入力された宛先は正しくありません。」というメッセージが表示されたときは、[確認] を押して宛先を再度確認し、手順 2 から操作します。

補足

- 宛先の再入力の回数を変更するときは、サービス実施店に連絡してください。再入力の回数は 1〜15 回の間で設定できます。設定した回数に応じて、手順 4 の操作を繰り返してください。

送信前に宛先を再表示する

誤送信を防止するため、相手先を指定したあとにもう一度相手先を表示するように設定ができます。

この機能を使用するときは、サービス実施店に連絡してください。

次の機能を使用するときは表示されません。

- 相手先の入力が必要ない機能（文書蓄積、F コード掲示板ボックス登録）
- オンフックダイヤル
- マニュアルダイヤル
- 簡単画面

1. 相手先を指定します。

2. ［スタート］キーを押します。

3. 指定した相手先や設定内容を確認します。

送信を開始するときは、もう一度［スタート］キーを押します。

宛先を変更するときは、［閉じる］を押して設定し直します。

同報送信による誤送信を防止する

誤送信を防止するため、誤って宛先キーなどを押して宛先が追加されないように設定できます。

この機能を使用するときは、［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 17 ビット 2）を「押す」に設定します。工場出荷時は「押さない」に設定されています。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

この機能を使用しているときは、以下の操作をすると［追加］を押すようにメッセージが表示されます。2 件目以降の宛先を指定するときは、［追加］を押してから操作します。

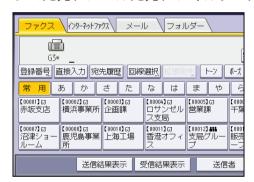
- ［追加］を押さずに宛先キーで 2 件目以降の宛先を指定しようとしたとき
- すでに宛先が指定されているときに、［追加］を押さずに［登録番号］、［宛先履歴］を押したとき

また、宛先検索画面で 2 件目以降の宛先を指定しようとしたときには、「宛先を追加します。よろしいですか？」とメッセージが表示されます。2 件目以降の宛先を指定するときは、［追加する］を押します。

海外の相手先へ送る（海外送信モード）

海外にファクスを送るときに発生するエラーを軽減します。

海外にファクスするとき、相手先によってはエラーが頻繁に発生することがあります。そのような相手先にファクスを送信するときは、海外送信モードで送信すると、通信速度を遅くしてより確実に送信します。

海外送信モードで送信するには、あらかじめアドレス帳に海外送信モードを使用する設定にして相手先を登録しておきます。設定方法は『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

ファクス初期画面からアドレス帳に宛先を登録する

ファクス初期画面の［宛先登録］から直接アドレス帳を開いて登録する方法、および入力した宛先をアドレス帳に登録する方法を説明します。

［宛先登録］から宛先をアドレス帳に登録する

ファクス初期画面で［宛先登録］を押すと、アドレス帳の登録画面が表示されます。

ファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先をアドレス帳に登録できます。

1. 宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を切り替えます。

2. ［宛先登録］を押します。

3. 宛先を入力します。

メール宛先を登録するときは、［メールアドレス使用対象］を［メール宛先・インターネットファクス宛先］に設定します。

4. ［登録情報］を押し、そのほかの情報を入力します。

5.［設定］を押します。

- 詳しい登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- セキュリティーの設定によっては［宛先登録］が表示されず、登録できないことがあります。

直接入力した宛先をアドレス帳に登録する

直接入力したファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先をアドレス帳に登録します。

「宛先履歴」画面の［宛先登録］からも登録できます。

1.［宛先登録］を押します。

2.［登録情報］を押し、そのほかの情報を入力します。

メール宛先を登録するときは、［メールアドレス使用対象］を［メール宛先・インターネットファクス宛先］に設定します。

3.［設定］を押します。

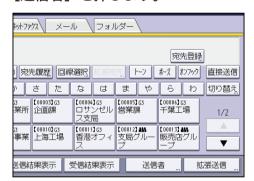
補足

- 詳しい登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。
- セキュリティーの設定によっては［宛先登録］が表示されず、登録できないことがあります。

送信者を設定する

送信者として設定するユーザーを選択します。

送信者を指定するときは、次の機能を設定できます。

- 送信結果メール通知

  指定した送信者にメールアドレスが登録されているときは、送信結果をメールで受け取るように設定できます。

- 送信者名印字

  相手先の用紙、各種のリストやレポートに送信者の名称（ユーザー名）を載せることができます。

送信者がアドレス帳に登録されていないときは、あらかじめ登録してください。また、送信結果を送信者にメールで通知するときは、送信者のメールアドレスを登録し、［使用対象］を［宛先］および［送信者］の両方に設定します。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

1. ［送信者］を押します。

2. 送信者を選択します。

［登録番号指定］を押すと、アドレス帳の登録番号で指定できます。

［検索］を押すと、アドレス帳から検索条件を指定して検索できます。

宛先保護コードが設定されているときは、入力画面が表示されます。テンキーで宛先保護コードを入力し、［実行］を押します。

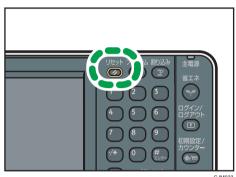
3. 選択した送信者名を確認し、［OK］を押します。

4. 送信結果をメールで確認するときは、［送信結果メール通知］を押して反転表示させます。

5. 相手先の用紙に送信者名を印字するときは、［送信者名印字］を押して反転表示させます。

6. ［OK］を押します。

補足

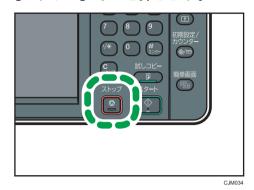
- ［送信者名自動指定］を［する］に設定しておくと、送信者が自動で指定され、送信者を指定する手順を省略できます。送信者を自動指定したときは、送信メールの「From: 」には管理者メールアドレスまたは本機のメールアドレスが使用されます。「送信者名自動指定」について詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定しているときは、ログインしたユーザーが送信者として設定されます。送信結果メールはログインしたユーザーのメールアドレスに送信されます。

送信を取り消す

ファクスの送信を取り消す方法を説明します。

原稿を読み取る前に送信を取り消す

［スタート］キーを押す前に取り消します。

1. ［リセット］キーを押します。

補足

- 自動原稿送り装置（ADF）に原稿をセットしているときは、セットした原稿を取り除くと送信が取り消されます。

原稿の読み取り中に送信を取り消す

原稿の読み取り中に読み取りや送信を取り消す方法を説明します。

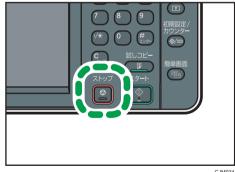
通常のメモリー送信のジョブを、原稿の読み取りが終了したあとに送信している最中に取り消すときは、ここで説明する手順とは異なります。P.82「原稿の読み取り後に送信を取り消す」を参照してください。

2

1. [ストップ] キーを押します。

2. [読み取り中止] または [送信中止] を押します。

送信方法や使用する機能によって、[読み取り中止] または [送信中止] のどちらかが表示されます。

補足

- 取り消しの操作をしている間に読み取りが完了してしまうことがあります。

原稿の読み取り後に送信を取り消す

原稿の読み取り後に送信を取り消す方法を説明します。

状態が「送信中」「待機中」「不達」の文書の送信もここで説明する手順で取り消すことができます。

1. [ストップ] キーを押します。

または、[送受信確認/印刷] の [送信文書確認／中止] を押します。

2. [送信待機文書一覧] を押します。

送信待機中の文書の送信を取り消すときは、[全文書] タブを押します。

3. 中止する送信文書を選択します。

中止する文書が画面に表示されていないときは［▲］または［▼］を押して表示させます。

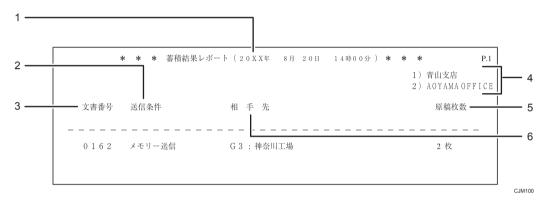
4. ［送信中止］を押します。

5. ［送信中止］を押します。

続けて中止するときは、手順 3 から繰り返します。

6. ［閉じる］を押します。

手順 1 で［送受信確認/印刷］の［送信文書確認／中止］を押したときは、［閉じる］を 2 回押します。

補足

- 文書が送信中のときに取り消しの操作をしたときは、操作のあとすぐに通信を中断して取り消します。すでに送信が完了したページは取り消せません。
- 取り消しの操作をしている間に送信が終了してしまい、中止できないこともあります。インターネットファクス、メール宛先への送信、フォルダー宛先への送信時は、通信中の時間が短いので注意してください。
- 複数の相手先を指定した文書には、未送信の相手先だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。
- 送信時に複数の相手先を指定しても、画面に表示されるのは 1 件だけです。すべての相手先を確認するときは［内容確認／変更］を押します。
- 同報送信として設定していた相手先の一部を消去するには P.158「送信待機文書の宛先の一部を消去する」を参照してください。
- セキュリティーの設定によっては、宛先が「*」で表示され、選択できないことがあります。

送信文書のメモリー蓄積結果を確認する（蓄積結果レポート）

原稿のメモリーへの蓄積が終わると印刷されます。メモリー送信で蓄積した原稿や相手先を確認できます。

このレポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 03 ビット 2）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. **印刷日時**

   レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **送信条件**

   送信の種類、ユーザー名称などが記載されます。

3. **文書番号**

   文書の管理番号です。

4. **発信元名称（印字用）登録内容**

   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

5. **原稿枚数**

   蓄積した原稿の枚数です。

6. **相手先**

   - ファクス宛先のとき

     テンキーで入力したファクス番号またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

     G4 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」のいずれかで記載されます。

     増設 G3 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3-3」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

     F コード（SEP／SUB／PWD／SID）、サブアドレスを登録しているとき：F コード（SEP／SUB／PWD／SID）、サブアドレスを印字します。

- メール宛先またはインターネットファクス宛先のとき

  「Mail」のあとに、入力したメールアドレスまたはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

- IP-ファクス宛先のとき

  「IP-FAX」のあとに、入力した IP-ファクス宛先またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

- フォルダー宛先のとき

  「フォルダー」のあとに、アドレス帳に登録されている名称が記載されます。

補足

- レポートを印刷しないように設定していても、正常に蓄積できなかったときは、自動的に印刷されます。
- クイックメモリー送信で送信したときは、このレポートは印刷されません。

3. いろいろな機能を利用して送信する

F コードなどの拡張宛先や、時刻指定送信などの拡張送信機能を利用して送信する方法を説明します。

拡張宛先機能を活用する

拡張宛先機能を使用して宛先を指定する方法を説明します。

F コード（SUB）を設定して送信する

F コード（SUB）を設定して送信し、相手先へ親展送信したり、中継局機能が搭載されているファクスを経由させて送信したりできます。

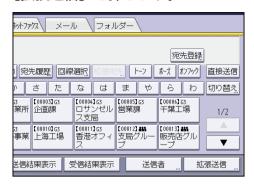
F コードとは、数字、スペース、「＃」、「＊」を使用して設定する暗証番号のようなものです。

親展送信するとき

親展送信すると、送信した文書は相手先のメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。相手先は F コード（SUB）を入力して受信した文書を印刷します。特定の人以外に見せたくない機密文書などを送信するときに、F コード（SUB）を知っている人しか印刷できないのでお互いにプライバシーが守れます。

相手先には、F コード親展ボックス機能を持つファクスを指定します。

中継局を経由して送信するとき

中継局を経由して送信すると、遠くの複数の相手先に送信するとき、遠距離通信が中継局までの 1 回ですむので通信料金を節約できます。1 回の操作で複数の相手先に送信できるので同じ操作を何回も繰り返す必要がありません。

相手先には、F コード中継ボックス機能を持つファクスを指定します。

送信する前に、あらかじめ相手先の F コード（SUB）を確認してください。また、相手先が F コード（SUB）を知らないときは、あらかじめ知らせてください。

F コード（SUB）は G4、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先への送信時は使用できません。

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2. ［拡張送信］を押します。

3. ［オプション設定］を押します。

4. ［F コード送信］を押します。

5. ［OK］を 2 回押します。

6. 相手先のファクス番号または IP-ファクス宛先を入力します。

7. ［拡張宛先］を押します。

8. ［F コード（SUB)］が選択されていることを確認します。

9. ［送信用 F コード（SUB)］を押します。

10. F コード（SUB）をテンキーで入力し、［OK］を押します。

11. パスワードを入力するときは、［パスワード（SID)］を押してテンキーでパスワードを入力し、［OK］を押します。

12. ［OK］を押します。

13. ［スタート］キーを押します。

補足

- 直接送信のときは、相手先のファクスに「F コード」機能がないと、画面にメッセージが表示されます。［確認］を押して送信を中止します。
- 入力する桁数は相手先のファクスの仕様に合わせてください。また、本機で入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- アドレス帳に F コード（SUB）を登録しているときは、宛先キーで宛先を選択したあとに F コード（SUB）を変更または削除できます。

パスワード（SID）を設定する

F コード（SUB）を使用して送信するときに、パスワードとして F コード（SID）の入力が必要なことがあります。

また、F コード中継ボックスにパスワードが設定されているときは、F コード（SUB）のほかにパスワードとして F コード（SID）を入力します。

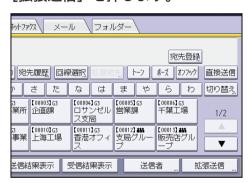
入力できる文字は数字、スペース、「#」、「*」です。

補足

- 入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

F コード（SEP）が設定された文書を受信する

F コード（SEP）を入力して、相手先に送信の依頼をします。

相手先のメモリーに、入力した F コード（SEP）と同じ F コード（SEP）の付いた文書が蓄積されていれば、その文書を受信します。

入力できる文字は数字、スペース、「#」、「*」です。

F コード掲示板ボックスを持つファクスから受信できます。

また、この機能は、ファクス情報サービスを利用するときや、複数の相手先から原稿を集めるときに使用します。

F コード（SEP）は G4、インターネットファクス、メールでは使用できません。

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［オプション設定］を押します。
3. ［F コード取り出し］を押します。
4. ［OK］を 2 回押します。
5. 相手先のファクス番号または IP-ファクス宛先を入力します。
6. ［拡張宛先］を押します。
7. ［F コード（SEP）］が選択されていることを確認します。
8. ［取出し用 F コード（SEP）］を押します。
9. F コード（SEP）をテンキーで入力し、［OK］を押します。
10. パスワードを入力するときは、［パスワード（PWD）］を押してテンキーでパスワードを入力し、［OK］を押します。

11. [OK] を押します。

12. [スタート] キーを押します。

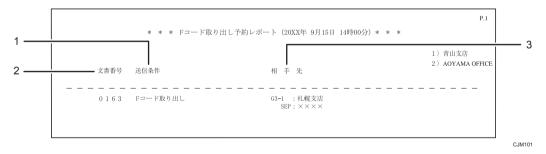
補足

- 入力する桁数は相手先のファクスの仕様に合わせてください。また、本機で入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- アドレス帳に F コード（SEP）を登録しているときは、宛先キーで宛先を選択したあとに F コード（SEP）を変更または削除できます。

設定されたパスワード（PWD）を入力する

F コード（SEP）を使用して F コード取り出しをするとき、パスワードとして F コード（PWD）の入力が必要なことがあります。

入力できる文字は数字、スペース、「#」、「＊」です。

補足

- 入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

F コード取り出し予約レポート

F コード取り出しの操作をしたあとに印刷されます。F コード取り出しの予約内容を確認できます。

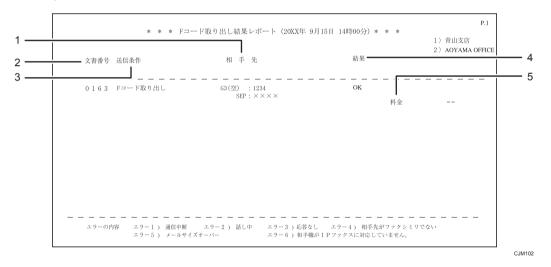
このレポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 03 ビット 3）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. **送信条件**

   「F コード取り出し」と記載されます。その下にユーザー名称が記載されます。

2. **文書番号**

   文書の管理番号です。

3. **相手先**

   テンキーで入力したファクス番号またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

- G4 ユニットを装着しているとき
  回線の種類が「G3」「I-G3」のいずれかで記載されます。
- 増設 G3 ユニットを装着しているとき
  回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3-3」「G3（空）」のいずれかで記載されます。
- IP-ファクス宛先のとき
  「IP-FAX」のあとに、入力した IP-ファクス宛先または本機のアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

F コード取り出し結果レポート

F コード取り出しが終わったあとに印刷されます。F コード取り出しの結果を確認できます。

このレポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 03 ビット 4）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. **相手先**

   テンキーで入力したファクス番号またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

   - G4 ユニットを装着しているとき
     回線の種類が「G3」「I-G3」のいずれかで記載されます。
   - 増設 G3 ユニットを装着しているとき
     回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3-3」「G3（空）」のいずれかで記載されます。
   - IP-ファクス宛先のとき
     「IP-FAX」のあとに、入力した IP-ファクス宛先または本機のアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

2. **文書番号**

   文書の管理番号です。

3. 送信条件

「F コード取り出し」と記載されます。その下にユーザー名称が記載されます。

4. 結果

F コード取り出しの結果が記載されます。

- OK

  全ページ正しく F コード取り出しできました。

- エラー

  正しく F コード取り出しできませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容、つまり F コード取り出しできなかった理由を示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。

  エラー 1）通信中断：ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が途中で中断されました。

  エラー 2）話し中：相手先が話し中でした。

  エラー 3）応答なし：呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。

  エラー 4）相手先がファクシミリでない：相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。ダイヤルは 2 回で中止します。

  エラー 5）メールサイズオーバー：本機に設定されている上限のメールサイズを超えたため、インターネットファクス送信が中断されました。

  エラー 6）相手機が IP ファクスに対応していません。：相手先がアナログ回線と接続したファクスや IP 電話などで、次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスに対応していませんでした。

5. 料金

I-G3 を使用した送信の通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4 ユニットを装着しているときです。

ただし、通信料金が 64999 円を超えると「＊＊＊＊＊＊円」と記載されます。

海外から受信したときは料金が計算されないことがあります。

補足

- F コード取り出しの結果は「通信管理レポート」でも確認できます。

サブアドレスを指定する

ISDN では 1 つの回線にファクスやデジタル電話など複数の端末を接続できます。これらの端末をそれぞれ識別するために付ける番号をサブアドレスといいます。

相手先の端末にサブアドレスが割り付けられているときは、こちら側でサブアドレスを指定すると、1 つの回線に接続されている複数の端末の中から特定の端末に送信できます。

サブアドレスを使用できるのは ISDN のときだけです。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

宛先をアドレス帳から選択するときは、アドレス帳で宛先ごとに登録されたサブアドレスが設定されます。

ここでは、宛先を直接入力して指定するときに、手動でサブアドレスを設定する方法を説明します。

1. G4、または G3 の ISDN 回線を選択します。

回線の選択方法は P.52「回線を選択する」を参照してください。

2. 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

3. [拡張宛先] を押します。

4. [サブアドレス／UUI] が選択されていることを確認します。

5. [サブアドレス] を押します。

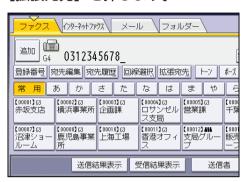
6. 相手先のサブアドレスの番号をテンキーで入力し、[OK] を押します。

7. [OK] を押します。

補足

- 入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

UUI を指定する

UUI（User-User Information）はメールシステムのサービスコードを指定するときなどに使用します。

UUI を使用できるのは ISDN のときだけです。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

宛先をアドレス帳から選択するときは、アドレス帳で宛先ごとに登録された UUI が設定されます。

ここでは、宛先を直接入力して指定するときに、手動で UUI を設定する方法を説明します。

1. G4、または G3 の ISDN 回線を選択します。

回線の選択方法はP.52「回線を選択する」を参照してください。

2. 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

3. ［拡張宛先］を押します。

4. ［サブアドレス／UUI］が選択されていることを確認します。

5. ［UUI］を押します。

6. UUI の番号をテンキーで入力し、［OK］を押します。

7. ［OK］を押します。

補足

- 入力できる最大桁数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

オンフックダイヤル（オンフックを使用した送信）

外付け電話機の受話器を置いたまま、発信音を聞きながらダイヤルします。相手先が電話のときは、つながったあと受話器を取ると、相手と会話できます。

増設 G3 回線、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先への送信時は使用できません。

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。
2. ［オンフック］を押します。

受話器を上げたのと同じ状態になり、「ツー」という音が本体内部のスピーカーから聞こえます。

もう一度［オンフック］を押すと、受話器を置いたのと同じ状態になります。

3. 相手先を指定します。

指定したファクス番号がすぐにダイヤルされます。

入力した番号を変更するときは、［オンフック］または［リセット］キーを押して、操作をやり直します。

［音量］を押して音量調節画面を表示させ、［大きく］または［小さく］を押してオンフック時の音量を調節できます。

4. 相手先とつながり「ピー」という音が聞こえたら［スタート］キーを押します。

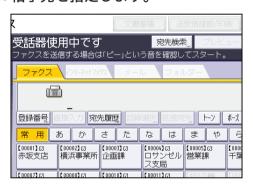
［スタート］キーを押す前に相手の声が聞こえたときは、外付け電話機の受話器を取ってファクスを送信することを伝え、受信操作をしてもらいます。

送信を途中で中止するときは、［ストップ］キーを押し、原稿を取り除きます。

補足

- アドレス帳から相手先を選択するときは、P.63「アドレス帳から選択する」を参照してください。
- ISDN でオンフックダイヤルを使用するときは、サービス実施店に問い合わせてください。
- バックアップ送信設定や宛先を繰り返し入力して誤送信を防止する機能を設定しているとき、オンフックは使用できません。

マニュアルダイヤル（受話器を使用した送信）

外付け電話機の受話器を上げてダイヤルします。相手先が電話のときは、そのまま電話として会話できます。

この機能は、外付け電話を装着しているときに使用できます。

G4 回線、増設 G3 回線、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先への送信時は使用できません。

1. **原稿をセットし、読み取り条件を選択します。**
2. **受話器を上げます。**

   「ツー」という音が受話器から聞こえます。

3. **相手先を指定します。**

   指定したファクス番号がすぐにダイヤルされます。

   入力した番号を変更するときは、受話器を置いて、手順 2 から繰り返します。

4. **相手先とつながり「ピー」という音が聞こえたら、[スタート] キーを押します。**

   相手が電話にでたときは、ファクスを送信することを伝え、受信操作をしてもらいます。

5. **受話器を置きます。**

   送信を途中で中止するときは [ストップ] キーを押し、原稿を取り除きます。

補足

- アドレス帳から相手先を選択するときは、P.63「アドレス帳から選択する」を参照してください。
- 主電源スイッチが「On」になっていても、[省エネ] キーのランプがゆっくり明るくなったり暗くなったりしているスリープモード時は、受話器を上げても本機は作動しません。この状態から操作するときは、[省エネ] キーを押して、スリープモードを解除します。

SMTP サーバーを経由しないでインターネットファクス／メールを送信する

通常のメールは SMTP サーバーを経由して送信しますが、この機能を使用すると指定した宛先のメールアドレスのドメイン部分を SMTP サーバーと見なし、SMTP サーバーを経由しないで送信します。サーバーに負担をかけずに送信できるので、サーバーからの転送による時間差を気にしないで送信できます。

この機能を使用するには、相手先のファクスやパソコン、サーバーが次の条件を満たしている必要があります。

- インターネットファクスに対応している（インターネットファクス宛先のとき）
- メールが受信できる環境にある（メール宛先のとき）
- 本機と同じ LAN 環境内に設置されている
- SMTP による受信に対応しており、かつ受信プロトコルが SMTP に設定されている

SMTP サーバーを経由しないで送信するときの宛先の指定のしかた

相手機のホスト名を指定する方法と、相手機の IP アドレスを指定する方法があります。

DNS サーバーに相手先のホスト名が登録されているときは、ホスト名を指定できます。登録されていないときは、IP アドレスを指定します。

IPv6 ネットワーク経由で送るときは、ホスト名を指定してください。IP アドレスは指定できません。

- 相手機のホスト名を指定するとき

  メールアドレスの@以降を、「ホスト名」「.（ドット）」「ドメイン」の形式で指定します。

  xxxx@相手機のホスト名.ドメイン

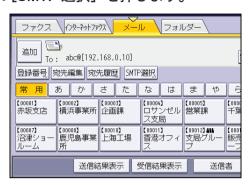
  たとえば、相手機のメールアドレスが「abc@defcompany.com」で、ホスト名が「HOST」のときは次のように指定します。

  abc@HOST.defcompany.com

- 相手機の IP アドレスを指定するとき

  メールアドレスのドメイン部分を、相手機の IP アドレスに置き換えます。

  次の形式で指定します。

  xxxx@[相手機の IP アドレス]

  たとえば、相手機のメールアドレスが「abc@defcompany.com」で、IP アドレスが「192.168.1.10」のときは次のように指定します。

  abc@[192.168.1.10]

宛先をアドレス帳から選択するときは、アドレス帳で宛先ごとに登録された SMTP サーバー経由の設定が適用されます。

ここでは、宛先を直接入力して指定するときに、手動で SMTP サーバー経由の設定を変更する方法を説明します。

1. [SMTP 選択] を押します。

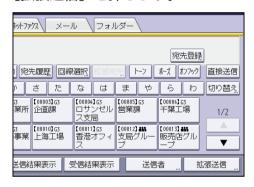
2. [経由しない] を押します。

3. [OK] を押します。

補足

- この機能を使用するときは、[SMTP サーバー] のポート番号が「25」に設定されている必要があります。
- この機能を使用してインターネットファクスまたはメールを送信するときは、相手機で SMTP 認証機能が設定されていても無効になります。
- この機能を使用して相手機からインターネットファクスまたはメールが送信されたときは、正常に受信できないときでもエラー通知メールは送信元に送信されません。
- この機能を使用するときは、正常に送信できないときでもサーバーからのエラーメールは送信されません。

3

時刻を指定して送信する

送信やFコード取り出しを行う時刻を指定すると、指定した時刻に自動的に送信やFコード取り出しを開始します。

深夜などに割引料金で送信できるので、通信料金を節約できます。

この機能を使用するときは、メモリー送信で送信します。直接送信はできません。

- **主電源の切れた状態が1時間以上続くと、メモリーに蓄積されている文書はすべて消去されます。消去された文書があると、再び主電源を入れたとき自動的に「電源断レポート」が印刷されます。このレポートで消去された文書の一覧を確認できます。『こまったときには』「電源を切る／切れたとき」を参照してください。**

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［時刻指定送信］を押します。

3. 指定時刻をテンキーで入力し、［#］を押します。

24時間制の4桁で入力します。

1桁の数値を入力するときは、先頭に0を付けます。

4. ［OK］を2回押します。

補足

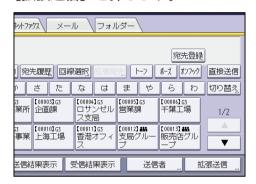
- 指定できる時刻は、現在から23時間59分以内です。
- 表示された現在時刻が合っていないときは、［システム初期設定］の［時刻設定］で正しく調整してください。調整方法は『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。
- 時刻指定送信を取り消すときはP.82「原稿の読み取り後に送信を取り消す」を参照してください。

受信確認を要求する

送信したインターネットファクスまたはメールが正しく受信されたかどうか、電子メールまたは通信管理レポートで確認できます。

相手先がインターネットファクスまたはメールを受信すると受信確認応答メールを返信します。受信確認応答メールを受信すると、通信管理レポートの「結果」の欄に「OK」が表示され、相手先がインターネットファクスまたはメールを受信したことを確認できます。

受信確認の機能は、インターネットファクスまたはメールの受信側が MDN（Message Disposition Notification）をサポートしていないと使用できません。

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［受信確認］を押して反転表示させます。

3. ［OK］を押します。

補足

- 相手先でインターネットファクスまたはメールが正常に受信されなかったとき、「結果」の欄には「エラー」が表示されます。
- 通信管理レポートに一度に記載できるのは最新の 50 通信分までです。最新の 50 通信以内に受信確認の OK メールが受信できないときは、通信管理レポートの結果欄に「OK」と記載されないことがあります。
- 送信先がメーリングリストのときは、受信確認を「ON」に設定しないでください。送信先がメーリングリストだったときは、複数の宛先から受信確認応答メールを受信してしまい、通信管理レポートの「結果」の欄が上書きされてしまいます。ただし、ひとつでもエラーがあるときは、「結果」の欄には「エラー」が表示され、そのあとに受信確認が「OK」のものを受信しても上書きされません。
- 受信確認の結果が表示されるのは通信管理レポートだけです。ほかのファイルやリスト、送信結果レポートなどの結果欄には「--」で表示されます。
- 受信確認応答メールの受信そのものは、通信管理レポートには記載されません。
- 受信確認を使用すると、インターネットファクスまたはメールの同報はできません。文書は指定した順に 1 宛先ずつ別の文書として送信されます。

3

インターネットファクス宛先／メール宛先を BCC に設定する

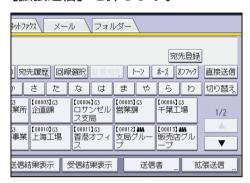
指定したすべてのインターネットファクス宛先とメール宛先に、BCC としてメールを送信します。

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［Bcc 送信］を押して反転表示させます。
3. ［OK］を押します。

送信結果をメールで確認する

通知先を指定し、送信結果をメールで通知して確認します。

あらかじめ、アドレス帳に通知先のメールアドレスを登録しておきます。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［送信結果メール通知］を押します。
3. 送信結果メール通知の通知先を選択し、［OK］を押します。
4. ［OK］を押します。

インターネットファクス／メールの件名を設定する

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［件名］を押します。
3. 件名を入力します。
4. 本機に登録されている文字列を入力するときは、［定型文字列］を押して、入力する文字列を選択します。
5. ［OK］を 2 回押します。

補足

- 定型文字列の登録方法は『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。
- インターネットファクスまたはメールを送信するとき、件名を指定しないで送信すると、自動的に件名が付けられます。件名の付けられ方については P.104「自動で設定されるインターネットファクス／メールの件名」、P.128「パソコンでのメールの受信イメージ」を参照してください。
- 送信文書のない、件名だけの送信はできません。
- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。
- 件名として入力できる最大文字数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

自動で設定されるインターネットファクス／メールの件名

件名を指定しないでインターネットファクスまたはメールを送信すると、件名が自動的に設定されます。そのときの件名の付けられかたについて説明します。

［送信者名印字］の設定によって件名の内容が異なります。［送信者名印字］の設定方法はP.79「送信者を設定する」を参照してください。

［送信者名印字］が有効に設定されているとき

From 送信者名(Fax Message NO.xxxx)

［送信者名印字］が無効に設定されているとき

- 発信元ファクス番号と発信元名称（表示用）が両方登録されているとき

  From "発信元ファクス番号" ("発信元名称（表示用）")(Fax Message NO.xxxx)

- 発信元ファクス番号だけが登録されているとき

  From "発信元ファクス番号" (Fax Message NO.xxxx)

- 発信元名称（表示用）だけが登録されているとき

  From "発信元名称（表示用）" (Fax Message NO.xxxx)

- 発信元ファクス番号と発信元名称（表示用）が両方未登録のとき

  Fax Message NO.xxxx

- 「xxxx」は通信管理レポートに記載される文書番号です。

3

インターネットファクス／メールの本文を設定する

あらかじめ［システム初期設定］の［送信メール本文登録／変更／消去］で本文を登録しておく必要があります。登録方法は『ネットワークの接続/システム初期設定』「メール本文を登録する」を参照してください。

3

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［本文］を押します。
3. 本文を選択し、［OK］を押します。
4. ［OK］を押します。

補足

- 送信文書のない、本文だけの送信はできません。

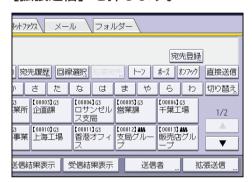
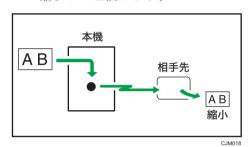
相手先の受信紙に定型文を印字する

送信した相手先の原稿の 1 ページ目の先端に、定型文を印字します。

工場出荷時は「マル秘」「至急」「電話ください」「関係区に配布してください」の 4 種類が登録されています。ほかの定型文を使用するときは、あらかじめ［ファクス初期設定］の［定型文登録／変更／消去］で登録しておきます。登録方法は P.242「送信設定」を参照してください。

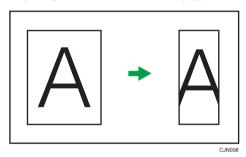
この機能を「宛名差し込み」機能と併用するときは、宛名差し込みの 3 行目の文字列は印字されません。3 行目には［定型文印字］で設定した文字列が印字されます。

また、定型文を印字する範囲に画像があると、その範囲の画像は消去されます。

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［オプション設定］を押します。
3. ［定型文印字］を押します。
4. 印字する定型文を選択し、［OK］を押します。
5. ［OK］を 2 回押します。

補足

- 複数の定型文の印字はできません。

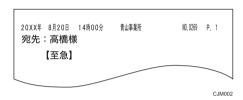
3

送信文書を相手先の用紙に合わせて縮小する

送信側の原稿の縦の長さより受信側の用紙の縦の長さが小さいとき、受信側の用紙に合わせて縮小して送信します。

重要

- 自動縮小しないと、常に等倍で送信するので、送信側の原稿の縦の長さより受信側の用紙の縦の長さが小さいと、画像が欠けることがあります。

1. [拡張送信] を押します。

2. [オプション設定] を押します。
3. [自動縮小] が反転表示していることを確認します。
4. [OK] を 2 回押します。

相手先の受信紙に宛名を印字する

相手先の受信紙に、宛先の名前と 2 行の定型文を印字します。

この機能は、アドレス帳から選択した相手先へ送信するときに使用できます。

宛名の印字イメージ

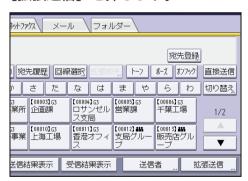
宛先の名前は、後ろに「様」を付けて、先頭の行に印字されます。

定型文は、宛先の名前の次の行から 2 行にわたって印字されます。

宛名差し込みを利用するには、あらかじめアドレス帳で設定が必要です。アドレス帳にファクス宛先を登録するときに、[宛名差し込み] を「ON」に設定し、必要に応じて定型文を登録します。設定方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

この機能を「定型文印字」機能と併用するときは、宛名差し込みの 3 行目の文字列は印字されません。3 行目には [定型文印字] で設定した文字列が印字されます。

また、宛名を印字する範囲に画像があると、その範囲の画像は消去されます。

1. [拡張送信] を押します。

2. [オプション設定] を押します。
3. [宛名差し込み] を押して反転表示させせます。
4. [OK] を 2 回押します。

ID 送信をする

本機に登録されている ID 送受信用 ID と同じ ID が登録されている、当社のファクスだけに送信します。

この機能を使用して、送信する相手先を限定できます。

あらかじめ、[ファクス初期設定] の [ID 送受信用 ID 登録] で ID 送受信用 ID を登録しておく必要があります。登録方法は P.252「導入設定」を参照してください。

この機能は、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先の送信時は使用できません。

1. [拡張送信] を押します。

2. [オプション設定] を押します。
3. [ID 送信] を押して反転表示させます。
4. [OK] を 2 回押します。

相手先の受信紙に発信元名称を印字する

本機に登録した名称を相手先の用紙に印字します。

発信元名称の登録

あらかじめ、発信元名称（印字用）を［ファクス初期設定］の［発信元情報登録］で登録しておきます。

発信元名称（印字用）は 10 種類登録でき、それぞれの発信元名称（印字用）について、国内向け印字フォーマットを使用するか、国外向け印字フォーマットを使用するか選択できます。

発信元名称の登録方法やフォーマットについては、P.280「発信元情報を登録する」を参照してください。

発信元名称の印字位置

発信元名称（印字用）は、原稿を原稿ガラスまたは自動原稿送り装置（ADF）にセットしたときに、左側に来る辺に印字されます。ただし、A4 サイズの原稿を縦向き（）にセットして回転送信するときは、発信元名称も回転して印字されます。

相手先をアドレス帳から選択するときは、あらかじめアドレス帳で相手先ごとに登録された発信元名称（印字用）が選択されます。

アドレス帳から［発信元名称選択］を［送信時のオプション設定］に設定した相手先を指定するときや、相手先を直接入力して指定するときは、次の手順で手動で発信元名称（印字用）を選択します。

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［オプション設定］を押します。
3. 「発信元名称印字」が「設定する」になっていることを確認します。
4. ［発信元名称印字］を押します。
5. ［印字用名称］を押し、使用する発信元名称（印字用）を選択します。
6. ［OK］を押します。
7. ［設定］を押します。

8. [OK] を 2 回押します。

補足

- 印字される内容（日付、発信元名称、文書番号、ページ番号）ごとに、印字するかしないかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 18 ビット 3、2、1、0）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。
- クイックメモリー送信で送るときは、「ページ番号」の総ページ数は印字されません。

3

メールにセキュリティーの設定をする

セキュリティー（暗号化・署名）を設定してメールを送信することで、なりすましや情報漏洩を防止できます。

補足

- セキュリティーの設定について詳しくは、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。
- セキュリティーを設定してメールを送信すると、処理速度が遅くなることがあります。

メールを暗号化して送信する

暗号化するかしないかを 1 回の送信ごとに個別に指定できる宛先へ、メールを暗号化して送信する方法を説明します。

この機能を使用するときは、宛先をアドレス帳から選択します。

個別に暗号化の設定が可能な宛先の宛先キーには、が表示されます。

1. [拡張送信］を押します。

2. [セキュリティー］を押します。
3. [暗号化］を選択します。
4. [設定］を押します。
5. [OK］を押します。

補足

- 暗号化の設定をすると、メールサイズが通常よりも大きくなります。

メールに署名して送信する

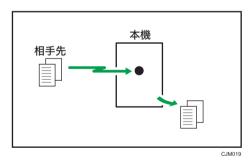
この機能を使うときは、宛先はアドレス帳から選択します。

1. ［拡張送信］を押します。

2. ［セキュリティー］を押します。
3. ［署名］を選択します。
4. ［設定］を押します。
5. ［OK］を押します。

4. 受信する

受信方法や、受信した文書を本機で出力したりほかのファクスへ配信したりする機能について説明します。

受信の種類

ファクスを受信するときの、受信方法の種類について説明します。

補足

- 本機が受信できる解像度は「ふつう字」「小さな字」「細かい字」「微細字」です。「細かい字」、「微細字」での通信に必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。
- 本機のオプション構成によって、送信側が解像度を「細かい字」または「微細字」に設定して送信してきても、本機は「小さな字」で受信します。このため送信側の思いどおりに受信されないことがあります。また、送信側が「細かい字」に設定して送信してきたときは「微細字」で受信しないで「細かい字」で受信します。

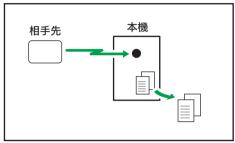
直接受信

受信した文書をメモリーに蓄積しないで、1ページ受信するたびに印刷します。

重要

- **大切な原稿を受信したときは、相手先に連絡して内容を確認することをお勧めします。**

通常、本機は直接受信しますが、「集約印刷」をする、「両面印刷」をする、または［受信文書印刷部数］を2部以上に設定しているときは、メモリー受信します。

代行受信する条件が発生しているときは、印刷しないでメモリーに蓄積します。

補足

- ファクスのメモリー残量が少ないときは受信できないことがあります。

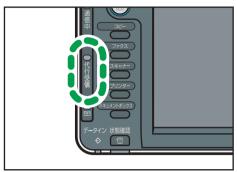
- 直接受信中にメモリー残量が 0%になると、それ以上は受信できず、その時点で通信が終了します。

メモリー受信

受信した文書を一度メモリーに蓄積し、全ページを受信したあとで印刷します。

重要

- **主電源の切れた状態が 1 時間以上続くと、メモリーに蓄積されている文書はすべて消去されます。消去された文書があると、再び主電源を入れたとき自動的に「電源断レポート」が印刷されます。このレポートで消去された文書の一覧を確認できます。『こまったときには』「電源を切る／切れたとき」を参照してください。**

補足

- メモリー受信する設定にしていると、大量の文書や、細かい内容の文書を受信できないことがあります。そのときは、[受信文書印刷部数] を 1 部に設定する、または「集約印刷」、「両面印刷」の設定を解除するか、メモリーを増設することをお勧めします。
- メモリー残量が少ないときは受信できないことがあります。
- メモリー受信中にメモリー残量が 0%になると、それ以上は受信できず、その時点で通信が終了します。
- [ファクス初期設定] の [受信文書設定] にある [蓄積] を [する] に設定しているときは、通常のメモリー受信とは異なり、受信してもすぐに印刷せず、必要に応じてパソコンや本体から印刷、消去します。

代行受信

本機が印刷できない状態のときに着信があると、本機は代行受信します。

代行受信すると、文書はメモリー受信されたまま、印刷されずに待機状態となります。代行受信した文書は、代行受信の原因が取り除かれると自動的に印刷されます。

代行受信すると、代行受信ランプが点灯します。

CJM035

代行受信になる原因によって、受信のしかたが異なります。すべての文書を無条件で代行受信するときと、［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］で設定した条件に合う文書だけを代行受信するときの２種類があります。

4

すべての文書を代行受信するとき

本機が次のような状態のときは、すべての文書を代行受信します。

代行受信の原因	状態	対処方法
ほかの機能を使用している。	コピーなどほかの機能の印刷が行われている。	現在行われている印刷が終了したあと、自動的に印刷されます。急いでいるときは現在行われている印刷を中止してください。
排紙先のトレイに用紙が一杯になっている。	「排紙先が満杯です。用紙を取り除いてください。」と表示されている。	トレイから用紙を取り除いてください。
カバーが開いている。	状態確認ランプが点灯。	画面で指示されたカバーを閉めてください。

パラメーター設定にしたがって代行受信するとき

本機が次のような状態のときは、［パラメーター設定］で設定した条件に合う文書だけを代行受信します。

代行受信の原因	状態	対処方法
用紙がつまっている。	状態確認ランプが点灯。	用紙を取り除いてください。用紙の除去方法は『こまったときには』「用紙や原稿などがつまったとき」を参照してください。

代行受信の原因	状態	対処方法
すべての給紙トレイに用紙がない。	状態確認ランプが点灯。	用紙を補給してください。 用紙の補給方法は『用紙の仕様とセット方法』「用紙をセットする」を参照してください。
トナーがない。	状態確認ランプが点灯。	トナーカートリッジを交換してください。 トナーカートリッジの交換方法は『保守/仕様』「トナーを補給する」を参照してください。
すべての給紙トレイが故障している。	「このトレイは故障しています。」と画面に表示されている。	サービス実施店に連絡してください。

代行受信の条件は、[ファクス初期設定] の [パラメーター設定](スイッチ 05 ビット 2、1)で設定します。設定できる条件は以下のとおりです。

- 発信元名称(表示用)または発信元ファクス番号を受けたときに代行受信する

  相手先に発信元名称(表示用)または発信元ファクス番号が登録されているときは、代行受信します。受信した文書をメモリーに蓄積したまま電源が切れ、そのまま 1 時間以上経過すると、受信した文書が消えてしまいますが、このようなときでも、通信管理レポートを使用して、消えてしまった文書の相手先を確認できるので、送信し直してもらうことができます。また、相手先に発信元名称(表示用)または発信元ファクス番号が登録されていないと、大切な原稿を受信できないことがあります。できるだけ相手先に発信元名称(表示用)または発信元ファクス番号を登録してもらうことをお勧めします。

- 無条件に代行受信する

  相手先の発信元名称(表示用)または発信元ファクス番号の登録にかかわらず代行受信します。

- ID 送受信用 ID が一致したときに代行受信する

  相手先のファクスに登録されている ID 送受信用 ID と、本機に登録されている ID 送受信用 ID が一致したときだけ受信します。

- 着信しない

  すべての受信を受けつけません。

[パラメーター設定] については P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- メモリー残量が少ないときは受信できないことがあります。
- 代行受信中にメモリー残量が 0%になると、それ以上は受信できず、その時点で通信が終了します。

- ［ファクス初期設定］の［受信文書設定］にある［蓄積］が［する］に設定されているときは、受信すると代行受信ランプが点灯します。［受信文書設定］について詳しくは、P.263「受信文書設定」を参照してください。
- ファクスを直接受信したときに、代行受信ランプが点灯することがあります。

受信モード

受信モードには「自動切り替え」、「手動受信」、および「自動受信」の 3 つがあります。

標準の G3 回線を使用しているときだけ、受信モードを変更できます。標準の G3 以外の回線（G3-2、G3-3、I-G3、G4）では受信モードを変更できません。常に自動受信になります。

自動切り替え

電話がかかってくる相手先に合わせて自動的に電話とファクスを切り替えます。自動切り替えには「電話優先」モードと「ファクス優先」モードがあります。

外付け電話機が付いているときに使用できます。

手動受信

電話がかかってくるとベルを鳴らします。相手がファクスのときは手動でファクスに切り替えます。

外付け電話機が付いているときに使用できます。

自動受信

電話がかかってくるとファクスとして自動的に受信します。相手が電話のときは手動で電話に切り替えます。

受信モードは次の表を参考に設定してください。

使用状況	受信モード
電話がかかってくることが多い	手動受信 自動切り替え（電話優先モード）
電話もファクスも同じくらい	自動切り替え（電話優先モード） 自動切り替え（ファクス優先モード）
ファクスを受信することが多い	自動切り替え（ファクス優先モード） 自動受信
留守番電話機を接続する	自動切り替え（電話優先モード）

受信モードは［ファクス初期設定］の［受信モード切り替え］で切り替えます。設定方法は、P.245「受信設定」を参照してください。

補足

- 本機を電話として使用するには、外付け電話機が必要です。
- 本機では、ダイヤルイン機能を使用した自動切り替えもできます。
- 受信モードが「自動切り替え（電話優先モード）」、「手動受信」、または「自動受信」のときはベルを鳴らします。
- 「自動切り替え（ファクス優先モード）」や「自動受信」でベルを鳴らさないように設定しているときでも、本機が着信できない状態のときはベルが鳴ります。

自動切り替え

電話がかかってくると、相手が電話なのかファクスなのかを判断し、自動的に電話とファクスを切り替えます。

自動切り替えには「電話優先」モードと「ファクス優先」モードがあります。

比較的ファクスとして使用することが多いときは「ファクス優先」モードに設定します。電話として使用することが多いとき、または外付け電話機として留守番電話機を接続するときは「電話優先」モードに設定します。

優先モードを電話優先モードにするかファクス優先モードにするかを［ファクス初期設定］の［受信モード自動切り替え時設定］で選択できます。［受信モード自動切り替え時設定］については、P.245「受信設定」を参照してください。

電話優先モード

相手先から電話がかかってくると呼び出しベルを 8 回鳴らします。呼び出し中に外付け電話機の受話器を取ると会話できます。

呼び出しベルが鳴っていても受話器を取らないでそのままにしておくと、自動的にファクスに切り替わります。

「電話優先」モードに設定すると、相手先の状態（自動送信、手動送信、電話）にかかわらず、こちら側の外付け電話機のベルを一定の回数鳴らします。

ベルの回数（リンギング回数）は、1 回～29 回の範囲で設定できます。

ファクス優先モード

外付け電話機のベルを鳴らさずに受信します（無鳴動着信）。夜間など静かに受信するときにこのモードにしておくと便利です。

相手先がファクスのときは自動的に受信します。

相手先が電話のときはベルを 6 回鳴らします。外付け電話機の受話器を取って会話をしてください。呼び出しベルが鳴っていても受話器を取らないでそのままにしておくと、自動的にファクスに切り替わります。

「ファクス優先」モードに設定すると、相手先が手動送信や電話のときはこちらの電話機のベルを鳴らします。

ベルの回数（呼び出し回数）は 1 回～29 回の範囲で設定できます。

補足

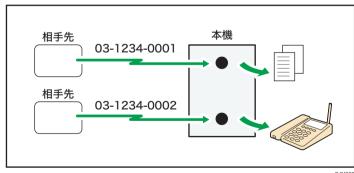
- ダイヤルイン機能を使用して自動切り替えすると、早く正確に切り替えることができます。
- ファクス優先モードにすると、相手から電話があると呼び出し中でも電話料金がかかります。あらかじめ相手先に伝えてください。

留守番電話機を接続する

外付け電話機として留守番電話機を接続できます。このとき受信モードは自動切り替え（電話優先モード）に設定してください。

電話がかかってくると留守番電話機が応答します。

- 相手先が自動送信ファクスのときは、応答メッセージの最中か応答メッセージのあとに「ポー」というファクス信号音を検出すると、自動的にファクスに切り替わります。

  留守番電話機に音のない空白が録音され、録音件数に加算されることがあります。
- 相手先が電話のときは、相手からのメッセージを留守番電話機に録音します（通常の留守番電話機と同じです）。
- 留守番電話機を使用していて自動切り替え機能がうまくはたらかないときは、留守番電話機の応答メッセージのはじめの 4 秒間を無音状態にしてください。
- 留守番電話機によってはうまく動作しないことがあります。
- 留守番電話機を留守録セットしたときは、留守番電話機側で設定した回数だけベルが鳴ったあと、相手先とつながります。留守番電話機のベルを鳴らす回数はリンギング回数の設定より少なくしてください。

4

ダイヤルイン機能を利用する

ダイヤルイン機能を利用して、本機で複数の番号を使い分けることができます。

本機では 2 つの番号を利用でき、この 2 つの番号をそれぞれ電話用、ファクス用として、あらかじめ相手に知らせておきます。

相手が電話をするときは電話用の番号に、ファクスを送るときはファクス用の番号にダイヤルしてもらうと、自動的に電話とファクスを切り替えて応答します。

電話用の番号にかかってくるとベルを鳴らします。ファクス用の番号にかかってくるとファクスとして自動的に受信します。

電話用の番号にファクスが送信されると、外付け電話機の受話器を上げたときに「ポーッ、ポーッ」という音が聞こえます。このときは手動受信の操作をしてファクスに

切り替えてください。手動受信の操作についてはP.124「手動受信」を参照してください。

本機のダイヤルイン機能に対応している電話会社のダイヤルインサービスについては、サービス実施店にお問い合わせください。

この機能を使用するときは、次の準備が必要です。

- ［ファクス初期設定］の［ダイヤルイン設定］で電話用のダイヤルイン番号を登録する

  P.252「導入設定」を参照してください。

  必ず電話用の番号を登録してください。

- ［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 25 ビット 3）で「ON（使う）」を選択する

  P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- 増設 G3 または G4 に接続している回線でダイヤルイン契約を結ぶことはできますが、自動的に電話とファクスを切り替えての応答はできません。受信文書の配信はできます。
- 先にダイヤルイン機能を「ON」に設定すると、それ以前に設定していた受信モードは無視されて自動切り替え（ファクス優先モード）で受信します。
- 電話とファクスは同時に使用できません。
- 受信モードタイマー切り替えとは併用できません。
- ダイヤルイン機能を使用しているときは、［省エネ］キーを押したあともランプは点灯状態のままで、ランプがゆっくり明るくなったり暗くなったりするスリープモードには移行しません。

ダイヤルイン機能利用時の停電のときの電話の受けかた

ダイヤルイン機能を使用しているときに停電すると、ファクスの受信はできなくなりますが、電話を受けることはできます。

電話を受けるときは次のとおり操作してください。

1. **ベルが 1、2 回だけ鳴ります。鳴り終わる前に外付け電話機の受話器を上げます。**
2. **「ピポパポ」という信号音が聞こえます。信号音が聞こえなくなったら受話器を置きます。**
3. **1、2 秒後に受話器を上げます。相手と会話できます。**

手動受信

電話がかかってくるとベルが鳴るので、外付け電話機で応答します。

相手が会話しようとしているときは、そのまま会話します。

ファクスへ切り替える

相手がファクスを送信するといってきたときや、「ポーッ、ポーッ」という音が聞こえるときは、外付け電話機の［2］を押して受話器を置きます（リモート切替）。使用している回線がダイヤル回線のときは1回、プッシュ回線のときは2回押してください。

［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ17ビット7）で「受信する」に設定すると、［スタート］キーを押して受信できます。

ファクスと電話の切り替えを外付け電話機からできるようにするかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ07ビット5）で設定できます。

［パラメーター設定］については、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- リモート切替は電話機によっては使用できないことがあります。
- 増設G3回線のときは、リモート切替はできません。
- 主電源スイッチが「On」になっていても、［省エネ］キーのランプがゆっくり明るくなったり暗くなったりしているスリープモード時は、受話器を上げても本機でのキーの操作はできません。この状態から操作するときは、［省エネ］キーを押して、スリープモードを解除します。
- ［スタート］キーを押して手動受信するときは、ファクス機能が選択されていて、さらに原稿がセットされていないことを確認してください。

自動受信

電話がかかってくるとファクスとして自動的に受信します。

電話へ切り替える

本体内部のスピーカーから人の声が聞こえるときは、相手が会話をしようとしています。そのときは外付け電話機の［2］を押して電話に切り替え、相手と会話します（リモート切替）。

使用している回線がダイヤル回線のときは1回、プッシュ回線のときは2回押してください。

ファクスと電話の切り替えを外付け電話機からできるようにするかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ07ビット5）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- リモート切替は、電話機によっては使用できないことがあります。
- 増設 G3 回線のときは、リモート切替はできません。

インターネットファクス/Mail to Printでメールを受信する

TIFF-F形式のファイルがメールに添付されたときは、インターネットファクスで受信します。JPEG形式、PDF形式のファイルがメールに添付されたときは、Mail to Printで受信します。

インターネットファクスとMail to Printのどちらの方法で受信するときでも、操作手順は同じです。受信の操作については、P.127「メールを自動で受信する」、P.128「メールを手動で受信する」を参照してください。

1通の受信メールにつき印刷できる添付ファイルはひとつです。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

複数のファイルを受信するとき

複数のファイルが添付されているときは、ファイルの形式や添付されている順番により、受信方法と印刷されるファイルが異なります。詳しくは下記の表を参照してください。

添付ファイル形式	印刷されるファイル	受信方法
テキスト	テキスト	インターネットファクス
テキスト＋TIFF	テキスト＋TIFF	インターネットファクス
テキスト＋JPEG	JPEG	Mail to Print
テキスト＋TIFF＋JPEG	JPEG	Mail to Print
テキスト＋JPEG＋TIFF	JPEG	Mail to Print
TIFF＋TIFF＋・・・・	TIFF＋TIFF＋・・・・	インターネットファクス
JPEG（1）＋JPEG（2）＋・・・・	JPEG（1）	Mail to Print
TIFF＋JPEG	JPEG	Mail to Print
JPEG＋TIFF	JPEG	Mail to Print
テキスト＋PDF	PDF	Mail to Print
TIFF＋PDF	PDF	Mail to Print
JPEG＋PDF	JPEG	Mail to Print
PDF＋JPEG	PDF	Mail to Print
PDF（1）＋PDF（2）＋・・・・	PDF（1）	Mail to Print

JPEG 形式または PDF 形式のファイルが、そのほかの形式のファイルと一緒に添付されているときは Mail to Print で受信します。先頭の JPEG 形式または PDF 形式のファイルだけ印刷され、残りのファイルは削除されます。

受信した JPEG ファイル、PDF ファイルを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 21 ビット 2）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。「OFF（印刷しない）」に設定しているときでも、テキストファイルおよび TIFF ファイルは印刷されます。

補足

- 印刷できる PDF ファイルのバージョンは 1.3、1.4、1.5、1.6、1.7 です。送信元の機種やファイル生成の環境によっては印刷できないことがあります。
- デジタルカメラで撮影した JPEG ファイル（Exif フォーマット）は印刷できません。印刷できる JPEG ファイルは複合機などで生成した JPEG ファイル（JFIF フォーマット）だけです。ただし、送信元の機種やファイル生成の環境によっては印刷できないことがあります。
- 受信した JPEG ファイル、PDF ファイルを自動的に印刷しないように設定しているとき、JPEG ファイル、PDF ファイルを受信するとエラーとして認識され送信元にエラー通知メールが返送されます。
- 複数のファイルが添付されているとき、または非対応の形式のファイルが添付されているときは、通信履歴がエラーとなりますが、エラー通知メールは送信元へ返送されません。
- カラー画像を受信したときでも、モノクロで印刷します。
- JPEG ファイル、PDF ファイルの印刷は、プリンターのジョブとしてカウントされます。
- 暗号化された PDF を受信したときは、PDF に設定されたパスワードが本機で設定されているパスワードと一致すると印刷されます。
- Mail to Print で受信したときは、受信確認要求には応答しません。
- パソコンから送信されたメールの TIFF-F 形式の添付ファイルも受信できます。

メールを自動で受信する

メールサーバーへ自動的にアクセスしてメールを受信します。

自動でメールを受信するかどうか、何分ごとに受信するかを、［システム初期設定］の［メール受信間隔時間設定］で設定できます。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

補足

- メモリーの残量が少なくなっているときは、メール受信時間になっても受信しません。メモリー残量が多くなってから受信します。

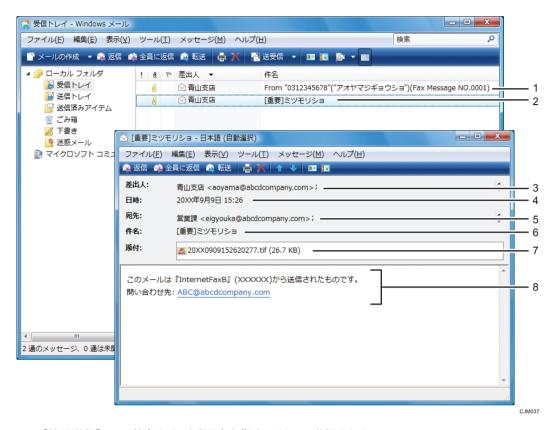
メールを手動で受信する

手動でメールサーバーへアクセスしてメールを受信します。

あらかじめ［手動メール受信］の操作をクイック操作キーに登録しておきます。［クイック操作キー］についてはP.237「基本設定」を参照してください。

1. ［手動メール受信］を押します。

サーバーにアクセスしてメールが届いているかどうか確認し、メールがあれば受信します。

2. ［確認］を押します。

パソコンでのメールの受信イメージ

本機からパソコンのメールアドレスをメール宛先（またはインターネットファクス宛先）として指定してメールを送信したとき、パソコンで受信するメールの件名や本文は次のように表示されます。

受信イメージはメールソフトにより異なります。

重要

- パソコンでメールを受信するとき、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 で［すべてのクライアント接続にセキュリティーで保護されたパスワード認証を要求］にチェックを入れている場合は受信できません。

1. ［拡張送信］で、件名および重要度を指定しないで送信されたメール

2. ［拡張送信］で、件名および重要度を指定して送信されたメール

3. 送信者

   送信元の名前（メールアドレス）が表示されます。

4. 日時

   メールが送信された日時が表示されます。

5. 宛先

   受信元のメールアドレスが表示されます。

6. 件名

   送信時に［拡張送信］で指定した件名が表示されます。

   件名を指定しないで送信したときは、1 のように自動的に件名が付けられます。

7. 添付

   送信元が作成したメッセージが添付書類として表示されます。

8. メール本文

   すべてのメールに次のメッセージが挿入されます。

   「このメールは「ホスト名」(“機種名”）から送信されたものです。問い合わせ先: “管理者メールアドレス”」

ホスト名と管理者メールアドレスは［システム初期設定］の［管理者メールアドレス］および［ホスト名］で確認できます。［管理者メールアドレス］、［ホスト名］について詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

補足

- 送信者名印字などの設定によって、送信者の表示方法は異なります。
- 送信者名印字などの設定によって、件名の書式が異なります。件名の付けられ方については、P.104「自動で設定されるインターネットファクス／メールの件名」を参照してください。

インターネットファクス／Mail to Print 受信時に利用できない機能

ファクスや IP-ファクスを受信するときに利用できる付加機能のなかには、インターネットファクスや Mail to Print では使用できないものがあります。

次の表を参照してください。

○は、機能を使用できることを表します。

×は、機能を使用できないことを表します。

機能	インターネットファクス	Mail to Print
直接受信	×	×
料金管理	×	×
F コード取り出し	×	×
ID 受信	×	×
受信側縮小	○	×
しおり印字機能	○	×
送信側情報印字	○	×
受信側・送信側情報印字	×	×
送信側情報印字（G4 用）	×	×
受信時刻印字	○	×
自動電源受信機能	○	×
封筒受信	×	×
受信文書印刷部数設定	×	×
特定相手先設定 • 相手先別迷惑ファクス防止設定 • 相手先別受信文書印刷部数 • 相手先別封筒受信	×	×

機能	インターネットファクス	Mail to Print
特定相手先設定 • 相手先別メモリー転送設定 • 相手先別両面印刷 • 相手先別給紙トレイ選択	○	×
解像度の設定	×	×
記録分割・縮小	○	×
センターマーク印字	○	×
回転レシーブ	○	×
両面印刷	○	×
回線別排紙先設定	○	×
排紙位置シフト機能	○	×
給紙トレイ選択	○	×
通信枚数カウンター	○	×
メモリー転送	○	×
自動用紙選択	○	×
手差しトレイ用紙印刷	○	×
最適なサイズの用紙に印刷する機能	○	×

受信するときの機能

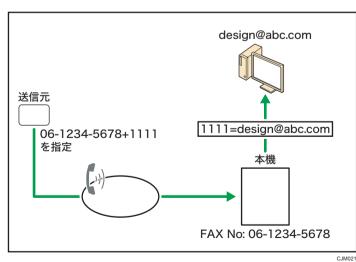
ファクスを受信するときに使用すると便利な機能について説明します。

受信文書の配信

F コード（SUB)、ダイヤルイン番号、または増設 G3 回線および G4 回線を利用して、受信した文書を配信する方法を説明します。

4

F コードを利用した配信

F コード（SUB）を利用して、受信したファクス文書を配信します。

受信文書の F コード（SUB）を本機に登録されている親展ボックスの F コード（SUB）と比較し、一致する F コード（SUB）があったとき、その親展ボックスに登録されている配信先に配信します。

配信先にメールアドレスが登録されていれば、受信文書を電子メール形式で配信先に配信します。

グループ宛先は、配信先として指定できません。

当社のファクスだけでなく他社のファクスからの受信も配信できます。

この機能を使用するときは、あらかじめ親展ボックスを設定して配信先を登録しておきます。親展ボックスは［ファクス初期設定］の［F コードボックス設定］で登録できます。登録方法は P.314「F コードボックス設定」を参照してください。

補足

- ファクス受信文書の配信サーバーへの配信が設定されているときは、この機能は無効になります。

増設 G3／G4 回線を利用した回線別配信

本機で増設 G3 回線および G4 回線を使用しているとき、受信した回線別に、あらかじめ設定した配信先へ受信文書を配信します。

この機能を利用するには、あらかじめ、次の設定が必要です。

G3-1 回線

- F コード（SUB）が「1」の親展ボックスまたは中継ボックスを登録し、配信局または受信局を設定する
- ［パラメーター設定］（スイッチ 32 ビット 4）を「ON（する）」に設定する

G3-2 回線

- F コード（SUB）が「2」の親展ボックスまたは中継ボックスを登録し、配信局または受信局を設定する
- ［パラメーター設定］（スイッチ 32 ビット 5）を「ON（する）」に設定する

G3-3、G4、I-G3 回線

- F コード（SUB）が「3」の親展ボックスまたは中継ボックスを登録し、配信局または受信局を設定する
- ［パラメーター設定］（スイッチ 32 ビット 6）を「ON（する）」に設定する

配信先には、ファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先を登録できます。

親展ボックスおよび中継ボックスの登録方法は P.314「F コードボックス設定」を参照してください。

［パラメーター設定］の設定方法は、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- ファクス受信文書の配信サーバーへの配信が設定されているときは、この機能は無効になります。
- ダイヤルされた番号が親展ボックスの F コード（SUB）と一致しても、親展ボックスに配信先が登録されていないと受信文書は配信されず、親展受信になります。
- インターネットファクスおよび IP-ファクスで受信した文書は配信できません。

ダイヤルイン番号を利用した配信（PSTN のとき）

PSTN のダイヤルイン番号を使用して、受信したファクス文書を配信します。

ダイヤルイン番号を使用して配信するためには、ダイヤルイン契約をして取得した電話番号（下 4 桁）のうち、配信に使用する電話番号で 4 桁の親展ボックスの F コード（SUB）を登録しておきます。（[ダイヤルイン設定] で登録した電話用のダイヤルイン番号は除きます）

また、親展ボックスには配信先のファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、またはフォルダー宛先を登録しておきます。

ダイヤルされた番号の下 4 桁が親展ボックスの F コード（SUB）と一致すると、受信文書を配信先に配信します。

[ダイヤルイン設定] について詳しくは、P.252「導入設定」を参照してください。

[F コードボックス設定] について詳しくは、P.314「F コードボックス設定」を参照してください。

この機能を使用するときは、サービス実施店に連絡してください。

補足

- ファクス受信文書の配信サーバーへの配信が設定されているときは、この機能は無効になります。
- モデムダイヤルインサービスを利用しているときは、[ファクス初期設定] の [パラメーター設定]（スイッチ 25 ビット 3、6）を「ON（する／使う）」に設定します。P.283「パラメーター設定」を参照してください。
- [ファクス初期設定] の [ダイヤルイン設定] で登録した電話用のダイヤルイン番号と同じ番号で 4 桁の親展ボックスの F コード（SUB）を登録したとき、この番号にファクスが送信されても電話として受信します。手動受信に切り替えてファクスを受信しても配信はされません。
- ダイヤルされた番号の下 4 桁が親展ボックスの F コード（SUB）と一致しても、親展ボックスに配信先が登録されていないと配信されず、親展受信になります。

ISDN ダイヤルイン番号を利用した配信

本機で G4 回線を使用しているとき、ISDN のダイヤルイン番号を使用して、受信したファクス文書を配信します。

ISDN ダイヤルイン番号を使用して配信するためには、以下の設定が必要です。

- ダイヤルイン契約をして取得した電話番号のうち、配信に使用する電話番号を [ファクス初期設定] の [ISDN-G4 回線登録] に登録しておきます。電話番号は「市外局番」「-（ポーズ）」「電話番号」のように登録します。必ず「市外局番」から登録してください。
- [ファクス初期設定] の [F コードボックス設定] で、親展ボックスを登録します。F コード（SUB）には、[ファクス初期設定] の [ISDN-G4 回線登録] で登録した配信

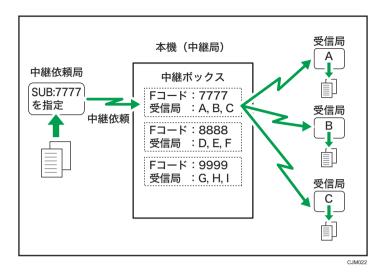
用の電話番号の、「市外局番」「 - （ポーズ）」を除いた電話番号を登録します。また、配信先をアドレス帳から選択して指定します。配信先には、ファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先を登録できます。

相手先からダイヤルされた番号が親展ボックスの F コード（SUB）と一致すると、受信文書が配信先に配信されます。

たとえば、相手先からダイヤルされた番号が「03-12345678」で、F コード（SUB）が「12345678」の親展ボックスが本機に登録されているときは、電話番号「12345678」が F コード（SUB）と一致するので、登録された配信先に受信文書が配信されます。

この機能を使用するときは、サービス実施店に連絡してください。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- ファクス受信文書の配信サーバーへの配信が設定されているときは、この機能は無効になります。
- サブアドレスを使用した配信もできます。ダイヤルイン番号、サブアドレスのどちらを使用するかはカスタマーエンジニアが設定します。
- ダイヤルされた番号が親展ボックスの F コード（SUB）と一致しても、親展ボックスに配信先が登録されていないと配信されず、親展受信になります。
- [ISDN-G4 回線登録］について詳しくは、P.252「導入設定」を参照してください。
- [F コードボックス設定］について詳しくは、P.314「F コードボックス設定」を参照してください。

受信文書の中継

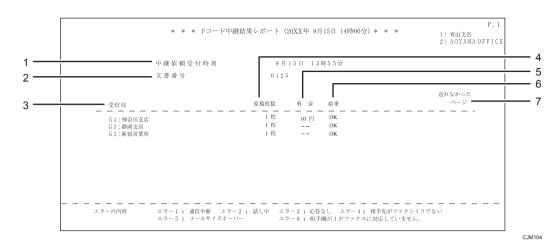
F コード（SUB）を利用して、受信した文書を中継します。

中継ボックスとは

本機を、F コードを使用したファクス送信の中継局として利用するときに設定します。

中継ボックスに登録した受信局に、中継依頼局から送信されてきた文書を自動的に中継同報送信できます。中継ボックスに受信局を登録しておくだけで、一度の中継依頼で複数の宛先に文書を中継同報送信できるので、遠隔地の複数の宛先に送信するとき、通信料金が節約でき便利です。

中継ボックスに登録したFコードを中継依頼局に伝え、Fコードと一致する「Fコード（SUB）」を付けて文書を送信してもらいます。なお、パスワードを登録したときはパスワードも伝え、「Fコード（SUB）」に加えてパスワードと一致する「Fコード（SID）」を付けて文書を送信してもらいます。

この機能を使用するには、あらかじめ中継ボックスを登録し、受信局を設定しておきます。受信局には、ファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先を登録できます。中継ボックスは［ファクス初期設定］の［Fコードボックス設定］で登録できます。登録方法はP.314「Fコードボックス設定」を参照してください。

補足

- 中継の結果は、中継依頼局には通知されません。
- 当社のファクスだけでなく、他社のファクスからの受信も中継できます。
- 受信した文書は中継したあと、消去されます。
- 中継依頼送信ができなかったときは、受信した文書を印刷します。
- 登録した受信局が中継依頼登録をした宛先のときは、多段中継送信になります。詳しくはサービス実施店に問い合わせてください。

Fコード中継結果レポート

受信局への送信の結果を確認できます。Fコード中継ボックスに設定された受信局への送信をすべて終えたとき、本機から出力されます。

Fコード中継結果レポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ04ビット1）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. 中継依頼受付時刻

中継依頼を受けた日時が記載されます。

2. 文書番号

文書の管理番号です。

3. 受信局

- ファクス宛先のとき

  中継局（本機）のアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

  G4 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」のいずれかで記載されます。

  増設 G3 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3-3」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

- メール宛先またはインターネットファクス宛先のとき

  「Mail」のあとに、中継局（本機）のアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

- IP-ファクス宛先のとき

  「IP-FAX」のあとに、中継局（本機）のアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

- フォルダー宛先のとき

  「フォルダー」のあとに、中継局（本機）のアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

4. 原稿枚数

中継依頼局から中継を依頼されて、受信した原稿の枚数です。

5. 料金

G4 または I-G3 を使用した送信の通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4 ユニットを装着しているときです。ただし、通信料金が 64999 円を超えると「＊＊＊＊＊＊円」と記載されます。

海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

6. 結果

送信の結果が記載されます。

- OK

  全ページ正しく送信できました。

- エラー

  正しく送信できませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容（送信できなかった理由）を示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。

  エラー 1）通信中断：ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が途中で中断されました。

  エラー 2）話し中：相手先が話し中でした。

  エラー 3）応答なし：呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。

  エラー 4）相手先がファクシミリでない：相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。ダイヤルは 2 回で中止します。

  エラー 5）メールサイズオーバー：本機に設定されている上限のメールサイズを超えたため、インターネットファクス送信が中断されました。

  エラー 6）相手機が IP ファクスに対応していません。：相手先がアナログ回線と接続したファクスや IP 電話などで、次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスに対応していませんでした。

- 未登録宛先

  受信局が登録されていないため、正しく送信できませんでした。

- 未送信

  受信局の中に未登録宛先があったため、送信できませんでした。

- 無効宛先

  登録されている宛先数が最大値を超えているグループを指定したとき、またはファクス番号が正しくないときに記載されます。

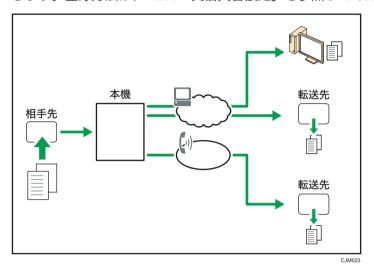
  グループを指定しているときはアドレス帳で件数を確認してください。

  文書は送信されていませんので、送り直してください。

- --

  本機に登録されているメールサーバーまでインターネットファクスまたはメールが送信されました（相手先までメールが到達したことを示すものではありません）。

7. 送れなかったページ

結果が「エラー」のとき、送信していないページ数を記載します。

補足

- 受信局として指定できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

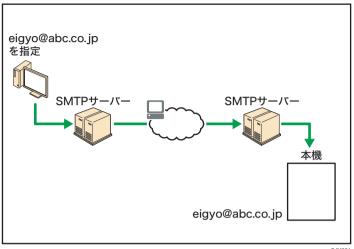
受信文書の転送

本機に登録されているメモリー転送先に受信した文書を転送します。

4

あらかじめ、メモリー転送先の登録が必要です。メモリー転送先にはファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先を設定できます。登録方法は、P.263「受信文書設定」を参照してください。

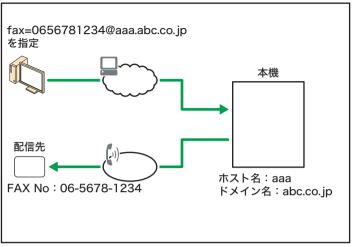
また、相手先によって転送先を変更できます。[ファクス初期設定]の[特定相手先設定]で相手先の名称を特定相手先として登録し、相手先ごとに転送先を設定します。特定相手先の登録方法は、P.304「特定相手先設定」を参照してください。

補足

- グループでまとめて指定できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- 封筒受信およびほかのファクスから中継依頼送信された文書は転送されません。
- 転送先がフォルダー宛先のときは、[パラメーター設定](スイッチ 37 ビット 4)で、転送される文書のファイル名に送信元の情報を引用するように設定できます。また、ファイル名の文字化けやデータ消失などを防止するために、[パラメーター設定](スイッチ 37 ビット 5)で、ファイル名に使用する文字の種類を制限できます。万が一、ファイル名の文字を制限しても不具合が発生するときは、送信元の情報をファイル名に引用しないでください。

メールの SMTP 受信

SMTP 受信するときは、SMTP サーバーにメールが届くと即座に受信します。

この機能を使用するときは、あらかじめ、DNS サーバーの MX レコードで本機が SMTP 受信するように設定してください。

また、[システム初期設定]の[受信プロトコル]で受信プロトコルを SMTP に設定します。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

補足

- DNS サーバーで SMTP 受信できるように設定されていても、［システム初期設定］で受信プロトコルが SMTP に設定されていないときは、SMTP サーバーからメールが送信されても受信しないでエラーを応答します。また SMTP サーバーから送信元へエラーメールが送信されます。
- 受信したメールにエラーがあったときは受信を中断し、メールを破棄してエラーレポートを出力します。また SMTP サーバーから送信元へエラーメールが送信されます。
- 本機がメール送信の処理中のときに SMTP サーバーからの受信があった場合、SMTP サーバーへはビジーで応答します。通常、SMTP サーバーは設定されたタイムアウトの時間になるまで再送を試みます。

SMTP 受信したメールの配信

SMTP 受信によって受信したメールを、ほかのファクスへ配信します。

SMTP 受信したメールを配信するときは、あらかじめ［ファクス初期設定］の［SMTP 受信ファイル配信設定］を［する］に設定します。P.277「SMTP 受信ファイル配信設定」を参照してください。

本機に送信されたメールをほかのファクスへ配信するには、送信側は次のようにメールアドレスを指定します。

ファクス番号

fax=配信先のファクス番号@本機のホスト名.ドメイン名

たとえば、ファクス番号「06556781234」へ配信するときは次のように指定します。

fax=06556781234@aaa.abc.co.jp

本機のアドレス帳に登録されているファクス宛先

fax=＃5 桁以下の登録番号@本機のホスト名.ドメイン名

たとえば、登録番号 00001 の相手先へ配信するときは次のように指定します。

fax=＃00001@aaa.abc.co.jp

本機のアドレス帳に登録されているグループ

fax=＃＊＊5 桁以下の登録番号@本機のホスト名.ドメイン名

たとえば、登録番号 00004 のグループへ配信するときは次のように指定します。

fax=＃＊＊00004@aaa.abc.co.jp

補足

- セキュリティーの設定によっては、この機能は使用できません。
- ［ファクス初期設定］で SMTP 受信した文書の配信を［しない］に設定しているときに、配信を指定したメールを受信すると、SMTP サーバーにエラー応答します。
- 設定した送信元からのメールだけを配信するように設定できます。
- 本機の配信機能を使用して、メールソフトからメールアドレスと G3／G4 ファクスの宛先に同時に送信できます。
- グループでまとめて指定できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

JBIG 受信

圧縮率の高い JBIG（Joint Bi-level image experts Group）を使用すると、「写真原稿」で読み取った原稿でも速く送信できます。JBIG 受信機能を使用すると、JBIG 送信で送信された文書を受信できます。

この機能は、G4、インターネットファクス、Mail to Print による受信時は使用できません。

自動電源受信機能

本機は、一定時間何も操作しないと、節電のためにスリープモードに移行します。

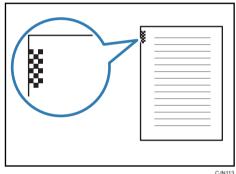
スリープモード時は、文書を受信して印刷します。夜間や休日などの不在時、主電源スイッチは「On」のまま、[省エネ] キーを押して、スリープモードにしておくと電気代を節約できます。

重要

- **主電源スイッチを切っているときは、受信できません。**

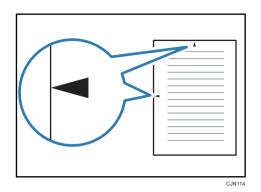
スリープモード時に受信した文書をいつ印刷するか［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 14 ビット 0）で設定できます。メモリーで受信（代行受信）し、スリープモードを解除したあとまとめて印刷するようにも設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

出力するときの機能

受信した文書を出力するときに使用すると便利な機能について説明します。

印刷終了ブザー

受信文書の印刷終了時にブザーを鳴らして知らせます。離れたところからでも受信したことがわかります。

ブザーの音量を［ファクス初期設定］の［音量調節］で調節できます。鳴らしたくないときは最小に設定します。『こまったときには』「音量を調節するとき」を参照してください。

しおり印字機能

受信紙の 1 枚目に、しおりのマークを印字します。複数の文書を受信したときなど文書の区切りがわかり便利です。

しおり印字機能を使用するかどうかを［ファクス初期設定］の［しおり印字］で設定できます。P.245「受信設定」を参照してください。

センターマーク印字

受信した文書、リストおよびレポートの左端と上端の中央にマークを印字します。

ファイリングなどのためにパンチ穴を開けるときの目印になります。

CJN114

センターマーク印字するかしないか［ファクス初期設定］の［センターマーク印字］で設定できます。P.245「受信設定」を参照してください。

補足

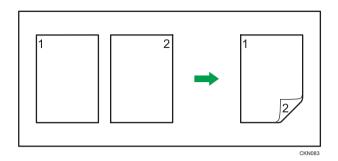
- 左端のセンターマークはセンター位置から多少ずれることがあります。

受信時刻印字

受信紙の下の部分に、受信した日付、時刻、文書番号を印字します。

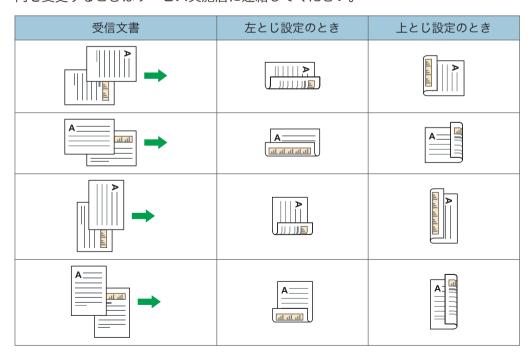
CJM004

受信時刻印字は［ファクス初期設定］の［受信時刻印字］で設定できます。P.245「受信設定」を参照してください。

補足

- 記録分割したページは、最後のページにだけ印字されます。
- 印刷した時刻もあわせて印刷するように設定できます。サービス実施店に連絡してください。

両面印刷

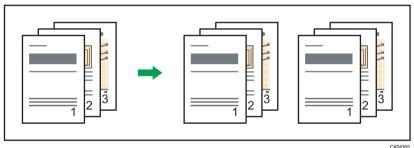
受信文書を用紙の両面に印刷します。

また、本機に蓄積されている送信待機文書、蓄積文書も用紙の両面に印刷します。

両面印刷は［ファクス初期設定］の［両面印刷］で設定できます。［する］に設定すると、本機はメモリー受信します。［両面印刷］についてはP.245「受信設定」を参照してください。

特定の相手先から受信した文書だけの両面印刷もできます。

この機能を使用するときは、受信文書がすべてのページが同じサイズになるように、相手先に送信してもらう必要があります。また、相手先が送信してきた原稿と同じサイズの用紙を本機にセットしておく必要があります。（A4→A4、B4→B4 などが一般的な例です。B5・A3 サイズは、ファクスによっては正しいサイズで読み取れないことがあります。）相手先のファクスが本機と同じ機種のとき、自動的に検知できる原稿サイズは『用紙の仕様とセット方法』「自動的に検知される原稿サイズ」を参照してください。

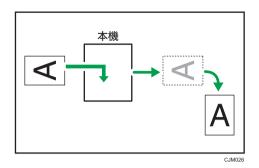
両面印刷時の印刷イメージ

両面印刷時のとじ方向（左とじ、上とじ）は、工場出荷時は「左とじ」に設定されています。とじ方向の違いにより、裏面に印刷される画像の向きが異なります。とじ方向を変更するときはサービス実施店に連絡してください。

補足

- 相手のファクスが原稿サイズを正しく読み取れずに送信してきたときや、相手先の原稿サイズとこちらの用紙サイズが一致しないときは、分割・縮小されたり、余白ができたりすることがあります。たとえば、相手のファクスが B5 サイズの原稿を検知できず、B4 サイズとして送信してきたときは、こちら側に B5 サイズの用紙がセットされていても、B4 の用紙に印刷されます。
- この機能が有効になるのは、すべてのページをメモリーで受信できたときだけです。
- この機能は集約印刷とは併用できません。
- 受信する原稿の向きによっては、原稿の表と裏の天地が逆になります。
- 蓄積文書を印刷するときは、同じサイズの文書ごとに両面印刷します。文書によっては片面にだけ印刷されます。

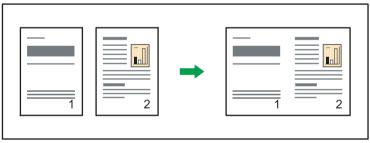
受信文書印刷部数設定

受信文書を設定した部数だけ印刷します。

特定の相手先からの受信文書だけを設定した部数印刷するなど、送信してきた相手先による印刷部数の区別もできます。

設定できる部数は 1 部から 10 部です。

この機能を使用するかどうかを［ファクス初期設定］の［受信文書印刷部数］で設定できます。部数を変更すると、本機はメモリー受信します。［受信文書印刷部数］についてはP.245「受信設定」を参照してください。

回転レシーブ

給紙トレイにセットされている用紙と同じサイズで向きだけが異なる文書を受信したとき、自動的に画像を右回りに 90°回転して印刷します。

補足

- ［ファクス初期設定］の［給紙トレイ選択］で、給紙トレイを設定しているときは、そのトレイの用紙が選択されます。

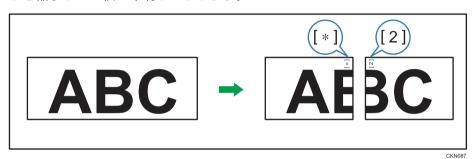
集約印刷

A5の文書を 2 枚続けて受信したときは A4の用紙の左右に、B5の文書を 2 枚続けて受信したときは B4の用紙の左右に、2 枚分をまとめて印刷します。用紙の無駄がなくなるので経済的です。

次のように印刷されます。

- A5の文書は A4の用紙の左右に印刷
- B5の文書は B4の用紙の左右に印刷
- A4の文書は A3の用紙の左右に印刷

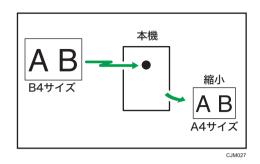
集約印刷するかどうかを［パラメーター設定］（スイッチ 10 ビット 1）で設定できます。「ON（集約する）」に設定すると本機はメモリー受信します。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- A5、B5、A4より大きい文書を受信したとき、この機能ははたらきません。B5、A4の用紙があるときは、1 枚の用紙に 1 枚分印刷します。A5、B5、A4の用紙があるときは、受信文書を回転して 1 枚の用紙に 1 枚分印刷します。

- 受信文書と同じサイズで同じ向きの用紙がセットされているときは、集約印刷できません。
- 両面印刷と集約印刷が同時に設定されているときは、両面印刷が優先され、集約印刷は無効になります。

記録分割・縮小

セットされている用紙より長い文書を受信したとき、1 ページを複数枚に分割したり、長さを縮小して 1 枚に印刷したりします。

分割と縮小の目安として、印刷する文書の長さが用紙に比べ約 20mm より長いときは分割し、それ以内のときは縮小して 1 枚に印刷します。

分割したときは分割位置に分割マーク（＊）を印字し、分割した部分を約 10mm 重ねて印刷します。

補足

- 以下の設定を変更できます。サービス実施店に連絡してください。( ) 内は工場出荷時の設定です。
  - 縮小するかどうか（縮小する）
  - 分割マークを印字するかどうか（印字する）
  - 重ねて記録するかどうか（記録する）
  - 分割した部分を何 mm 重ねて記録するか（10mm）

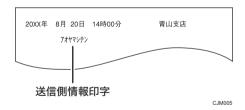
    4mm、10mm、15mm の中から選択できます。
  - 分割の目安（原稿の長さが用紙の長さより 20mm 長いとき）

    5mm から 155mm の範囲で 5mm 単位で変更できます。

受信側縮小

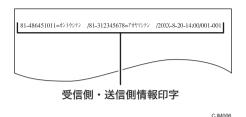
通常は 2 枚に分割して印刷される文書を 1 枚の用紙に縮小して印刷します。

- B4 の用紙がなく A4 の用紙がセットされているときに、B4の文書を受信した場合、A41 枚に縮小して印刷します。
- A3 の用紙がなく B4 の用紙がセットされているときに、A3の文書を受信した場合、B41 枚に縮小して印刷します。

受信側縮小は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 10 ビット 3）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- この機能を使用したときは、通常より印刷の品質が落ちることがあります。

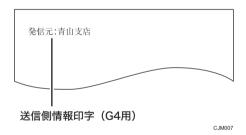
送信側情報印字

G3 回線で受信したときに、相手先に登録されている発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を受信紙に印字します。

インターネットファクスを受信したときは、送信元のメールアドレスを印字します。相手先が発信元名称（印字用）を印字しないように設定して送信しても、どこから送られてきたかわかります。

送信側情報印字は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 02 ビット 3）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

受信側・送信側情報印字

G4 回線で受信したとき、受信した文書の全ページに、受信側（本機）の自局番号と自局名称、送信側の自局番号と自局名称、通信日時とページ番号を印字します。相手先の名称も印字されます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

受信側・送信側情報印字は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 02 ビット 5）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

送信側情報印字（G4 用）

G4 回線で受信したときに、相手先に登録されている発信元名称（印字用）を受信紙に印字します。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

送信側情報印字（G4 用）は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 02 ビット 6）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

受信文書と同じサイズの用紙がないとき

受信した文書のサイズに合わせて、適切なサイズの用紙を選択して印刷します。

用紙は次の優先順位にしたがって選択されます。

表の見かた

B4◻と A5◻の用紙がセットされているときに、A4◻の原稿を受信したことを例に説明します。受信サイズ A4◻の行を､左から優先順位の高い順に調べます。セットされている用紙の中で最も優先順位の高い用紙に印刷されます。

この例では B4◻の方が A5◻より優先順位が高いので、B4◻に印刷されます。

優先順位表

受信サイズ	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
A5▯	A5▯	A5▭ (回転)	A4▭	A4▯ (回転)	B5▯	B5▭ (回転)
B5▯	B5▯	B5▭ (回転)	B4▭	A4▯	A4▭ (回転)	A3▭
A4▯	A4▯	A4▭ (回転)	A3▭	B4▭	-	-
A4▭	A4▭	A4▯ (回転)	A3▭ (回転)	B4▭	A5▯▯	A5▭▭ (回転)
B4▭	B4▭	A3▭	B5▯▯	B5▭▭ (回転)	A4▯▯	A4▭▭ (回転)
A3▭	A3▭	A4▯▯	A4▭▭ (回転)	B4▭▭ (回転)	-	-

- B5▭の用紙しかセットされていないときに A3▭の文書を受信すると、代行受信したまま文書が印刷されません。
- ▯▯、▭▭は複数枚に記録分割して印刷することを表しています。詳しくは P.148「記録分割・縮小」を参照してください。
- 表の中に（回転）と書かれている用紙のときは、回転レシーブ機能により 90°回転して印刷します。詳しくは P.146「回転レシーブ」を参照してください。

補足

- 手差しトレイの用紙は選択されません。ただし、[特定相手先設定] で、給紙トレイを手差しトレイに設定しているときは手差しトレイの用紙が選択されます。
- ファクスで受信できる原稿の縦の長さは、210mm（A4▭)、257mm（B4▭)、297mm（A3▭）の 3 種類に限られています。縦の長さが 210mm より狭い原稿はすべて 210mm として受信します。横の長さは原稿に応じて受信します。
- 受信サイズは相手先が送った原稿サイズと異なることがあります。
- 受信側縮小機能を使用しているときは、選択される用紙が「優先順位表」とは異なります。詳しくは P.148「受信側縮小」を参照してください。

給紙トレイ優先設定

複数のトレイに同じサイズの用紙をセットしているとき、優先的に給紙するトレイを設定します。

たとえば、トレイ 1 に A4 の白い用紙、トレイ 2 に A4 の黄色い用紙をセットし、ファクスはトレイ 2 から優先的に給紙するように、コピーはトレイ 1 から優先的に給紙するように設定します。A4 サイズの文書をファクスで受信したときは黄色の用紙に、A4 サイズのコピーをしたときは、白い用紙に印刷するので、ひと目で区別できます。優先的に給紙す

るトレイは［システム初期設定］の［給紙トレイ優先設定：ファクス］で設定します。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

補足

- 優先設定した給紙トレイと異なるサイズの文書を受信したときは、受信したサイズの給紙トレイから給紙します。

最適なサイズの用紙に印刷する（ジャストサイズ印刷）

受信した文書を優先順位 1 位の用紙に限定して印刷します。

この機能は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 05 ビット 5）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

最適なサイズの用紙がトレイにないときは、「用紙がなくなりました。」と表示されます。給紙トレイに適切なサイズの用紙を補給してから、［確認］を押してください。

補足

- メッセージが表示されたとき、［確認］を押したあとの動作は状況によって異なります。
    - 受信文書やレポートが自動的に印刷されていたときは、印刷が中止されたところから、自動で印刷を再開します。
    - 文書やレポート、リストを手動で印刷していたときは、印刷は再開されません。最初から操作し直してください。

手差しトレイの用紙に受信・印刷する

特定の相手先から受信した文書だけを、手差しトレイにセットした用紙に印刷します。

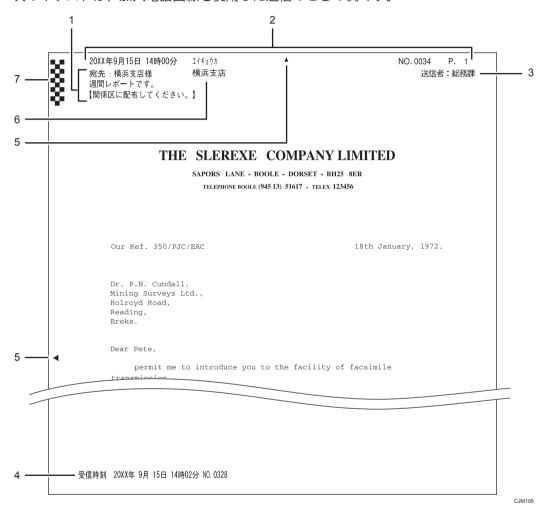
［ファクス初期設定］の［特定相手先設定］で、次のように設定してください。

- 特定相手先を登録し、給紙トレイの設定を［手差しトレイ］にする
- ［機能設定］の［相手先別受信機能］を［使用する］にする

［特定相手先設定］について詳しくは、P.304「特定相手先設定」を参照してください。

手差しトレイには、給紙トレイにセットされていないサイズの用紙を使用できます。

補足

- 手差しトレイにセットできる最大枚数、自動検知できる用紙サイズ、使用できる不定形サイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。
- 手差しトレイで自動検知できないサイズの用紙をセットするときは、サイズを指定します。指定した用紙とセットした用紙のサイズが異なると、「印刷できない用紙を検出しました」と表示されます。手差しトレイに適切なサイズの用紙を補給してから、［確認］を押してください。

- A4 よりも小さい用紙に印刷すると、画像が欠けたり分割されたりすることがあります。
- セットできるサイズより大きい用紙を使用すると、しわができたり、用紙が送られなかったり、紙づまりをおこす原因となることがあります。
- 印刷される領域は、本機のオプション構成や解像度、受信した文書のサイズ（原稿の縦の長さ）により異なります。
- この機能を使用するときは、回転レシーブ、180°回転印刷機能は使用できません。

受信紙に印字される情報

受信紙に印字される名称やマークについて説明します。

送信側の設定によるものと、受信側の設定によるものの 2 種類があります。

次のイラストは、加入電話回線を使用した通信のときの例です。

1. **宛名差し込み（送信側の設定）**

   詳しくは P.109「相手先の受信紙に宛名を印字する」を参照してください。

2. **発信元名称印字（送信側の設定）**

   詳しくは P.111「相手先の受信紙に発信元名称を印字する」を参照してください。

3. **送信者名印字（送信側の設定）**

   詳しくは P.79「送信者を設定する」を参照してください。

4. 受信時刻印字（受信側の設定）

詳しくは P.144「受信時刻印字」を参照してください。

5. センターマーク印字（受信側の設定）

詳しくは P.143「センターマーク印字」を参照してください。

6. 送信側情報印字（受信側の設定）

詳しくは P.149「送信側情報印字」を参照してください。

7. しおり印字（受信側の設定）

詳しくは P.143「しおり印字機能」を参照してください。

受信紙の排出先

受信した文書の仕分けを簡単にするために、排出先のトレイや排紙位置を設定します。

回線別排紙先設定

回線ごとに文書の排紙先を設定します。

電話回線、インターネットファクスおよびIP-ファクスの回線ごとに文書を排出するトレイを設定できます。たとえばG3回線で受信した文書は「フィニッシャー・シフトトレイ」に、G4回線で受信した文書は「フィニッシャー・上トレイ」に排出されるように設定しておくと、文書の仕分けが簡単になります。同様に、インターネットファクス受信した文書と通常のファクス受信の文書とで別々のトレイに排出されるよう設定しておくこともできます。

また、排紙先として「プリントポスト」を設定すると9段の排紙先へ振り分けられます。

この機能を使用するときは、［ファクス初期設定］の［回線別排紙先設定］で回線と排紙先を設定します。設定方法はP.245「受信設定」を参照してください。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

排紙位置シフト機能

文書ごとに受信紙の排紙位置をずらして、仕分けをしやすくします。

ファクスの受信紙をフィニッシャーに排出するように設定していると、排紙位置シフト機能が使用できます。

受信文書やレポートを印刷するとき、文書ごとに手前と奥に振り分けて印刷します。たとえば、先に受信した文書を手前に排出していると、次の受信文書は奥に排出されます。文書単位で振り分けるので、トレイにたまった文書を仕分けるときに便利です。

排紙位置シフト機能を使用するかどうかは［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ19ビット0）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

4

5. 通信情報を変更／確認する

［送受信確認/印刷］の機能を説明します。通信情報を画面やレポートで確認できます。

送信待機文書を確認する

［スタート］キーを押して原稿を読み取ったあとに、宛先や条件を確認する方法を説明します。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［送信文書確認／中止］を押します。
3. 確認する文書を押します。

   複数の相手先を指定した文書には、最初に指定した相手先が表示されています。

   複数の相手先を指定した文書には、未送信の相手先件数だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。
4. ［内容確認／変更］を押します。
5. 送信内容を確認し、［閉じる］を押します。
6. ［閉じる］を 2 回押します。

補足

- 状態が「送信中」の文書および PC ファクスでの送信文書およびレポート印刷の待機中の文書は確認または変更できません。

5

送信待機文書の設定を変更する

［スタート］キーを押して原稿を読み取ったあとに、宛先や条件を変更または取り消す方法を説明します。

補足

- ［送信文書確認／中止］を押すと画面に「送信文書はありません。」と表示されるときは、メモリー送信中または待機中の文書はありません。
- 状態が「送信中」の文書、PC ファクスでの送信文書およびレポート印刷の待機中の文書は確認または変更できません。
- セキュリティーの設定によっては、宛先が「*」で表示され、選択できないことがあります。

5

送信待機文書の宛先の一部を消去する

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

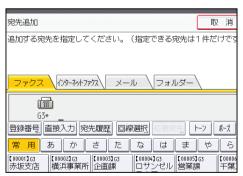
2. ［送信文書確認／中止］を押します。
3. 相手先を取り消す文書を押します。

   宛先を 1 件しか指定していないときに、宛先を消去すると、送信そのものが取り消されます。

4. ［内容確認／変更］を押します。
5. 取り消す相手先の［変更］を押します。

   フォルダー宛先または宛先キーに鍵マーク（🔒）がついた宛先を消去するときは、［消去］を押して、確認画面で［消去する］を選択します。手順 7 へ進みます。

6. ［クリア］キーを押して相手先を消去し、［OK］を押します。

   ファクス宛先や IP-ファクス宛先を消去するときは、［クリア］キーを押すと 1 桁ずつ消去されます。インターネットファクス宛先、メール宛先を消去するときは、［クリア］キーを押すとその宛先が一度で消去されます。

7. ［閉じる］を押します。

   続けて相手先を消去するときは、手順 3 から操作します。

8. ［閉じる］を 2 回押します。

送信待機文書に宛先を追加する

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［送信文書確認／中止］を押します。
3. 相手先を追加する文書を押します。
4. ［内容確認／変更］を押します。
5. ［宛先追加］を押します。
6. 追加する相手先を操作部のテンキーまたは宛先キーで入力して、［OK］を押します。

宛先種別のタブを押して、ファクス・IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先を切り替えられます。

メールアドレスを登録した送信者を設定しているときは、インターネットファクス宛先やメール宛先を追加できます。

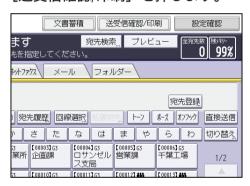
フォルダー宛先を追加するときは、宛先キーで指定します。

5

［拡張宛先］を押すと、F コードやサブアドレスなども設定できます。

7. ［閉じる］を押します。

続けて相手先を追加するときは、手順 3 から操作します。

8. ［閉じる］を 2 回押します。

- 同報禁止を設定しているときは宛先を追加できません。

送信待機文書の送信時刻を変更する

時刻指定送信でメモリーに蓄積した文書の、指定時刻を変更します。

また、時刻指定そのものを取り消すこともできます。時刻指定を解除すると、すぐに送信を開始します。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［送信文書確認／中止］を押します。

3. 送信時刻を変更または解除する文書を押します。

4. ［内容確認／変更］を押します。

5. ［送信時刻変更］を押します。

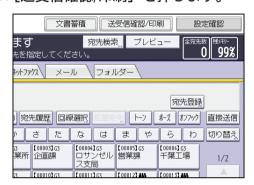
すぐに送信するときは、［すぐに送信］を押します。ただし、ほかの文書が送信中のときは、その通信が終了してから送信されます。

6. ［変更］を押したあと、送信する時刻をテンキーで入力し、［#］を押します。

7. ［OK］を押します。

8. ［閉じる］を押します。

続けて送信時刻を変更するときは、手順 3 から操作します。

9. ［閉じる］を 2 回押します。

送信待機文書の SMTP サーバー経由の設定を変更する

インターネットファクスまたはメール送信時に、SMTP サーバーを経由しないで送信するかどうかの設定を変更します。

1. [送受信確認/印刷] を押します。

2. [送信文書確認／中止] を押します。
3. SMTP サーバー経由を変更する文書を押します。
4. [内容確認／変更] を押します。
5. [変更] を押します。
6. [SMTP 選択] を押します。
7. [経由する] または [経由しない] を選択し、[OK] を押します。
8. [OK] を押します。
9. [閉じる] を押します。

   続けて SMTP サーバー経由を変更するときは、手順 3 から操作します。
10. [閉じる] を 2 回押します。

5

送信待機文書を印刷する

まだ送信されていない文書を手動で印刷します。文書の内容を確認するときに便利です。不達文書も印刷できます。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［送信文書確認／中止］を押します。
3. 印刷する文書を押します。

   複数の相手先を指定した文書には、未送信の相手先件数だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。

4. ［文書印刷］を押します。

   両面印刷をするときは［両面に印刷する］を押します。

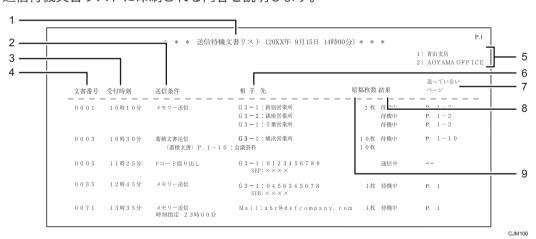
5. ［スタート］キーを押します。

   続けて文書を印刷するときは、手順 3 から操作します。

6. ［閉じる］を 2 回押します。

5

送信待機文書リストを印刷する

送信待機文書リストを印刷します。メモリーに蓄積されている文書を確認できます。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［送信文書確認／中止］を押します。
3. ［リスト印刷］を押します。
4. ［スタート］キーを押します。
5. ［閉じる］を 2 回押します。

送信待機文書リスト

送信待機文書リストに印刷される内容を説明します。

1. 印刷日時

   リストを印刷した日付と時間が記載されます。

2. 送信条件

   通信の種類、ユーザー名称などが記載されます。

3. 受付時刻

文書を受け付けた（メモリーに蓄積した）時刻です。

4. 文書番号

文書の管理番号です。

5. 発信元名称（印字用）登録内容

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

6. 相手先

- ファクス宛先のとき

  テンキーで入力したファクス番号またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

  G4 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」のいずれかで記載されます。

  増設 G3 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3-3」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

  F コード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているとき：F コード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを印字します。

- メール宛先またはインターネットファクス宛先のとき

  「Mail」のあとに、直接入力したメールアドレスまたはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

- IP-ファクス宛先のとき

  「IP-FAX」のあとに、直接入力した IP アドレスまたはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

- フォルダー宛先のとき

  「フォルダー」のあとに、アドレス帳に登録されている名称が記載されます。

7. 送っていないページ

メモリー送信のとき送っていないページが記載されます。999 枚を超えると「＊＊＊枚」と記載されます。

8. 結果

送信の結果が記載されます。

- OK

  全ページ正しく送信できました。

- エラー

  正しく送信できませんでした。

- --

  本機に登録されているメールサーバーまでインターネットファクスまたはメールが送信されました（相手先までメールが到達したことを示すものではありません）。

- 送信中

  送信中です。

- 通信中

  受信中です。（F コード取り出しのとき）

5

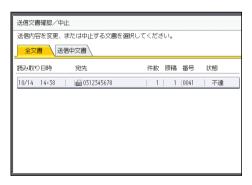
- 待機中

  通信待機中です。

9. 原稿枚数

蓄積した原稿の枚数です。

不達文書を送り直す

メモリー送信できなかった文書は、ファクスのメモリーに蓄積されています。その文書をもう一度送信します。

あらかじめ、［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 24 ビット 0）で「送信できなかった文書をメモリーに保持するかどうか」を「ON（保持する）」に設定しておきます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［送信文書確認／中止］を押します。

3. 送り直す文書を押します。

   送信できなかった文書は「不達」と表示されています。

   複数の相手先を指定した文書には、最初に指定した相手先が表示されています。また、未送信の相手先件数だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。

4. ［不達文書の再送信］を押します。

   宛先を追加するときは、［宛先追加］を押して指定します。

5. ［OK］を押します。

   続けてほかの不達文書を送り直すときは、手順 3 から操作します。

6. ［閉じる］を 2 回押します。

送信結果を確認する

送信の結果を画面、レポート、またはメールで確認します。

送信結果を画面で確認する

本機のファクス機能からの送信結果を表示します。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［送信結果表示］を押します。
3. 送信結果を確認します。

   ファクスで送信したときの宛先には、発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が表示されます。

   インターネットファクスまたはメールで送信したときの宛先には、入力したメールアドレスまたはアドレス帳に登録されている名称が表示されます。

4. ［閉じる］を 2 回押します。

補足

- 最新の通信結果から送信結果だけを表示します。本機で確認できる通信結果の最大件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- 「送信結果表示」を表示している間に終了した送信の結果は表示されません。「送信結果表示」をいったん終了し、もう一度操作し直してください。
- パソコンからファクス送信したときは、本機への通信結果として「--PC ファクス-->」と表示されます。相手先への送信結果は、同じ文書番号の送信結果を確認してください。
- 暗号化して転送または配信したメールの欄には、暗号化を示すマークが表示されます。
- セキュリティーの設定によっては、宛先が「*」で表示されることがあります。

送信結果をレポートで確認する

本機でレポートを印刷し、送信結果を確認できます。

メモリー送信時

「通信結果レポート」で確認します。

「通信結果レポート」は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 03 ビット 0）を「印刷する」に設定すると、メモリー送信が終了するたびに自動的に印刷されます。

「通信結果レポート」を印刷しない設定にしているときは、送信できなかった相手先があると「不達レポート」を印刷します。

レポートに印字される内容については P.169「通信結果レポート」および P.173「不達レポート」を参照してください。

直接送信時

「直接送信結果レポート」で確認します。

「直接送信結果レポート」は［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 03 ビット 5）を「印刷する」に設定すると、直接送信が終了するたびに自動的に印刷されます。

このレポートを印刷しないように設定しているときは、送信できなかった相手先があると「エラーレポート」を印刷します。

レポートに印字される内容については P.171「直接送信結果レポート」を参照してください。

［パラメーター設定］については、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

送信結果をメールで確認する

「送信結果メール通知」機能で各種レポートの内容をメールで送信し、パソコンで確認します。

送信されるレポートは以下のとおりです。

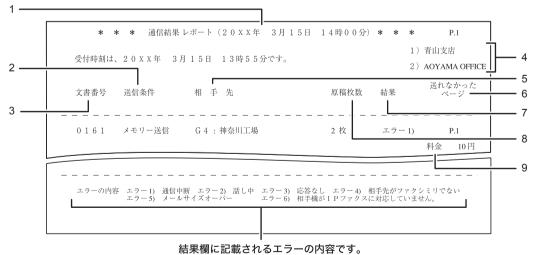
- 通信結果レポート
- 直接送信結果レポート
- F コード取り出し結果

［送信結果メール通知］の設定方法は、P.103「送信結果をメールで確認する」を参照してください。

あらかじめ、アドレス帳に通知先のメールアドレスを登録しておきます。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

補足

- レポートの内容について詳しくは、P.91「F コード取り出し結果レポート」、P.169「通信結果レポート」、および P.171「直接送信結果レポート」を参照してください。
- レポートをメールで確認するとき、文字の桁がずれないように表示するには、パソコンのメールソフトの設定でフォントを等幅フォントに設定してください。
- 送信時に送信者を指定すると、送信者のメールアドレスに送信結果をメールで通知します。送信者はアドレス帳に登録されているインターネットファクス宛先またはメール宛先の中から選択します。

送信結果をレポートとメールで確認する

送信結果をメールで通知する「送信結果メール通知」機能と、メモリー送信の結果を本機から出力する「通信結果レポート」機能を併用して確認します。

「送信結果メール通知」と「通信結果レポート」を併用するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 10 ビット 6）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

通信結果レポート

メモリー送信が終わると印刷されます。メモリー送信の結果を確認できます。

このレポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 03 ビット 0）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. **印刷日時**

   レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **送信条件**

   「メモリー送信」「PC ファクス送信」「蓄積文書送信」のいずれかとユーザー名称などが記載されます。

   「蓄積文書送信」のときは、文書の種類、ページ番号、文書名が記載されます。

3. **文書番号**

   文書の管理番号です。

4. **発信元名称（印字用）登録内容**

   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

5. **相手先**

   - ファクス宛先のとき

     テンキーで入力したファクス番号またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

     G4 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」のいずれかで記載されます。

     増設 G3 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3-3」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

     F コード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているとき：F コード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを印字します。

   - メール宛先またはインターネットファクス宛先のとき

     「Mail」のあとに、入力したメールアドレスまたはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

   - IP-ファクス宛先のとき

     「IP-FAX」のあとに、入力した IP-ファクス宛先またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

   - フォルダー宛先のとき

     「フォルダー」のあとに、アドレス帳に登録されている名称が記載されます。

6. **送れなかったページ**

   相手先に送信できなかったページが記載されます。

7. **結果**

   送信の結果が記載されます。

   - OK

     全ページ正しく送信できました。

   - エラー

     正しく送信できませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容（送信できなかった理由）を示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。

     エラー 1）通信中断：ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が途中で中断されました。

エラー 2）話し中：相手先が話し中でした。

エラー 3）応答なし：呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。

エラー 4）相手先がファクシミリでない：相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。ダイヤルは 2 回で中止します。

エラー 5）メールサイズオーバー：本機に設定されている上限のメールサイズを超えたため、インターネットファクス送信が中断されました。

エラー 6）相手機が IP ファクスに対応していません。：相手先がアナログ回線と接続したファクスや IP 電話などで、次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスに対応していませんでした。

- --

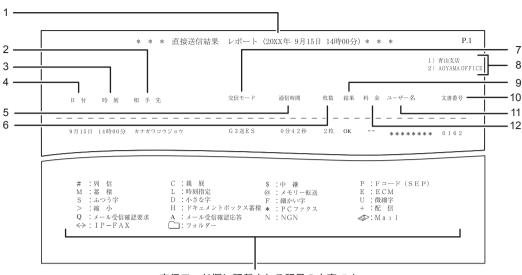
  本機に登録されているメールサーバーまでインターネットファクスまたはメールが送信されました（相手先までメールが到達したことを示すものではありません）。

8. 原稿枚数

送信した枚数が記載されます。

9. 料金

G4 または I-G3 を使用した送信の通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4 ユニットを装着しているときです。ただし、通信料金が 64999 円を超えると「＊＊＊＊＊＊円」と記載されます。

海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

補足

- 複数の相手先を指定したときは、すべての相手先への送信が終わってから印刷されます。

直接送信結果レポート

指定した相手先への送信が終わると印刷されます。直接送信の結果を確認できます。

このレポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 03 ビット 5）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. 印刷日時

レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. 相手先

相手先に発信元名称（表示用）が登録されているとき：発信元名称（表示用）が記載されます。

発信元名称（表示用）がなく発信元ファクス番号が登録されているとき：発信元ファクス番号が記載されます。

発信元ファクス番号もないとき：入力したファクス番号またはアドレス帳の名称が記載されます。

3. 時刻

送信を開始した時刻です。

4. 日付

送信した月日です。

5. 通信時間

送信にかかった時間です。

6. 枚数

送信した枚数です。

7. 交信モード

送信を表す「送」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。

8. 発信元名称（印字用）登録内容

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

9. 結果

送信の結果が記載されます。

- OK

全ページ正しく送信できました。

- エラー

  正しく送信できませんでした。

10. 文書番号

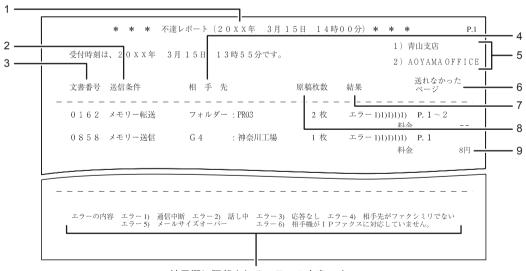
文書の管理番号です。

11. ユーザー名

ユーザー名称が記載されます。

12. 料金

G4 または I-G3 を使用した送信の通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4 ユニットを装着しているときです。ただし、通信料金が 9999 円を超えると、それ以上の通信料金がかかったときでも「9999 円」と記載されます。

海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

不達レポート

メモリー送信できなかった相手先があると印刷されます。送信できなかった相手先を確認できます。

不達レポートは、通信結果レポートを自動的に印刷しないように設定していて送信できなかった相手先があるときだけ、自動的に印刷されます。通信結果レポートを印刷するように設定しているとき、不達レポートは印刷されません。

不達レポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 04 ビット 1）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. **印刷日時**

   レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **送信条件**

   「メモリー送信」「メモリー転送」「蓄積文書送信」「PC ファクス送信」「配信」のいずれかとユーザー名称などが記載されます。

3. **文書番号**

   文書の管理番号です。

4. **相手先**

   - ファクス宛先のとき

     送信できなかった相手先が記載されます。

     テンキーで入力したファクス番号またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

     G4 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」のいずれかで記載されます。

     増設 G3 ユニットを装着しているとき：回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3-3」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

     F コード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているとき：F コード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを印字します。

   - メール宛先またはインターネットファクス宛先のとき

     送信できなかった相手先が記載されます。

     「Mail」のあとに、入力したメールアドレスまたはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

   - IP-ファクス宛先のとき

     送信できなかった相手先が記載されます。

     「IP-FAX」のあとに、入力した IP-ファクス宛先またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。

   - フォルダー宛先のとき

     送信できなかった相手先が記載されます。「フォルダー」のあとに、アドレス帳に登録されている名称が記載されます。

5. **発信元名称（印字用）登録内容**

   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

6. **送れなかったページ**

   相手先に送信できなかったページが記載されます。

7. **結果**

   送信の結果が記載されます。

   - エラー

     正しく送信できませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容（送信できなかった理由）を示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。

エラー 1）通信中断：ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が途中で中断されました。

エラー 2）話し中：相手先が話し中でした。

エラー 3）応答なし：呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。

エラー 4）相手先がファクシミリでない：相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。ダイヤルは 2 回で中止します。

エラー 5）メールサイズオーバー：本機に設定されている上限のメールサイズを超えたため、インターネットファクス送信が中断されました。

エラー 6）相手機が IP ファクスに対応していません。：相手先がアナログ回線と接続したファクスや IP 電話などで、次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスに対応していませんでした。

- 未登録宛先

  転送先が登録されていないため、正しく送信できませんでした。

- 無効宛先

  登録されている宛先数が最大値を超えているグループを指定したとき、またはファクス番号が正しくないときに記載されます。

  グループを指定しているときはアドレス帳で件数を確認してください。

  文書は送信されていませんので、送り直してください。

- --

  本機に登録されているメールサーバーまでインターネットファクスまたはメールが送信されました（相手先までメールが到達したことを示すものではありません）。

8. 原稿枚数

原稿の総ページ数です。

9. 料金

G4 または I-G3 を使用した送信の通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4 ユニットを装着しているときです。ただし、通信料金が 64999 円を超えると「＊＊＊＊＊＊円」と記載されます。

海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

受信結果を確認する

受信結果を画面またはレポートで確認します。

受信結果を画面で確認する

本機のファクス機能で受信した結果を表示します。

1. [送受信確認/印刷] を押します。

2. [受信結果表示] を押します。

3. 受信結果を確認します。

ファクスまたは IP-ファクスで受信したときの送信元には、あらかじめ登録された発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が表示されます。

インターネットファクスで受信したときの送信元には、送信元のメールアドレスが表示されます。

4. [閉じる] を 2 回押します。

- 最新の通信結果から受信結果だけを表示します。本機で確認できる通信結果の最大件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- 「受信結果表示」を表示している間に終了した受信の結果は表示されません。「受信結果表示」をいったん終了し、もう一度操作し直してください。

受信結果をレポートで確認する

最新の受信結果を、通信管理レポートを出力して確認できます。

詳しくは P.182「通信管理レポート」を参照してください。

自動出力動作の設定を確認する

自動出力動作の設定を確認する

現在の受信文書の出力方法（印刷、印刷待機、メモリー転送、蓄積など）を回線ごとに確認できます。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［自動出力動作設定を確認］を押します。
3. 設定を確認します。
4. ［閉じる］を 2 回押します。

補足

- 出力方法は［出力切替タイマー設定］の［出力設定］と機器全体の設定によって決まります。詳しくは、P.178「出力切替タイマー設定期間中に受信文書に適用される出力方法」を参照してください。

受信文書の出力動作の種類

受信文書の出力動作は、［ファクス初期設定］の［受信文書設定］で以下の 5 種類を設定できます。

- 蓄積
- メモリー転送
- 印刷
- 印刷待機（自動印刷禁止）

  受信文書は印刷待機します。印刷待機文書は、［待機文書を印刷］を押し、印刷します。
- ID 入力印刷（封筒受信機能の封筒 ID または出力切替タイマー設定機能の印刷 ID）

受信文書は、登録した封筒 ID または印刷 ID を入力し、印刷します。

設定には、受信文書すべてを対象とした設定と、個別の期間および受信回線ごとの設定があります。

- 受信文書すべてを対象とした設定

  [蓄積]、[メモリー転送]、[印刷]、[自動印刷禁止設定]、[封筒受信] で設定します。

- 個別の期間および受信回線ごとの設定

  [出力切替タイマー設定] で設定します。

各項目の設定方法は、P.263「受信文書設定」を参照してください。

そのほか、受信文書すべてを対象とした設定として、[受信文書設定] の 5 種類の出力動作のほかに、親展ボックスやダイヤルインサービスを利用する配信、回線別配信、SMTP 受信によるメールの配信もあります。設定方法は、P.132「受信文書の配信」、P.139「メールの SMTP 受信」、P.314「親展ボックスを登録／変更する」を参照してください。

5

出力切替タイマー設定期間中に受信文書に適用される出力方法

受信文書すべてに適用される出力動作（機器全体の設定）と異なる設定をタイマーで設定したときは、出力動作の種類により、優先される設定が異なります。詳しくは、以下の表を参照してください。

ファクス、IP-ファクス、インターネットファクスを受信したとき

機器全体の設定で、F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信、回線別配信、ダイヤルインルーティング、またはメモリー転送の機能を利用しているときは、出力切替タイマー設定の設定より機器全体の設定が優先されます。詳しくは、以下の表を参照してください。

機器全体の設定	出力切替タイマー設定の出力設定	適用される出力方法
印刷	印刷する	印刷
印刷	印刷待機	印刷待機
印刷	メモリー転送	メモリー転送（出力切替タイマー設定の出力設定で設定した転送先）
印刷	蓄積	蓄積
印刷	ID 入力印刷	出力切替タイマー設定の印刷 ID 入力で印刷
F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信	印刷する、印刷待機、メモリー転送、蓄積、ID 入力印刷	F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信

機器全体の設定	出力切替タイマー設定の出力設定	適用される出力方法
F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信＋印刷	印刷する	F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信＋印刷
F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信＋印刷	印刷待機、メモリー転送、蓄積	F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信＋印刷待機
F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信＋印刷	ID 入力印刷	F コード親展ボックスの配信先への配信、SMTP 受信によるメールの配信＋出力切替タイマー設定の印刷 ID 入力で印刷
回線別配信	印刷する、印刷待機、メモリー転送、蓄積、ID 入力印刷	回線別配信
ダイヤルインルーティング	印刷する、印刷待機、メモリー転送、蓄積、ID 入力印刷	ダイヤルインルーティング
蓄積	印刷する、印刷待機、メモリー転送、蓄積、ID 入力印刷	蓄積
蓄積＋印刷	印刷する	蓄積＋印刷
蓄積＋印刷	印刷待機、メモリー転送、蓄積	蓄積＋印刷待機
蓄積＋印刷	ID 入力印刷	蓄積＋出力切替タイマー設定の印刷 ID 入力で印刷
封筒受信	印刷する、印刷待機、メモリー転送、蓄積、ID 入力印刷	封筒受信の封筒 ID 入力で印刷
メモリー転送	印刷する、印刷待機、メモリー転送、蓄積、ID 入力印刷	メモリー転送（機器全体の転送先）
メモリー転送＋印刷	印刷する	メモリー転送（機器全体の転送先）＋印刷
メモリー転送＋印刷	印刷待機、メモリー転送、蓄積	メモリー転送（機器全体の転送先）＋印刷待機
メモリー転送＋印刷	ID 入力印刷	メモリー転送（機器全体の転送先）＋出力切替タイマー設定の印刷 ID 入力で印刷
メモリー転送＋蓄積	印刷する、印刷待機、メモリー転送、蓄積、ID 入力印刷	メモリー転送（機器全体の転送先）＋蓄積
メモリー転送＋蓄積＋印刷	印刷する	メモリー転送（機器全体の転送先）＋蓄積＋印刷

機器全体の設定	出力切替タイマー設定の出力設定	適用される出力方法
メモリー転送＋蓄積＋印刷	印刷待機、メモリー転送、蓄積	メモリー転送（機器全体の転送先）＋蓄積＋印刷待機
メモリー転送＋蓄積＋印刷	ID 入力印刷	メモリー転送（機器全体の転送先）＋蓄積＋出力切替タイマー設定の印刷 ID 入力で印刷

Mail to Print でメールを受信したとき、レポートを自動で印刷するように設定しているとき

レポートを自動で印刷するように設定しているときも、[出力切替タイマー設定] の [出力設定] にしたがって印刷します。

出力切替タイマー設定の出力設定	適用される出力方法
印刷する	印刷
印刷待機、メモリー転送、蓄積	印刷待機
ID 入力印刷	出力切替タイマー設定の印刷 ID 入力で印刷

補足

- 自動で印刷するように設定しているレポートは、[出力切替タイマー設定] の [基本設定] で [出力設定] を [印刷する] 以外に設定していると、印刷されません。レポートの自動印刷を制限せず、受信文書の印刷だけを制限するには、[基本設定] を [設定しない] に設定して、回線ごとの [出力設定] で [印刷する] 以外を選択します。
- レポートが自動で印刷されないと、本機が次のような状態になることがあります。このようなときは、[出力切替タイマー設定] の設定を確認して印刷の制限を解除するか、[待機文書を印刷] からレポートを手動で印刷してください。
    - メモリー残量が 100%未満になる。また、受信文書の数が上限に達する。

      通信履歴がいっぱいになると、設定によっては通信ができなくなります。
    - [パラメーター設定]（スイッチ 10 ビット 7）を「受信文書消去する」に設定していても、受信文書が消去されず、受信文書消去レポートも印刷されない。また、「受信文書印刷する」に設定していても、設定によっては文書が印刷されない。
    - F コード親展ボックス、F コード掲示板ボックス、F コード中継ボックスを変更または削除できなくなる。
- 手動で印刷するレポートやリスト、またはパソコンから受信した PC ファクスの文書は [出力切替タイマー設定] の設定にかかわらず、印刷されます。

通信管理レポートを印刷する

通信管理レポートを自動または手動で印刷します。

通信管理レポートを自動で印刷する

- **自動的に印刷された通信管理レポートに記載されている内容は、印刷したあと消去されます。過去の通信結果を管理するときは、自動的に印刷されたレポートを保管しておくことをお勧めします。**

50 通信ごとにこのレポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［通信管理レポート自動印刷］で設定できます。P.237「基本設定」を参照してください。

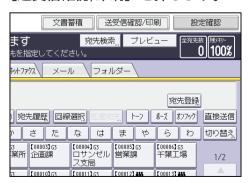
補足

- セキュリティーの設定によっては、レポートが自動で印刷されません。

通信管理レポートを手動で印刷する

通信管理レポートを手動で印刷するには、［通常印刷］、［文書番号別印刷］、［ユーザー別印刷］から印刷方法を選択します。

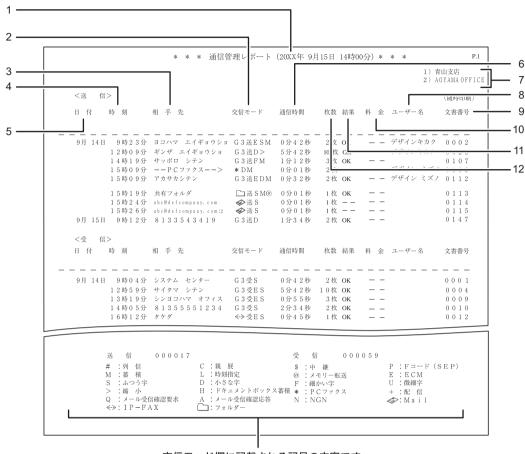
通常印刷

送受信された順番に、すべての通信結果を印刷します。

文書番号別印刷

指定した文書番号の通信結果を印刷します。

ユーザー別印刷

送信者ごとに通信結果を印刷します。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［通信管理レポート印刷］を押します。
3. 印刷方法を選択します。
4. 手順 3 で［文書番号別印刷］を選択したときは、文書番号（4 桁の数字）をテンキーで入力します。
5. 手順 3 で［ユーザー別印刷］を選択したときは、一覧からユーザーを選択し、［OK］を押します。
6. ［スタート］キーを押します。
7. ［閉じる］を 2 回押します。

補足

- 通信管理レポートに印刷される通信結果の件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

通信管理レポート

通信管理レポートに印字される項目について説明します。

1. 印刷日時

レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. 交信モード

- ファクス送受信のとき

  送信を表す「送」、受信を表す「受」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。

  G4 ユニット、増設 G3 ユニットを装着しているときは、回線の種類が「G31」「G32」「G33」「IG3」「G4」のいずれかで記載されます。

- メールまたはインターネットファクス送受信のとき

  （メールマーク）、送信を表す「送」、受信を表す「受」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。

  受信時の通信モードは、送信元がインターネットファクス宛先のときはインターネットファクスでの受信、メール宛先のときは Mail to Print での受信になります。

  「拡張送信」で受信確認を設定した送信メールには「Q」が記載されます。また、受信確認応答メールには「A」が記載されます。

- IP-ファクス送受信のとき

<->（IP-ファクスマーク)、送信を表す「送」、受信を表す「受」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。

- フォルダー送信のとき

（フォルダーマーク)、送信を表す「送」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。

3. 相手先

- ファクス宛先のとき

相手先に発信元名称（表示用）が登録されているとき：発信元名称（表示用）が記載されます。

発信元名称（表示用）がなく発信元ファクス番号が登録されているとき：その発信元ファクス番号が記載されます。相手機の設定によっては、ファクス番号が記載されないこともあります。

発信元名称（表示用）も発信元ファクス番号もないとき：送信時は入力したファクス番号またはアドレス帳に登録されている名称が記載されますが、受信時は何も記載されません。

- メール宛先またはインターネットファクス宛先のとき

送信時は、入力したメールアドレスまたはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。受信時は、送信者のメールアドレス（インターネットファクス宛先）が記載されます。

同報送信のときは、メールアドレスまたは相手先名称に続けて、同報送信の宛先件数が記載されます。

相手先の欄に「--PC ファクス-->」と表示されたときの通信結果は、PC から本機への通信結果を示します。相手先への通信結果を確認するときは、同じ文書番号で相手先の欄に送信した相手先が表示されている行の結果欄を確認してください。

- IP-ファクス宛先のとき

送信時は、入力した IP-ファクス宛先またはアドレス帳に登録されている名称が記載されます。受信時は、ファクス宛先と同様の記載となります。

- フォルダー宛先のとき

アドレス帳に登録されている名称が記載されます。

4. 時刻

送受信を開始した時刻です。

5. 日付

送受信した月日です。

6. 通信時間

送受信にかかった時間です。99 分 59 秒を超えると、「＊＊＊＊分秒」と記載されます。

7. 発信元名称（印字用）登録内容

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

8. ユーザー名

送信者名が記載されます。

9. 文書番号

文書の管理番号です。

10. 料金

G4 または I-G3 を使用した送信の通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4 ユニットを装着しているときです。ただし、通信料金が 9999 円を超えると、それ以上の通信料金がかかったときでも「9999 円」と記載されます。

海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

11. 結果

送受信の結果が記載されます。

- OK

  全ページ正しく送受信できました。インターネットファクスまたはメールの送信時に「拡張送信」の受信確認を設定したときは、受信確認の応答メールを受信したことを示します。

  受信配信のときは、「+」が記載されます。

- エラー

  正しく送受信できませんでした。

- --

  本機に登録されているメールサーバーまでインターネットファクスまたはメールが送信されました（相手先までメールが到達したことを示すものではありません）。

  PC ファクスのときはパソコンから本機までの通信結果です。

- 電源断

  交信中に電源が切れました。一部原稿が送信されていません。

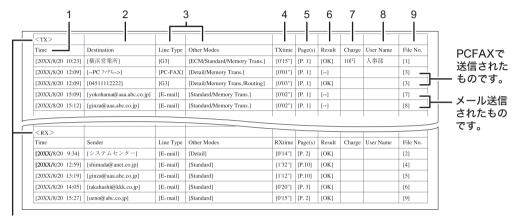
12. 枚数

送受信した枚数です。999 枚を超えると、「＊＊＊枚」と記載されます。

補足

- Mail to Print で受信したときは、実際の受信枚数および線密度にかかわらず、「枚数」の欄には「1 枚」、「交信モード」の欄にはふつう字を表す「S」が印字されます。本機で印刷できない形式のファイルを受信したときは、「結果」の欄に「エラー」と印字されます。
- 通信レポートの「相手先」は、入力したファクス番号やアドレス帳に登録されている名称が、発信元名称などに優先して印字されるように設定できます。印字される内容の優先順位を変更するときは、サービス実施店に問い合わせてください。

通信管理情報のメール送信

通信管理情報を、管理者のメールアドレスにメールで送信します。

50 通信ごとに自動的に送信します。通信管理情報は、CSV 形式のファイルとしてメールに添付されます。

通信管理情報をメールで送信するときは、［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 21 ビット 4）で「通信管理情報をメールで送信するかどうか」を「送信する」に設定します。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

重要

- 送信された CSV ファイルは本機には残りません。管理者メールアドレスの設定に誤りがあると、大切な通信管理情報が失われることがあります。通信管理情報のメール送信機能を利用するときは、管理者メールアドレスの設定を再度確認することをお勧めします。

通信管理情報の CSV ファイルのフォーマット

<TX>

Time	Destination	Line Type	Other Modes	TXtime	Page(s)	Result	Charge	User Name	File No.
[20XX/8/20 10:23]	[横浜営業所]	[G3]	[ECM/Standard/Memory Trans.]	[0'15"]	[P. 1]	[OK]	10円	人事部	[1]
[20XX/8/20 12:09]	[--PC ﾌｧｸｽ-->]	[PC-FAX]	[Detail/Memory Trans.]	[0'01"]	[P. 1]	[--]			[3]
[20XX/8/20 12:09]	[04511112222]	[G3]	[Detail/Memory Trans./Routing]	[0'03"]	[P. 1]	[OK]			[3]
[20XX/8/20 15:09]	[yokohama@aaa.abc.co.jp]	[E-mail]	[Standard/Memory Trans.]	[0'02"]	[P. 1]	[--]			[7]
[20XX/8/20 15:12]	[ginza@aaa.abc.co.jp]	[E-mail]	[Standard/Memory Trans.]	[0'02"]	[P. 1]	[--]			[8]

<RX>

Time	Sender	Line Type	Other Modes	RXtime	Page(s)	Result	Charge	User Name	File No.
[20XX/8/20 9:34]	[システムセンター]	[E-mail]	[Detail]	[0'14"]	[P. 2]	[OK]			[2]
[20XX/8/20 12:59]	[shimada@anet.co.jp]	[E-mail]	[Standard]	[1'32"]	[P.10]	[OK]			[4]
[20XX/8/20 13:19]	[ginza@aaa.abc.co.jp]	[E-mail]	[Standard]	[1'12"]	[P.10]	[OK]			[5]
[20XX/8/20 14:05]	[takahashi@kkk.co.jp]	[E-mail]	[Standard]	[0'20"]	[P. 3]	[OK]			[6]
[20XX/8/20 15:27]	[ueno@abc.co.jp]	[E-mail]	[Standard]	[0'15"]	[P. 2]	[OK]			[9]

送信（TX）と受信（RX）に分けて記載されます。

CJM111

1. **時刻（Time）**

    通信が開始された時刻が記載されます。

2. **相手先名称（Destination/Sender）**

    通信した相手先名称が記載されます。

3. **通信モード（Line Type/Other Modes）**

    回線の種類や通信モードが記載されます。

4. **通信時間（TXtime/RXtime）**

    送信、受信にかかった時間です。99 分 59 秒を超えると、「＊＊＊＊”」と記載されます。

5. **枚数（Page(s)）**

    送信、受信した枚数です。999 枚を超えると「P. ＊＊＊」と記載されます。

6. **結果（Result）**

    送信、受信の結果が記載されます。

    - OK

        全ページ正しく送受信できました。インターネットファクスまたはメール送信で「拡張送信」の受信確認を設定したときは、受信確認の応答メールを受信したことを示します。

    - E

        正しく送受信できませんでした。メールが正常に受信されなかったときの受信確認応答メールにも表示されます。

    - --

本機に登録されているメールサーバーまでインターネットファクスまたはメールが送信されました（相手先までメールが到達したことを示すものではありません）。

- D

  交信中に電源が切れました。原稿の一部が送信されていません。

7. 料金（Charge）

G4 または I-G3 を使用した送信の通信料金が記載されます。

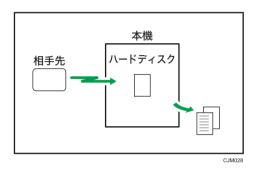
記載されるのは G4 ユニットを装着しているときです。ただし、通信料金が 9999 円を超えると、それ以上の通信料金がかかったときでも「9999 円」と記載されます。

8. ユーザー名（User Name）

ユーザー名称が記載されます。

9. 文書番号（File No.）

文書の管理番号です。

補足

- 管理者メールアドレスが間違っていると、通信管理情報を入手できなくなることがあります。
- 通信管理情報のメールが送信できなかったときは、通信管理レポートが出力されます。
- 添付される CSV 形式のファイルには、「JOURNAL+年月日時分.csv」の形式でファイル名が付けられます。たとえば、送信する日時が 20XX 年 8 月 20 日 14 時 40 分のときのファイル名は「JOURNAL20XX08201440.csv」になります。
- 通信管理情報のメールには、「通信管理」で始まる件名が付けられます。
- 管理者メールアドレスは［システム初期設定］の［管理者メールアドレス］で確認できます。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

蓄積受信文書を確認／印刷／消去する

受信したファクス文書をハードディスクに蓄積しておき、必要に応じて印刷します。必要ないファクス文書は消去します。

あらかじめ、[受信文書設定] の [蓄積] を [する] に設定しておきます。設定方法は、P.263「受信文書設定」を参照してください。

受信文書を蓄積するよう設定し、通知先を設定しているときは、ファクス文書を受信したことをメールで通知できます。

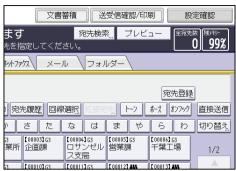
本機でセキュリティー機能が設定されているときは、管理者として指定されたユーザーだけが、蓄積受信文書を確認、印刷、消去できます。管理者が文書の内容を確認し、ほかのユーザーに配布します。蓄積受信文書を管理するユーザーを指定するときは、P.276「蓄積受信文書ユーザー設定」を参照してください。

補足

- 蓄積受信文書はドキュメントボックス機能では使用できません。
- 蓄積受信文書は Web Image Monitor から内容を確認したり印刷したりできます。詳しくは P.230「Web Image Monitor からファクス蓄積受信文書を確認／印刷／削除する」を参照してください。
- 蓄積受信文書を操作部から印刷したり消去する操作を制限できます。制限するには、[パラメーター設定]（スイッチ 10 ビット 0）で「制限する」を選択します。制限しているときは、[蓄積受信文書印刷／消去] は画面に表示されず、操作部から蓄積受信文書を操作できません。[パラメーター設定] については、P.283「パラメーター設定」を参照してください。
- 次の項目の最大値については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
    - ハードディスクに蓄積できる受信文書の件数
    - メモリーに蓄積できる文書の枚数
- 蓄積した文書は、蓄積受信文書として管理されます。「蓄積文書指定」を使用した送信はできません。
- 親展受信した文書は親展ボックスに保存されます。

蓄積受信文書を確認する

ハードディスクに蓄積された受信文書を確認します。

1. [送受信確認/印刷］を押します。

2. [蓄積受信文書印刷／消去］を押します。
3. 確認する文書を選択します。

   サムネールのキーを押すと、サムネール表示に切り替わります。
4. [プレビュー］を押します。
5. プレビューを確認します。
   - [縮小表示］または［拡大表示］を押すと、文書を縮小または拡大して表示できます。
   - [←］［→］［↑］［↓］を押すと、表示する部分を移動できます。
   - [表示文書切り替え］を押すと、選択した別の文書を表示できます。
   - [表示ページ切り替え］を押すと、表示するページを切り替えられます。
6. [閉じる］を 3 回押します。

- 受信した文書のサイズ（原稿の横の長さ）が A3（420mm）を超える原稿を蓄積受信したときは、プレビューでは 1 枚で表示されますが、実際の印刷では画像は分割されます。

蓄積受信文書を印刷する

ハードディスクに蓄積された受信文書を印刷します。

1. [送受信確認/印刷] を押します。

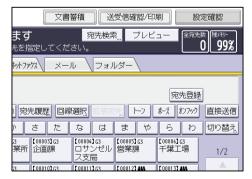
2. [蓄積受信文書印刷／消去] を押します。

3. 印刷する文書を選択し、[文書印刷] を押します。

複数の文書を指定して印刷できます。

印刷したあとに文書を消去するときは [印刷後消去する] を押します。

両面印刷をするときは [両面に印刷する] を押します。

4. [スタート] キーを押します。

5. [閉じる] を 2 回押します。

補足

- 一度に印刷できる最大件数については P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

蓄積受信文書を消去する

ハードディスクに蓄積された受信文書を消去します。

1. [送受信確認/印刷] を押します。

2. [蓄積受信文書印刷／消去] を押します。

3. 消去する文書を選択し、［文書消去］を押します。

複数の文書を指定して消去できます。

4. ［消去する］を押します。

5. ［閉じる］を 2 回押します。

補足

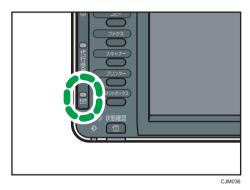
- Web Image Monitor からほかの人が同じ文書を印刷しているときは消去できません。
- 一度に消去できる最大件数については P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

封筒受信した文書を印刷する

封筒受信すると親展受信ランプ（📩）が点滅します。封筒受信を設定しておくと、受信した文書はメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。あらかじめ登録しておいた封筒 ID を入力して印刷します。

封筒 ID を知らない人は印刷できないので、内容を他人に見られずにすみます。

［ファクス初期設定］であらかじめ以下の準備が必要です。

- ［封筒 ID 登録］で封筒 ID を登録する
- ［受信文書設定］で封筒受信の機能を［する］に設定する

封筒 ID の登録方法は、P.252「導入設定」を参照してください。

封筒受信の設定方法は、P.263「受信文書設定」を参照してください。

封筒受信した文書は印刷すると消去されます。

重要

- **停電時や電源コンセントを抜いたときそのまま約 1 時間経過すると、封筒受信した文書はすべて消去されます。消去された文書は「電源断レポート」で確認します。『こまったときには』「電源を切る／切れたとき」を参照してください。**

1. 親展受信ランプが点滅していることを確認します。

CJM036

2. ［送受信確認/印刷］を押します。

3.［封筒受信文書印刷］を押します。

4. 封筒 ID（4 桁の数字）をテンキーで入力し、［スタート］キーを押します。

封筒 ID が一致しないときは「指定したコードは登録されている封筒 ID と一致しません。」と表示されます。［確認］を押して操作を終了し、封筒 ID を確認してからもう一度操作し直してください。

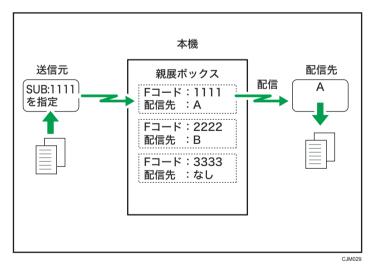
5.［閉じる］を押します。

補足

- 封筒受信の機能が有効になっているとき、文書を蓄積するメモリーの残量が少ないと、受信できなくなります。
- 特定の相手先から受信した文書だけの封筒受信もできます。
- F コード取り出し文書は封筒受信の対象とはならず、受信したあと自動的に印刷されます。
- ［受信文書印刷部数］が 2 部以上に設定されていても、封筒受信して印刷される文書は 1 部だけです。

F コード親展ボックスを使用する

F コード親展ボックスを利用して、相手先から親展送信された文書を受信します。

親展ボックスとは

本機を利用者や部門ごとの私書箱のように利用するときに設定します。

親展ボックスを設定すると、送信文書を他人に見られることなく受信できます。また、親展ボックスに配信先を登録しておくと、受信した文書を自動的に配信先に送信します。配信先としてファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先またはフォルダー宛先を指定できます。

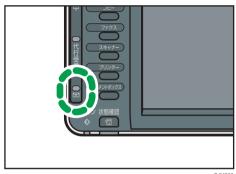
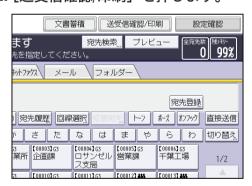
親展ボックスにファクスを受信するには、親展ボックスに登録した F コード（SUB）を送信元に伝え、登録した F コード（SUB）と一致する F コード（SUB）を付けて文書を送信してもらいます。文書を受信すると親展受信ランプが点灯し、親展通知レポートが印刷されます。

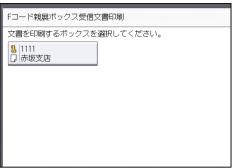
親展ボックスに配信先を登録していないときは、受信した文書を印刷させます。印刷方法は、P.195「親展ボックスの受信文書を印刷する」を参照してください。

印刷や配信が終わると、親展ボックスに受信した文書は消去されます。

重要

- **停電時や電源コンセントを抜いたときそのまま約 1 時間経過すると、親展ボックスに受信した文書はすべて消去されます。消去された文書は「電源断レポート」で確認します。『こまったときには』「電源を切る／切れたとき」を参照してください。**

この機能を使用するには、あらかじめ［ファクス初期設定］の［F コードボックス設定］で親展ボックスを登録しておきます。親展ボックスにはパスワードを設定できます。登録方法は、P.314「F コードボックス設定」を参照してください。

補足

- 配信先に送信される文書には発信元名称（印字用）は付加されません。
- 配信ができなかったときは、不達レポートを印刷し、親展受信文書として保存されます。

親展ボックスの受信文書を印刷する

1. 親展受信ランプが点灯していることを確認します。

2. ［送受信確認/印刷］を押します。

3. ［F コード親展ボックス受信文書印刷］を押します。

4. **印刷する文書のボックスを押します。**

5. **パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、［実行］を押します。**

6. **［スタート］キーを押します。**

続けて別の親展ボックスの文書を印刷するときは、手順 4 から操作します。

7. **［閉じる］を 2 回押します。**

親展通知レポート

F コード親展ボックスに文書を受信したことを確認できます。

このレポートを自動的に印刷するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 04 ビット 0）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

1. **印刷日時**

   レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **受信時刻**

   親展受信した時刻が記載されます。

3. **相手先**

   相手先の発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が記載されます。

4. 受信枚数

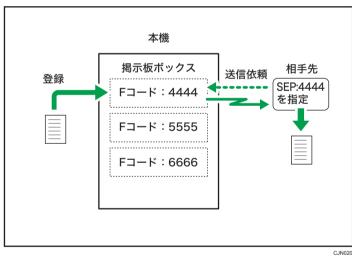
親展受信した枚数です。

5. 発信元名称（印字用）登録内容

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

F コード掲示板ボックスを使用する

F コード掲示板ボックスに文書を登録し、相手先の送信依頼を待ちます。

掲示板ボックスとは

本機を掲示板として利用するとき、掲示する文書ごとに設定します。

掲示板ボックスに文書を登録し、相手先からの送信依頼を待ちます。相手先から送信依頼があると、相手先からの F コード（SEP）と掲示板ボックスに登録した F コード（SEP）を比較し、一致すると相手先に文書を送信します。

相手は必要に応じて都合のよい時間に文書を受信できます。

掲示板ボックスに文書を登録する方法は、P.199「掲示板ボックスに文書を登録する」を参照してください。

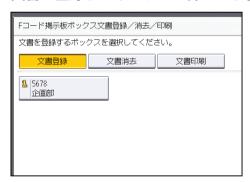
相手先には、掲示板ボックスに登録した F コード（SEP）を相手先に伝えておきます。

重要

- **停電時や電源コンセントを抜いたときそのまま約 1 時間経過すると、掲示板ボックスに登録した文書はすべて消去されます。消去された文書は「電源断レポート」で確認します。『こまったときには』「電源を切る／切れたとき」を参照してください。**

この機能を使用するには、あらかじめ［ファクス初期設定］の［F コードボックス設定］で掲示板ボックスを登録しておきます。掲示板ボックスにはパスワードを設定できます。登録方法は、P.314「F コードボックス設定」を参照してください。

補足

- ［受信文書設定］の［出力切替タイマー設定］で、［基本設定］の［出力設定］を［印刷する］以外に設定しているときは、掲示板ボックスに文書を登録したり、登録した

文書を削除できないことがあります。[出力切替タイマー設定] の設定を確認してください。

掲示板ボックスに文書を登録する

1 個の掲示板ボックスに登録できる文書は 1 件です。

1. [送受信確認/印刷] を押します。

2. [F コード掲示板ボックス文書登録／消去／印刷] を押します。

3. 文書を登録するボックスを押します。

すでに登録された文書があるときは、ボックス名の前に文書を表すマークが表示されます。

文書が登録されているボックスを選択すると、メッセージが表示されます。文書を変更するときは [登録する] を押します。このとき、もともと登録されていた文書は上書きされます。

4. パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、[実行] を押します。

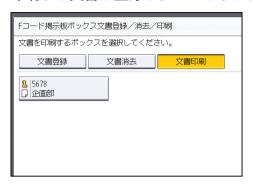
5. 登録する原稿をセットし、読み取り条件や原稿送りの設定を変更します。

6. ［スタート］キーを押します。

続けてほかのボックスに文書を登録するときは、手順 3 から操作します。

7. ［閉じる］を 2 回押します。

5

- 登録した文書は自動的には消去されません。登録済みの文書を消去するときは、P. 201「掲示板ボックスの文書を消去する」を参照してください。

掲示板ボックスの文書を印刷する

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［F コード掲示板ボックス文書登録／消去／印刷］を押します。

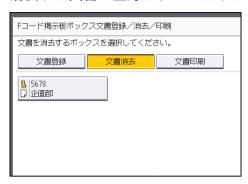
3. ［文書印刷］を押します。

4. 印刷する文書が登録されているボックスを押します。

5. パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、[実行]を押します。

6. [スタート]キーを押します。

   両面印刷をするときは、[両面に印刷する]を押します。

   ほかの掲示板ボックスに登録した文書を印刷するときは、手順 4 から繰り返します。

7. [閉じる]を 2 回押します。

掲示板ボックスの文書を消去する

1. [送受信確認/印刷]を押します。

2. [F コード掲示板ボックス文書登録／消去／印刷]を押します。

3. [文書消去]を押します。

4. 消去する文書が登録されているボックスを押します。

5. パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、［実行］を押します。

6. ［消去する］を押します。

   ほかの掲示板ボックスに登録した文書を消去するときは、手順 4 から繰り返します。

7. ［閉じる］を 2 回押します。

ID を入力して印刷待機文書を印刷する

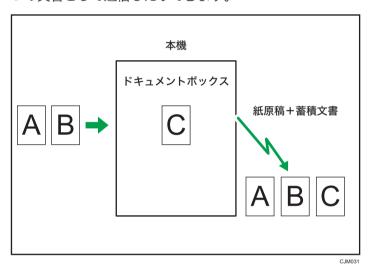
［出力切替タイマー設定］で［ID 入力印刷］を設定すると、受信した文書はメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。この文書は［ID 入力印刷］を設定した時間帯に限り、あらかじめ登録しておいた印刷 ID を入力して印刷します。

1. ［送受信確認/印刷］を押します。

2. ［ID 入力印刷文書を印刷］を押します。
3. 印刷 ID をテンキーで入力します。
4. ［スタート］キーを押します。
5. ［閉じる］を押します。

5

6. 送信文書を蓄積する

文書をドキュメントボックスに蓄積して管理する方法を説明します。

文書蓄積を利用する

送信文書をドキュメントボックスに蓄積して管理できます。

ドキュメントボックスに蓄積すると次の点で便利です。

- 一度蓄積しておくと、指定するだけで何回も送信できる
- 蓄積していてもファクスのメモリーを消費しない

蓄積した複数の文書を 1 つの文書として送信、印刷したり、読み取った原稿と合わせて 1 つの文書として送信したりできます。

重要

- **万一、本体のハードディスクに不具合が発生したときは、記録保存したデータが消失することがあります。ハードディスクを重要なデータの記録保存には使用しないことをお勧めします。お客様のデータの消失による損害につきましては、当社は一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**

ドキュメントボックスには、コピー機能、プリンター機能、およびスキャナー機能で読み取った文書も蓄積できます。ファクス機能から送信できるのは、ファクス機能で読み取って蓄積した文書だけです。ほかの機能で読み取った文書は、ファクス機能では利用できません。

補足

- 蓄積した文書は、停電のときや主電源を切ったときも消去されません。
- ドキュメントボックスに蓄積された文書は、一定日数が経過したあとに自動的に消去するかどうかを［システム初期設定］の［ドキュメントボックス蓄積文書自動消去］

6

で設定できます。工場出荷時は「3 日（文書を蓄積してから 72 時間）」経過したあとに消去するよう設定されています。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

- Web Image Monitor を使用して、ドキュメントボックスに蓄積した文書を送信、印刷、消去したり、パソコンにダウンロードして操作したりできます。また、文書の情報を変更できます。ダウンロード方法は、『コピー/ドキュメントボックス』「蓄積した文書を Web Image Monitor でダウンロードする」を参照してください。
- 以下の項目の最大値については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
    - ファクス機能を使用してドキュメントボックスに蓄積できる文書数
    - ドキュメントボックスに蓄積できる 1 文書あたりの枚数
    - ドキュメントボックスに蓄積できる文書の枚数（コピー機能、ファクス機能、プリンター機能、およびスキャナー機能の合計）

送信文書を蓄積する

ドキュメントボックスに文書を蓄積しながら送信します。送信しないで文書の蓄積だけすることもできます。

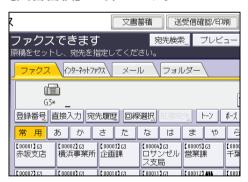
蓄積する文書に、必要に応じて次の情報を設定できます。

ユーザー名

蓄積した人や部門がわかるように設定します。アドレス帳から選択するか、アドレス帳に登録されていない名称を直接入力で指定します。

文書名

任意の文書名を指定できます。指定しないときは、「FAX0001」「FAX0002」という連番の文書名が自動的に付けられます。

パスワード

不特定の人に送信されないように、4〜8 桁の数字をパスワードとして設定します。

設定した文書情報は、蓄積したあとに変更できます。

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

[原稿セット方向]を正しく設定しないと、蓄積した原稿をプレビュー表示するとき、原稿の天地（上下）が正しく表示されません。

設定方法は、P.38「原稿セット方向を設定する」を参照してください。

2. [文書蓄積]を押します。

3. [蓄積+送信]または[蓄積のみ]を押します。

文書を蓄積してから送信するときは[蓄積+送信]を押します。

文書を蓄積するときは[蓄積のみ]を押します。

4. ユーザー名、文書名、パスワードを設定します。

- ユーザー名

  ［ユーザー名］を押し、一覧からユーザー名を選択します。アドレス帳に登録されていない名称を直接入力するときは、［登録外文字列］を押して入力します。指定したあと、［OK］を押します。

- 文書名

  ［文書名］を押し、文書名を入力して［OK］を押します。

- パスワード

  ［パスワード］を押し、パスワードをテンキーで入力して［OK］を押します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

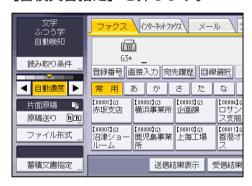
5. ［OK］を押します。

6. ［蓄積+送信］を選択したときは、相手先を指定します。

7. ［スタート］キーを押します。

補足

- セキュリティーの設定によっては、［ユーザー名］が［アクセス権］と表示されることがあります。［アクセス権］の設定手順は、P.218「アクセス権を設定して送信文書を蓄積する」を参照してください。
- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

蓄積した文書を送信する

ファクス機能からドキュメントボックスに蓄積した文書を送信します。

ドキュメントボックスに蓄積した文書は、消去するまで何回でも送信できます。

蓄積文書は、蓄積したときの読み取り条件で送信されます。

蓄積文書を送信するときは、次の機能は使用できません。

- 直接送信
- クイックメモリー送信
- オンフックダイヤル
- マニュアルダイヤル

1.［蓄積文書指定］を押します。

2. 送信する文書を選択します。

複数の文書を選択したときは、選択した順に送信されます。

- 文書を登録したユーザー名で並べるときは、［ユーザー名］を押します。
- 文書を名前の順番に並べるときは、［文書名］を押します。
- 文書を登録した月日順で並べるときは、［月日］を押します。
- 文書を送信する順番に並べるときは、［送信順］を押します。

選択した文書の情報を確認するときは［詳細］を押します。

サムネールのキーを押すとサムネール表示に切り替わります。

3. パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードをテンキーで入力して［実行］を押します。

4. 蓄積した文書に原稿を追加して送信するときは［紙原稿+蓄積文書］または［蓄積文書+紙原稿］を押します。

［紙原稿+蓄積文書］を指定すると、「原稿」→「蓄積した文書」の順に送信されます。
［蓄積文書+紙原稿］を指定すると、「蓄積した文書」→「原稿」の順に送信されます。

5.［OK］を押します。

6. 蓄積した文書に原稿を追加して送るときは、原稿をセットして、読み取り条件を選択します。

7. 相手先を指定し、[スタート]キーを押します。

- あとから追加した原稿は蓄積されません。
- 以下の項目の最大値については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
    - 一度に指定できる文書数
    - 一度の操作で送信できる原稿の枚数

蓄積した文書を「全文書表示」画面から検索する

1. 送信する文書を表示させます。

[▲]または[▼]を押して送信する文書を表示させます。

2. 送信する文書を押します。

蓄積した文書をユーザー名から検索する

ユーザー名は前方一致で検索されます。

1. [ユーザー名検索] を押します。

2. 送信する文書を登録したユーザー名を選択し、[OK] を押します。

   ユーザー名を入力して検索するときは [登録外文字列] を押したあと、ユーザー名を入力します。

3. 送信する文書を押します。

蓄積した文書を文書名から検索する

文書名は前方一致で検索されます。

1. [文書名検索] を押します。

2. 送信する文書の文書名を入力し、[OK] を押します。

3. 送信する文書を押します。

蓄積した文書の内容をプレビューで確認する

1. ［蓄積文書指定］を押します。

2. 確認する文書を選択します。

   サムネールのキーを押すと、サムネール表示に切り替わります。

3. パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードをテンキーで入力して［実行］を押します。
4. ［プレビュー］を押します。
5. プレビューを確認します。
   - ［縮小表示］または［拡大表示］を押すと、文書を縮小または拡大して表示できます。
   - ［←］［→］［↑］［↓］を押すと、表示する部分を移動できます。
   - ［表示文書切り替え］を押すと、選択した別の文書を表示できます。
   - ［表示ページ切り替え］を押すと、表示するページを切り替えられます。
6. ［閉じる］を押します。
7. ［OK］を押します。

補足

- 画像ファイルが壊れていたり、A3 より大きな原稿を蓄積したときはプレビュー表示されません。
- サイズ混載機能を使用しないでサイズの異なる複数ページの原稿を蓄積すると、2 ページ目以降の表示サイズが実際の用紙サイズと異なることがあります。

蓄積した文書を印刷する

ファクス機能からドキュメントボックスに蓄積した文書を印刷します。

印刷方法は次の 2 種類あります。

文書印刷

全ページ印刷します。

先頭ページ印刷

一番始めのページを印刷します。原稿の内容を確認するときなどに便利です。

先頭ページだけを印刷するときは、用紙の先端に文書名が印字されます。A4 サイズより大きい文書は A4 サイズに縮小して印刷します。

1. ［蓄積文書指定］を押します。

2. 印刷する文書を選択します。

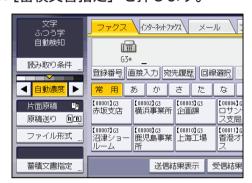
複数の文書を選択できます。

3. パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードをテンキーで入力して［実行］を押します。

4. ［文書印刷］または［先頭ページ印刷］を押します。

両面印刷をするときは、［両面に印刷する］を押します。

5. ［スタート］キーを押します。

6. ［解除］を押します。

補足

- 複数の文書を両面印刷するときは、文書ごとに両面印刷します。
- サイズ混載機能を使用しないで蓄積した原稿を印刷するとき、ファクス機能から印刷するときとドキュメントボックス機能から印刷するときでは、2 ページ目以降の用紙サイズが異なることがあります。
- 以下の項目の最大値については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
    - ［先頭ページ印刷］で印刷できる件数

- 一度に印刷できる件数

蓄積した文書の文書情報を変更する

蓄積されている文書の文書名、ユーザー名、パスワードを変更します。

1. ［蓄積文書指定］を押します。

2. ［蓄積文書管理／消去］を押します。
3. 変更する文書を選択します。
4. パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードをテンキーで入力して［実行］を押します。
5. 蓄積文書の情報を変更します。

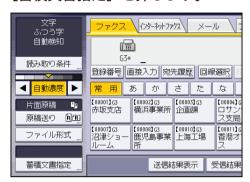
- ユーザー名

  ［ユーザー名変更］を押し、［クリア］を押してユーザー名を消去したあと、一覧からユーザー名を選択し直します。アドレス帳に登録されていない名称を直接入力するときは、［登録外文字列］を押して入力します。［OK］を押します。

- 文書名

  ［文書名変更］を押し、［←］［→］［後退］または［全消去］を押して文書名を消去したあと、入力し直します。入力したあと、［OK］を押します。

- パスワード

  ［パスワード変更］を押し、パスワードをテンキーで入力して［OK］を押します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

6. ［閉じる］を押します。

補足

- セキュリティーの設定によっては、［ユーザー名変更］が［アクセス権変更］と表示されることがあります。［アクセス権変更］の設定手順は、P.219「蓄積した文書のアクセス権を変更する」を参照してください。
- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

蓄積した文書を消去する

1. ［蓄積文書指定］を押します。

2. ［蓄積文書管理／消去］を押します。
3. 消去する文書を押します。

   複数の文書を選択できます。
4. パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードをテンキーで入力して［実行］を押します。
5. ［文書消去］を押します。
6. ［消去する］を押します。
7. ［閉じる］を押します。

6

蓄積した文書にアクセス権を設定する

ユーザー認証が設定されているときは、ドキュメントボックスに文書を蓄積するときにアクセス権を設定できます。また、蓄積したあともアクセス権を変更できます。

ログイン、ログアウトの方法は、『本機のご利用にあたって』「操作部からのログインのしかた」、「操作部からのログアウトのしかた」を参照してください。

アクセス権を設定して送信文書を蓄積する

アクセス権を設定してから、ドキュメントボックスに文書を蓄積します。

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

   [原稿セット方向] を正しく設定しないと、蓄積した原稿をプレビュー表示するとき、原稿の天地（上下）が正しく表示されません。

   設定方法は、P.38「原稿セット方向を設定する」を参照してください。

2. [文書蓄積] を押します。

3. [蓄積+送信] または [蓄積のみ] を押します。

   文書を蓄積してから送信するときは [蓄積+送信] を押します。

   文書を蓄積するときは [蓄積のみ] を押します。

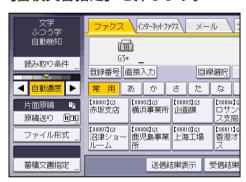
4. 「文書情報」の [アクセス権] を押します。

5. [新規登録] を押します。

6. 登録するユーザーまたはグループを選択します。

   複数のユーザーを選択できます。

   [すべてのユーザー] を押すと、全ユーザーを選択できます。

7. [閉じる] を押します。

8. アクセス権を設定するユーザーを選択し、アクセス権を選択します。

   アクセス権は、[閲覧]、[編集]、[編集／削除]、[フルコントロール] のいずれかを選択します。

9. [閉じる] を押します。
10. 必要に応じて、文書名やパスワードを設定します。
11. [OK] を押します。
12. [蓄積+送信] を選択したときは、相手先を指定します。
13. [スタート] キーを押します。

蓄積した文書のアクセス権を変更する

ドキュメントボックスに蓄積した文書にアクセス権を設定します。

1. [蓄積文書指定] を押します。

2. [蓄積文書管理／消去] を押します。
3. 変更する文書を選択します。
4. パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードをテンキーで入力して [実行] を押します。
5. [アクセス権変更] を押します。
6. 「アクセス許可ユーザー／グループ」の [登録／変更／消去] を押します。
7. [新規登録] を押します。
8. 登録するユーザーまたはグループを選択します。

   複数のユーザーを選択できます。

   [すべてのユーザー] を押すと、全ユーザーを選択できます。

9. [閉じる] を押します。

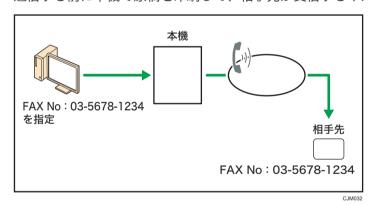
10. アクセス権を設定するユーザーを選択し、アクセス権を選択します。

アクセス権は、[閲覧]、[編集]、[編集／削除]、[フルコントロール] のいずれかを選択します。

11. [閉じる] を押します。

12. [OK] を押します。

13. [閉じる] を押します。

7. パソコンからファクス機能を活用する

パソコンからネットワークを介して本機のファクス機能を利用する方法を説明します。

パソコンからファクスを送信する

Windows のアプリケーションで作成した文書を、パソコンに接続された本機からほかのファクスへ送信します。

Windows のアプリケーションから文書を印刷する操作をし、印刷先のプリンターとしてPC FAX ドライバーを選択して、表示された PC ファクス画面でファクスの相手先を指定して送信します。パソコンと本機は、パラレルポート、LAN、無線 LAN または USB 2.0 を使用して接続します。自分のパソコンから相手機まで、紙に出力することなくファクスを送信できます。

送信する前に本機で原稿を印刷して、相手先が受信するイメージの確認もできます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

重要

- **本機にエラーが発生しても、PC FAX ドライバー側ではエラーが表示されません。Web Image Monitor で確認してください。詳しくは Web Image Monitor のヘルプを参照してください。**

補足

- Web Image Monitor は、同一ネットワーク環境での使用を推奨します。URL をクリックしてもブラウザーが開かずエラーとなることがあります。

PC ファクスを使用する前に

この機能を使用するときは、あらかじめパソコンに PC FAX ドライバーをインストールしておきます。

ドライバーのインストール方法は、『ドライバーインストールガイド』を参照してください。

また、パソコンと本機の接続方法に応じて設定が必要です。必要な設定については、『ネットワークの接続/システム初期設定』「ネットワークの設定」を参照してください。

パソコンからファクスを送信する

パソコンのアプリケーションで作成した文書をファクス送信します。

Windows のアプリケーションから文書を印刷する操作をします。印刷先のプリンターとして PC FAX ドライバーを選択し、PC FAX のダイアログが表示されたら、ファクスの相手先を指定します。あらかじめ、送信する文書をアプリケーションで開くか作成しておいてください。

詳しくは PC FAX ドライバーのヘルプを参照してください。ヘルプの見かたについては、P.225「PC FAX ドライバーのヘルプを見る」を参照してください。

宛先を直接入力するとき、または PC ファクスのあて先表を使用するときは、メール宛先およびフォルダー宛先は指定できません。

1. [ファイル] メニューから [印刷] をクリックします。

2. プリンタ名で「RICOH PC FAX(imagio) Type R」をクリックします。

3. [印刷] をクリックします。

アプリケーションにより設定方法が多少異なることもあります。各アプリケーションの設定方法に従い、プリンターを「RICOH PC FAX(imagio) Type R」に設定してください。

4. 相手先を指定します。

PC ファクスの「あて先表」を利用するときは、「あて先表」タブで、あて先表から相手先を選択します。

相手先を直接入力して指定するときは、「直接あて先指定」タブで入力します。

5. 必要に応じて、「時刻指定送信」などの送信オプションや送信結果メール通知を設定します。

6. [送信] をクリックします。

[送信＆印刷] をクリックすると、相手先へファクスを送信しながら、本機で文書を印刷します。相手先が受信するイメージを確認できます。

補足

- PC FAX ドライバーを使用して送信された文書は、本機で送信待機文書として保持できます。
- 本機で増設回線を利用しているときは、宛先ごとに異なる回線を使用すると一斉同報送信できます。一斉同報送信については、P.54「一斉同報送信」を参照してください。
- 以下の項目の最大値については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
    - 1 文書で同報送信できる宛先数
    - PC FAX ドライバーからの送信文書を送信待機文書として本機で保持できる件数
    - 宛先として入力できる桁数
- パソコンと本機を USB 2.0 で接続しているときは、正常に送信されていても、「このドキュメントの印刷に失敗しました」というダイアログや、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。このようなときは、本機の画面で送信結果を確認してください。確認方法は、P.167「送信結果を確認する」を参照してください。

本機のアドレス帳の宛先を登録番号で指定する

詳しくは、PC FAX ドライバーのヘルプを参照してください。

1. 「直接あて先指定」タブをクリックします。
2. 「機器登録アドレスを使用する」にチェックを付けます。
3. 「機器登録アドレス」ボックスにアドレス帳の登録番号を入力します。
4. [送信先一覧に追加] をクリックします。
5. 複数の相手先を指定するときは、手順 3、4 を繰り返します。

宛先を繰り返し入力する

PC FAX ドライバーをインストールしたときに誤送信を防止する機能が有効になっていると、ファクス番号の入力を繰り返して番号の入力間違いがないか確認します。

1. 「直接あて先指定」タブをクリックします。
2. ファクス番号を入力し、[送信先一覧に追加] をクリックします。
3. ファクス番号をもう一度入力し、[OK] をクリックします。

送信前に相手先を再表示する

PC FAX ドライバーをインストールしたときに誤送信を防止する機能が有効になっていると、送信前にもう一度相手先を表示して間違いがないか確認します。

1. 相手先を指定し、[送信] をクリックします。

2. 相手先に間違いがないか確認します。

送信を開始するときは、[OK] をクリックします。

宛先を変更するときは、[キャンセル] をクリックして設定し直します。

本機のアドレス帳を PC ファクスのあて先表として使用する

Ridoc IO Analyzer を利用して、本機に登録されているアドレス帳（CSV ファイル）をパソコンに保存します。

保存したアドレス帳（CSV ファイル）は、PC ファクスの宛先表として使用できます。「あて先表編集ツール」で取り込むこともできます。ここでは PC ファクス画面からアドレス帳を利用する手順を説明します。

Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、『本機のご利用にあたって』「ダウンロードできるソフトウェア」を参照してください。

パソコンに本機のアドレス帳を取り込む

Ridoc IO Analyzer の操作方法は、Ridoc IO Analyzer のヘルプを参照してください。

1. Ridoc IO Analyzer を起動します。

   本機が自動的に検出され、機器検索の一覧に機種名と IP アドレスが表示されます。

   - 一覧に機種名が表示されないとき

     何も表示されないときは、[機器検索一覧] メニューから [検索監視条件設定] をクリックし、本機の IP アドレスを範囲指定します。たとえば、IP アドレスが 192.168.0.1〜192.168.0.255 のときは、「範囲指定」にチェックを付け、開始アドレスに「192.168.0.1」、終了アドレスに「192.168.0.255」と入力します。入力後、[追加] をクリックし、[OK] をクリックします。

     それでも表示されないときは、セキュリティーソフトなどの原因が考えられます。使用しているセキュリティーソフトの設定を確認してください。

     本機の IP アドレスは、[システム初期設定] の [本体 IPv4 アドレス] で確認できます。詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「インターフェース設定」を参照してください。

2. 使用している機種を選択し、[ツール] メニューから [アドレス情報管理ツール] をクリックします。

3. ユーザー名、パスワードを入力して [OK] をクリックします。

   ユーザー名、パスワードについては管理者へ問い合わせてください。

4. アドレス情報管理ツール画面で [ファイル] メニューから [データの書き出し] をクリックします。

   「パスワード情報は機器で再利用できません。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

5. デスクトップなどわかりやすいところに保存先を指定して、［保存］をクリックします。

   以下の 3 つのファイルが保存されます。

   - 「本機の機種名_addr.csv」
   - 「本機の機種名_faxinfo.csv」
   - 「本機の機種名_taginfo.csv」

   「本機の機種名_addr.csv」をアドレス帳として使用します。

6. アドレス情報管理ツール画面を閉じ、Ridoc IO Analyzer を終了します。

パソコンに保存したアドレス帳を PC ファクス画面で使用する

あらかじめ、送信する文書をアプリケーションで開くか作成しておき、PC FAX ドライバーを起動しておきます。

PC FAX ドライバーの操作方法は、PC FAX ドライバーのヘルプを参照してください。

1. ［あて先表］タブをクリックします。
2. ［参照］をクリックします。
3. パソコンに保存した本機のアドレス帳を指定して、［開く］をクリックします。

   「本機の機種名_addr.csv」を指定します。

4. 表示されたアドレス帳から相手先を指定します。

補足

- 本機でグループ登録した宛先を「あて先表編集ツール」に取り込むとき、各個人のどの宛先に送るかは、以下の優先順位にしたがって決定されます。宛先を取り込むときに確認し、必要に応じて変更してください。IP-ファクス宛先→ファクス番号→メールアドレス
- 機種によっては、ユーザーコードが入力された CSV ファイルを Ridoc IO Analyzer で取り込み、本機へ「設定内容の送信」をしているあいだは機器の操作ができなくなります。

PC FAX ドライバーのヘルプを見る

PC FAX ドライバーの画面で［ヘルプ］をクリックすると、PC FAX ドライバーのヘルプが表示されます。PC FAX ドライバーで使用できる機能や、詳しい使用方法を確認できます。

ヘルプでは、おもに次の機能や操作方法を説明しています。

PC ファクスの送信方法

- ファクスを送信する

宛先の指定方法

- あて先表を使用して相手先を指定する
- あて先を直接入力して相手先を指定する

- 機器本体に登録されているあて先で指定する

ユーザー認証設定の利用方法

- ユーザー認証設定を使用して送信／印刷する

送信オプションの利用方法

- 時刻を指定して送信する
- 発信元の名称を印字する
- 送信と同時に印刷する
- プレビューを表示する
- 送信イメージをファイルに出力する
- 送付状を付けて送信する
- ドキュメントボックスを使用する

送信結果メール通知の利用方法

- 送信結果をメールで確認する

その他

- ユーティリティー類の起動方法

PC ファクスの送信結果を確認する

次の方法で確認できます。

パソコンで送信結果メール通知を受け取る

通信が正常に終了すると、指定したメールアドレスへ、本機から「送信結果メール通知」が送信されます。パソコンから本機への通信がエラーになったときや印刷を行ったときは、「PC ファクス結果通知メール」を送信します。

詳しくは、PC FAX ドライバーのヘルプを参照してください。

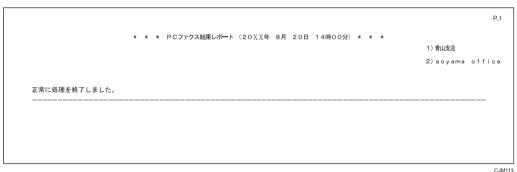
Web Image Monitor で送信履歴を確認する

PC FAX ドライバーを使用して送信した文書情報を確認できます。

Web Image Monitor のジョブ履歴は、本機の送信履歴と異なることがあります。そのときは本機の送信履歴を確認してください。

詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

補足

- 本機のインターネットファクスまたはメールを送るための設定に不備がある、または「送信者名自動指定」が「しない」に設定されているときは「送信結果メール通知」や「PC ファクス結果通知メール」は送信されず、「送信結果通知レポート」または「PC ファクス結果レポート」を出力します。必要な設定については『ネットワークの

接続/システム初期設定』「接続と設定」、「PC ファクス結果レポート」については P.227「PC ファクス結果レポート」を参照してください。

PC ファクス結果レポート

「送信結果メール通知」や「PC ファクス結果通知メール」が本機の設定の不具合などで送信できないときは、「送信結果通知レポート」または「PC ファクス結果レポート」を出力します。また、[送信結果メール通知] を使用する設定にしていないときも、「PC ファクス結果レポート」を出力します。

「PC ファクス結果レポート」を印刷するかどうかを [ファクス初期設定] の [パラメーター設定]（スイッチ 20 ビット 0）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

P.1

＊ ＊ ＊ PCファクス結果レポート（20XX年 8月 20日 14時00分）＊ ＊ ＊

1）青山支店

2）aoyama office

正常に処理を終了しました。

CJM113

補足

- PC FAX ドライバーで「送信」または「送信＆印刷」をしたときに、「送信結果メール通知」が送信できなかった場合は、通信結果レポートを出力します。「通信結果レポート」については P.169「通信結果レポート」を参照してください。

PC ファクスのあて先表編集ツールを利用する

あて先表編集ツールを使用して、あて先表に相手先を登録したり、登録した内容を編集したりします。

あて先表編集ツールを起動するときは、Windows 画面で、[スタート] → [すべてのプログラム] → [RICOH PC FAX ユーティリティー] → [あて先表編集ツール] の順にクリックします。

PC FAX ドライバーを起動しているときは、[あて先表編集] をクリックします。

補足

- CSV 形式で作成したファイルを、あて先表として利用できます。CSV ファイルは一定のフォーマットにしたがって作成します。フォーマットについてはヘルプを参照してください。

7

- あて先表編集ツールでファクス宛先を登録するとき、「ファクス番号」の「回線」リストからは「G3」「G3-2」「G3-3」「G4」「G3 外線空き」「G3 内線空き」「I-G3」「内線」が選択できますが、利用できる回線は装着している増設回線によって異なります。本機では「内線」は使用できません。内線を使用するときは、「G3 内線空き」を選択してください。

あて先表編集ツールのヘルプを見る

あて先表編集ツールの画面で［ヘルプ］をクリックすると、あて先表編集ツールのヘルプが表示されます。あて先表編集ツールで使用できる機能や、詳しい使用方法を確認できます。

ヘルプでは、おもに次の機能や操作方法を説明しています。

- あて先表を編集する
- グループを編集する
- CSV ファイルを使用して、宛先表を編集する
- CSV ファイルのデータをあて先表に取り込む
- CSV ファイルのフォーマット

PC FAX 送付状エディターを利用する

PC FAX 送付状エディターを使用して、ファクス文書を送信するときに添付する送付状のフォーマットを作成できます。

PC FAX 送付状エディターを起動するときは、Windows 画面で、［スタート］→［すべてのプログラム］→［RICOH PC FAX ユーティリティー］→［PC FAX 送付状エディター］の順にクリックします。

PC FAX 送付状エディターのヘルプを見る

PC FAX 送付状エディターの画面で［ヘルプ］メニューから［トピックの検索］をクリックすると、PC FAX 送付状エディターのヘルプが表示されます。PC FAX 送付状エディターで使用できる機能や、詳しい使用方法を確認できます。

ヘルプでは、おもに次の機能や操作方法を説明しています。

- 送付状のサイズを変更する
- オブジェクトを描く
- 文字や文字情報を挿入する

Ridoc IO Analyzer でファクス機能を管理する

Ridoc IO Analyzer を使用して、本機のファクス機能に関する情報をパソコンから確認したり、パソコンにファイルとして保存したりできます。

Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、『本機のご利用にあたって』「ダウンロードできるソフトウェア」を参照してください。

PC FAX ドライバーを使用しているときに表示されるメッセージ

PC FAX ドライバーを使用しているときにパソコンの画面に表示されるおもなメッセージと、その対処方法を説明します。

メッセージ	原因と対処方法
送信先件数が多すぎます。 最大 500 件までです。	一度に送信できる送信先の件数を超えています。一度に送信できるのは最大 500 件までです。
既に「PC FAX」は動作中です。 同時に複数の立ち上げはできません。	すでに「PC FAX」のダイアログが表示されています。動作を終了させてから起動してください。
メモリーの確保に失敗しました。	パソコンのメモリーが不足しています。不要なアプリケーションを終了させてください。

Web Image Monitor を利用してファクスの情報を管理する

ネットワーク上のパソコンから Web Image Monitor を使用して、蓄積受信文書やアドレス帳を管理する方法を説明します。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

補足

- Web Image Monitor は、同一ネットワーク環境での使用を推奨します。URL をクリックしてもブラウザーが開かずエラーとなることがあります。
- IPv4 アドレスを入力するとき、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。たとえば、「192.168.001.010」は「192.168.1.10」と入力します。「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。
- あらかじめ［受信文書設定］で［蓄積］を［する］に設定しておく必要があります。「蓄積」について詳しくは、P.263「受信文書設定」を参照してください。
- Web Image Monitor について詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「機器の監視」を参照してください。

7

Web Image Monitor からファクス蓄積受信文書を確認／印刷／削除する

Web Image Monitor から本機に蓄積された受信文書を確認、印刷する方法を説明します。

Web Image Monitor からファクス蓄積受信文書を確認する

Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

1. Web Image Monitor を起動します。

起動方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームの［文書操作］メニューから［ファクス蓄積受信文書］をクリックします。

3. 本機で蓄積受信文書ユーザーコードを設定しているときは、本機に登録している蓄積受信文書ユーザーコードを入力したあと、［OK］をクリックします。

アドレス帳で設定したユーザーコードが消去されたときは、「入力したユーザーコードが間違っています。」と表示されます。［蓄積受信文書ユーザー設定］で設定し直してください。

4. 確認する文書のプロパティアイコンをクリックします。

5. 受信した文書の内容を確認します。

6. 受信文書をダウンロードするときは、[PDF]、[PDF/A] または [マルチページ TIFF] を選択して [ダウンロード] をクリックします。

[PDF] を選択したときは、[ダウンロード] をクリックする前に、必要に応じて「PDF ファイルセキュリティ設定」を設定します。Adobe Acrobat Reader/Adobe Reader が起動して、文書が表示されます。

7. Web ブラウザーを終了します。

補足

- Web Image Monitor に接続できないときは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「機器の監視」を参照してください。
- PDF 形式でダウンロードした受信文書を印刷するときに、使用している Adobe Acrobat Reader/Adobe Reader のバージョンや設定によって受信文書より大きな用紙サイズで印刷されることがあります。受信文書のサイズ通りに印刷するときは、Adobe Acrobat Reader/Adobe Reader で用紙サイズを指定しなおして印刷してください。

Web Image Monitor からファクス蓄積受信文書を印刷する

Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

1. Web Image Monitor を起動します。

起動方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームの [文書操作] メニューから [ファクス蓄積受信文書] をクリックします。

3. 印刷する文書にチェックを付けます。

4. [印刷] をクリックします。

5. [印刷] をクリックします。

6. [OK] をクリックします。

7. Web ブラウザーを終了します

Web Image Monitor からファクス蓄積受信文書を削除する

Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

1. Web Image Monitor を起動します。

起動方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームの［文書操作］メニューから［ファクス蓄積受信文書］をクリックします。
3. 削除する文書にチェックを付けます。
4. ［削除］をクリックします。
5. ［削除］をクリックします。
6. ［OK］をクリックします。
7. Web ブラウザーを終了します。

Web Image Monitor からインターネットファクスの相手先の機種情報を登録する

アドレス帳に登録されている相手先がインターネットファクスの T.37 フルモードに対応しているときは、Web Image Monitor から相手先の機種情報を登録できます。

- 圧縮方式
- 用紙サイズ
- 解像度

7

補足

- T.37 フルモードについて詳しくは、P.16「T.37 フルモードの概要」を参照してください。
- アドレス帳にフルモードで登録されている相手先から受信確認応答メールが返信されると、その相手先の情報は新しい情報で上書きされます。

Web Image Monitor からインターネットファクスの相手先の機種情報を編集する

アドレス帳に登録された相手先の機種情報を、Web Image Monitor から編集する方法を説明します。

Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

1. Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

   ログイン方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. 左フレームの［機器の管理］メニューから［アドレス帳］をクリックします。
3. ［通常入力］をクリックします。
4. 編集する相手先登録番号を選択し、［変更］をクリックします。

5. **モード選択を除く、インターネットファクスデータ形式の各項目を設定します。**

   シンプルモードに設定してしまうと相手先の機種情報が設定されません。

6. **画面左上または左下の［OK］をクリックします。**
7. **Web ブラウザーを終了します。**

Web Image Monitor からインターネットファクスの相手先の機種情報を登録する

Web Image Monitor からアドレス帳に新しい相手先を追加する方法を説明します。

Web Image Monitor について詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

1. **Web Image Monitor に管理者モードでログインします。**

   ログイン方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2. **左フレームの［機器の管理］メニューから［アドレス帳］をクリックします。**
3. **［通常入力］をクリックします。**
4. **［ユーザー追加］をクリックします。**
5. **登録番号、名前、メールアドレスを入力し、必要に応じてほかの項目を設定します。**

   インターネットファクスデータ形式の項目はメールアドレスを入力すると設定できます。

6. **インターネットファクスデータ形式の［フルモード］をクリックし、相手先の機種情報にあわせてほかの項目を設定します。**

   シンプルモードに設定してしまうと相手先の機種情報が設定されません。

7. **画面左上または左下の［OK］をクリックします。**
8. **Web ブラウザーを終了します。**

ファクス受信文書をパソコンへ配信する

ネットワーク上の配信サーバー（Ridoc Document Router）と連携し、本機でファクス受信した文書をネットワーク上のパソコンで閲覧したり引き取ったりします。

紙に印刷しないで内容を確認したりパソコンに保存したりできて便利です。

必要な準備

- Ridoc Document Router*1 のインストール

  *1 Ridoc Document Rounter の販売は終了しています。Ridoc GlobalScan（別売）を利用して、この機能を利用することもできます。

- Ridoc Desk Navigator のインストール

  このソフトウェアは、配信サーバーの受信トレイに保存された文書を、パソコンで閲覧したり引き取ったりするために必要です。

  Ridoc Desk Navigator は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、『本機のご利用にあたって』「ダウンロードできるソフトウェア」を参照してください。

- 本機の設定

  配信サーバーと連携するために、あらかじめ本機の［システム初期設定］の［ファクス受信文書配信設定］で設定が必要です。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

  また、配信サーバーでも設定が必要です。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

配信サーバーを利用してできること

配信サーバーを利用すると、受信したファクス文書を本機まで取りに行ったり、紙に印刷されたファクス文書を宛先ごとに配布する必要がなく便利です。

配信サーバーでは次のようなことができます。

- 受信文書に付加されている情報を利用して、配信先を判別して適切な受信者へ配信できます。

  あらかじめ、F コード（SUB)、発信元名称（表示用)、発信元ファクス番号といったファクス受信文書の情報やダイヤルイン番号と受信者を対応づけしておくと、本機で受信したファクス文書を対応づけられた受信者に配信します。

  配信の方法には、配信サーバー上のユーザーごとに設定された受信トレイに保存する、メールに添付してパソコンに送信する、あらかじめ指定されたパソコン上のフォルダーにファイルとして保存する、などがあります。受信したファクス文書に F コード（SUB)、発信元名称（表示用)、発信元ファクス番号の情報がないときは、配信サーバーの「ファクス受信トレイ」などに保存されます。

- 受信した回線によって保存する受信トレイを変更したり、ファクスを受信したことをメールなどで通知できます。

- 配信サーバー上の受信トレイに保存された文書は、パソコン上の「Ridoc Desk Navigator」を使用して内容を確認したりパソコンに引き取ったりできます。

補足

- F コード親展ボックスに受信した文書も配信サーバーに転送されます。
- 受信したファクスをメールに添付してパソコンに送信するには、Ridoc Document Router が対応しているメール環境が必要です。
- 配信サーバー（Ridoc Document Router）については、Ridoc Document Router の説明書およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator については、Ridoc Desk Navigator の説明書およびヘルプを参照してください。

8. ファクス初期設定

［ファクス初期設定］の設定項目について説明します。

基本設定

［ファクス初期設定］にある［基本設定］タブの各種項目について説明します。

クイック操作キー（1～3）

よく使用する機能をクイック操作キーとして登録すると、ファクス初期画面に表示されます。

クイック操作キーに登録できる機能は次のとおりです。

- 設定する
    - 手動メール受信
    - 時刻指定送信
    - 件名
    - 本文
    - 受信確認
    - 送信結果メール通知
    - Bcc 送信
    - 定型文印字
    - 発信元名称印字
    - 宛名差し込み
    - ID 送信
    - F コード送信
    - F コード取り出し
    - 封筒受信文書印刷
    - 送信結果表示
    - 受信結果表示
    - 通信管理レポート
    - 蓄積受信文書印刷
    - 送信結果レポート
    - メモリー転送
    - 受信モード切り替え
    - 自動印刷禁止
    - セキュリティー

8

- 受信文書設定
- 設定しない

クイック操作キーとして登録できる機能は最大 3 種類です。

クイック操作キー 1 の工場出荷時の設定：**設定しない**

クイック操作キー 2 の工場出荷時の設定：**送信結果表示**

クイック操作キー 3 の工場出荷時の設定：**受信結果表示**

すでに設定済みの機能は反転表示されます。

宛先表見出し切り替え

宛先表に表示される見出しを設定します。

- 見出し 1（五十音順）
- 見出し 2（アルファベット順）
- 見出し 3（5 分類用）

工場出荷時の設定：**見出し 1**

宛先検索対象

宛先検索で使用する検索対象を設定します。

検索対象は、本機のアドレス帳または登録した LDAP サーバーから選択します。

工場出荷時の設定：**本体アドレス帳**

LDAP サーバーを使用するときは、あらかじめ［システム初期設定］で LDAP サーバーを登録し、［LDAP 検索］を［する］に設定してください。詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「管理者用設定」を参照してください。

通信枚数カウンター

送信枚数、受信枚数の累積を画面に表示して確認できます。

- 送信枚数

  送信した原稿の総枚数

- 受信枚数

  受信した原稿の総枚数

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［基本設定］を押します。
3. ［通信枚数カウンター］を押します。
4. 内容を確認したら［閉じる］を押します。
5. ［終了］を押します。

音量調節

オンフックや直接送信時の音量を調節します。

- オンフック時

- 送信時
- 受信時
- 発信時
- 受信印刷時

工場出荷時の設定：**小さい方から 2 番目のレベル**

音量の調節方法は、『こまったときには』「音量を調節するとき」を参照してください。

F コードボックス設定

ITU-T の国際標準規格に従った F コードを利用する「親展ボックス」、「掲示板ボックス」、「中継ボックス」を登録、変更、消去します。（ITU-T：国際電気通信連合の通信規格を制定する部門）

F コードボックスの設定方法は、P.314「F コードボックス設定」を参照してください。

F コードボックス設定：リスト印刷

本機に設定されている親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスの一覧を印刷します。

F コードボックスリストの印刷方法は、P.321「F コードボックスリストを印刷する」を参照してください。

F コードボックスリストについては、P.322「F コードボックスリスト」を参照してください。

オンフック解除時間

[オンフック] を押してから、一定の時間何も操作しないと回線が切断されます。その時間をオンフック解除時間といいます。

ここではオンフック解除時間を設定します。ファクス情報サービスでオンフックダイヤルが切れてしまうときに設定すると便利です。

- 1 分
- 3 分
- 5 分
- 10 分

工場出荷時の設定：**3 分**

宛先履歴消去

[宛先履歴] に記憶されている宛先をすべて消去します。

[宛先履歴消去] を押すと、確認の画面が表示されます。消去するときは [消去する] を押します。

通信管理レポート自動印刷

通信管理レポートを自動的に印刷するかどうかを設定します。

8

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［基本設定］を押します。
3. ［通信管理レポート自動印刷］を押します。
4. ［する］を選択します。
5. ［設定］を押します。
6. ［終了］を押します。

リンギング音

相手先から電話がかかってくると呼び出しベルを鳴らすかどうかを設定します。

- 鳴る
- 鳴らない

工場出荷時の設定：**鳴る**

- 初期設定の変更方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「初期設定を変更する」を参照してください。

8

読み取り設定

［ファクス初期設定］にある［読み取り設定］タブの項目について説明します。

読み取りサイズ登録／変更／消去

読み取りサイズ指定で送信するときによく使用するサイズを登録します。

登録方法は、P.278「読み取りサイズ登録／変更／消去」を参照してください。

補足

- 初期設定の変更方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「初期設定を変更する」を参照してください。

送信設定

[ファクス初期設定] にある [送信設定] タブの各種項目について説明します。

送信メールサイズ制限

相手先が受信できるメールのサイズを制限しているときなど、あらかじめ送信するメールのファイルサイズを制限しておくときに設定します。この機能を「(制限) する」にしているとき、設定したサイズを超えるメールは送信できません。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

サイズの上限を超えたためにメール送信が中止されたときは不達レポートが出力され、メールは消去されます。

サーバー側の容量の制限などにより、ここで設定したサイズに満たないときでも不達になることもあります。

1. [ファクス初期設定] を押します。
2. [送信設定] を押します。
3. [送信メールサイズ制限] を押します。
4. [する] を押します。
5. 送信するメールサイズの上限をテンキーで入力し、[#] を押します。

   128～102400KB の範囲で指定できます。
6. [設定] を押します。
7. [終了] を押します。

定型文登録／変更／消去

送信した相手先の原稿の 1 ページ目の先端に印字する定型文を登録します。挨拶文などを登録しておくと便利です。

登録できる定型文は 3 種類です。工場出荷時に登録されている「マル秘」「至急」「電話ください」「関係区に配布してください」は変更できません。

登録した定型文を変更する手順は登録するときと同じです。

1. [ファクス初期設定] を押します。
2. [送信設定] を押します。
3. [定型文登録／変更／消去] を押します。
4. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

   定型文を消去するときは、[消去] を押し、消去する定型文を選択して [消去する] を押します。その後、手順 8 に進みます。
5. 登録または変更する登録文を選択します。

6. 登録する文を入力します。

   文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

7. ［OK］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［終了］を押します。

全文書転送

メモリーに蓄積したすべての文書をほかのファクスに転送して印刷します。

設定方法は、P.261「全文書転送」を参照してください。

バックアップ送信設定

メモリー送信で送信したファイルのバックアップを、指定したフォルダーに送信するかしないかを設定します。

バックアップ送信設定を［する］に設定し、送信先のフォルダー宛先を指定すると、本機、Web Image Monitor、PC ファクスでメモリー送信したファイルのバックアップが、指定したフォルダー宛先に自動的に送信されます。

送信されるファイルには、「送信結果＋宛先名＋日付」の形式でファイル名が付けられます。たとえば、20XX 年 8 月 31 日 ABCD COMPANY へ TIFF 形式でバックアップ送信したファイル名は「OK-ABCD COMPANY-20XX0831.tif」になります。

複数の相手先を指定して送信したときなど、送信結果に OK と NG があるときは、送信結果が OKNG となります。

複数の相手先を指定したときは、「宛先名」のあとに「&」が付きます。

また、個人ごとに設定されたログインユーザー名、またはユーザーコードで本機にログインしているときは、「送信結果＋宛先名＋日付＋ログインユーザー名またはユーザーコード」の形式でファイル名が付けられます。

バックアップ送信先のフォルダー宛先はアドレス帳から 1 件指定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

バックアップ送信が正常に終了しなかったときは、バックアップ送信不達レポートが自動的に印刷されます。

バックアップ送信設定を［する］に設定しているときは、直接送信できません。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［送信設定］を押します。
3. ［バックアップ送信設定］を押します。
4. ［する］を押します。

バックアップ送信先のフォルダーが設定されているときは、送信先フォルダーの名称が表示されます。送信先フォルダーを変更するときは、手順5に進んで送信先フォルダーを設定し直します。

5. ［フォルダー］を押します。
6. 登録する送信先フォルダーの宛先キーを押し、［設定］を押します。
7. ［設定］を押します。
8. ［終了］を押します。

IP ファクス送信ルート自動切替（IP/G3）

［IP ファクス送信ルート自動切替（IP/G3）］の有効、無効を設定します。

NTT の次世代ネットワーク（NGN）網を利用するときに設定できます。NGN 接続については、P.338「次世代ネットワーク（NGN）網を利用して IP-ファクス送受信する」を参照してください。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

IP ファクス最大送信速度設定

IP-ファクス送信時の最大送信速度（利用帯域）を設定します。

NTT の次世代ネットワーク（NGN）網を利用するときに設定できます。NGN 接続については、P.338「次世代ネットワーク（NGN）網を利用して IP-ファクス送受信する」を参照してください。

- 通常時

  ホームゲートウェイを利用しない IP-ファクス送信の最大速度を入力します。

  - 128〜1000（kbps）

  工場出荷時の設定：**1000**

- ホームゲートウェイ利用時

  ホームゲートウェイを利用して行う IP-ファクス送信の最大速度を選択します。

  - 高速
  - 中速
  - 低速

  工場出荷時の設定：**高速**

補足

- 初期設定の変更方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「初期設定を変更する」を参照してください。

受信設定

［ファクス初期設定］にある［受信設定］タブの各種項目について説明します。

受信文書設定

受信した文書の印刷、蓄積、転送などの出力方法を設定します。

設定方法は、P.263「受信文書設定」を参照してください。

受信モード切り替え

受信のしかたを設定します。

- 自動切り替え
- 手動受信
- 自動受信

工場出荷時の設定：**自動受信**

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［受信モード切り替え］を押します。
4. 受信モードを選択して、［設定］を押します。
5. ［終了］を押します。

受信モードについては P.120「受信モード」を参照してください。

受信モード自動切り替え時設定

受信モードが［自動切り替え］のときに電話がかかってくると、相手が電話かファクスかを判断し、自動的に電話とファクスを切り替えます。この［自動切り替え］を「ファクス優先」モードにするか「電話優先」モードにするか設定します。

- 電話優先
- ファクス優先

工場出荷時の設定：**ファクス優先（呼び出し回数 6 回）**

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［受信モード自動切り替え時設定］を押します。
4. ［電話優先］または［ファクス優先］を押します。
5. ベルを鳴らす回数（リンギング回数または呼び出し回数）をテンキーで入力し、［**#**］を押します。
6. ［設定］を押します。
7. ［終了］を押します。

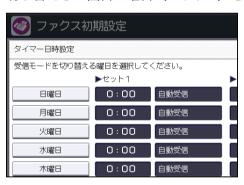
8

受信モードタイマー切り替え

設定した時刻に自動的に受信モード（自動切り替え、手動受信、自動受信）を切り替えます。通常は手動受信で使用し、不在の時間帯を自動受信にするなど、使用状況に応じて設定しておくと便利です。

時刻は 1 日 2 回、1 週間単位で登録できます。

受信モードタイマー切り替えはダイヤルイン機能、ナンバー・ディスプレイ機能とは併用できません。

増設 G3 回線のとき、この機能は使用できません。

登録したタイマーを変更する手順は登録するときと同じです。

ここでは、月曜日の 8:00 から 19:59 まで自動切り替えに設定し、20:00 から自動受信に切り替えるときの手順を例に説明します。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［受信モードタイマー切り替え］を押します。
4. ［する］を押します。

   受信モードタイマー切り替え設定を取り消すときは、［しない］を押します。
5. ［タイマー日時設定］を押します。
6. 切り替える 1 回目の曜日（セット 1）を押します。

7. ［クリア］を押して、時刻（24 時間制、この例では 08:00）をテンキーで入力します。
8. 切り替える受信モード（この例では［自動切り替え］）を押します。

8

9. 同じ曜日の［セット 2］を押します。

   1 回しか切り替えないときは、同じ時刻に設定します。

10. 同じ曜日の 2 回目の切り替え時刻（この例では 20:00）をテンキーで入力し、［**#**］を押します。
11. 切り替える受信モード（この例では［自動受信］）を設定します。
12. ［設定］を押します。
13. ［閉じる］を押します。
14. ［設定］を押します。
15. ［終了］を押します。

特定相手先設定

特定の相手先を登録し、相手先別に機能を設定します。

設定方法は、P.304「特定相手先設定」を参照してください。

特定相手先設定：リスト印刷

特定相手先のリストを印刷します。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［特定相手先設定：リスト印刷］を押します。
4. ［スタート］キーを押します。
5. ［終了］を押します。

蓄積受信文書ユーザー設定

ファクス受信し、ハードディスクに蓄積した文書を管理するユーザーを設定できます。設定すると、Web Image Monitor から文書を操作するときに管理者のユーザーコードの入力が必要になります。また、操作部からの蓄積受信文書の操作を制限できます。

設定方法は、P.276「蓄積受信文書ユーザー設定」を参照してください。

SMTP 受信ファイル配信設定

SMTP 受信したメールを配信するかしないかを設定します。

SMTP 受信したメールの配信が可能なときに有効な機能です。

設定方法は、P.277「SMTP 受信ファイル配信設定」を参照してください。

両面印刷

受信文書を用紙の両面に印刷するかしないかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

しおり印字

受信紙の 1 枚目に、しおりのマークを印字するかしないかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

センターマーク印字

受信した文書、リストおよびレポートの左端と上端の中央にマークを印字するかしないかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する**

8

受信時刻印字

受信紙の下の部分に、受信した日付と時刻を印字するかしないかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

受信文書印刷部数

印刷する受信文書の部数を設定します。

- 1〜10 部

工場出荷時の設定：**1 部**

給紙トレイ選択

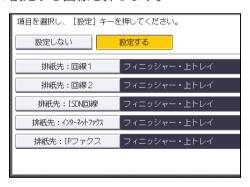
特定の相手先から受信した文書と、それ以外の相手先からの文書を別々のトレイで印刷するかしないかを設定します。

表示されるトレイはオプションによって異なります。

- トレイ 1
- トレイ 2
- トレイ 3

- トレイ 4
- 大量給紙トレイ
- 自動選択

工場出荷時の設定：**自動選択**

回線別排紙先設定

回線（電話回線、インターネットファクスおよび IP-ファクス）ごとに文書を排出するトレイを設定するかしないかを設定します。

- 設定しない
- 設定する

工場出荷時の設定：**設定しない**

「設定しない」を選択しているときは、システム初期設定で設定されたトレイに排紙します。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［▼次へ］を押します。
4. ［回線別排紙先設定］を押します。
5. ［設定する］を押します。
6. 設定する回線を押します。

7. 排紙するトレイを選択し、［設定］を押します。

   続けてほかの回線を設定するときは、手順 6 から操作します。
8. ［設定］を押します。
9. ［終了］を押します。

フォルダー転送結果メール通知

メモリー転送または相手先別メモリー転送の宛先にフォルダーが含まれていたとき、指定した宛先に転送結果をメールで通知します。

8

複数の宛先に転送するときは、グループ宛先を指定します。あらかじめ、通知先のメールアドレスをアドレス帳に登録してください。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

グループでまとめて指定できる最大宛先数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

フォルダー転送結果メールが送信できなかったときでも、本機からレポートは出力されません。

- 通知する
- 通知しない

工場出荷時の設定：**通知しない**

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［▼次へ］を押します。
4. ［フォルダー転送結果メール通知］を押します。
5. ［通知する］を押します。

   フォルダー転送結果メール通知設定を取り消すときは、［通知しない］を押します。
6. 通知先に設定する宛先を選択し、［設定］を押します。
7. 必要に応じて「セキュリティー」を設定します。

   転送するメールを暗号化するときは、［暗号化］を押します。

   転送するメールに署名を付けるときは、［署名］を押します。

   設定したあと、［設定］を押します。
8. ［設定］を押します。
9. ［終了］を押します。

「セキュリティー」の設定については、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。

回線別受信連携先設定

ファクス連携機能を利用しているときに、本機で受信した文書を、連携機で印刷できます。連携機は受信回線ごとに指定できます。

連携機として指定できる機器は、ファクス連携機能を利用している機器です。

表示される回線は、装着オプションにより異なります。

- G3-1
- G3-2
- G3-3
- ISDN

- インターネットファクス
- IP-ファクス

設定手順は以下のとおりです。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［▼次へ］を押します。
4. ［回線別受信連携先設定］を押します。
5. 設定する回線を選択します。
6. 指定する連携機の右側にある［選択］を押し、［設定］を押します。
7. ［設定］を押します。
8. ［終了］を押します。

- 初期設定の変更方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「初期設定を変更する」を参照してください。

8

導入設定

［ファクス初期設定］にある［導入設定］タブの各種項目について説明します。

パラメーター設定

パラメーター設定で各種の機能を利用状況にあった設定に変更できます。

設定方法は、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

パラメーター設定：リスト印刷

パラメーター設定リストを印刷します。

パラメーターの設定を確認できます。ただし、パラメーター設定リストには使用頻度の高いものや特に重要と思われる機能だけが掲載されます。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［パラメーター設定：リスト印刷］を押します。
4. ［スタート］キーを押します。
5. ［終了］を押します。

ID 送受信用 ID 登録

ID 送受信に必要な ID 送受信用 ID を登録します。

ID 送受信用 ID は、0〜9 の数字および A〜F のアルファベットを使用して 4 桁で登録します。0000 と FFFF は登録できません。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［ID 送受信用 ID 登録］を押します。
4. ID をテンキーか画面の［A］〜［F］で入力し、［**#**］を押します。
5. ［設定］を押します。
6. ［終了］を押します。

封筒 ID 登録

封筒受信した文書を印刷するときに入力する ID を登録します。

「封筒受信」、「相手先別封筒受信（封筒受信機能）」を設定するときに、あらかじめ登録しておきます。

0〜9 を使用した 4 桁の数字を登録します。ただし、0000 は登録できません。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［封筒 ID 登録］を押します。
4. ID をテンキーで入力し、［**#**］を押します。

8

5. [設定] を押します。
6. [終了] を押します。

封筒受信については、P.192「封筒受信した文書を印刷する」を参照してください。

インターネットファクス設定

インターネットファクス送信機能を使用するかどうか設定します。

- 使用する
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用する**

ダイヤルイン設定

ダイヤルイン機能を使用するときに、電話用として使用する番号を設定します。設定していない番号はファクス用として使用されます。

工場出荷時の設定：**しない**

ダイヤルイン機能を使用するときは [パラメーター設定] (スイッチ 25 ビット 3) でダイヤルイン機能を「使う」に設定します。

設定するのは、ダイヤルイン契約をしたときに電話会社からもらう電話用の番号 (下 4 桁) です。

ダイヤルイン機能については、P.122「ダイヤルイン機能を利用する」を参照してください。

ISDN 回線だけに接続しているときは機能しません。

1. [ファクス初期設定] を押します。
2. [導入設定] を押します。
3. [ダイヤルイン設定] を押します。
4. ダイヤルイン設定をするときは、[する] を押します。

   ダイヤルイン設定をしないときは、[しない] を押します。
5. ダイヤルイン番号をテンキーで入力し、[**#**] を押します。
6. [設定] を押します。
7. [終了] を押します。

ダイヤル／プッシュ選択

G3 アナログ回線と接続しているときに接続した電話回線の種別を設定します。

電話回線にはプッシュ回線とダイヤル回線があります。また、ダイヤル回線には 10PPS と 20PPS の 2 種類があります。

工場出荷時の設定：**プッシュ**

増設 G3 ユニットを装着しているときは、「G3-2 用」や「G3-3 用」が表示されます。

NTT の回線を利用していて回線の種類がわからないときは、NTT に問い合わせてください。正しく設定しないと、受信はできますが、送信されないことがあります。

回線の種類がわからないときは、「プッシュ」に設定して 177（天気予報）などにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときはプッシュ回線です。つながらなかったときは、「ダイヤル（20PPS）」に設定して、同じようにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときは 20PPS、つながらなかったときは 10PPS です。

1. [ファクス初期設定] を押します。
2. [導入設定] を押します。
3. [ダイヤル／プッシュ選択] を押します。
4. [プッシュ]、[ダイヤル（20PPS）] または [ダイヤル（10PPS）] を押し、[設定] を押します。
5. [終了] を押します。

発信元情報登録

相手のファクス機や受信紙に表示される本機の情報を登録します。

- 印字用名称
- 表示用名称
- ファクス番号
- G4 発信元情報

発信元情報登録については、P.280「発信元情報を登録する」を参照してください。

H.323 使用

IP-ファクス送信で H.323 を使用するかしないかを設定します。

- 使用する
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用しない**

SIP 使用

IP-ファクス送信で SIP を使用するかしないかを設定します。

- 使用する
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用しない**

H.323 設定

ゲートキーパーの IPv4 アドレスまたはホスト名とエイリアス電話番号を設定します。

ゲートキーパーを経由させるときは [パラメーター設定]（スイッチ 34 ビット 0）を「使う」に設定してください。

H.323 設定のエイリアス電話番号に登録できる文字は半角数字および半角記号の「#」、「*」です。入力間違いのないように正しく入力してください。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［H.323 設定］を押します。
4. 必要な項目を設定します。

   設定する項目の［変更］を押し、設定値を入力します。

   ゲートキーパーアドレスを設定するときは、IPv4 アドレスを入力し、［OK］を押します。

   エイリアス電話番号を設定するときは、エイリアス電話番号をテンキーで入力し、［設定］を押します。
5. ［設定］を押します。
6. ［終了］を押します。

SIP 設定

SIP サーバーの IP アドレスまたはホスト名と、SIP ユーザー名を設定します。

- SIP サーバー IP アドレス

  SIP サーバー IP アドレスには、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを登録できます。IPv4 射影アドレスでの登録はできません。

  プロキシサーバーは、発呼などのリクエストやレスポンスを中継するサーバーです。

  リダイレクトサーバーは、リクエストの宛先の問い合わせに利用するサーバーです。

  登録サーバーは、IP ネットワーク上のユーザーエイジェント（電話回線での電話機やファクスなどにあたる部分）の位置情報の登録を受け付けるサーバーです。

  SIP サーバーの IP アドレスは、ネットワーク管理者から通知されたアドレスを、半角の数字と「.」を使用して正しく入力してください。

- SIP ユーザー名

  SIP 設定の SIP ユーザー名に登録できる文字は半角英数字（大文字／小文字）と、半角記号の「;」、「?」、「:」、「&」、「=」、「+」、「$」、「,」、「-」、「_」、「.」、「!」、「~」、「*」、「#」、「‘」、「(」、「)」、「%」、「/」、「[」、「]」、「@」です。入力間違いのないように正しく入力してください。

- SIP ダイジェスト認証

  ダイジェスト認証のパスワードに登録できる文字は半角英数字（大文字／小文字）と、半角記号の「!」、「$」、「%」、「&」、「'」、「(」、「)」、「*」、「+」、「,」、「-」、「.」、「~」、「=」、「_」です。

SIP サーバーを経由させるときは［パラメーター設定］（スイッチ 34 ビット 1）を「使う」に設定してください。

1. ［ファクス初期設定］を押します。

8

2. ［導入設定］を押します。
3. ［SIP 設定］を押します。
4. 必要な項目を設定します。

   設定する項目の［変更］を押し、設定値を入力します。

   プロキシサーバー、リダイレクトサーバー、登録サーバーを設定するときは、サーバーの IP アドレスを入力し、［OK］を押します。

   SIP ユーザー名を設定するときは、SIP ユーザー名を入力し、［OK］を押します。
5. SIP ダイジェスト認証を使用するときは、［設定する］を押し、ユーザー名とパスワードを設定します。

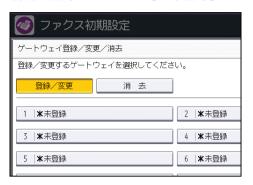
   「ユーザー名」の［変更］を押し、ユーザー名を入力して、［OK］を押します。

   「パスワード」の［入力］を押し、パスワードを半角英数 128 文字以内で入力して、［OK］を押します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。
6. ［設定］を押します。
7. ［終了］を押します。

ゲートウェイ登録／変更／消去

VoIP ゲートウェイを登録、変更、消去します。ゲートキーパーや SIP サーバーを使用しないで VoIP ゲートウェイを経由させるときに登録します。

- ゲートウェイアドレス

  ゲートウェイアドレスには、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを登録できます。IPv4 射影アドレスでの登録はできません。
- 識別番号

  識別番号とは、VoIP ゲートウェイを経由して送る G3 ファクスの電話番号を特定するために使用します。送信時に指定した IP-ファクス宛先の最初の数桁の番号と識別番号が一致するゲートウェイがあると、一致したゲートウェイを経由して送信します。たとえば、識別番号が 03 と 04 のゲートウェイを登録したとき、IP-ファクス宛先を 0312345678 と指定すると、識別番号 03 のゲートウェイを経由します。

  IP-ファクス宛先の番号によらずゲートウェイを使用するときは、識別番号を登録しないで、IP ゲートウェイアドレスだけを登録してください。
- VoIP ゲートウェイを登録／変更する
  1. ［ファクス初期設定］を押します。
  2. ［導入設定］を押します。
  3. ［ゲートウェイ登録／変更／消去］を押します。
  4. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
  5. 登録するゲートウェイを押します。

新規に登録するときは［＊未登録］と表示されているキーを押します。

6.「識別番号」の［変更］を押します。

7. テンキーで識別番号を入力し、［確定］を押します。

   変更するときは［クリア］を押し、新しい識別番号を入力します。

8. プロトコルを選択します。

9.「ゲートウェイアドレス」の［変更］を押します。

10. ゲートウェイアドレスを入力し、［OK］を押します。

11. ［設定］を押します。

12. ［閉じる］を押します。

13. ［終了］を押します。

- VoIP ゲートウェイを消去する
  1. ［ファクス初期設定］を押します。
  2. ［導入設定］を押します。
  3. ［ゲートウェイ登録／変更／消去］を押します。
  4. ［消去］を押し、消去するゲートウェイを押します。
  5. 消去の確認画面で、［消去する］を押します。
  6. ［閉じる］を押します。
  7. ［終了］を押します。

ISDN-G3 回線登録

ISDN を使用して G3 規格で送信するときに使用する設定です。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

ISDN で G3 回線を使用して送信したときは、I-G3 ファクス番号が、こちら側の発信元ファクス番号として相手先のディスプレイに表示されたり、レポートに印字されたりします。

登録できる内容は次のとおりです。

- 加入番号 1
- 加入番号 2
- サブアドレス

加入番号 1 には、本機のファクス番号を入力します。加入番号 2 には、1 本の回線で 2 つの番号を使用しているときに、2 つめの番号を入力します。

加入番号 1 は必ず登録してください。

サブアドレスは、1 つの回線に複数の端末（ファクスやデジタル電話など）を接続したときに、それぞれを識別するために付ける番号です。相手先がこのサブアドレスを指定すると本機が受信します。

入力できるサブアドレスは 4 桁までの数字（0〜9999）です。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［ISDN-G3 回線登録］を押します。
4. 必要に応じて、加入番号 1、加入番号 2 を設定します。

   ［加入番号 1］または［加入番号 2］を押し、自局のファクス番号をテンキーで入力します。［**#**］を押し、［設定］を押します。
5. 必要に応じて、サブアドレスを設定します。

   ［サブアドレス］を押し、サブアドレスをテンキーで入力します。［**#**］を押し、設定を押します。
6. ［閉じる］を押します。
7. ［終了］を押します。

ISDN-G4 回線登録

ISDN を使用して G4 規格で送信するときに使用する設定です。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

登録できる内容は次のとおりです。

- 加入番号 1
- 加入番号 2

- サブアドレス

加入番号 1 には、本機のファクス番号を入力します。加入番号 2 には、1 本の回線で 2 つの番号を使用しているときに、2 つめの番号を入力します。

加入番号 1 は必ず登録してください。

サブアドレスは、1 つの回線に複数の端末（ファクスやデジタル電話など）を接続したときに、それぞれを識別するために付ける番号です。相手先がこのサブアドレスを指定すると本機が受信します。

入力できるサブアドレスは 4 桁までの数字（0〜9999）です。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［▼次へ］を押します。
4. ［ISDN-G4 回線登録］を押します。
5. 必要に応じて、加入番号 1、加入番号 2 を設定します。

   ［加入番号 1］または［加入番号 2］を押し、自局のファクス番号をテンキーで入力します。［**#**］を押し、［設定］を押します。
6. 必要に応じて、サブアドレスを設定します。

   ［サブアドレス］を押し、サブアドレスをテンキーで入力します。［**#**］を押し、設定を押します。
7. ［閉じる］を押します。
8. ［終了］を押します。

メニュープロテクト設定

管理者以外のユーザーでも設定を変更できる機能に、ユーザーのアクセス権のレベルを設定します。

メニュープロテクトについては、『セキュリティーガイド』を参照してください。

メール設定

ファクス機能でメールを使用するかしないかを設定します。

- 使用する
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用する**

フォルダー設定

ファクス機能でフォルダーを使用するかしないかを設定します。

- 使用する
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用する**

転送ファイル形式

メモリー転送、バックアップ送信、親展ボックスの配信先への配信、中継ボックスの受信局への送信の宛先が、メール宛先またはフォルダー宛先のときに、どのファイル形式で送信するかを設定します。

- TIFF
- PDF
- PDF/A

工場出荷時の設定：**TIFF**

NGN 設定方法

ホームゲートウェイを利用して IP-ファクス送受信をするための設定方法を選択します。

NTT の次世代ネットワーク（NGN）網を利用するときに設定できます。NGN 接続については、P.338「次世代ネットワーク（NGN）網を利用して IP-ファクス送受信する」を参照してください。

- 簡易設定
- 手動設定

工場出荷時の設定：**簡易設定**

送信結果メール通知セキュリティ設定

「送信結果メール通知」機能で送信されるメールを暗号化するかどうか、署名を添付するかどうかを設定します。

- 暗号化
- 署名

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［▼次へ］を押します。
4. ［送信結果メール通知セキュリティ設定］を押します。

   メールを暗号化するときは、［暗号化］を押します。

   メールに署名を付けるときは、［署名］を押します。

   設定したあと、［設定］を押します。
5. ［終了］を押します。

暗号化、署名の設定については、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。

補足

- 初期設定の変更方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「初期設定を変更する」を参照してください。

全文書転送

トナーがなくなったり、用紙がなくなったり、印刷機能に不具合が発生したりして本機が印刷できない状態のとき、ファクスのメモリーに蓄積されている文書をほかのファクスに転送して印刷できます。封筒受信した文書を含め、メモリーに蓄積されている文書はすべて転送されます。緊急のときだけ使用してください。

転送先には G3、G4（I-G3）、IP-ファクス宛先を指定できます。インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先は指定できません。

1.［ファクス初期設定］を押します。

2.［送信設定］を押します。

3.［全文書転送］を押します。

装着しているオプションにより画面は異なります。

4. 転送先の回線またはプロトコルを選択します。

「回線選択」に表示された回線から、使用する回線またはプロトコルを押して選択します。

IP-ファクス宛先を指定したときは、［H.323］または［SIP］を押します。

5. 転送先の宛先を入力します。

6. 必要に応じて F コードやサブアドレス、UUI を指定します。

- F コード（SUB/SID）

  ［送信用 F コード（SUB)］を押し、F コード（SUB）をテンキーで入力して、［OK］を押します。

  パスワード（SID）の指定が必要なときは、［パスワード（SID)］を押し、F コード（SID）をテンキーで入力して、［OK］を押します。

- サブアドレス

  ［サブアドレス］を押し、サブアドレスをテンキーで入力して、［OK］を押します。

- UUI

[UUI] を押し、UUI をテンキーで入力して、[OK] を押します。

7. [スタート] キーを押します。

8. [終了] を押します。

補足

- 文書は転送したあとも消去されず、本機に蓄積されています。
- 親展受信や封筒受信した文書、またはハードディスクに蓄積されている受信文書もすべて転送されます。

受信文書設定

受信した文書の出力方法を設定します。

- 蓄積

  受信した文書をハードディスクに蓄積するかどうかを設定します。

- メモリー転送

  受信した文書を、あらかじめ登録した相手先へ転送するかどうかを設定します。

- 印刷

  受信した文書を自動的に印刷するかどうかを設定します。

- 出力切替タイマー設定

  指定した期間に受信した文書の出力方法（印刷、印刷待機、ID 入力印刷、メモリー転送、蓄積）を設定します。

- 自動印刷禁止設定

  受信した文書を自動的に印刷しないで印刷待機文書として保存するかどうかを設定します。

  印刷待機文書は、[待機文書を印刷] で印刷します。

- 待機文書を印刷

  「出力切替タイマー設定」および「自動印刷禁止設定」により、印刷待機している文書を印刷します。

- 封筒受信

  受信した文書を封筒受信するかどうか設定します。

8

1. [ファクス初期設定] を押します。

2. [受信設定] を押します。

3. [受信文書設定] を押します。

4. 登録する項目を選択して、設定します。

[蓄積] を設定するときは、P.264「蓄積」を参照してください。

[メモリー転送] を設定するときは、P.267「メモリー転送」を参照してください。

[印刷] を設定するときは、P.268「印刷」を参照してください。

[出力切替タイマー設定] を設定するときは、P.269「出力切替タイマー設定」を参照してください。

[自動印刷禁止設定] を設定するときは、P.274「自動印刷禁止設定」を参照してください。

[待機文書を印刷] を設定するときは、P.274「待機文書を印刷」を参照してださい。

[封筒受信] を設定するときは、P.274「封筒受信」を参照してください。

5. [設定] を押します。

6. [終了] を押します。

補足

- 受信文書がすでにハードディスクに蓄積されている状態では、蓄積するか、印刷するかを切り替えることができません。受信文書を消去するか、または印刷したあと消去してから設定してください。

蓄積

ファクス受信した文書をハードディスクに蓄積するように設定すると、必要に応じて繰り返し印刷できるほか、Web Image Monitor を使用してパソコンにイメージデータをダウンロードできます。

受信文書の配信を設定しているときは、蓄積を選択できません。

機能について詳しくは、P.188「蓄積受信文書を確認／印刷／消去する」を参照してください。

以下の内容をメールで通知できます。

- 受信したことを通知する（受信通知レポート）

  アドレス帳から通知先のインターネットファクス宛先またはメール宛先を選択します。この機能は受信文書を蓄積するように設定しているときに使用できます。

  また、通知先へ送信されるメールに暗号化や電子署名を設定できます。

- メモリーの容量または受信文書の数が上限に近づいたことを通知する

  メモリー残量が一定量を下回ったこと、またはハードディスク、FAX メモリーに蓄積できる受信文書数の上限に近づいたことを管理者のメールアドレスへ通知できます。

  管理者のメールアドレスは [システム初期設定] の [管理者メールアドレス] で確認できます。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

1. [蓄積] を押します。

2. [する] または [しない] を選択します。

[しない] を選択したときは、手順 5 へ進みます。

3. 必要に応じて、受信通知レポートの送信先を設定します。

[通知先] を押し、一覧から通知先の宛先を選択して、[設定] を押します。

4. 受信通知レポートのメールにセキュリティーを設定するときは、「セキュリティー」を設定します。

転送するメールを暗号化するときは、[暗号化] を押します。

転送するメールに署名を付けるときは、[署名] を押します。

設定したあと、［設定］を押します。

5. メモリーの容量または受信文書の数が上限に近づいたことを通知するときは、「メール通知：メモリー満杯間近」の［通知する］を押して反転表示させます。

6. ［設定］を押します。

補足

- ［蓄積］を［する］に設定しているときは受信文書を蓄積した分、メモリーを消費します。受信中にメモリー残量が少なくなったときは、それ以上蓄積できません。パラメーター設定（スイッチ 10 ビット 7）により、蓄積した日時が古い文書から印刷して消去、あるいは出力しないでデータを消去し、受信文書消去レポートを印刷します。メモリー残量が少なくなったときは、蓄積されている文書を消去してください。［パラメーター設定］については、P.283「パラメーター設定」を参照してください。
- ［蓄積］を［する］に設定しているとき、メモリー残量が少なくなったときはそれ以上受信しないように、パラメーター設定（スイッチ 40 ビット 0）で設定できます。
- 受信通知レポートの送信先にグループ宛先も指定できます。グループでまとめて指定できる最大宛先件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- 「セキュリティー」の設定については、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。

エラー発生中の受信文書消去または受信拒否の設定

受信文書を印刷しないで本機のハードディスクに蓄積する設定にしているときでも、以下の理由でハードディスクに文書を蓄積できない場合、本機で文書を出力します。

- ハードディスクに不具合が生じている
- メモリーが一杯になっている
- ハードディスク、FAX メモリーに蓄積できる受信文書数の最大値を超えている

本機がこのような状態になったとき、文書を出力しないで文書データを本機から消去し、受信文書消去レポートを出力するように設定できます。設定するときは、［パラメーター設定］（スイッチ 10 ビット 7）を「受信文書消去する」に設定します。詳しくは P.283「パラメーター設定」を参照してください。

また、文書を出力または削除しないで、蓄積できない原因が解消するまで新しい文書を受信しないように、パラメーター設定（スイッチ 40 ビット 0）で設定できます。この機能を有効にしているときは、エラーが解消すると新しい文書の受信を開始します。

補足

- 受信文書を印刷しないで本機のハードディスクに蓄積する設定方法は、P.263「受信文書設定」を参照してください。

8

- 蓄積文書がハードディスクに保存されているときは、設定の変更ができません。設定を変更するときは、必要に応じてハードディスクの蓄積文書を印刷し、それから蓄積文書を削除してください。

受信文書消去レポート

受信文書消去レポートに印字される項目について説明します。

1. **消去メッセージ**

   受信文書の消去メッセージが記載されます。

2. **受信時刻**

   受信した月日時分が記載されます。

3. **相手先**

   交信した相手先の名称が記載されます。

4. **文書番号**

   文書番号が記載されます。

5. **受信枚数**

   受信枚数が記載されます。999 枚を超えると、「＊＊＊枚」と記載されます。

補足

- 文書蓄積エラー発生時に受信文書を消去しレポートを出力するには、[パラメーター設定]（スイッチ 10 ビット 7）を「受信文書消去する」に設定します。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

受信通知レポート

受信文書の蓄積が完了したとき、通知先として設定されているメールアドレスに送信されるレポートです。

1. インターネットファクスで受信した文書のときに記載されます。
2. 受信文書を Web Image Monitor で表示できます。

補足

- メールソフトによっては、受信通知レポートを受信したときにフィッシングの警告が出ることがあります。回避方法は、メールソフトのヘルプを参照のうえ、送信者を警告対象外に設定してください。

メモリー転送

あらかじめ、アドレス帳に転送先を登録しておく必要があります。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

転送先にグループ宛先も指定できます。グループでまとめて指定できる宛先の最大件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

8

1. [メモリー転送] を押します。

2. [設定する] または [設定しない] を選択します。

転送先が設定されているときは、転送先の名称が表示されます。転送先を変更するときは、[転送先] を押して手順 3 に進みます。

[設定しない] を選択したときは、手順 6 へ進みます。

3. 登録する転送先の宛先キーを押し、[設定] を押します。

宛先種別のタブで、宛先表示をファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、フォルダー宛先に切り替えられます。

4. 転送先にインターネットファクス宛先またはメール宛先を指定したときは、必要に応じて「セキュリティー」を設定します。

転送するメールを暗号化するときは、[暗号化] を押します。

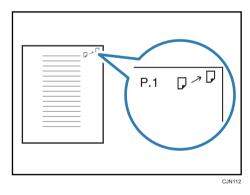
転送するメールに署名を付けるときは、[署名] を押します。

設定したあと、[設定] を押します。

5. 転送した文書に転送されたことを示すマークを印字するときは、［メモリー転送マーク印字］を押して反転表示させます。

6. ［設定］を押します。

補足

- 相手先によって転送先を変更するときは、特定相手先設定で相手先ごとに転送先を設定します。特定相手先設定については、P.304「特定相手先設定」を参照してください。
- 「セキュリティー」の設定については、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。

メモリー転送マーク印字

転送した文書に転送されたことを示すマークを印字します。

転送先で通常の受信文書と転送されてきた文書とを区別できます。

メモリー転送マーク印字をするかしないかを［メモリー転送］の［メモリー転送マーク印字］で設定できます。

「メモリー転送マーク印字」の設定を変更すると「メモリー転送」、「出力切替タイマー設定」、「相手先メモリー転送設定」の設定に反映されます。

メール宛先またはフォルダー宛先にメモリー転送したときは、この機能は使用できません。

印刷

受信した文書を自動的に印刷するかどうかを設定します。

1. ［印刷］を押します。

2. ［する］または［しない］を選択して、［設定］を押します。

出力切替タイマー設定

指定した時間帯に受信した文書の出力方法（印刷、印刷待機、ID 入力印刷、メモリー転送、蓄積）を設定できます。

［タイマー詳細設定］で時間帯を指定し、［出力設定］で指定した時間帯における出力方法を設定します。［出力切替タイマー設定］は、［基本設定］および回線ごとに設定できます。

タイマー詳細設定

- ウィークリー設定

  曜日ごとにタイマー切り替え時刻を登録できます。時刻は 5 回、曜日ごとに登録できます。登録方法は、P.271「ウィークリー設定を設定する」を参照してください。

  たとえば、月曜日の 8:00 から 19:59 までは受信文書を印刷し、20:00 から受信文書を蓄積するように切り替えることができます。

- 特定期間設定

  特定の期間でタイマー切り替え時刻を登録できます。期間は 3 回分登録できます。登録方法は、P.272「特定期間設定を設定する」を参照してください。

  たとえば、4 月 29 日の 8:00 から 5 月 5 日の 19:59 までは受信文書をメモリー転送し、20:00 から受信文書を印刷するように切り替えることができます。

- 印刷 ID 設定

  ［ID 入力印刷］で受信した文書を印刷するときに必要な印刷 ID を登録します。

  ［出力切替タイマー設定］の［出力設定］で［ID 入力印刷］を選択すると、指定した期間に受信した文書はメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。［ID 入力印刷］を設定した期間に、あらかじめ登録しておいた印刷 ID を入力して印刷できます。

  ID は［基本設定］および回線ごとに設定できます。

  ID を重複して登録することはできません。

  ID 入力印刷時は、印刷 ID が一致した回線の文書を印刷します。

  また、回線ごとの設定で［基本設定に従う］に設定されているときは、「基本設定」と同じ ID で印刷します。

出力設定

［ウィークリー設定］または［特定期間設定］で指定した期間に受信した文書の出力方法を選択します。

- 未設定
- 印刷する
- 印刷待機
- ID 入力印刷

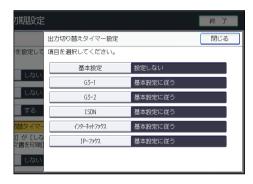
- メモリー転送
- 蓄積

［印刷待機］または［ID 入力印刷］を選択したときは、指定した期間に受信した文書はメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。

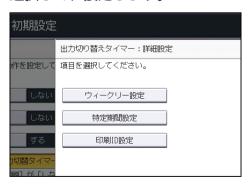
［印刷待機］を選択したときは、［受信文書設定］の［待機文書を印刷］を押し、印刷します。回線ごとに印刷できます。

［ID 入力印刷］を選択したときは、［送受信確認/印刷］の［ID 入力印刷文書を印刷］を押し、印刷します。回線ごとに印刷できます。詳しくは、P.203「ID を入力して印刷待機文書を印刷する」を参照してください。

1. ［出力切替タイマー設定］を押します。

2. ［基本設定］または設定する回線を選択します。

3. ［設定する］を選択します。

4. ［タイマー詳細設定］を押します。

5. ［ウィークリー設定］、［特定期間設定］、［印刷 ID 設定］から登録する項目を選択して、設定します。

［ウィークリー設定］を設定するときは、P.271「ウィークリー設定を設定する」を参照してください。

［特定期間設定］を設定するときは、P.272「特定期間設定を設定する」を参照してください。

印刷 ID を設定するときは、[印刷 ID 設定] を押します。テンキーで ID を入力します。[#] を押して、[設定] を押します。

6. [閉じる] を押します。
7. [設定] を押します。
8. [閉じる] を押します。

ウィークリー設定を設定する

1. [ウィークリー設定] を押します。
2. 設定する曜日を選択します。
3. 設定する項目の右側にある [変更] を押します。

4. [切り替え時刻] を押します。
5. 切り替える時間をテンキーで入力し、[#] を押します。
6. [設定] を押します。
7. [出力設定] を押します。
8. 出力方法を [印刷する]、[印刷待機]、[ID 入力印刷]、[メモリー転送]、[蓄積] から選択します。
9. [メモリー転送] を選択したときは、[メモリー転送先] を設定します。

   [メモリー転送先] を押します。

   - [個別に設定する]

     [個別に設定する] を選択し、一覧から転送先の宛先を選択して [設定] を押します。

   - [セキュリティー]

     [セキュリティー] を押します。

     転送するメールを暗号化するときは、[暗号化] を押します。

     転送するメールに署名を付けるときは、[署名] を押します。

8

設定したあと、[設定] を押します。

- [メモリー転送マーク印字]

  転送した文書に転送されたことを示すマークを印字するときは、[メモリー転送マーク印字] を押して反転表示させます。

[設定] を押します。

10. [蓄積] を選択したときは、[蓄積通知先] を設定します。

[蓄積通知先] を押し、[通知する] を押します。

- [通知先]

  [通知先] を押し、一覧から通知先の宛先を選択して、[設定] を押します。

- [セキュリティー]

  [セキュリティー] を押します。

  転送するメールを暗号化するときは、[暗号化] を押します。

  転送するメールに署名を付けるときは、[署名] を押します。

  設定したあと、[設定] を押します。

[設定] を押します。

11. [設定] を 2 回押します。

12. [閉じる] を 2 回押します。

8

特定期間設定を設定する

1. [特定期間設定] を押します。

2. 設定する項目の右側にある [変更] を押します。

3. [開始日時] を押します。

4. 日時をテンキーで入力し、[#] を押します。

5. [設定] を押します。
6. [終了日時] を押します。
7. 日時をテンキーで入力し、[#] を押します。
8. [設定] を押します。
9. [出力設定] を押します。
10. 出力方法を [印刷する]、[印刷待機]、[ID 入力印刷]、[メモリー転送]、[蓄積] から選択します。
11. [メモリー転送] を選択したときは、[メモリー転送先] を設定します。

[メモリー転送先] を押します。

- [個別に設定する]

  [個別に設定する] を選択し、一覧から転送先の宛先を選択して [設定] を押します。

- [セキュリティー]

  [セキュリティー] を押します。

  転送するメールを暗号化するときは、[暗号化] を押します。

  転送するメールに署名を付けるときは、[署名] を押します。

  設定したあと、[設定] を押します。

- [メモリー転送マーク印字]

  転送した文書に転送されたことを示すマークを印字するときは、[メモリー転送マーク印字] を押して反転表示させます。

[設定] を押します。

12. [蓄積] を選択したときは、[蓄積通知先] を設定します。

[蓄積通知先] を押し、[通知する] を押します。

- [通知先]

  [通知先] を押し、一覧から通知先の宛先を選択して、[設定] を押します。

- ［セキュリティー］

  ［セキュリティー］を押します。

  転送するメールを暗号化するときは、［暗号化］を押します。

  転送するメールに署名を付けるときは、［署名］を押します。

  設定したあと、［設定］を押します。

［設定］を押します。

13. ［設定］を 2 回押します。

14. ［閉じる］を押します。

自動印刷禁止設定

受信した文書を自動的に印刷しないで印刷待機文書として保存するかどうかを設定します。

［禁止する］に設定していても、出力切替タイマー設定で設定した期間に入ると自動的に解除されます。

1. ［自動印刷禁止設定］を押します。

2. ［基本設定］または設定する回線を選択します。

3. ［禁止する］または［禁止しない］を選択し、［設定］を押します。

4. ［閉じる］を押します。

待機文書を印刷

「出力タイマー切替設定」および「自動印刷禁止設定」により、印刷待機している文書を印刷します。

1. ［待機文書を印刷］を押します。

2. ［全文書］または待機文書を印刷する回線を選択します。

3. ［スタート］キーを押します。

4. ［閉じる］を押します。

封筒受信

受信した文書を封筒受信するかしないかを設定します。

封筒受信については、P.192「封筒受信した文書を印刷する」を参照してください。

封筒受信を使用するときは、あらかじめ［導入設定］の［封筒 ID 登録］で封筒 ID を登録しておきます。

登録方法は、P.252「導入設定」を参照してください。

特定の相手先だけを封筒受信するときは、「特定相手先登録（封筒受信設定）」で相手先ごとに封筒受信機能を設定します。設定方法は、P.304「特定相手先設定」を参照してください。

この機能は、インターネットファクスおよび Mail to Print では使用できません。

1. **［封筒受信］を押します。**

2. **［する］または［しない］を選択し、［設定］を押します。**

蓄積受信文書ユーザー設定

ハードディスクに蓄積した受信文書を管理するユーザーを設定できます。設定すると、Web Image Monitor から文書を操作するときに管理者のユーザーコードの入力が必要になります。また、操作部からの蓄積受信文書の操作を制限できます。

あらかじめ、アドレス帳に管理する人のユーザーコードを登録しておく必要があります。登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』「宛先・ユーザーを登録する」を参照してください。

この機能は［受信文書設定］で［蓄積］を［する］に設定しているときに使用できます。

1.［ファクス初期設定］を押します。

2.［受信設定］を押します。

3.［蓄積受信文書ユーザー設定］を押します。

4.［する］を押します。

ユーザー設定を取り消すときは、［しない］を選択して手順 6 に進みます。

5. 指定するユーザーの宛先キーを押し、［設定］を押します。

6. 選択したユーザーを確認し、［設定］を押します。

設定しているユーザーが宛先表から消去されると「宛先は無効です」とメッセージが表示されます。ユーザーを指定し直してください。

7.［終了］を押します。

補足

- 設定しているユーザーが、アドレス帳から消去されたときは、Web Image Monitor や操作部からのファクス蓄積受信文書の確認ができなくなります。手順 4 で［しない］に設定するか、新しいユーザーを設定します。『ネットワークの接続/システム初期設定』「システム初期設定」を参照してください。

SMTP 受信ファイル配信設定

SMTP 受信したメールの配信を、送信元のメールアドレスで判断して受信するかしないかを設定します。

配信を許可するアドレスを設定すると、設定したメールアドレスと送信元からのメールアドレスは次のように下から比較されます。

- 配信を許可するアドレスを「@aaa.abcd.co.jp」に設定したとき、

  eigyo@aaa.abcd.co.jp：一致するので受信し、配信する。

  eigyo@aaa.xyz.co.jp：一致しないので受信しない。

  aaa@abcd.co.jp：一致しないので受信しない。

ここで設定したメールアドレスに一致しない送信元からのメールを受信したときは、メールを破棄して SMTP サーバーにエラーを応答します。

メールが破棄されてもエラーレポートは出力されません。

この機能は SMTP 受信したメールの配信が有効なときに使用できます。

1. [ファクス初期設定] を押します。

2. [受信設定] を押します。

3. [SMTP 受信ファイル配信設定] を押します。

4. [する] を押します。

設定を取り消すときは、[しない] を押し、手順 9 に進みます。

5.「配信要求アクセスを許可するアドレス」の [変更] を押します。

6. 配信を許可する送信元メールアドレスを入力し、[OK] を押します。

7. 配信先にインターネットファクス宛先またはメール宛先を指定したときは、必要に応じて [セキュリティー] を設定します。

転送するメールを暗号化するときは、[暗号化] を押します。

転送するメールに署名を付けるときは、[署名] を押します。

設定したあと、[設定] を押します。

8. [設定] を押します。

9. [終了] を押します。

補足

- 「セキュリティー」の設定については、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。

読み取りサイズ登録／変更／消去

送信する原稿を不定形のサイズで読み取るときは、サイズをあらかじめ登録しておきます。

設定を登録または変更したときは、内容をメモなどに控えておくことをお勧めします。

登録できる数は最大 2 サイズです。

横のサイズの指定は 128〜1200mm または 5.5〜47.0 インチ以内です。128mm 未満は入力しても設定できません。また、1200mm より大きい数値は入力できません。

読み取りサイズを登録／変更する

登録したサイズを変更する手順は登録するときと同じです。

1. ［ファクス初期設定］を押します。

2. ［読み取り設定］を押します。

3. ［読み取りサイズ登録／変更／消去］を押します。

4. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

5. ［登録サイズ 1］または［登録サイズ 2］を押します。

6. 横のサイズをテンキーで入力し、［#］を押します。

［mm］または［inch］を押して、単位を切り替えることができます。数値を入力してから［mm］または［inch］を押して切り替えると、その数値を単位に合わせて自動的に計算し表示します。（端数は四捨五入されます。）たとえば、単位が mm の状態で［2］［5］［0］を入力し inch に切り替えると、9.8inch が表示されます。もう一度 mm に切り替えると 249mm が表示されます。

7. 登録する縦のサイズを選択します。

縦（幅）の指定は選択している単位によって表示が異なります。

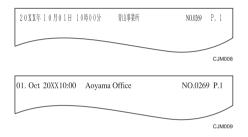
8. ［設定］を押します。

9. [閉じる] を押します。
10. [終了] を押します。

読み取りサイズを消去する

1. [ファクス初期設定] を押します。
2. [読み取り設定] を押します。
3. [読み取りサイズ登録／変更／消去] を押します。
4. [消去] を押し、消去する「登録サイズ」を押します。
5. [消去する] を押します。
6. [閉じる] を押します。
7. [終了] を押します。

8

発信元情報を登録する

送信、受信のときにこちら側の情報を相手先に伝えることができます。伝えられた情報は、相手先の画面に表示されたり、レポートに印字されたりします。

発信元情報として本機に登録した内容はパラメーター設定リストで確認できます。登録または変更したときは、パラメーター設定リストを印刷し、保管しておくことをお勧めします。パラメーター設定リストの印刷方法は、P.252「導入設定」を参照してください。

発信元名称（印字用名称）

送信のときに相手先の用紙に印字される情報です。通常はこちら側の名称を登録しておきます。

発信元名称（印字用）は、10 件登録できます。部署ごとに発信元名称（印字用）を登録し、使い分けると便利です。また、印字フォーマットを国内向けにするか、国外向けにするか選択できます。

登録できる文字は漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、記号、数字です。

登録できる文字数は全角で最大 32 文字、半角で最大 32 文字です。全角と半角は混在できません。

［オプション設定］の［発信元名称印字］で発信元名称（印字用）を印字するかどうか設定できます。設定方法は、P.111「相手先の受信紙に発信元名称を印字する」を参照してください。

発信元名称（表示用名称）

G3 回線を使用した送信と受信のときに相手先に伝える情報です。

通常はこちら側の名称を登録しておきます。伝えられた情報は相手先の画面に表示されたり、レポートに印字されたりします。

この機能は、相手先が当社のファクスを使用しているときにはたらきます。

登録できる文字はカタカナ（半角）、アルファベット、記号、数字です。

登録できる文字数は半角で最大 20 文字です。

発信元ファクス番号

G3 回線を使用した送信と受信のときに相手先に伝える情報です。

伝えられた情報は相手先の画面に表示されたり、レポートに印字されたりします。相手先が当社のファクスでないときも機能します。

登録できる文字は数字、記号（スペース、+）です。

登録できる文字数は半角で最大 20 文字です。

発信元ファクス情報は一般的に「日本の国番号 81」、「0 を除いた市外局番」、「ファクス番号」の順で登録します。

たとえば、ファクス番号が「03（1234）5678」のときは、「81312345678」のように登録します。

G4 発信元情報

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

G4 発信元情報は、G4 で ISDN を使用した発信のときに相手先の用紙に印字される情報です。

登録できる文字は、カタカナ（半角）、アルファベット、数字、記号です。

登録できる文字数は、国番号、ファクス番号、および端末略称の文字数を合計して最大 22 文字です。

G4 発信元情報は一般的に「日本の国番号 81」、「0 を除いた市外局番」、「電話番号」、「端末略称」の順で登録します。端末略称は通常、こちら側の名称を登録しておきます。

たとえば、ファクス番号が「03（1234）5678」で、端末名称が「TOKYO」のときは、次のように登録します。

- 国番号：81
- ファクス番号：312345678
- 端末略称：TOKYO

発信元情報を登録／変更する

登録した情報を変更する手順は登録するときと同じです。

1. **［ファクス初期設定］を押します。**
2. **［導入設定］を押します。**
3. **［発信元情報登録］を押します。**
4. **発信元名称（印字用）を登録するときは、［印字用名称］タブが選択されていることを確認し、発信元名称（印字用）を登録します。**

   登録／変更する印字用名称を押し、発信元名称（印字用）を入力して、［OK］を押します。

   印字フォーマットを［国内］、［国外］から選択します。

5. 発信元名称（表示用）を登録するときは、［表示用名称］タブを選択し、発信元名称（表示用）を登録します。

［表示用名称］を押し、発信元名称（表示用）を入力して、［OK］を押します。

6. 発信元ファクス番号を登録するときは、［ファクス番号］タブを選択し、発信元ファクス番号を登録します。

ファクス番号を登録する回線を選択します。発信元ファクス番号をテンキーで入力します。［#］を押し、［設定］を押します。「＋」とスペースを入力するときは、それぞれ［+］、［スペース］を押します。

画面に表示される項目はオプションの有無によって異なります。

7. G4 発信元情報を登録するときは、［G4 発信元情報］タブを選択し、それぞれの項目を登録します。

［国番号］を押し、テンキーで［8］［1］を入力します。［#］を押し、［設定］を押します。

［ファクス番号］を押し、ファクス番号をテンキーで入力します。［#］を押し、［設定］を押します。

［端末略称］を押し、端末略称を入力して、［OK］を押します。

8. ［閉じる］を押します。
9. ［終了］を押します。

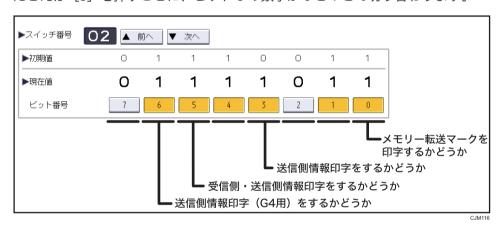
発信元情報を消去する

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［発信元情報登録］を押します。
4. 消去する発信元情報を選択します。
5. 消去する項目のキーを押します。
6. ［後退］または［全消去］を押して、［OK］を押します。

発信元ファクス番号および G4 発信元情報の国番号とファクス番号のときは、［クリア］を押して、［設定］を押します。

7. ［閉じる］を押します。
8. ［終了］を押します。

パラメーター設定

パラメーター設定で各種の機能を利用状況にあった設定に変更できます。パラメーターのスイッチを操作して変更します。

スイッチとビット

それぞれのスイッチは 1 と 0 の組み合わせによる 8 桁の数字の並びで構成され、その 1 桁 1 桁をビットと言います。右端がビット 0、左端がビット 7 です。ビットの数字を 0 または 1 に変更することで、機能の設定を変更できます。

スイッチ 02 の例

パラメーター設定の画面では、初期値と現在値が表示されます。

ビットはそれぞれテンキーの［0］［1］［2］［3］［4］［5］［6］［7］に対応しており、たとえば［3］を押すごとに、ビット 3 の数字が 0 と 1 とで切り替わります。

上記の図は「スイッチ 02」の「ビット 3」を工場出荷時の「0（送信側情報を印字しない）」から「1（送信側情報を印字する）」に変更されている状態を示しています。

パラメーター一覧表

スイッチ	ビット	項目	0	1
02	0	メモリー転送マークを印字するかどうか P.268「メモリー転送マーク印字」	印字しない	**印字する（工場出荷時の設定）**
02	3	送信側情報印字をするかどうか P.149「送信側情報印字」	**印字しない（工場出荷時の設定）**	印字する

スイッチ	ビット	項目	0	1
02	5	受信側・送信側情報印字をするかどうか P.149「受信側・送信側情報印字」 『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」	印字しない	**印字する（工場出荷時の設定）**
02	6	送信側情報印字（G4 用）をするかどうか P.150「送信側情報印字（G4 用）」 『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」	印字しない	**印字する（工場出荷時の設定）**
03	0	通信結果レポートを自動的に印刷するかどうか P.169「通信結果レポート」	**印刷しない（工場出荷時の設定）**	印刷する
03	2	蓄積結果レポートを自動的に印刷するかどうか P.84「送信文書のメモリー蓄積結果を確認する（蓄積結果レポート）」	**印刷しない（工場出荷時の設定）**	印刷する
03	3	F コード取り出し予約レポートを自動的に印刷するかどうか P.90「F コード取り出し予約レポート」	**印刷しない（工場出荷時の設定）**	印刷する
03	4	F コード取り出し結果レポートを自動的に印刷するかどうか P.91「F コード取り出し結果レポート」	印刷しない	**印刷する（工場出荷時の設定）**
03	5	直接送信結果レポートを自動的に印刷するかどうか P.171「直接送信結果レポート」	**印刷しない（工場出荷時の設定）**	印刷する
03	7	通信管理レポートを自動的に印刷するかどうか P.181「通信管理レポートを印刷する」	印刷しない	**印刷する（工場出荷時の設定）**
04	0	親展通知レポートを自動的に印刷するかどうか P.196「親展通知レポート」	印刷しない	**印刷する（工場出荷時の設定）**

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
04	1	不達レポートおよび F コード中継結果レポートを自動的に印刷するかどうか P.136「F コード中継結果レポート」 P.173「不達レポート」	印刷しない	**印刷する（工場出荷時の設定）**
04	4	相手先を各種レポートに表示するかどうか P.84「送信文書のメモリー蓄積結果を確認する（蓄積結果レポート）」 P.90「F コード取り出し予約レポート」 P.91「F コード取り出し結果レポート」 P.169「通信結果レポート」 P.171「直接送信結果レポート」 P.173「不達レポート」 『こまったときには』「エラーレポートが印刷されたとき」 『こまったときには』「電源断レポート」	表示しない	**表示する（工場出荷時の設定）**
04	5	ユーザー名称を各種レポートに表示するかどうか P.84「送信文書のメモリー蓄積結果を確認する（蓄積結果レポート）」 P.90「F コード取り出し予約レポート」 P.91「F コード取り出し結果レポート」 P.163「送信待機文書リスト」 P.169「通信結果レポート」 P.173「不達レポート」 P.182「通信管理レポート」 P.185「通信管理情報のメール送信」 『こまったときには』「エラーレポートが印刷されたとき」 『こまったときには』「電源断レポート」	表示しない	**表示する（工場出荷時の設定）**

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
04	7	各種レポートに原稿画像を載せるかどうか P.84「送信文書のメモリー蓄積結果を確認する（蓄積結果レポート）」 P.169「通信結果レポート」 P.173「不達レポート」	画像を載せない	**画像を載せる（工場出荷時の設定）**
05	0	サービスコール時に受信するかどうか	代行受信する	**着信しない（工場出荷時の設定）**
05	2、1	印刷不可能時に代行受信するかどうか（印刷不可能時：すべての用紙がない、トナーがない、すべての給紙トレイが故障している） P.116「代行受信」	• 00：無条件に代行受信する • **01：発信元名称（表示用）／発信元ファクス番号を受けたときに代行受信する（工場出荷時の設定）** • 10：ID 送受信用 ID が一致したときに代行受信する • 11：着信しない	
05	5	印刷用紙を優先順位 1 位の用紙に限定するかどうか P.152「最適なサイズの用紙に印刷する（ジャストサイズ印刷）」	**しない（工場出荷時の設定）**	する
05	7	給紙トレイの 1 つでも用紙がなくなったときに紙なし警告をするかどうか 『こまったときには』「ファクス使用中にメッセージが表示されたとき」	**しない（工場出荷時の設定）**	する

スイッチ	ビット	項目	0	1
07	0	呼び出し音を鳴らすようにするかどうか P.120「受信モード」	**鳴る（工場出荷時の設定）**	鳴らない
07	1	受信モードを自動切り替えに設定しているとき、相手先に音声メッセージを流すかどうか P.121「自動切り替え」	流さない	**流す（工場出荷時の設定）**
07	2	クイックメモリー送信をするかどうか P.22「クイックメモリー送信」	しない	**する（工場出荷時の設定）**
07	5	ファクスと電話の切り替えを外付け電話機からできるようにするかどうか P.124「手動受信」	しない	**する（工場出荷時の設定）**
08	1	発信元情報が非通知のファクスの受信をすべて拒否するかどうか	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
08	2	迷惑ファクス防止機能の使用条件 P.310「相手先別迷惑ファクス防止設定をする」 迷惑ファクス「ON」時	**特定相手先だけ受信（工場出荷時の設定）**	特定相手先以外を受信
10	0	操作部からの蓄積受信文書の操作を制限するかどうか	**制限しない（工場出荷時の設定）**	制限する
10	1	集約印刷機能選択 P.147「集約印刷」	**集約しない（工場出荷時の設定）**	集約する
10	3	受信側縮小をするかどうか P.148「受信側縮小」	**縮小しない（工場出荷時の設定）**	縮小する
10	6	送信結果通知メール送信時に、通信結果レポートを出力するかどうか P.169「送信結果をレポートとメールで確認する」	**しない（工場出荷時の設定）**	印刷する
10	7	文書蓄積エラー発生時に、受信した文書を消去するかどうか P.265「エラー発生中の受信文書消去または受信拒否の設定」	**受信文書印刷する（工場出荷時の設定）**	受信文書消去する

スイッチ	ビット	項目	0	1
11	2	白紙に近い原稿を読み取ったときに検知するかどうか P.41「白紙原稿を検知する」	しない	**する（工場出荷時の設定）**
11	3	呼び出し音 1300Hz で着信するかどうか P.352「F ネットから受信する」	着信する	**着信しない（工場出荷時の設定）**
11	5	相手先別メモリー転送した文書を本機で印刷するかどうか P.311「相手先別メモリー転送設定をする」	**しない（工場出荷時の設定）**	する
14	0	自動電源受信機能（スリープモード時の印刷）で受信した文書の印刷のしかた P.142「自動電源受信機能」	**すぐに印刷する（工場出荷時の設定）**	[省エネ]キーを押してスリープモードを解除したとき印刷
14	3	機能切り替え時リセット	**リセットしない（工場出荷時の設定）**	リセットする
15	2、1、0	給紙トレイを固定に設定したときに使用する給紙トレイの設定 （右記の数値以外は設定できません。）	• **001：トレイ 1（工場出荷時の設定）** • 010：トレイ 2 • 011：トレイ 3 • 100：トレイ 4 • 101：大量給紙トレイ	
15	5	給紙トレイを固定するかどうか	する	**しない（工場出荷時の設定）**
17	2	同報送信時、［追加］を押すかどうか P.63「アドレス帳から選択する」	**押さない（工場出荷時の設定）**	押す
17	3	原稿読み取り終了時に、設定内容をすべてリセットするかどうか	**する（工場出荷時の設定）**	しない

スイッチ	ビット	項目	0	1
17	7	手動受信やファクス情報サービスを利用するとき、［スタート］キーを押して受信するかどうか P.124「手動受信」 P.346「ファクス情報サービスを利用する」	受信しない	**受信する（工場出荷時の設定）**
18	0	発信元名称（印字用）日付データ印字をするかどうか P.111「相手先の受信紙に発信元名称を印字する」	印字しない	**印字する（工場出荷時の設定）**
18	1	発信元名称（印字用）発信元データ印字をするかどうか P.111「相手先の受信紙に発信元名称を印字する」	印字しない	**印字する（工場出荷時の設定）**
18	2	発信元名称（印字用）文書番号印字をするかどうか P.111「相手先の受信紙に発信元名称を印字する」	印字しない	**印字する（工場出荷時の設定）**
18	3	発信元名称（印字用）ページ番号印字をするかどうか P.111「相手先の受信紙に発信元名称を印字する」	印字しない	**印字する（工場出荷時の設定）**
19	0	排紙位置シフト機能を使用するかどうか P.156「排紙位置シフト機能」 『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」	使わない	**使う（工場出荷時の設定）**
19	1	通信管理レポートを回線別に印字するかどうか P.181「通信管理レポートを手動で印刷する」 『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」	**しない（工場出荷時の設定）**	する
20	0	PC ファクス結果レポートを自動的に印刷するかどうか P.227「PC ファクス結果レポート」	**印刷しない（工場出荷時の設定）**	印刷する

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
20	5、4、3、2	PC ファクスドライバーから印刷できなかった文書の再印刷保持時間 P.221「パソコンからファクスを送信する」	**0000:0 分（工場出荷時の設定）** 0001:1 分 0010:2 分 0011:3 分 0100:4 分 0101:5 分 0110:6 分 0111:7 分 1000:8 分 1001:9 分 1010:10 分 1011:11 分 1100:12 分 1101:13 分 1110:14 分 1111:15 分	
21	0	受信確認応答メールの印刷条件 P.101「受信確認を要求する」	**エラー時に印刷する（工場出荷時の設定）**	すべて印刷する
21	1	メール受信文書の受信確認要求に応答するかどうか P.126「インターネットファクス/Mail to Print でメールを受信する」	応答しない	**応答する（工場出荷時の設定）**
21	2	受信したメールに添付された JPEG ファイルまたは PDF ファイルを印刷するかどうか P.126「インターネットファクス/Mail to Print でメールを受信する」	印刷しない	**印刷する（工場出荷時の設定）**
21	3	メモリー転送、バックアップ送信、親展ボックスの配信先への配信、中継ボックスの受信局への送信の宛先がメール宛先またはフォルダー宛先のときにどのファイル形式で送信するか P.132「F コードを利用した配信」 P.135「受信文書の中継」 P.138「受信文書の転送」 P.242「送信設定」	**TIFF で送信（工場出荷時の設定）**	PDF で送信

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
21	4	通信管理情報をメールで送信するかどうか P.185「通信管理情報のメール送信」	**送信しない（工場出荷時の設定）**	送信する
21	5	通常メール（TIFF ファイル添付）受信時のテキスト（件名、本文）情報出力抑止選択 P.126「インターネットファクス/Mail to Print でメールを受信する」	**抑止しない（工場出荷時の設定）**	抑止する
21	6	ネットワークエラーの警告を表示するかどうか 『こまったときには』「ファクス使用中にメッセージが表示されたとき」	**表示する（工場出荷時の設定）**	表示しない
21	7	メール受信でエラー発生時、エラー通知メールを送信元に送信するかどうか 『こまったときには』「インターネットファクスでエラーになったとき」	**送信する（工場出荷時の設定）**	送信しない
22	0	G3-1 回線で発呼時にダイヤルトーンを検出してから送信するかどうか	検出しなくても送信する	**検出しなければ送信しない（工場出荷時の設定）**
22	1	G3-2 回線で発呼時にダイヤルトーンを検出してから送信するかどうか	検出しなくても送信する	**検出しなければ送信しない（工場出荷時の設定）**
22	2	G3-3 回線で発呼時にダイヤルトーンを検出してから送信するかどうか	検出しなくても送信する	**検出しなければ送信しない（工場出荷時の設定）**
24	0	送信できなかった文書をメモリーに保持するかどうか P.166「不達文書を送り直す」	**保持しない（工場出荷時の設定）**	保持する
24	1	送信できなかった文書のメモリー保持時間 P.166「不達文書を送り直す」 ビット 0 が「保持する」のときに有効	**24 時間（工場出荷時の設定）**	72 時間

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
24	2	文書蓄積した文書を永久保持するかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
25	2	受信モードが自動切り替えモードのとき、着信時に優先するモードをどちらにするか	**FAX 優先（工場出荷時の設定）**	TEL 優先
25	3	ダイヤルイン機能を使用するかどうか P.122「ダイヤルイン機能を利用する」 P.252「導入設定」	**使わない（工場出荷時の設定）**	使う
25	5	ナンバー・ディスプレイやモデムダイヤルインの提供を受けている電話回線に本機を接続しているときに、G3-1 回線でファクス受信をできるようにするかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
25	6	G3-1 回線での通信時に、ナンバー・ディスプレイサービスにより発信元の電話番号を取得するかどうか またはモデムダイヤルインサービスによって、受信モードを自動切り替えできるようにするかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
30	2	発信元の電話番号が国際電話などで非通知（ナンバー・ディスプレイのサービス提供が不可能）のときに、G3-1 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
30	3	公衆電話からの発信により発信元の電話番号が非通知のときに、G3-1 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する

スイッチ	ビット	項目	0	1
30	4	発信者の通知拒否により発信元の電話番号が非通知のときに、G3-1 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
30	5	G3-1 回線での着信時またはファクス受信時に下記の機能で使用する送信者の宛先名称の優先順位 • 迷惑ファクス防止設定 • 特定相手先設定 • 各種レポートの出力 • 通信中の相手先表示 • 一時的に印刷ができないときの受信時の動作 • 送信側情報印字 • メール配信時またはメール転送時の送信メールの件名 （本機がナンバー・ディスプレイの提供をうけている電話回線を使用しているとき）	**発信元名称優先（工場出荷時の設定）** ＜優先順位＞ 1.送信者の発信元名称 2.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 3.送信者の発信元ファクス番号	発信電話番号優先 ＜優先順位＞ 1.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 2.送信者の発信元名称 3.送信者の発信元ファクス番号
30	6	G3-1 回線での通信時に「着番号」と「発信電話番号」の情報が存在するとき、どちらの情報をダイヤルインルーティングの対象とするか	**着番号優先（工場出荷時の設定）**	発信電話番号優先
31	0	G3-1 回線でノイズなどによりモデムダイヤルイン／ナンバー・ディスプレイサービス情報を受信できないときに、受信動作を継続するかどうか	切断	**受信継続（工場出荷時の設定）**
32	0	指定した宛先種別の宛先が存在しないとき、どの宛先を優先に利用するか P.132「受信するときの機能」 P.267「メモリー転送」 P.311「相手先別メモリー転送設定をする」 P.314「親展ボックスを登録／変更する」 P.319「中継ボックスを登録／変更する」	紙優先 ＜優先順位＞ 1.IP-ファクス宛先 2.ファクス宛先 3.インターネットファクス宛先 4.メール宛先 5.フォルダー宛先	**電子優先（工場出荷時の設定）** ＜優先順位＞ 1.インターネットファクス宛先 2.メール宛先 3.フォルダー宛先 4.IP-ファクス宛先 5.ファクス宛先

スイッチ	ビット	項目	0	1
32	4	G3-1 回線で受信した文書を配信するかどうか P.133「増設 G3／G4 回線を利用した回線別配信」	**しない（工場出荷時の設定）**	する
32	5	G3-2 回線で受信した文書を配信するかどうか P.133「増設 G3／G4 回線を利用した回線別配信」	**しない（工場出荷時の設定）**	する
32	6	G3-3／G4／I-G3 回線で受信した文書を配信するかどうか P.133「増設 G3／G4 回線を利用した回線別配信」	**しない（工場出荷時の設定）**	する
34	0	IP-ファクスでゲートキーパーを使用するかどうか P.12「IP-ファクス機能の概要」	**使わない（工場出荷時の設定）**	使う
34	1	IP-ファクスで SIP サーバーを使用するかどうか P.12「IP-ファクス機能の概要」	**使わない（工場出荷時の設定）**	使う
35	7、6、5、4、3、2、1、0	バックアップ送信時の発呼間隔	00000000：0 分～11111111：255 分 工場出荷時の設定：**00001111（15 分）**	
36	7、6、5、4、3、2、1、0	バックアップ送信時の総発呼回数	00000000/00000001：1 回～11111110/11111111：254 回 工場出荷時の設定：**11000000（192 回）**	
37	0	ファクス送信やバックアップ送信の送信待ち、送信中、バックアップ送信不達処理中などのファイルで送信できる最大宛先数を超えたときに、強制的にバックアップファイルを不達処理にするかどうか P.242「送信設定」 P.356「項目別最大値一覧」	**Off（工場出荷時の設定）**	On

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
37	3、2	バックアップ送信不達時に、バックアップデータを不達レポートと一緒に印刷するかどうか	• 00：印刷しない • 01：先頭の1ページだけを印刷する • **10：全ページ印刷する（工場出荷時の設定）**	
37	4	フォルダー宛先への受信文書転送時、ファイル名への送信元情報引用設定	**引用しない（工場出荷時の設定）**	引用する
37	5	フォルダー宛先への受信文書転送時、ファイル名の使用可能文字制限設定	**制限しない（工場出荷時の設定）**	制限する
40	0	受信文書蓄積時にメモリー残量がなくなったとき、印刷して消去するかどうか	**印刷して消去する（工場出荷時の設定）**	印刷も消去もせず受信しない
42	0	ナンバー・ディスプレイやモデムダイヤルインの提供を受けている電話回線に本機を接続しているときに、G3-2回線でファクス受信をできるようにするかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
42	1	G3-2回線での通信時に、ナンバー・ディスプレイサービスにより発信元の電話番号を取得するかどうか またはモデムダイヤルインサービスによって、受信モードを自動切り替えできるようにするかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
42	2	発信者の通知拒否により発信元の電話番号が非通知のときに、G3-2回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
42	3	公衆電話からの発信により発信元の電話番号が非通知のときに、G3-2 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
42	4	発信元の電話番号が国際電話などで非通知（ナンバー・ディスプレイのサービス提供が不可能）のときに、G3-2 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
42	5	G3-2 回線でノイズなどによりモデムダイヤルイン／ナンバー・ディスプレイサービス情報を受信できないとき、受信動作を継続するかどうか	切断	**受信継続（工場出荷時の設定）**
42	6	G3-2 回線での通信時に、「着番号」と「発信電話番号」の情報が存在するとき、どちらの情報をダイヤルインルーティングの対象とするか	**着番号優先（工場出荷時の設定）**	発信電話番号優先
42	7	G3-2 回線での着信時またはファクス受信時に下記の機能で使用する送信者の宛先名称の優先順位 • 迷惑ファクス防止設定 • 特定相手先設定 • 各種レポートの出力 • 通信中の相手先表示 • 一時的に印刷ができないときの受信時の動作 • 送信側情報印字 • メール配信時またはメール転送時の送信メールの件名 （本機がナンバー・ディスプレイの提供をうけている電話回線を使用しているとき）	**発信元名称優先（工場出荷時の設定）** ＜優先順位＞ 1.送信者の発信元名称 2.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 3.送信者の発信元ファクス番号	発信電話番号優先 ＜優先順位＞ 1.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 2.送信者の発信元名称 3.送信者の発信元ファクス番号

スイッチ	ビット	項目	0	1
43	0	ナンバー・ディスプレイやモデムダイヤルインの提供を受けている電話回線に本機を接続しているときに、G3-3 回線でファクス受信をできるようにするかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
43	1	G3-3 回線での通信時に、ナンバー・ディスプレイサービスにより発信元の電話番号を取得するかどうか またはモデムダイヤルインサービスによって、受信モードを自動切り替えできるようにするかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
43	2	発信者の通知拒否により発信元の電話番号が非通知のときに、G3-3 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
43	3	公衆電話からの発信により発信元の電話番号が非通知のときに、G3-3 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
43	4	発信元の電話番号が国際電話などで非通知（ナンバー・ディスプレイのサービス提供が不可能）のときに、G3-3 回線で着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
43	5	G3-3 回線でノイズなどによりモデムダイヤルイン／ナンバー・ディスプレイサービス情報を受信できないとき、受信動作を継続するかどうか	切断	**受信継続（工場出荷時の設定）**

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
43	6	G3-3 回線での通信時に「着番号」と「発信電話番号」の情報が存在するとき、どちらの情報をダイヤルインルーティングの対象とするか	**着番号優先（工場出荷時の設定）**	発信電話番号優先
43	7	G3-3 回線での着信時またはファクス受信時に下記の機能で使用する送信者の宛先名称の優先順位 • 迷惑ファクス防止設定 • 特定相手先設定 • 各種レポートの出力 • 通信中の相手先表示 • 一時的に印刷ができないときの受信時の動作 • 送信側情報印字 • メール配信時またはメール転送時の送信メールの件名 （本機がナンバー・ディスプレイの提供をうけている電話回線を使用しているとき）	**発信元名称優先（工場出荷時の設定）** ＜優先順位＞ 1.送信者の発信元名称 2.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 3.送信者の発信元ファクス番号	発信電話番号優先 ＜優先順位＞ 1.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 2.送信者の発信元名称 3.送信者の発信元ファクス番号
44	0	ナンバー・ディスプレイやモデムダイヤルインの提供を受けている電話回線に本機を接続しているときに、次世代ネットワーク（NGN）網を利用したIP-ファクスでファクス受信をできるようにするかどうか	**しない（工場出荷時の設定）**	する
44	2	発信者の通知拒否により発信元の電話番号が非通知のときに、次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスで着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
44	3	公衆電話からの発信により発信元の電話番号が非通知のときに、次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスで着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する

スイッチ	ビット	項目	0	1
44	4	発信元の電話番号が国際電話などで非通知（ナンバー・ディスプレイのサービス提供が不可能）のときに、次世代ネットワーク（NGN）網を利用したIP-ファクスで着信を拒否するかどうか （本機がナンバー・ディスプレイの提供を受けている電話回線を使用しているとき）	**拒否しない（工場出荷時の設定）**	拒否する
44	6	次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスでの通信時に「着番号」と「発信電話番号」の情報が存在するとき、どちらの情報をダイヤルインルーティングの対象とするか	**着番号優先（工場出荷時の設定）**	発信電話番号優先
44	7	次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスでの着信時またはファクス受信時に下記の機能で使用する送信者の宛先名称の優先順位 • 迷惑ファクス防止設定 • 特定相手先設定 • 各種レポートの出力 • 通信中の相手先表示 • 一時的に印刷ができないときの受信時の動作 • 送信側情報印字 • メール配信時またはメール転送時の送信メールの件名 （本機がナンバー・ディスプレイの提供をうけている電話回線を使用しているとき）	**発信元名称優先（工場出荷時の設定）** ＜優先順位＞ 1.送信者の発信元名称 2.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 3.送信者の発信元ファクス番号	発信電話番号優先 ＜優先順位＞ 1.ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号 2.送信者の発信元名称 3.送信者の発信元ファクス番号
45	1、0	IP ファクス送信ルート自動切換時に利用する G3 回線種別（G3-1／G3-2／G3-3）	• **01：G3-1 回線を使用する（工場出荷時の設定）** • 10：G3-2 回線を使用する • 11：G3-3 回線を使用する	

8

スイッチ	ビット	項目	0	1
45	2	メモリー転送、バックアップ送信、親展ボックスの配信先への配信、中継ボックスの受信局への送信の宛先がメール宛先またはフォルダー宛先のときにどのファイル形式で送信するか [パラメーター設定]（スイッチ21 ビット 03）で、転送ファイル形式が PDF に設定されているときに有効 P.132「F コードを利用した配信」 P.135「受信文書の中継」 P.138「受信文書の転送」 P.242「送信設定」	**PDF で送信（工場出荷時の設定）**	PDF/A で送信

パラメーター設定を変更する

オプションの設置や機能の ON／OFF など、あらかじめ必要な操作を行ってからパラメーターのスイッチを操作してください。

登録変更したときは、「パラメーター設定リスト」を印刷し、保管しておくことをお勧めします。

8

重要

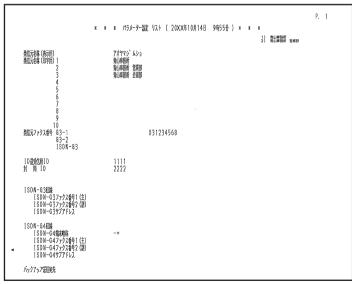
- 一覧表に載っていないビットは変更しないでください。

1. [ファクス初期設定] を押します。

2. [導入設定] を押します。

3. [パラメーター設定] を押します。

4. 変更するスイッチ番号を押します。

5. 変更するビット番号を押して、設定します。

番号を押すたびに 1 と 0 が交互に表示されます。

同じスイッチでほかのビット番号を変更するときはこの操作を繰り返します。

6. ［設定］を押します。

7. 手順 4～6 を繰り返して、スイッチの設定を変更します。

8. すべての設定を変更したら［閉じる］を押します。

9. ［終了］を押します。

パラメーター設定リスト

現在設定されている設定値に「＊」が記載されます。

P. 1

＊ ＊ ＊ パラメーター設定 リスト（ 20XX年10月14日 9時55分 ）＊ ＊ ＊

1） 青山事務所
2） 青山事務所 営業部

発信元名称（表示用） アオヤマジムショ
発信元名称（印字用） 1 青山事務所
2 青山事務所 営業部
3 青山事務所 企画部
4
5
6
7
8
9
10
発信元ファクス番号 G3-1 031234568
G3-2
ISDN-G3

ID送受信用ID 1111
封 筒 ID 2222

ISDN-G3回線
ISDN-G3ファクス番号1（主）
ISDN-G3ファクス番号2（副）
ISDN-G3サブアドレス

ISDN-G4回線
ISDN-G4端末略称 -=
ISDN-G4ファクス番号1（主）
ISDN-G4ファクス番号2（副）
ISDN-G4サブアドレス

バックアップ送信宛先

CJM117

8

P. 2

* * * パラメーター設定 リスト (20XX年10月14日 9時55分) * * *

1) 青山事務所
2) 青山事務所 営業部

項目	設定
メールアドレス	ScannerA@abcdcompany.com
ユーザー名	ScannerA@abcdcompany.com
SIPサーバーIPアドレス	
プロキシサーバーアドレス(メイン)	
プロキシサーバーアドレス(サブ)	
リダイレクトサーバーアドレス(メイン)	
リダイレクトサーバーアドレス(サブ)	
登録サーバーアドレス(メイン)	
登録サーバーアドレス(サブ)	
SIPユーザー名	
ゲートキーパーアドレス(メイン)	
ゲートキーパーアドレス(サブ)	
エイリアス電話番号	

CJM118

P. 3

* * * パラメーター設定 リスト (20XX年10月14日 9時55分) * * *

1) 青山事務所
2) 青山事務所 営業部

ユーザースイッチ 設定

スイッチ		
(SW02)		
〈0〉 メモリー転送マーク印字	* ON	OFF
〈3〉 送信側情報印字	ON	* OFF
(SW03) 自動印刷レポート		
〈0〉 通信結果レポート	ON	* OFF
〈2〉 蓄積結果レポート	ON	* OFF
〈3〉 Fコード取り出し予約レポート	ON	* OFF
〈4〉 Fコード取り出し結果レポート	* ON	OFF
〈5〉 直接送信結果レポート	ON	* OFF
〈7〉 通信管理レポート	* ON	OFF
(SW04) 自動印刷レポート		
〈0〉 親展通知レポート	* ON	OFF
〈7〉 レポートへの画像付加	* ON	OFF
(SW05)		
〈0〉 SC時	代行受信	* 着信不可
〈1-2〉印刷不可時の代行受信	無条件	* 相手先情報あり
	ID送受信用ID一致	着信不可
〈5〉 ジャストサイズ印刷	ON	* OFF
〈7〉 紙なし警告表示	ON	* OFF
(SW07)		
〈0〉 無鳴動着信	鳴らない	* 鳴る
〈1〉 音声応答	* ON	OFF
〈2〉 クイックメモリー送信	* ON	OFF
〈5〉 リモート切替	* ON	OFF

CJM119

P. 4

* * * パラメーター設定 リスト (20XX年10月14日 9時55分) * * *

1) 青山事務所
2) 青山事務所 営業部

ユーザースイッチ 設定

スイッチ			
(SW10)			
〈1〉 集約印刷	ON	* OFF	
〈3〉 受信側縮小印刷	ON	* OFF	
(SW11)			
〈2〉 白紙送信検出	* ON	OFF	
(SW14)			
〈0〉 夜間モード文書出力	* ON	OFF	
〈3〉 機能切替時リセット	ON	* OFF	
(SW17)			
〈2〉 宛先追加キー	省略不可	* 省略可	
(SW18)			
〈0〉 発信元名称印字:日付	* ON	OFF	
〈1〉 発信元名称印字:名称	* ON	OFF	
〈2〉 発信元名称印字:文書番号	* ON	OFF	
〈3〉 発信元名称印字:ページ番号	* ON	OFF	
(SW19)			
〈0〉 排紙位置シフト機能	* ON	OFF	
〈1〉 通信管理レポート回線別印字	ON	* OFF	
(SW20)			
〈0〉 PCファクス結果レポート印字	ON	* OFF	
〈2-5〉PCファクス印字リカバリータイムアウト時間	0分		
(SW21)			
〈1〉 受信確認要求に対する応答選択	* ON	OFF	
〈4〉 通信管理情報通知メール選択	ON	* OFF	
〈6〉 ネットワークエラーアラート画面表示	* ON	OFF	
(SW24)			
◀ 〈0-1〉不達文書保持	* OFF	24時間保持	72時間保持
(SW25)			
〈3〉 ダイヤルイン	ON	* OFF	
(SW32)			
〈0〉 宛先種別優先選択	紙優先	* 電子優先	

CJM120

8

P. 5

＊ ＊ ＊ ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ設定 ﾘｽﾄ (20XX年10月14日 9時55分) ＊ ＊ ＊

1) 青山事務所
2) 青山事務所 営業部

ｹﾞｰﾄｳｪｲｱﾄﾞﾚｽ

ROMﾊﾞｰｼﾞｮﾝ
G3-1 : 00.09.00(Validation Data: 3870)
G3-2 : 76(Validation Data: 0C7A)
G4 : 00(Validation Data:)

CJM121

特定相手先設定

あらかじめ特定の相手先を登録しておくと、受信時に動作する機能を相手先ごとに設定できます。

特定相手先ごとに設定できる機能

- 相手先別迷惑ファクス防止設定

  受信する相手先を制限します。登録した相手先（特定相手先）以外からのファクスは受け付けないので、間違いファクスやいたずらファクスなどで、用紙をむだにすることがなくなります。

- 相手先別受信文書印刷部数

  登録した相手先（特定相手先）から受信した文書を、相手先別に設定されている部数だけ印刷します。

- 相手先別メモリー転送設定

  メモリー転送は、受信した文書をあらかじめ登録されている転送先へ転送する機能です。登録した相手先（特定相手先）から送信されてきた文書だけを転送するなど、送信してきた相手先によって転送先を区別するときに、相手先別メモリー転送を使用します。

- 相手先別両面印刷

  登録した相手先（特定相手先）から受信した文書だけ両面印刷します。

- 相手先別封筒受信

  登録した相手先（特定相手先）から受信した文書だけを封筒受信します。封筒受信は、受信した文書を印刷しないでメモリーに蓄積し、封筒 ID を入力して印刷する機能です。

- 相手先別給紙トレイ選択

  登録した相手先（特定相手先）から受信した文書と、それ以外の相手先からの文書を、それぞれ異なる用紙に印刷します。たとえば、給紙トレイ 1 に青い用紙、給紙トレイ 2 に白い用紙をセットすると、特定相手先からの文書は青い用紙に、それ以外からの文書は白い用紙に印刷するので、ひと目で区別できます。

- 相手先別受信連携設定

  ファクス連携機能を使用しているときに設定できる機能です。

  受信した文書をあらかじめ登録されている転送先へ転送します。転送先に、ファクス連携機能の連携機を指定できます。

  機能について詳しくは、P.328「他機で受信したファクスを操作側の機器で印刷する」を参照してください。

受信の方法により、使用できる機能は次のように異なります。

○は、機能を使用できることを表します。

×は、機能を使用できないことを表します。

機能	ファクス受信／IP-ファクス受信	インターネットファクス受信
相手先別迷惑ファクス防止設定	○	×
相手先別受信文書印刷部数	○	×
相手先別メモリー転送設定	○	○
相手先別両面印刷	○	○
相手先別封筒受信	○	×
相手先別給紙トレイ選択	○	○
相手先別受信連携設定	○	○

Mail to Print 受信時は特定相手先の機能は使用できません。

登録する相手先名称

- 登録する内容

  相手先の発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を登録します。

  相手先が当社のファクスのときは、相手先に登録されている発信元名称（表示用）を登録します。当社以外のファクスのときは、発信元ファクス番号を登録します。

  G4 回線で通信するときは G4 発信元情報を登録します。

  インターネットファクスの相手先は、メールアドレスを登録します。

  特定相手先として登録できる最大件数、および最大文字数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

  インターネットファクスの相手先を登録するときは、登録できる最大文字数以内で、メールアドレスの冒頭から登録します。

- 一致条件（全一致と部分一致）

  同じ名称部分を持つ複数の相手先を 1 件ずつ登録するかわりに、同じ名称部分だけを「部分一致」条件として登録できます。

  たとえば、「サッポロシテン」「アオヤマシテン」「センダイシテン」の 3 件の相手先は、部分一致条件として「シテン」とまとめて登録できます。この 3 件の相手先から受信すると、特定相手先「シテン」で登録された機能が適用されます。

  一致条件が「全一致」のときは 3 件の登録が必要ですが、「部分一致」を使用すると登録件数が 1 件ですみます。

  特定相手先として登録されている名称と、実際の通信相手の名称は、スペースを無視して比較されます。

ほとんどの相手先で同じ設定を使用するときは、本機の全体の設定で機能を設定しておき、異なる設定を使用する相手先だけ特定相手先として登録しておくと便利です。

たとえば、ほとんどの相手先からの受信文書はメモリー転送しないで、ある特定の相手先からの受信文書だけメモリー転送するときは、[受信設定] の [メモリー転送] を [設定しない] に設定しておき、メモリー転送する相手先だけ特定相手先として登録して [相手先別メモリー転送] を [設定する] に設定します。

補足

- 発信元名称（表示用）も発信元ファクス番号も登録されていない相手先は、特定相手先として登録できません。
- 登録する相手先の名称に漢字は使用できません。
- 特定相手先からの文書が F コード取り出しのときは区別できません。
- 相手先に登録されている発信元名称（表示用）や発信元ファクス番号は「通信管理レポート」の相手先名称で確認できます。登録した特定相手先は「特定相手先リスト」で確認できます。

特定相手先全体の機能を設定する

特定相手先全体にかかわる次の機能を設定します。

迷惑ファクス防止機能

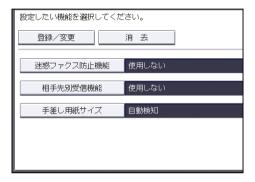
特定相手先機能全体で、「迷惑ファクス防止機能」を使用するかしないか設定します。

相手先別受信機能

特定相手先機能全体で、相手先ごとに設定した個別の機能（相手先別メモリー転送や相手先別封筒受信など）を使用するかしないか設定します。

この機能を「使用しない」に設定するときは、相手先ごとに設定した機能は適用されず、[受信設定] で設定した本機全体の設定に従います。

手差し用紙サイズ

手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。

[相手先別給紙トレイ選択] で手差しトレイを選択している特定相手先を登録したときに、設定します。

サイズの指定方法は、[自動検知]、[定形サイズ]、[不定形サイズ] から選択できます。

[自動検知] を押したときは、手差しトレイにセットした用紙を次のとおりサイズ検知します。

- 用紙が B6 サイズ幅（128mm）のときは「B6」
- 用紙が A5 サイズ幅（148mm）のときは「A5」
- 用紙が B5 サイズ幅（182mm）のときは「B5」

- 用紙が A4 サイズ幅（210mm）のときは「A4▭」
- 用紙が B4 サイズ幅（257mm）のときは「B4▭」
- 用紙が A3 サイズ幅（297mm）のときは「A3▭」

1. ［ファクス初期設定］を押します。

2. ［受信設定］を押します。

3. ［特定相手先設定］を押します。

4. ［機能設定］を押します。

5. 設定する機能名を押します。

6. 迷惑ファクス防止機能を設定するときは、「迷惑ファクス防止機能」を設定します。

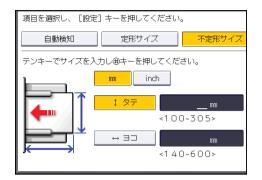
［迷惑ファクス防止機能］を押し、［使用する］または［使用しない］を選択して、［設定］を押します。

7. 相手先別に設定した機能を使用するときは、「相手先別受信機能」を設定します。

［相手先別受信機能］を押し、［使用する］または［使用しない］を選択して、［設定］を押します。

8. 手差し用紙サイズ指定を設定するときは、「手差し用紙サイズ」を設定します。

［手差し用紙サイズ］を押し、［自動検知］、［定形サイズ］または［不定形サイズ］を押します。

- 自動検知

  ［自動検知］が選択されていることを確認します。

- 定形サイズ

  ［定形サイズ］を押し、表示されたサイズの中から設定するサイズを選択します。

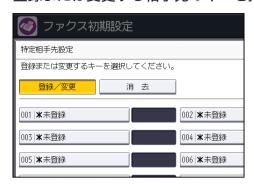
- 不定形サイズ

  ［不定形サイズ］を押し、用紙のタテ（幅）、ヨコ（長さ）のサイズをテンキーで入力します。数値を入力したあとは、［#］を押します。

8

タテ（幅）は 100〜305mm または 4.0〜12.0 インチ以内で指定します。

ヨコ（長さ）は 140〜600mm または 5.5〜23.6 インチ以内で指定します。

［mm］または［inch］を押すと、単位が切り替わります。数値を入力してから［mm］または［inch］を押して切り替えると、その数値を単位に合わせて自動的に計算して表示します。（端数は四捨五入されます。）

9. ［設定］を押します。

10. ［閉じる］を押します。

11. ［終了］を押します。

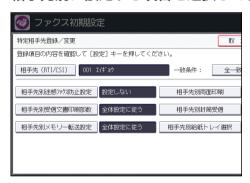
補足

- フィニッシャーを取り付けているかどうか、またはフィニッシャーの種類により手差しトレイで使用できる不定形サイズの最大の長さが異なります。手差しトレイで使用できる不定形サイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。フィニッシャーで使用できる不定形サイズについては、『保守/仕様』「仕様一覧」を参照してください。

特定相手先を登録／変更する

登録した相手先を変更する手順は登録するときと同じです。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［特定相手先設定］を押します。
4. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

5. 登録または変更する相手先のキーを押します。

6. 相手先の名称を入力し、［OK］を押します。

発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を入力します。

7. ［全一致］または［部分一致］を押して選択します。

登録する相手先の名称と実際の通信相手の名称を比較するときの一致条件を選択します。

8. 相手先別に設定する項目を選択して、設定します。

条件を設定する項目だけ操作します。

迷惑ファクスの防止を設定するときは、P.310「相手先別迷惑ファクス防止設定をする」を参照してください。

受信文書の印刷部数を設定するときは、P.310「相手先別受信文書印刷部数を設定する」を参照してください。

メモリー転送を設定するときは、P.311「相手先別メモリー転送設定をする」を参照してください。

両面印刷を設定するときは、P.311「相手先別両面印刷を設定する」を参照してください。

封筒受信を設定するときは、P.312「相手先別封筒受信をする」を参照してください。

給紙トレイを設定するときは、P.312「相手先別給紙トレイ選択をする」を参照してください。

相手先別受信連携設定を設定するときは、P.312「相手先別受信連携設定をする」参照してください。

9. ［設定］を押します。

続けて登録するときは、手順 5 から操作します。

10. ［閉じる］を押します。

11. ［終了］を押します。

相手先別迷惑ファクス防止設定をする

［特定相手先設定］で条件設定をするときに操作します。迷惑ファクスの防止を設定します。

あらかじめ［機能設定］の［迷惑ファクス防止機能］を［使用する］に設定してください。

1. ［相手先別迷惑ファクス防止設定］を押します。

2. ［設定する］または［設定しない］を選択し、［設定］を押します。

補足

- 登録した相手先からは受信せず、それ以外からの文書だけを受信するように設定できます。設定を変更するときは、［パラメーター設定］（スイッチ 08 ビット 2）で「特定相手先だけ受信」か「特定相手先以外を受信」かを選択できます。
- 発信元情報が非通知のファクスの受信をすべて拒否し、知らない相手からのファクスを受け付けないように設定できます。この機能を利用するときは、［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 08 ビット 1）を「拒否する」に設定します。
- ［パラメーター設定］については、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

相手先別受信文書印刷部数を設定する

［特定相手先設定］で条件設定をするときに操作します。受信文書の印刷部数を設定します。

1. ［相手先別受信文書印刷部数］を押します。

2. ［部数指定する］を押します。

3. 印刷部数をテンキーで入力し、［#］を押します。

4. ［設定］を押します。

補足

- ［全体設定に従う］を選択すると、［受信設定］の［受信文書印刷部数］で設定した内容に従います。

8

相手先別メモリー転送設定をする

［特定相手先設定］で条件設定をするときに操作します。メモリー転送を設定します。

転送先にはファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、およびフォルダー宛先が設定できます。

特定相手先 1 件につき、転送先を 1 件登録できます。複数の転送先を登録するときはグループ宛先を指定します。グループでまとめて指定できる宛先の最大件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。

メモリー転送機能について詳しくは、P.138「受信文書の転送」を参照してください。

1.［相手先別メモリー転送設定］を押します。

2.［設定する］または［設定しない］を押します。

［設定しない］を押したときは、手順 6 に進みます。

3. 転送先の宛先キーを押し、［設定］を押します。

宛先種別のタブで、ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先を切り替えられます。

4. 転送先にインターネットファクス宛先またはメール宛先を指定したときは、必要に応じて「セキュリティー」を設定します。

転送するメールを暗号化するときは、［暗号化］を押します。

転送するメールに署名を付けるときは、［署名］を押します。

設定したあと、［設定］を押します。

5. 転送した文書に転送されたことを示すマークを印字するときは、［メモリー転送マーク印字］を押して反転表示させます。

6.［設定］を押します。

補足

- ［全体設定に従う］を選択すると、［受信設定］の［受信文書設定］の［メモリー転送］で設定した内容に従います。
- 「セキュリティー」の設定については、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。

相手先別両面印刷を設定する

［特定相手先設定］で条件設定をするときに操作します。両面印刷を設定します。

1.［相手先別両面印刷］を押します。

2.［する］または［しない］を選択し、［設定］を押します。

補足

- ［全体設定に従う］を選択すると、［受信設定］の［両面印刷］で設定した内容に従います。
- ［機能設定］の［手差し用紙サイズ］で［不定形サイズ］を選択したときは、両面印刷はできません。

相手先別封筒受信をする

［特定相手先設定］で条件設定をするときに操作します。封筒受信を設定します。

あらかじめ、封筒 ID を登録しておく必要があります。登録方法は、P.252「導入設定」を参照してください。

1. ［相手先別封筒受信］を押します。
2. ［する］または［しない］を選択し、［設定］を押します。

補足

- ［全体設定に従う］を選択すると、［受信設定］の［受信文書設定］の［封筒受信］で設定した内容に従います。
- 封筒受信機能とメモリー転送機能を同じ相手先に登録したときは、メモリー転送しません。

相手先別給紙トレイ選択をする

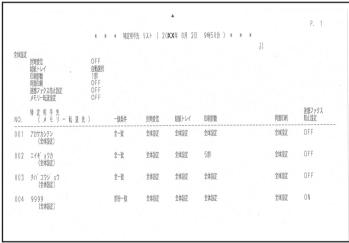
［特定相手先設定］で条件設定をするときに操作します。給紙トレイを設定します。

1. ［相手先別給紙トレイ選択］を押します。
2. 給紙するトレイを選択し、［設定］を押します。

補足

- ［全体設定に従う］を選択すると、［受信設定］の［給紙トレイ選択］で設定した内容に従います。
- 手差しトレイを選択したときは、［機能設定］の［手差し用紙サイズ］で用紙のサイズを設定できます。

相手先別受信連携設定をする

［特定相手先設定］で条件設定をするときに操作します。受信連携先を設定します。

1. ［相手先別受信連携設定］を押します。
2. ［連携する］または［連携しない］を選択します。

   ［連携しない］を押したときは、手順 4 に進みます。

3. 設定する連携機の右側にある［接続］を押し、［設定］を押します。
4. ［設定］を押します。

特定相手先を消去する

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［受信設定］を押します。
3. ［特定相手先設定］を押します。
4. ［消去］を押し、消去する相手先のキーを押します。
5. ［消去する］を押します。
6. ［閉じる］を押します。
7. ［終了］を押します。

特定相手先リスト

P. 1

＊ ＊ ＊ 特定相手先 リスト （ 20XX年 8月 2日 9時50分 ） ＊ ＊ ＊

1）
2）

全体設定

封筒受信	OFF
給紙トレイ	自動選択
印刷部数	1部
両面印刷	OFF
迷惑ファクス防止設定	OFF
メモリー転送設定	OFF

NO.	特定相手先 （メモリー転送先）	一致条件	封筒受信	給紙トレイ	印刷部数	両面印刷	迷惑ファクス 防止設定
001	アカサカシテン （全体設定）	全一致	全体設定	全体設定	全体設定	全体設定	OFF
002	エイギョウカ （全体設定）	全一致	全体設定	全体設定	5部	全体設定	OFF
003	チバコウジョウ （全体設定）	全一致	全体設定	全体設定	全体設定	全体設定	OFF
004	9999 （全体設定）	部分一致	全体設定	全体設定	全体設定	全体設定	ON

CJM122

補足

- 相手先別メモリー転送の転送先として設定している宛先が削除されると、転送先には「未登録宛先」と表示されます。

8

F コードボックス設定

ITU-T の国際標準規格に従った F コードを利用する「親展ボックス」、「掲示板ボックス」、「中継ボックス」を登録、変更、消去します。（ITU-T：国際電気通信連合の通信規格を制定する部門）

F コードとは

F コードは、半角の 0〜9、♯、＊、およびスペースを使用し、最大 20 桁で登録する暗証番号のようなものです。

この機能を利用するときは、F コードボックス設定で F コード（SUB や SEP）を登録しておきます。相手先では F コードを指定してボックスへ文書を送ったり、ボックスの文書を取り出したりします。

補足

- 登録できる F コードボックスの最大件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。
- 同じ F コードを持つボックスは設定できません。
- メモリー残量が少なくなったとき、受信や登録ができなくなることがあります。メモリー残量の目安は、オプションの有無によって異なります。
- ［受信文書設定］の［出力切替タイマー設定］で、［基本設定］の［出力設定］を［印刷する］以外に設定しているときは、親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスを変更または削除できないことがあります。［出力切替タイマー設定］の設定を確認してください。

親展ボックスを登録／変更する

個人単位で利用する F コード親展受信用のボックスを開設します。

1 つのボックスに登録できる内容は次のとおりです。

- ボックス名（登録が必要）

  入力できる文字は、全角で最大 10 文字、半角で最大 20 文字です。

- F コード（登録が必要）

  入力できる文字は、半角で最大 20 桁、0〜9、♯、＊、およびスペースです。ただし、1 桁目はスペースの入力ができません。

- パスワード（登録は任意）

  入力できる文字は、半角で最大 20 桁、0〜9、♯、＊、およびスペースです。ただし、1 桁目はスペースの入力ができません。

  パスワードを登録すると、ボックス名称の前にマークが表示されます。

- 配信先（登録は任意）

受信した文書の配信先を 1 ボックスに 1 件登録できます。配信先はアドレス帳から選択して登録します。配信先にはファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先が指定できます。

- 受信連携先（登録は任意）

  ファクス連携機能を利用しているときに、連携機へ受信文書を配信できます。

  受信した文書の配信先を 1 ボックスに 1 件登録できます。配信先にはファクス連携機能を利用している機器を指定できます。

  1 つのボックスに登録できるのは「配信連携先」または「配信先」のどちらか一方です。

登録したボックスの設定を変更する手順は登録するときと同じです。ただし、使用中の F コード親展ボックスは変更できません。

機能について詳しくは、P.194「親展ボックスとは」を参照してください。

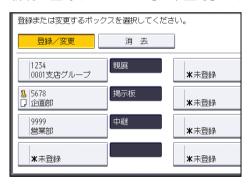
1. [ファクス初期設定] を押します。

2. [基本設定] を押します。

3. [F コードボックス設定] を押します。

4. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

5. 登録するボックスを押します。

新規に登録するときは［＊未登録］と表示されているキーを押します。

すでに登録されている内容を変更するときは、変更するボックスを押して、手順 8 に進みます。パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、[実行] を押します。

6. [親展ボックス] を押します。

7. ボックスの名称を入力し、[OK] を押します。

8. F コードをテンキーで入力します。

変更するときは、[クリア] を押して、入力し直します。ボックス名称を変更するときは、[ボックス名] を押して、手順 7 から操作します。

8

9. **パスワードを設定するときは、[パスワード]を設定します。**

   [パスワード]を押し、パスワードをテンキーで入力して、[設定]を押します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、[設定]を押します。

10. **配信先を設定するときは、[配信先]を設定します。**

    [配信先]を押し、配信先を一覧から選択して、[設定]を押します。

    宛先種別のタブで、表示をファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先、およびフォルダー宛先に切り替えられます。

11. **配信先にインターネットファクス宛先またはメール宛先を指定したときは、必要に応じて[セキュリティー]を設定します。**

    配信するメールを暗号化するときは、[暗号化]を押します。

    配信するメールに署名を付けるときは、[署名]を押します。

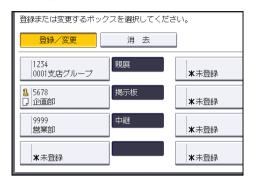
    設定したあと、[設定]を押します。

12. **連携機を配信先に設定するときは、[受信連携先]を設定します。**

    [受信連携先]を押し、設定する連携機の右側にある[選択]を押して、[設定]を押します。

13. **[設定]を押します。**
14. **[閉じる]を押します。**
15. **[終了]を押します。**

8

補足

- 「セキュリティー」の設定については、P.26「インターネットファクス/メールの暗号化・署名」を参照してください。

親展ボックスを消去する

指定した親展ボックスに文書が登録されているときは親展ボックスを消去できません。

1. **[ファクス初期設定]を押します。**
2. **[基本設定]を押します。**
3. **[F コードボックス設定]を押します。**

4. [消去] を押し、消去する親展ボックスを選択します。

5. パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、[実行] を押します。

6. [消去する] を押します。

7. [閉じる] を押します。

8. [終了] を押します。

掲示板ボックスを登録/変更する

共有して使用できる掲示板ボックスを開設します。

1 つのボックスに登録できる内容は次のとおりです。

- ボックス名（登録が必要）

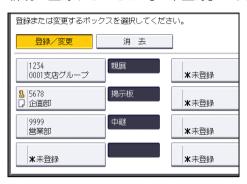
  入力できる文字は、全角で最大 10 文字、半角で最大 20 文字です。

- F コード（登録が必要）

  入力できる文字は、半角で最大 20 桁、0〜9、♯、＊、およびスペースです。ただし、1 桁目はスペースの入力ができません。

- パスワード（登録は任意）

  入力できる文字は、半角で最大 20 桁、0〜9、♯、＊、およびスペースです。ただし、1 桁目はスペースの入力ができません。

  パスワードを登録すると、ボックス名の前にマークが表示されます。

登録したボックスの設定を変更する手順は登録するときと同じです。ただし、使用中の F コード掲示板ボックスは変更できません。

機能について詳しくは、P.198「掲示板ボックスとは」を参照してください。

1. [ファクス初期設定] を押します。

2. [基本設定] を押します。

3. [F コードボックス設定] を押します。

4. **[登録／変更] が選択されていることを確認します。**

5. **登録するボックスを押します。**

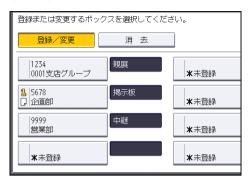
新規に登録するときは［＊未登録］と表示されているキーを押します。

すでに登録されている内容を変更するときは、変更するボックスを押します。パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、［実行］を押します。

6. **[掲示板ボックス] を押します。**

7. **ボックスの名称を入力し、[OK] を押します。**

8. **F コードをテンキーで入力します。**

変更するときは、［クリア］を押して入力し直します。ボックスの名称を変更するときは、［ボックス名］を押して、手順 7 から操作します。

9. **パスワードを設定するときは、[パスワード] を設定します。**

［パスワード］を押し、パスワードをテンキーで入力して、［設定］を押します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、［設定］を押します。

10. **[設定] を押します。**

11. **[閉じる] を押します。**

12. **[終了] を押します。**

掲示板ボックスを消去する

指定した掲示板ボックスに文書が登録されているときは掲示板ボックスを消去できません。

1. **[ファクス初期設定] を押します。**

2. **[基本設定] を押します。**

3. **[F コードボックス設定] を押します。**

4. [消去] を押し、消去する掲示板ボックスを押します。

5. パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、[実行] を押します。

6. [消去する] を押します。

7. [閉じる] を押します。

8. [終了] を押します。

中継ボックスを登録／変更する

F コード中継依頼受信文書を受信局に中継する中継ボックスを開設します。

1 つのボックスに登録できる内容は次のとおりです。

- ボックス名（登録が必要）

  入力できる文字は、全角で最大 10 文字、半角で最大 20 文字です。

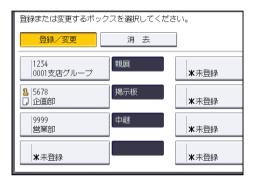
- F コード（登録が必要）

  入力できる文字は、半角で最大 20 桁、0〜9、＃、＊、およびスペースです。ただし、1 桁目はスペースの入力ができません。

- 受信局（登録が必要）

  受信した文書の中継先（受信局）を 1 ボックスに最大 5 件登録できます。受信局はアドレス帳から選択して登録します。グループでまとめて指定できる宛先の最大件数については、P.356「項目別最大値一覧」を参照してください。受信局 1 から 5 の合計が、指定できる最大宛先数を超えることはできません。

  受信局にはファクス宛先、IP-ファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先が指定できます。

- パスワード（登録は任意）

  入力できる文字は、半角で最大 20 桁、0〜9、＃、＊、およびスペースです。ただし、1 桁目はスペースの入力ができません。

  パスワードを登録すると、ボックス名の前にマークが表示されます。

登録したボックスの設定を変更する手順は登録するときと同じです。

機能について詳しくは、P.135「受信文書の中継」を参照してください。

1. [ファクス初期設定] を押します。

2. [基本設定] を押します。

3. [F コードボックス設定] を押します。

4. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

5. 登録するボックスを押します。

新規に登録するときは [＊未登録] と表示されているキーを押します。

すでに登録されている内容を変更するときは、変更するボックスを押して、手順 8 に進みます。パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、[実行] を押します。

6. [中継ボックス] を押します。

7. ボックスの名称を入力し、[OK] を押します。

8. F コードをテンキーで入力します。

変更するときは、[クリア] を押して入力し直します。ボックスの名称を変更するときは、[ボックス名] を押して、手順 7 から操作します。

9. 登録する受信局 1 から 5 を押します。

10. 登録する受信局を宛先表から選択し、[設定] を押します。

宛先種別のタブで、表示をファクス宛先、インターネットファクス宛先、メール宛先およびフォルダー宛先に切り替えられます。

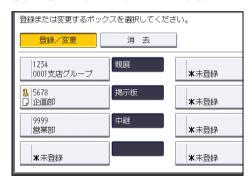
11. パスワードを設定するときは、[パスワード] を設定します。

[パスワード] を押し、パスワードをテンキーで入力して、[設定] を押します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、[設定] を押します。

12. 受信局にインターネットファクス宛先またはメール宛先を指定したときは、必要に応じて [セキュリティー] を設定します。

配信するメールを暗号化するときは、[暗号化] を押します。

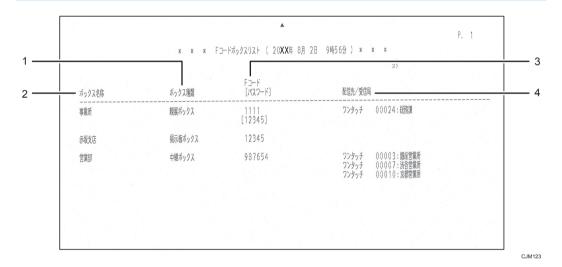
配信するメールに署名を付けるときは、[署名] を押します。

設定したあと、[設定] を押します。

13. [設定] を押します。
14. [閉じる] を押します。
15. [終了] を押します。

補足

- 「セキュリティー」の設定については、P.26「インターネットファクス／メールの暗号化・署名」を参照してください。

中継ボックスを消去する

1. [ファクス初期設定] を押します。
2. [基本設定] を押します。
3. [F コードボックス設定] を押します。
4. [消去] を押し、消去する中継ボックスを選択します。

5. パスワードが設定されているときは、テンキーでパスワードを入力し、[実行] を押します。
6. [消去する] を押します。
7. [閉じる] を押します。
8. [終了] を押します。

F コードボックスリストを印刷する

本機に設定されている親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスの一覧を印刷します。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［基本設定］を押します。
3. ［F コードボックス設定：リスト印刷］を押します。
4. ［スタート］キーを押します。
5. ［終了］を押します。

F コードボックスリスト

1. **ボックス種類**

   「親展ボックス」「掲示板ボックス」「中継ボックス」のいずれかが記載されます。

2. **ボックス名称**

   親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスに付けられている名称が記載されます。

3. **F コード［パスワード］**

   登録した各種ボックスに付けられた F コードが記載されます。パスワードが登録されているときは、[ ] 内にパスワードが記載されます。

4. **配信先／受信局**

   親展ボックスに登録されている配信先と中継ボックスに登録されている受信局が記載されます。宛先表に登録されている宛先は「ワンタッチ」と表示されます。

補足

- 親展ボックスに登録されている転送先や、中継ボックスに登録されている受信局の宛先が削除されると、「配信先/受信局」には「未登録宛先」と表示されます。

9. 他機のファクス機能を利用して送信・受信する（ファクス連携）

他機のファクス機能を利用して送信または受信する機能について説明します。

他機を利用したファクス送信機能の概要

ファクス連携アプリを使用し、ファクス機能が搭載されていない機器から、ネットワークで接続された連携機（他機）のファクス機能を利用して、ファクスの送信ができます。

操作側の機器でファクス連携アプリを表示させ、ファクス初期画面から送信の操作をします。送信文書のデータは、ネットワーク経由で連携機へ送られ、連携機からファクス送信されます。

他機を利用したファクスの送信では、G3 回線を使用した送信ができます。

また、ファクス機能が搭載されていない操作側の機器でも、アドレス帳にファクス宛先を登録したり、ファクス初期設定を設定できます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、『本機のご利用にあたって』「オプションが必要な機能一覧」を参照してください。

この機能を利用するためには、事前に以下の準備が必要です。

- 操作側の機器と連携機をネットワークで接続する
- 操作側の機器と連携機で相互の IP アドレスまたはホスト名を登録する

補足

- ネットワークの接続について詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』、「接続と設定」を参照してください。
- 操作側の機器と連携機にユーザー認証が設定されているときは、認証方式を合わせてください。
- 認証設定の詳細は、『セキュリティーガイド』を参照してください。
- IP アドレスまたはホスト名の登録方法は、『ネットワークの接続/システム初期設定』、「管理者用設定」を参照してください。

連携ファクスのファクス初期画面で利用できる機能

操作側の機器のファクス初期画面で設定できる機能は以下のとおりです。

メモリー送信、原稿種類、解像度、読み取りサイズ、サイズ混載、自動濃度、手動濃度、原稿セット方向、原稿面、宛先登録、回線選択、発信元名称印字、送信文書確認／中止、送信結果表示、受信結果表示、送信結果レポート

補足

- ファクス連携では、ファクス機能を搭載した連携機で対応している機能や送信・受信能力、対応用紙サイズでの送信または受信ができます。連携機に搭載されていない機能は利用できません。
- 回線選択で選択できる回線種別は、連携機で選択できるG3回線です。
- 発信元名称印字（印字用名称）は、2件から選択できます。

連携ファクスのファクス初期設定画面で利用できる機能

操作側の機器のファクス初期設定画面で設定できる機能は以下のとおりです。

基本設定

- クイック操作キー（1〜3）

  クイック操作キーに登録できる機能は次のとおりです。

  発信元名称印字、送信結果表示、受信結果表示、連携先選択 *1

  *1 ファクス連携機能を使用しているときは、［連携先選択］が自動的にクイック操作キー1に割り当てられます。

- 宛先表見出し切り替え
- 宛先検索対象

設定方法は、P.237「基本設定」を参照してください。

読み取り設定

- 読み取りサイズ登録／変更／消去

設定方法は、P.278「読み取りサイズ登録／変更／消去」を参照してください。

受信設定

- 両面印刷
- 給紙トレイ設定

設定方法は、P.245「受信設定」を参照してください。

導入設定

- パラメーター設定

  パラメーター設定では、以下のスイッチを操作して設定を変更できます。そのほかのスイッチは変更しないでください。

  - 印刷用紙を優先順位1位の用紙に限定するかどうか（スイッチ05 ビット5）
  - 給紙トレイの1つでも用紙がなくなったときに紙なし警告をするかどうか（スイッチ05 ビット7）
  - 白紙に近い原稿を読み取ったときに検知するかどうか（スイッチ11 ビット2）

- 機能切り替え時リセット（スイッチ 14 ビット 3）
    - 給紙トレイを固定に設定したときに使用する給紙トレイの設定（スイッチ 15 ビット 2、1、0）
    - 給紙トレイを固定するかどうか（スイッチ 15 ビット 5）
    - 同報送信時、［追加］を押すかどうか（スイッチ 17 ビット 2）
    - 原稿読み取り終了時に、設定内容をすべてリセットするかどうか（スイッチ 17 ビット 3）
    - 排紙位置シフト機能を使用するかどうか（スイッチ 19 ビット 0）
- 発信元情報登録（印字用名称）
- メニュープロテクト設定

設定方法は、P.252「導入設定」、P.280「発信元情報を登録する」、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

ファクス連携で送信する

操作の前に、連携機の電源が入っていることを確認してください。

1. 操作部左上の［ホーム］キーを押します。

2. ホーム画面上の［ファクス連携］アイコンを押します。

3. 自動原稿送り装置（ADF）または原稿ガラスに原稿をセットします。
4. 読み取り条件を選択します。

   詳しくは、P.43「読み取り条件を設定する」を参照してください。
5. 相手先を指定します。
6. ［スタート］キーを押します。

補足

- 以下の機能では、操作側の機器に保存または登録されている情報を使用します。
    - アドレス帳の登録情報
    - LDAP サーバーの登録情報

ファクス連携の送信待機文書を確認する

ファクス連携で送信した送信待機文書の内容の確認、送信の中止ができます。

確認する手順は、通常のファクスと同様です。

送信待機文書の確認については、P.157「送信待機文書を確認する」を参照してください。

送信文書確認/中止画面では、連携機で保持している送信待機文書がすべて表示されます。

操作側の機器からファクス連携機能を使用して送信した送信待機文書は、宛先の前にが表示されます。

ファクス連携では、送受信文書確認／印刷画面の［表示内容を更新］を押すと表示内容を更新できます。

他機で受信したファクスを操作側の機器で印刷する

ファクス機能が搭載されている連携機で受信した文書を、ファクス機能が搭載されていない機器へ転送または配信して印刷できます。

たとえば、販売部宛の文書は販売部の機器へ転送し、営業部宛の文書は営業部の機器へ転送して、それぞれの機器で印刷できます。

受信した文書を転送または配信するには、あらかじめ、ファクス機能のある連携機側の［ファクス初期設定］で文書を出力先へ転送または配信するように設定しておきます。文書の転送、配信は、受信回線別、送信元別（特定相手先）、ダイヤルイン番号別のいずれかで振り分けるように設定できます。設定する項目については、以下を参照してください。

受信回線別に振り分けるとき

［ファクス初期設定］の［回線別受信連携先設定］で振り分ける回線を選択し、転送先に操作側の機器を設定します。回線別受信連携先設定の登録方法は、P.245「受信設定」を参照してください。

送信元別（特定相手先）に振り分けるとき

［ファクス初期設定］の［特定相手先設定］で相手先を登録し、［相手先別受信連携設定］を［連携する］に設定します。［連携先］で転送先に操作側の機器を設定します。相手先別受信連携設定の登録方法は、P.304「特定相手先設定」を参照してください。

ダイヤルイン番号別に振り分けるとき

［ファクス初期設定］の［F コードボックス設定］で、親展ボックスを登録します。ダイヤルイン契約をして取得した電話番号（下 4 桁）のうち、配信に使用する電話番号で 4 桁の親展ボックスの F コード（SUB）を登録し、「配信連携先」に操作側の機器を設定します。親展ボックスの登録方法は、P.314「親展ボックスを登録／変更する」を参照してください。

転送先に連携機を指定するには、あらかじめ、［システム初期設定］で連携機の IP アドレスまたはホスト名の登録が必要です。

ファクス連携の通信結果を確認する

ファクス連携を利用したファクス送受信の結果を画面、レポートで確認できます。

ファクス連携の通信結果を画面で確認する

操作側の機器の画面で、連携機から送受信したファクスの通信情報を表示します。

確認する手順は、通常のファクスと同様です。

送信結果の確認については、P.167「送信結果を確認する」を参照してください。

受信結果の確認については、P.176「受信結果を確認する」を参照してください。

送信結果表示画面および受信結果表示画面には、連携機で実行された送信および受信の結果がすべて表示されます。

ファクス連携の通信結果は、相手先の欄に「--RFAX（操作側の機器の IP アドレス）-->」と表示されている行を確認します。この行には、操作側の機器から連携機への通信結果が表示されます。連携機から相手先への通信結果は、同じ文書番号で、相手先の欄に相手先の名称が表示されている行の結果欄を確認してください。

ファクス連携の通信結果をレポートで確認する

操作側の機器でレポートを自動で印刷し、連携機から送受信したファクスの送受信結果を確認できます。

確認できるレポートの種類は以下のとおりです。

- 通信結果レポート
- 不達レポート
- エラーレポート
- 電源断レポート

補足

- ファクス機能が搭載された連携機の設定によっては、レポートが印刷されないことがあります。

9

10. 付録

知っていると便利な機能やファクス機能の仕様、お問い合わせ先について説明します。

メモリー使用状況を確認する

メモリーが何に使用されているかを画面に表示します。

メモリー残量

ファクス初期画面ではメモリー残量を確認できます。ここで確認できるのは原稿を蓄積しておくメモリーの残量です。宛先は別のメモリーに記憶されるため、画面のメモリー残量は変わりません。

メモリー残量が一定量を下回ると、メッセージが表示されます。必要に応じて蓄積した文書を消去してください。

また、メモリー残量が一定量を下回ったとき、および0%になったときに、メールで管理者のメールアドレスに通知できます。この機能を使用するときは、[受信文書設定]の[蓄積]にある[メール通知：メモリー満杯間近]を[通知する]に設定します。設定方法は、P.263「受信文書設定」を参照してください。

メモリーに蓄積された文書の数

状態確認画面で、送信待機文書、封筒受信文書、および受信印刷待機文書の数を確認できます。「その他」には、Fコード掲示板ボックスに登録した文書の数、およびFコード親展ボックスに受信した文書の数が表示されます。詳しくは、『こまったときには』「本機の状態や設定内容を確認する」を参照してください。

補足

- [受信文書設定]の[蓄積]を[する]、[出力切替タイマー設定]で[印刷待機]や[ID入力印刷]に設定しているときは、受信した文書の数を「受信印刷待機文書」で確認できます。

ナンバー・ディスプレイを利用しているとき

ナンバー・ディスプレイサービスを契約しているときに利用できる本機の各種機能について説明します。

ナンバー・ディスプレイを本機のファクス機能で利用するには、[ファクス初期設定] の [パラメーター設定] で以下の設定が必要です。

- G3-1 回線での通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 25 ビット 6）を「ON（する）」に設定します。

- G3-2 回線での通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 42 ビット 1）を「ON（する）」に設定します。

- G3-3 回線での通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 43 ビット 1）を「ON（する）」に設定します。

ナンバー・ディスプレイ情報を相手先の名称として利用する

ナンバー・ディスプレイ情報として取得した相手先の電話番号を、相手先の発信元名称（表示用）や発信元ファクス番号の代わりに利用できます。用途は次のとおりです。

- 通信中の相手先の情報として画面に表示する
- 特定相手先の相手先名称として使用する
- 代行受信の条件として利用する
- 迷惑ファクスを防止する
- 送信側情報印字機能で印字する
- 通信管理レポート、親展通知レポートの「相手先」欄に印字する

発信元名称（表示用）や発信元ファクス番号の代わりに発信電話番号（ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号）を利用するには、[パラメーター設定] で以下の設定が必要です。

- G3-1 回線での通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 30 ビット 5）を「発信電話番号優先」に設定します。

- G3-2 回線での通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 42 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

- G3-3 回線での通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 43 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

- 次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスでの通信時に利用するとき

[パラメーター設定]（スイッチ 44 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

迷惑ファクス防止機能については、「迷惑ファクスを防止する」を参照してください。

ナンバー・ディスプレイ情報を利用して受信文書を配信する

ナンバー・ディスプレイ情報の発信電話番号を利用し、親展ボックス機能やダイヤルイン機能を使用して受信文書を配信できます。

親展ボックスを使用するときは、あらかじめ、発信電話番号の全桁を指定した親展ボックスを設定し、配信先を登録してください。

ダイヤルイン機能を使用して配信するときは、P.336「モデムダイヤルイン機能を利用した配信」を参照してください。

本機のナンバー・ディスプレイ機能に対応している電話会社のナンバー・ディスプレイサービスについては、サービス実施店にお問い合わせください。

補足

- この機能を利用するには、受信モードを自動受信またはファクス優先モードに設定します。
- この機能は、G3-1 回線、G3-2 回線、G3-3 回線、次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスの通信時に利用できます。
- この機能を使用しているときは、「受信モードタイマー切り替え」は使用できません。
- ノイズなどでナンバー・ディスプレイ情報を正常に受け取れないときは、配信や迷惑ファクス防止の機能を設定していても通常の受信となってしまいます。ナンバー・ディスプレイ情報を受け取れないときに受信したくないときは、[ファクス初期設定]の［パラメーター設定］で以下の設定が必要です。
    - G3-1 回線での通信時に利用するとき

      [パラメーター設定]（スイッチ 31 ビット 0）を「切断」に設定します。
    - G3-2 回線での通信時に利用するとき

      [パラメーター設定]（スイッチ 42 ビット 5）を「切断」に設定します。
    - G3-3 回線での通信時に利用するとき

      [パラメーター設定]（スイッチ 43 ビット 5）を「切断」に設定します。
- ナンバー・ディスプレイを契約している同一回線に、本機とナンバー・ディスプレイ対応の機器（電話機など）を接続している環境で、電話番号などのナンバー・ディスプレイ情報は機器（電話機など）で利用し、本機では通常のファクス受信をするように設定するときは、［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］で以下の設定が必要です。詳しくはサービス実施店に問い合わせてください。
    - G3-1 回線での通信時に利用するとき
        - [パラメーター設定]（スイッチ 25 ビット 5）を「ON（する）」に設定します。

- [パラメーター設定]（スイッチ 25 ビット 6）を「ON（する）」に設定しているときは、「OFF（しない）」に設定します。
    - G3-2 回線での通信時に利用するとき
        - [パラメーター設定]（スイッチ 42 ビット 0）を「ON（する）」に設定します。
        - [パラメーター設定]（スイッチ 42 ビット 1）を「ON（する）」に設定しているときは、「OFF（しない）」に設定します。
    - G3-3 回線での通信時に利用するとき
        - [パラメーター設定]（スイッチ 43 ビット 0）を「ON（する）」に設定します。
        - [パラメーター設定]（スイッチ 43 ビット 1）を「ON（する）」に設定しているときは、「OFF（しない）」に設定します。
- 本機に接続している外付けの電話機でナンバー・ディスプレイ機能を利用するときは、本機の受信モードを手動受信または自動切り替えの電話優先モードに設定します。
- ナンバー・ディスプレイを利用しているときに自動切り替えや手動受信モードで着信すると、はじめに短い呼び出しベルが数回鳴り、そのあと通常の呼び出しベルが鳴ります。外付け電話機で応答するときは、通常の呼び出しベルが鳴ってから応答してください。
- ナンバー・ディスプレイを利用しているときは、通信管理レポートの「受信結果」の「相手先」には次の内容が印字されます。
    - 番号通知されたとき

      発信元名称（表示用）または発信電話番号（ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号）が記載されます。
    - 番号非通知時でも着信させるとき

      発信電話番号の代わりに、非通知理由として「公衆電話」、「非通知」、「表示圏外」のいずれかが記載されます。
- 番号非通知の相手先を着信拒否するように設定しているときは、通信履歴は印字されません。印字するように設定するときは、サービス実施店に問い合わせてください。「相手先」には非通知理由として「公衆電話」、「非通知」、「表示圏外」のいずれかが印字されます。「結果」の欄は「エラー」となります。
- [パラメーター設定] ついては、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

迷惑ファクスを防止する

相手先の発信電話番号情報を利用して迷惑ファクスを防止します。

迷惑ファクス防止は、ファクスの受信を拒否する相手先の発信元名称（表示用）や発信元ファクス番号をあらかじめ登録しておき、登録した相手先からのファクスを受け付けないようにする機能です。

ナンバー・ディスプレイを契約しているときは、受信を拒否する相手先の登録名称として、発信電話番号（ナンバー・ディスプレイで表示される送信者の電話番号）を使用できます。

この機能を利用するときは、［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］で以下の設定が必要です。

- G3-1 回線での通信時に利用するとき

  ［パラメーター設定］（スイッチ 30 ビット 5）を「発信電話番号優先」に設定します。

- G3-2 回線での通信時に利用するとき

  ［パラメーター設定］（スイッチ 42 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

- G3-3 回線での通信時に利用するとき

  ［パラメーター設定］（スイッチ 43 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

- 次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスの通信時に利用するとき

  ［パラメーター設定］（スイッチ 44 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

P.283「パラメーター設定」を参照してください。

補足

- 迷惑ファクス防止機能を有効にするには、あらかじめ［ファクス初期設定］の［特定相手先設定］で、［相手先別迷惑ファクス防止設定］を設定します。P.304「特定相手先設定」を参照してください。

相手先が非通知のときに着信拒否をする

相手先が非通知のときに着信拒否します。

ナンバー・ディスプレイを契約していると、発信電話番号が通知されないときは、その非通知理由が画面に表示されます。

表示される非通知理由は以下のとおりです。

- 公衆電話（公衆電話からの発信）
- 非通知（非通知設定されている電話からの通話）
- 表示圏外（国際電話などで発信電話番号を通知できない通話）

本機では、非通知の理由に応じて着信拒否をするかしないかを設定できます。［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］で、非通知理由の種類ごとに着信拒否を設定します。

- G3-1 回線での通信時に利用するとき

  ［パラメーター設定］（スイッチ 30 ビット 2、3、4）で設定します。

- G3-2 回線での通信時に利用するとき

[パラメーター設定]（スイッチ 42 ビット 2、3、4）で設定します。

- G3-3 回線での通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 43 ビット 2、3、4）で設定します。

- 次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスの通信時に利用するとき

  [パラメーター設定]（スイッチ 44 ビット 2、3、4）で設定します。

補足

- 着信拒否を設定しているとき、番号非通知の相手先からの着信履歴は通信管理レポートに印字されません。印字するときはサービス実施店に問い合わせてください。
- 相手先が非通知のときでも着信するように設定しているときは、以下の機能を利用するときに非通知理由を表示または印字できます。通常は発信元名称（表示用）や発信元ファクス番号が表示または印字されます。
  - 各レポート出力
  - 通信中の相手先表示
  - 送信側情報印字
  - メールでの配信または転送時のメールの件名
- 非通知理由を表示または印字するには、[ファクス初期設定]の[パラメーター設定]で以下の設定が必要です。
  - G3-1 回線での通信時に利用するとき

    [パラメーター設定]（スイッチ 30 ビット 5）を「発信電話番号優先」に設定します。

  - G3-2 回線での通信時に利用するとき

    [パラメーター設定]（スイッチ 42 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

  - G3-3 回線での通信時に利用するとき

    [パラメーター設定]（スイッチ 43 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

  - 次世代ネットワーク（NGN）網を利用した IP-ファクスの通信時に利用するとき

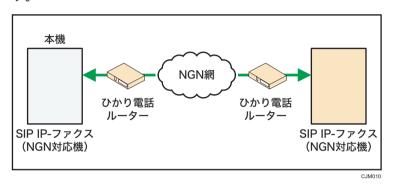
    [パラメーター設定]（スイッチ 44 ビット 7）を「発信電話番号優先」に設定します。

- [パラメーター設定]については、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

モデムダイヤルイン機能を利用した配信

ナンバー・ディスプレイとダイヤルインサービスを両方利用するときは、送信元の発信電話番号情報を利用して受信文書の配信ができます。

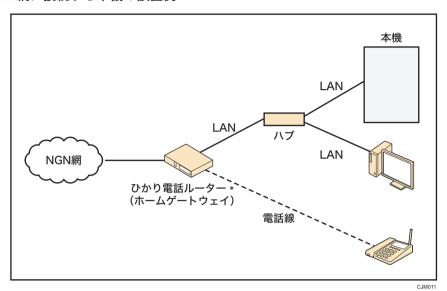
モデムダイヤルイン機能では、モデム信号方式で契約番号とダイヤルイン追加番号を区別し、発信電話番号を通知します。

この機能を利用するには、[ファクス初期設定]の[パラメーター設定]で以下の設定が必要です。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

- G3-1 回線での通信時に利用するとき
    - [パラメーター設定](スイッチ 25 ビット 3)を「ON(する/使う)」に設定します。
    - [パラメーター設定](スイッチ 25 ビット 6)を「ON(する/使う)」に設定します。
    - [パラメーター設定](スイッチ 30 ビット 6)を「発信電話番号優先」に設定します。
- G3-2 回線での通信時に利用するとき
    - [パラメーター設定](スイッチ 25 ビット 3)を「ON(する/使う)」に設定します。
    - [パラメーター設定](スイッチ 42 ビット 1)を「ON(する/使う)」に設定します。
    - [パラメーター設定](スイッチ 42 ビット 6)を「発信電話番号優先」に設定します。
- G3-3 回線での通信時に利用するとき
    - [パラメーター設定](スイッチ 25 ビット 3)を「ON(する/使う)」に設定します。
    - [パラメーター設定](スイッチ 43 ビット 1)を「ON(する/使う)」に設定します。
    - [パラメーター設定](スイッチ 43 ビット 6)を「発信電話番号優先」に設定します。

補足

- ダイヤルイン機能を利用した配信について詳しくは、P.134「ダイヤルイン番号を利用した配信(PSTN のとき)」を参照してください。

次世代ネットワーク（NGN）網を利用してIP-ファクス送受信する

本機では NTT の次世代ネットワーク（NGN）網を利用して IP-ファクスの送受信ができます。

企業内の SIP サーバーを利用した IP ネットワーク（イントラネット）接続と、次世代ネットワーク（NGN）接続の併用はできません。

環境を確認する

この機能を利用するには、NTT とひかり電話サービスの利用契約を結ぶ必要があります。

また、すでにひかり電話を利用しているときは、使用しているひかり電話の環境がデータコネクトに対応しているか確認してください。使用しているひかり電話の環境がデータコネクトに対応していないとき、またはデータコネクトに対応しているかわからないときは、電話会社に問い合わせてください。

また本機を NGN 網に接続するには、「ひかり電話ルーター」（ホームゲートウェイ）が必要です。「ひかり電話ルーター」は、ひかり電話サービスを契約すると、NTT より提供されます。

NGN 網に接続する本機の設置例

* 回線終端装置一体型（一体型ではないものもあります。）

補足

- 機器が複数台接続されている環境で内線通信を行うときは、ホームゲートウェイ側に本機の物理アドレスを登録しておくことをお勧めします。物理アドレスを登録すると本機と内線番号が関連付けされるため、一貫性が保てます。
- 本機の物理アドレスは、［システム初期設定］の［本体 IPv4 アドレス］で確認できます。詳しくは、『ネットワークの接続/システム初期設定』「インターフェース設定」を参照してください。

NGN の IP-ファクスを利用するための設定

ホームゲートウェイを利用するには、事前にカスタマーエンジニアによる本機の設定が必要です。サービス実施店に連絡してください。

カスタマーエンジニアが設定したあと、［ファクス初期設定］で次の項目を設定してください。

NGN 設定方法

［導入設定］の［NGN 設定方法］で、ホームゲートウェイを利用して IP-ファクス送受信をするための設定方法を選択します。工場出荷時は「簡易設定」に設定されています。詳しくは、P.252「導入設定」、および P.341「NGN 設定方法」を参照してください。

SIP 使用

ホームゲートウェイを利用するときは、[導入設定] の [SIP 使用] で [使用する] を選択してください。詳しくは、P.252「導入設定」を参照してください。

パラメーター設定（スイッチ 34 ビット 1）

ホームゲートウェイを利用するときは、[パラメーター設定]（スイッチ 34 ビット 1）を「使う」に設定します。パラメーター設定の設定方法は、P.283「パラメーター設定」を参照してください。

SIP 設定

[導入設定] の [SIP 設定] で、次の内容を設定します。

項目	説明
SIP サーバー IP アドレス プロキシサーバーアドレス（メイン）	SIP プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。 簡易設定時は、自動で登録されます。
SIP サーバー IP アドレス プロキシサーバーアドレス（サブ）	ホームゲートウェイを利用しているときは、入力できません。
SIP サーバー IP アドレス リダイレクトサーバーアドレス（メイン）	ホームゲートウェイを利用しているときは、入力できません。
SIP サーバー IP アドレス リダイレクトサーバーアドレス（サブ）	ホームゲートウェイを利用しているときは、入力できません。
SIP サーバー IP アドレス 登録サーバーアドレス（メイン）	SIP 登録サーバーの IP アドレスを入力します。 簡易設定時は、自動で登録されます。
SIP サーバー IP アドレス 登録サーバーアドレス（サブ）	ホームゲートウェイを利用しているときは、入力できません。
SIP ユーザー名	SIP の通信に利用するユーザー名を入力します。 簡易設定時は、自動で登録されます。 簡易設定時でも手動で変更できますが、使用しているホームゲートウェイによっては、ホームゲートウェイに設定が反映されないことがあります。反映されなかったときは、画面にメッセージが表示されます。[確認] を押し、ファクス初期設定またはホームゲートウェイの設定を確認してください。
SIP ダイジェスト認証	SIP ダイジェスト認証を利用するかしないかを設定します。 簡易設定時は、自動的に設定されます。
SIP ダイジェスト認証 ユーザー名	SIP ダイジェスト認証に利用するユーザー名を入力します。 簡易設定時は、自動で登録されます。

項目	説明
SIP ダイジェスト認証 パスワード	SIP ダイジェスト認証に利用するパスワードを入力します。 簡易設定時は、自動で登録されます。
NGN 接続設定 SIP ドメイン名	ホームゲートウェイに接続するときに利用する SIP ドメイン名を入力します。 簡易設定時は、自動で登録されます。
NGN 接続設定 ホームゲートウェイアドレス	ホームゲートウェイの IP アドレス、もしくはホスト名を入力します。

簡易設定時の設定方法は、P.341「簡易設定」を参照してください。手動設定時の設定方法は、P.342「手動設定」を参照してください。

IP ファクス送信ルート自動切替（IP/G3）

［送信設定］で［IP ファクス送信ルート自動切替（IP/G3)］の有効、無効を設定します。詳しくは、P.242「送信設定」、および P.343「回線（IP-ファクスルート切り替え）を設定する」を参照してください。

IP ファクス最大送信速度設定

［送信設定］の［IP ファクス最大送信速度設定］で IP-ファクス送信時の最大送信速度（利用帯域）を設定します。詳しくは、P.242「送信設定」、および P.344「送信速度を設定する」を参照してください。

NGN 設定方法

ホームゲートウェイを利用した IP-ファクス送受信をするための設定方法を選択します。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［▼次へ］を押します。
4. ［NGN 設定方法］を押します。
5. ［簡易設定］または［手動設定］を押して、［設定］を押します。
6. ［終了］を押します。

簡易設定

「簡易設定」の設定方法を説明します。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［導入設定］を押します。
3. ［SIP 設定］を押します。

4. [▼次へ] を 2 回押します。
5. 「ホームゲートウェイアドレス」の [変更] を押します。
6. ホームゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] を押します。
7. [設定] を押します。
8. [終了] を押します。

補足

- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

手動設定

「手動設定」の設定方法を説明します。

1. [ファクス初期設定] を押します。
2. [導入設定] を押します。
3. [SIP 設定] を押します。
4. 「プロキシサーバーアドレス (メイン)」の [変更] を押します。
5. SIP プロキシサーバーの IP アドレスを入力し、[OK] を押します。
6. [▼次へ] を押します。
7. 「登録サーバーアドレス (メイン)」の [変更] を押します。
8. SIP 登録サーバーの IP アドレスを入力し、[OK] を押します。
9. 「SIP ユーザー名」の [変更] を押します。
10. ユーザー名を入力し、[OK] を押します。
11. SIP ダイジェスト認証を利用するときは、「SIP ダイジェスト認証」の [設定する] を押します。
12. 手順 11 で [設定する] を選択したときは、SIP ダイジェスト認証に利用するユーザー名とパスワードを設定します。

    「ユーザー名」の [変更] を押し、ユーザー名を入力して、[OK] を押します。

    「パスワード」の [入力] を押し、パスワードを入力して、[OK] を押します。確認のためにもう一度パスワードを入力し、[OK] を押します。
13. [▼次へ] を押します。
14. 「SIP ドメイン名」の [変更] を押します。
15. SIP ドメイン名を入力し、[OK] を押します。

16. 「ホームゲートウェイアドレス」の［変更］を押します。
17. ホームゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名を入力し、［OK］を押します。
18. ［設定］を押します。
19. ［終了］を押します。

補足

- 文字の入力方法は、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

回線（IP-ファクスルート切り替え）を設定する

IP-ファクスによる呼接続に対し、接続先から IP-ファクスとして応答できない旨を通知されたときに、すみやかに次の発呼を自動的に G3 で行う機能です。

たとえば宛先の端末が G3 ファクスのときに、この機能を［する］に設定しておくと自動で IP-ファクスから G3 ファクスへ切り替わり、送信します。

本機とホームゲートウェイの接続のしかた

IP-ファクスルート切り替えを設定するときは、本機の G3 回線接続端子、増設 G3 回線接続端子とホームゲートウェイの電話回線用の接続端子をモジュラーコードで接続します。

また、ホームゲートウェイとアナログの PSTN を両方利用するときは、本機の G3 回線接続端子、増設 G3 回線接続端子とアナログ電話の端子をモジュラーコードで接続して利用できます。

重要

- G3 ファクスで送信したときは、G3 ファクスの通信料が適用されます。また、使用する電話回線により通信料金は異なります。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［送信設定］を押します。
3. ［IP ファクス送信ルート自動切替（IP/G3）］を押します。
4. 回線を自動で切り替えるときは、［する］を押します。
5. ［設定］を押します。
6. ［終了］を押します。

補足

- ［IP ファクス送信ルート自動切替（IP/G3）］を［する］に設定したときは、［パラメーター設定］（スイッチ 45 ビット 1、0）で、切り替える回線を G3-1、G3-2、G3-3 から選択できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

10

送信速度を設定する

IP-ファクス送信時の最大送信速度（利用帯域）を選択する機能です。

ホームゲートウェイを利用して IP-ファクス送信をするときは、送信側から速度を連絡します。

実際の送信速度は、受信機側とのネゴシエーションによって決定されます。

1. ［ファクス初期設定］を押します。
2. ［送信設定］を押します。
3. ［IP ファクス最大送信速度設定］を押します。
4. 送信速度を［低速］、［中速］、［高速］から選択します。
5. ［設定］を押します。
6. ［終了］を押します。

NGN の IP-ファクス送信

手順は通常の IP-ファクス送信と同じです。

メモリー送信、直接送信が利用できます。マニュアルダイヤルおよびオンフックダイヤルは利用できません。

NGN の IP-ファクス送信のときは、回線は［SIP］を選択します。また宛先は電話番号を指定します。

	宛先が電話番号	宛先が IP アドレス／ホスト名
回線が SIP	NGN の IP-ファクス送信	IP-ファクス送信
回線が H.323	IP-ファクス送信	IP-ファクス送信

送信方法は、P.29「基本的な送信のしかた（メモリー送信）」を参照してください。

NGN の IP-ファクス受信

手順は通常のファクス受信、IP-ファクス受信と同じです。

メモリー受信、直接受信が利用できます。手動受信は利用できません。

受信方法は、P.115「受信の種類」を参照してください。

パラメーター設定リストで NGN の IP-ファクスの設定を確認する

次の機能の設定は、パラメーター設定リストで確認できます。

- NGN 設定方法
- IP ファクス送信ルート自動切替（IP/G3）
- IP ファクス最大送信速度（ホームゲートウェイ時）
- IP ファクス最大送信速度（通常時）

パラメーター設定リストについては、P.301「パラメーター設定リスト」を参照してください。

NGN の IP-ファクスの通信結果を確認する

ホームゲートウェイを利用した IP-ファクス送受信の結果は、通信管理レポート、メール・Web Image Monitor の CSV ファイル、Web Image Monitor の履歴で確認できます。

- レポート

  交信モードに「N」が表示されます。

- メールで送信される通信管理情報の CSV ファイル、Web Image Monitor からダウンロードする送受信履歴の CSV ファイル

  交信モードに「NGN」が表示されます。

- Web Image Monitor の履歴詳細

  交信モードに「NGN」が表示されます。

通信管理レポートについては、P.182「通信管理レポート」を参照してください。

ファクスの各種サービスを利用する

ファクスで利用できる各種サービスの利用方法を説明します。

ファクス情報サービスを利用する

ファクス情報サービスを受信する方法を説明します。

次の 2 つの方法があります。

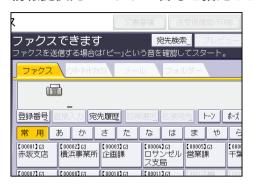
- 相手の音声ガイダンスにしたがって操作する方法
- F コード取り出し機能を使用する方法

- 通話料金は受信側にかかります。また、通話料金のほかに情報料がかかることがあります。

音声ガイダンスにしたがって操作する

相手の音声ガイダンスにしたがって操作し、ファクス情報サービスを受信します。

原稿をセットしないで操作します。

使用している回線がダイヤル回線かプッシュ回線かを確認してください。

1. ファクス初期画面が表示されていることを確認します。

表示されていないときは、操作部左上の［ホーム］キーを押して、ホーム画面上の［ファクス］アイコンを押します。

2. ［オンフック］を押します。

3. 情報提供元のファクス番号を指定します。

指定したファクス番号がすぐにダイヤルされます。

4. ダイヤル回線を使用しているときは［トーン］を押します。

プッシュ回線を使用しているときは、手順 5 に進みます。

5. 相手のガイダンスにしたがって操作します。

6.「スタートボタンを押してください」と流れたら、［スタート］キーを押します。

しばらくすると、受信が始まります。

補足

- ［スタート］キーを押して手動受信するときは、ファクス機能が選択されていて、さらに原稿がセットされていないことを確認してください。
- ［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ 17 ビット 7）で「受信する」に設定すると、［スタート］キーを押して受信できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

F コード取り出し機能を使用する

情報提供元から F コード（SEP）を利用した受信を指定されることがあります。そのときは「F コード取り出し」を使用します。

F コード取り出し機能について詳しくは、P.89「F コード（SEP）が設定された文書を受信する」を参照してください。

マークシートを送信してサービスを受ける

銀行のアンサーシステムやレインズシステム（財団法人首都圏不動産流通機構の不動産情報検索システム）を利用しているとき、マークシートを送信するときの操作方法を説明します。

このサービスを利用するときは、自動原稿送り装置（ADF）は使用しないでください。

重要

- マークシートの向きは、必ず横向き（）の向きにセットしてください。向きを間違えたり、斜めにセットすると正しく送信されません。

1. マークシートにマークを濃くはっきりと記入します。
2. マークシートを原稿ガラスにまっすぐにセットします。
3. ［読み取り条件］の［原稿種類］で［文字］が選択されていることを確認します。
4. 相手先を指定して、［スタート］キーを押します。

補足

- 以上のように操作しても正しく送信できないときは、「解像度」を「小さな字」に、「濃度」をもっとも濃い設定にしてください。それでも送信できないときは、サービス実施店に連絡してください。
- 「解像度」、「濃度」の設定方法は、P.44「解像度を設定する」およびP.48「濃度を調整する」を参照してください。

国際ダイヤル通話／国際オペレータ通話を利用する

通信網には国内でサービスを受けられるものと、国際電話でサービスを受けられるものがあります。なお、サービス内容、利用方法は各会社に問い合わせてください。

国際ダイヤル通話を利用する

国際電話のダイヤル手順について説明します。

国際電話のダイヤル手順は、「マイライン」または「マイラインプラス」に登録しているときと登録していないときで手順が異なります。

「マイライン」または「マイラインプラス」に登録しているときは、010 のあとに国番号、0 を除いた市外局番、相手先のファクス番号の順でダイヤルします。

「マイライン」または「マイラインプラス」に登録していないときは、国際電話でサービスを行っている各会社専用の番号のあとに、010、国番号、0 を除いた市外局番、相手先のファクス番号の順でダイヤルします。

会社によっては、あらかじめ登録や申し込みをしていないと利用できないことがあります。この方法を利用できない地域もあります。詳しくは利用する会社に直接問い合わせてください。

ここでは、KDDI でニューヨークの 1234567 にファクスを送信するときを例に説明します。

1. **原稿をセットし、読み取り条件を指定します。**

2. **相手先を指定します。**

- 「マイライン」または「マイラインプラス」に登録しているとき

  次のように指定します。

  「010」＋「1」＋「212」＋「1234567」

- 「マイライン」または「マイラインプラス」に登録していないとき

  次のように指定します。

  「001」（KDDI）＋「010」＋「1」＋「212」＋「1234567」

3. **［スタート］キーを押します。**

補足

- 国番号の前に 3 回くらい［ポーズ］を押さなければならないことがあります。

国際オペレータ通話を利用する

KDDI を利用するときは、オペレータを呼び出して国際電話を申し込むことができます。

10

この方法は KDDI だけが取り扱っています。

ISDN では使用できません。

オペレータには、ファクスを送信することを伝えてください。

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2. 外付け電話機の受話器を上げて、［0］［0］［5］［1］をダイヤルします。

KDDI のオペレータが応答します。

3. 相手先のファクス番号とこちらのファクス番号を伝え、オペレータの指示に従います。

補足

- 一度受話器を置き、KDDI からの呼び出しを受けてから送信することがあります。そのときは、あらかじめ受信モードを手動受信または自動切り替え（電話優先）に切り替えておきます。詳しくは、P.120「受信モード」を参照してください。

F ネットのサービスや発信者番号通知サービスを利用する

F ネットのサービスや発信者番号通知サービスを利用したファクス通信について説明します。

F ネットのサービスを利用する

NTT の F ネット（ファクシミリ通信網サービス）を利用すると、ファクス通信に関するいろいろなサービスを受けられます。

F ネットのおもなサービス

- 再コール

  受信側が通話中のとき、自動的にダイヤルし直します。

- 不達通知

  再コールしても送信できないときは、不達通知が送られてきます。

- 一斉同報送信

  個別に相手先を複数指定したり、あらかじめ F ネットに登録されているグループ番号を指定すると、1 回の送信操作で同じ原稿を複数の相手先に送信（同報送信）できます。

- 通知メッセージ（UUI）

  相手先のファクスに正常に送信できなかったときなど、F ネットから通知メッセージが返ってきます。通知メッセージを受け取るとそのメッセージ内容を画面に表示したり、不達レポートなどに印字したりします。

  例：「通信が混み合っています。」

- 電話番号などの自動記載

  送信する原稿の上部に発信年月日、時刻、電話番号、ページ番号を記載して送信します。

補足

- F ネットの詳しいサービス内容については、NTT から発行されている「ご利用の手引き」を参照してください。
- F ネットの一斉同報送信サービスは、本機の一斉同報送信機能とは別の機能です。
- 通知メッセージ（UUI）サービスは、ISDN に接続しているときに利用できます。

F ネットに送信する

F ネットを利用してファクスを送信します。

操作方法は通常の送信と同じです。

アドレス帳でも相手先を指定できます。

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。
2. テンキーで［1］［6］［1］または［1］［6］［2］を押します。
3. 相手先のファクス番号やFネットのサービスコードをテンキーで入力します。
4. ［スタート］キーを押します。

補足

- 手順2で「161」または「162」を押したあとに「ププププ」という音が聞こえてから、「-（ポーズ）」「相手先のファクス番号」を入力します。音が聞こえる前に入力すると、交換機が信号を別のものと認識し、指定していない宛先へ送信されることがあります。アドレス帳から相手先を指定するときは、「-（ポーズ）」を押し相手先を指定します。

Fネットから受信する

Fネットを利用してファクスを受信します。

加入電話回線のとき

受信モードを自動切り替え（ファクス優先）または「自動受信」に設定しておくと自動的に受信します。NTTとFネットの利用契約を結ぶときに「1300Hz呼び出し」を指定しておけば、自動切り替え（電話優先）または「手動受信」に設定していても、呼び出し音を鳴らさずに自動的に受信します。

1300Hz呼び出しで受信するかどうかを［ファクス初期設定］の［パラメーター設定］（スイッチ11ビット3）で設定できます。P.283「パラメーター設定」を参照してください。

ISDNのとき

NTTとG4 Fネットの利用契約を結ぶと、受信モード（自動切り替え、自動受信、手動受信）にかかわらず、自動的に受信します。

Fネットに送信以外の操作をする

Fネットの短縮ダイヤルに電話番号を登録したり、Fネットから親展通信の文書を受け取ったりするときは、原稿をセットしないで操作します。

加入電話回線を使用して、Fネットに送信以外の操作をするときの手順を説明します。

アドレス帳でも相手先を指定できます。

1. ［オンフック］を押すか、外付け電話機の受話器を上げます。

   発信音が聞こえます。

2. テンキーで［1］［6］［1］または［1］［6］［2］を押します。

3. F ネットのサービスコードをテンキーで入力します。

4. 受信するときは、［スタート］キーを押して、受話器を置きます。

5. 受信しないときは、そのまま受話器を置きます。

発信者番号通知サービスを利用して送信する

NTT の発信者番号通知サービスを利用して、発信電話番号情報の相手先への通知、非通知を選択できます。

発信電話番号情報を通知するときは、「186」「-（ポーズ）」「相手先のファクス番号」の順でダイヤルします。

発信電話番号情報を通知しないときは、「184」「-（ポーズ）」「相手先のファクス番号」の順でダイヤルします。

「184」または「186」を押したあとに、「ププププ」という音が聞こえてから、「-（ポーズ）」「相手先のファクス番号」を入力します。音が聞こえる前に入力すると、交換機が信号を別のものと認識し、指定していない宛先へ送信されることがあります。

アドレス帳でも相手先を指定できます。「-（ポーズ）」を押したあとに、相手先を指定します。

1. 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2. ［オンフック］を押すか、外付け電話機の受話器を上げます。

   発信音が聞こえます。

3. テンキーで［1］［8］［4］または［1］［8］［6］を押します。

4. 「ププププ」という音が聞こえたら、「-（ポーズ）」「相手先のファクス番号」をテンキーで入力します。

5. ［スタート］キーを押します。

10

本機のファクス機能の適合規格

本機のファクス機能は W-NET FAX、および FASEC 1 に対応しています。

W-NET FAX

W-NET FAX とは、TTC 標準 JT-T37 に適合したインターネットファクシミリの呼称です。以下の相互接続試験（HATS 推進会議実施）で相互接続性が実証された製品に使用します。

確認した項目

- A4 版 200×200dpi／200×100dpi 各 1 ページの送受信
- A4 版 200×200dpi 2 ページの送受信
- 受信能力以外の画像を受信したときのエラー通知発行

製品の形態

- LAN 接続型／ダイヤルアップ接続型

基本仕様

- 通信プロトコル

  送信：SMTP

  受信：SMTP あるいは POP3

- メールフォーマット

  フォーマット：MIME、Base64

  Content-Type：Image/tiff、Multipart/mixed [text/plain,Image/tiff]（添付ファイル形式）

- データフォーマット

  Profile：TIFF-S

  符号化方式：MH

  原稿サイズ：A4

  解像度（dpi）：200×100／200×200 あるいは 204×98／204×196

FASEC 1

FASEC とは、情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）がファクス通信のセキュリティー向上を目指して制定したガイドラインの呼称です。

FASEC のロゴマークは、このガイドラインに準拠したファクス・複合機に使用されます。

本機は、ファクスのセキュリティーに関するガイドラインである FASEC 1 に適合したファクスセキュリティー機能を搭載しています。

宛先を繰り返し入力する機能

誤送信を防止するため、ファクス番号の入力を 2 度繰り返して確認できます。1 度目と 2 度目の入力番号が一致すると送信され、異なるときは送信されません。

この機能を使用するときは、サービス実施店に連絡してください。

送信前に宛先を再表示する機能

誤送信を防止するため、相手先を指定したあとにもう一度相手先を画面に表示させて確認できます。

この機能を使用するときは、サービス実施店に連絡してください。

ダイヤルトーン検出機能

発呼時にダイヤルトーンを検出してから送信され、検出しなければ送信されません。

蓄積受信文書を確認／印刷する機能

受信したファクス文書をハードディスクまたはメモリーに蓄積しておき、必要に応じて印刷または画面で確認できます。

送信結果を確認する機能

ファクスの送信結果を画面、レポート、またはメールにて確認できます。

項目別最大値一覧

各機能の登録できる数および最大値について説明します。

項目	標準	FAX メモリー（オプション）装着時
メモリー容量	4MB	28MB
メモリーに蓄積できるメモリー送信の文書数	800 文書	800 文書
ハードディスクに蓄積できる受信文書数	800 文書	800 文書
メモリーに蓄積できる文書の枚数（ITU-T No.1 チャート、解像度「ふつう字」、文字原稿の標準原稿）	約 320 枚	約 2240 枚
アドレス帳に登録できる宛先の件数	2000 件	2000 件
登録できるグループの件数	100 件	100 件
1 グループに登録できる宛先数	500 件	500 件
1 文書で同報送信できる宛先数	500 件	500 件
すべての文書で指定できる宛先数（送信待機文書を含む）	2000 件	2000 件
メモリー転送の転送先、または中継ボックスの受信局に指定できる宛先の件数	498 件	498 件
［宛先検索］で一度に検索できる宛先数	100 件	100 件
記憶できる宛先履歴の件数	10 件	10 件
宛先を直接入力できる桁数	128 桁	128 桁
F コードとして入力できる桁数	20 桁	20 桁
登録できる F コードボックスの件数	150 件	150 件
サブアドレスとして入力できる桁数	19 桁	19 桁
UUI として入力できる桁数	110 桁	110 桁
送信するメールの件名として入力できる文字数	64 文字（半角 128 文字）	64 文字（半角 128 文字）
本機で確認できる通信結果の表示件数	200 件	200 件
通信管理レポートに印刷される通信結果の表示件数	50 件	50 件
登録できる特定相手先名称の文字数	24 文字	24 文字
登録できる特定相手先の件数	250 件	250 件
Web Image Monitor で確認できる、PC FAX ドライバーからの送信結果の件数	70 件	70 件

項目	標準	FAX メモリー（オプション）装着時
PC FAX ドライバーからの送信文書を送信待機文書として本機で保持できる件数	800 件	800 件
プログラムに登録できる宛先数	500 件	500 件
登録できるプログラムの件数	100 件	100 件
プログラムの名称として登録できる文字数	10 文字（半角 20 文字）	10 文字（半角 20 文字）
［蓄積受信文書印刷／消去］で一度に印刷できる文書数	30 件	30 件
［蓄積受信文書印刷／消去］で一度に消去できる文書数	30 件	30 件
［蓄積文書指定］で一度に指定できる文書数	30 件	30 件
［蓄積文書指定］で一度の操作で送信できる原稿の枚数	1000 枚	1000 枚
［蓄積文書指定］の［先頭ページ印刷］で一度に印刷できる文書数	30 件	30 件
［蓄積文書指定］の［文書印刷］で一度に印刷できる文書数	30 件	30 件
ファクス機能を使用してドキュメントボックスに蓄積できる文書数	3000 文書	3000 文書
ドキュメントボックスに蓄積できる 1 文書あたりの枚数	1000 枚	1000 枚
ドキュメントボックスに蓄積できる文書の枚数（コピー機能、ファクス機能、プリンター機能、およびスキャナー機能の合計）（ITU-T No.4 チャート）	約 10000 枚	約 10000 枚
PC ファクスのあて先表に登録できる宛先数	2000 件	2000 件
PC FAX ドライバーで一度に指定できる宛先数	500 件	500 件

補足

- 文書や原稿の種類によって、最大値まで蓄積したり送信したりできないことがあります。